

A to Z, 2012



- 発達科学部
 - 人間形成学科
 - 心理発達論コース
 - 子ども発達論コース
 - 教育科学論コース
 - 学校教育論コース
 - 人間行動学科
 - 健康発達論コース
 - 行動発達論コース
 - 身体行動論コース
 - 人間表現学科
 - 表現文化論コース
 - 表現創造論コース
 - 臨床・感性表現論コース
 - 人間環境学科
 - 自然環境論コース
 - 数理情報環境論コース
 - 生活環境論コース
 - 社会環境論コース
 - 発達支援論コース
 - ESD サブコース
- 人間発達環境学研究科（大学院）
 - 心理発達基礎論
 - （後期課程：心理発達論）
 - 臨床心理学
 - （後期課程：心理発達論）
 - 健康発達論
 - 教育科学論
 - 子ども発達論
 - 発達支援論
 - 身体行動論
 - 行動発達論
 - 表現文化論
 - コミュニティアート
 - （後期課程：表現創造論）
 - 自然環境論
 - 環境先端科学（後期課程）
 - 数理情報環境論
 - 生活環境論
 - 社会環境論

神戸大学発達科学部
神戸大学大学院人間発達環境学研究科

〒657-8501 神戸市灘区鶴甲3-11
TEL 078-803-7924（教務学生係）
FAX 078-803-7939
<http://www.h.kobe-u.ac.jp/>





つながる 未来の世界に

目次

学部長・研究科長挨拶	…	1
発達科学部	…	4
人間形成学科	…	7
心理発達論コース	…	11
子ども発達論コース	…	15
教育科学論コース	…	19
学校教育論コース	…	23
人間行動学科	…	27
健康発達論コース	…	31
行動発達論コース	…	35
身体行動論コース	…	39
人間表現学科	…	43
表現文化論コース	…	47
表現創造論コース	…	51
臨床・感性表現論コース	…	55
人間環境学科	…	59
自然環境論コース	…	63
数理情報環境論コース	…	69
生活環境論コース	…	73
社会環境論コース	…	77
発達支援論コース	…	81
ESD サブコース	…	84
人間発達環境学研究科 (大学院)	…	86
心理発達基礎論	…	91
（後期課程：心理発達論）		
臨床心理学	…	94
（後期課程：心理発達論）		
健康発達論	…	97
教育科学論	…	100
子ども発達論	…	103
発達支援論	…	106
身体行動論	…	109
行動発達論	…	112
表現文化論	…	115
コミュニティアート	…	118
（後期課程：表現創造論）		
自然環境論	…	121
環境先端科学（後期課程）	…	125
数理情報環境論	…	126
生活環境論	…	129
社会環境論	…	132
附属組織と附属施設	…	136
発達支援インスティテュート	…	137
キャリアサポートセンター	…	141
附属施設など	…	143
沿革とアクセスマップ	…	144

発達科学部・人間発達環境学研究科
キャンパスにて観察された二重虹
(2009 年 6 月 5 日撮影)



発達科学部長・人間発達環境学研究科長 朴木佳緒留 教授

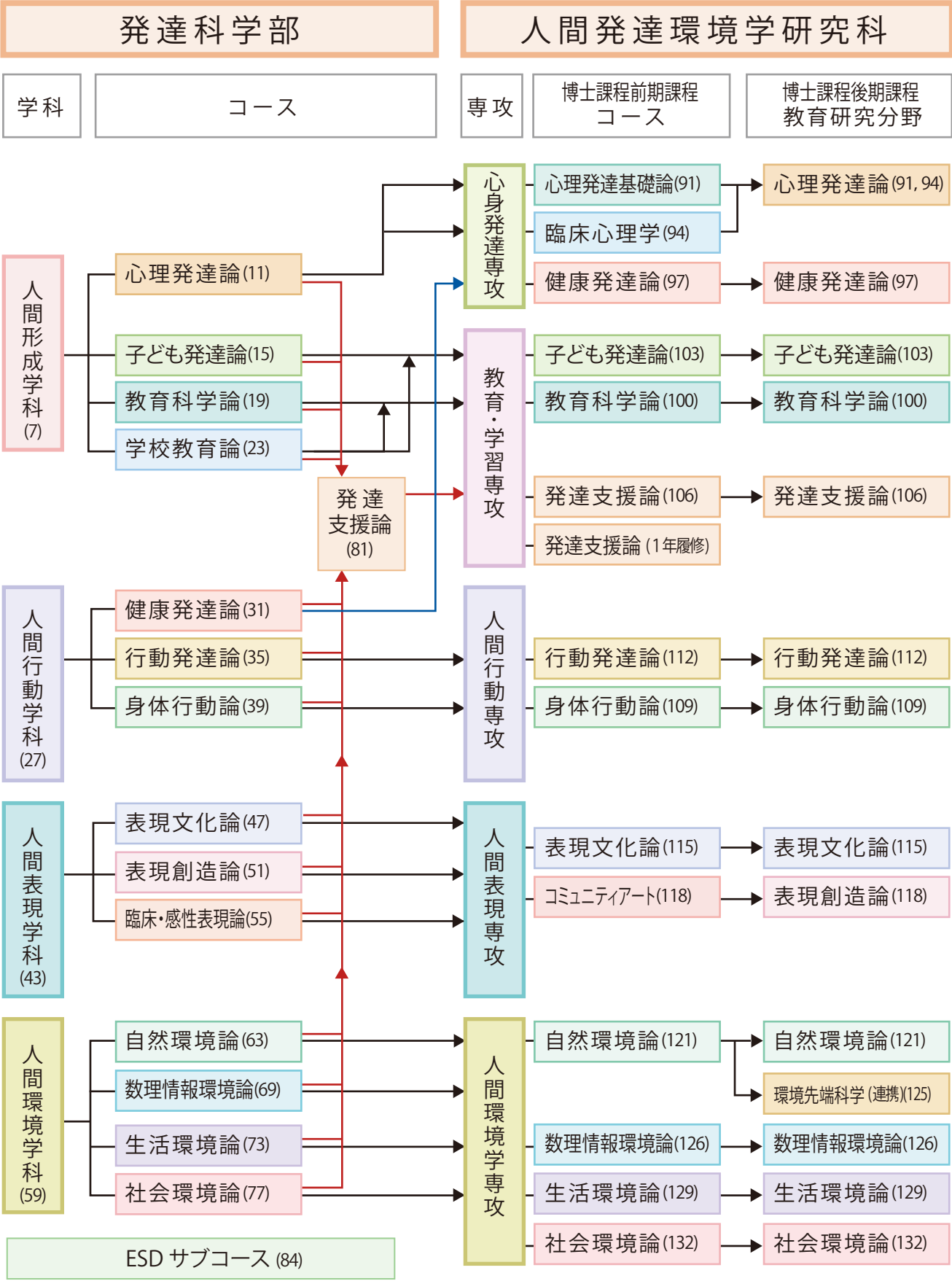
新たな領域開拓への挑戦

発達科学部が成立して18年、人間発達環境学研究科は4年が経ちました（2007年に総合人間科学研究科を改組）。この間、私たちは人間の発達（development）と人間発達を取り巻く環境の発展（development）を対象として、教育・研究に取り組んできました。人間発達及び環境に関わる問題はいずれも複雑系に属し、一朝一夕に答えがでるような事柄ではありません。しかし、それらを課題として、また対象として設定することに、私たちはある種の誇りを感じています。

今日では、エコロジーが日常的な課題として人々に意識され、そして人間の発達も単純に、階段を登るように進行するものではないことが了解されつつあります。私たちは、このような問題にいち早く取り組み、新たな領域の開拓に挑んできたと自覚しています。その成果についての評価は他者に委ねますが、少なくともこの間、地域の人々と協働し、また国際的な連携も行ってきました。

発達科学部、人間発達環境学研究科は理論と実践、原理と応用、文系と理系等々の異なるものを包容し、ともに学び、ともに汗を流して研究する人々を求めています。多様な価値が共存するとはどういうことか、変わらぬものと変わるものをどう捉えるか等々の問題群を前にして、問を立てる楽しみを学生の皆さんと分かち合いたいです。





神戸大学
発達科学部
Faculty of Human Development

()は該当ページ

発達科学部の魅力

学問領域を超え新しい学問の創造を目指します

発達科学部は既成の学問領域にとらわれることなく、「人間」に焦点をおいた、学際的、応用的、実践的な、新しい学問の創造を目指しています。学生は文系、理系を問わず、幅広い領域の学問にふれ、人間の発達とそれを支える環境に関わる現代的な課題を追究します。教員や学生同士で密接なコミュニケーションをとる少人数教育を通して、課題の解決を展望する学習を行います。

発達科学部は大学院人間発達環境学研究科につながっており、大学院では人間の発達及びそれを取り巻く人間環境に関わる、より専門的で高度な研究を行うことが可能です。新たな学問の創造を目指す発達科学部は開放感にあふれています。

カリキュラムの特色



高い専門性を育成し、視野を広げます

2年次から希望するコースに進み、各コースにおける豊富なコース専門科目を通して確実な基礎知識を修得します。さらに、セミナー形式の少人数による授業、実験や実習を伴う授業を通して専門性を高めていきます。卒業研究を始める段階でゼミ（研究室）に配属され、指導教員のもとで専門分野からテーマを選び卒業研究を行います。発達科学部では、講義のみではなく、豊富なセミナー、演習、実験、実習、実践形式の授業を通して、学生は主体的に専門分野の学習と研究に取り組みます。

コースに進んだ後も、学科共通科目や所属するコース以外のコース専門科目も履修でき、学問的な視野を広げることができます。幅広い知識を得て、それを自分の専門分野に活かすことができ、また自分の専門以外の分野との関わり方や他分野への応用についても考えることができます。

3年次からは、地域組織、NPO、行政、企業、学校などと共同して実践的な課題に取り組む、発達支援論コースへ進むことも可能です。また、自分のコースに所属しながら、ESD（Education for Sustainable Development、持続可能な開発のための教育）サブコースで体験的な学習に取り組むこともできます。

これからの社会では、専門分野の枠を超えた人々が協調して、困難な問題を様々な視点から解決していくことが求められます。発達科学部は、高度な専門性をもち、文系・理系（学問領域）の枠を超えた幅広い視野を身につけた人材を育成します。このため、卒業後は多種多様な方面へ進むことが可能です。発達科学部は、キャリア形成支援のための「キャリアサポートセンター」を開設し、専任のキャリアアドバイザーが、就職活動を中心とした学生のキャリア支援を積極的に行っています。

学部共通科目「発達科学への招待」

発達科学の「実践性」「学際性」「手法」の三つをテーマにして、発達科学が目指すものが何かを考えます。この授業では主体的な学びや問題を立てるための考え方を学ぶことも意図しています。



発達科学部の求める学生像

発達科学部は、「人間の発達」のさまざまな側面を対象とした研究と教育を行っている学部です。現実社会が抱える切実な問題に興味と関心を持ち、人間の発達についての原理及び実践に関する学際的な学問を教員とともに創造する意欲ある学生を求めます。

発達科学部では人間を全体的にとらえ、人間の発達にかかわる諸現象を広い視野から明らかにし、自ら問題解決しようとする人を育てることを目標とします。

- 人間に興味をもち、新しい学問領域を開拓する意欲がある学生
- 子どもから高齢者まで、すべての人に対して人間的なまなざしをもちたいと思う学生
- 人間を取り巻くさまざまな環境に強い関心を持ち、主体的にそれにかかわろうとしている学生
- 心身の発達に不可欠な人間の生活や身体行動、芸術的表現について、深い関心がある学生

人間形成学科

Department of Human Development and Education

学科長 中村和夫 教授
(心理発達論コース)

人としての育ちを「発達」と「教育」から探究する！

人間形成学科では、人が相互に支え合いながら、人として育ち、育てられていくプロセスを、生活に根ざしながら理論的、実証的に探究していきます。生まれてから高齢者にいたる発達について学び、人間形成にかかわる要因について多角的に検討します。人は一生の間に、いろいろな世界やたくさんの人たちと出会い、「新しい自分」をつくりあげていきます。この点において、私たちは生涯を通じて発達していく存在といえます。私たちは、いつの間にかさまざまな能力を獲得したり、知らぬ間にある価値観を身につけたりしているように思います。しかし、実際には、そうしたプロセスにはさまざまな発達のメカニズムがはたらいており、まだ、その内実はわかっていないことばかりです。人間形成学科では、生涯にわたる発達過程について研究し、その支援について考えていきます。また、人間の発達は、社会や文化のありようと無関係に進行するものではありません。たとえば、インターネットや携帯機器のなかった社会で育った子どもたちと、現代社会に生きている子どもたちとでは、人と人とのコミュニケーションのとり方も、身につける知識や技術も大きく変わっているはずです。人間形成学科では、人として育ち、育てられるプロセスを社会・歴史的な観点から研究します。その上で、人が人間性豊かに生活し、今日の社会がかかえる問題を解決するための方途について、広く人間形成の観点から検討していきます。

人間形成学科の履修コース

心理発達論コース 「心の発達」を様々な側面から科学的に追究する

人の一生は、受胎に始まり、誕生、赤ちゃんの時代、子どもの時代、青少年の時代、大人の時代、高齢の時代を経て、死で終わります。こうした生涯のそれぞれの時代に重要な「心の発達」があるとともに、それぞれの時代の「心の発達」がお互いの発達に影響し合っています。本コースでは、こうした「心の発達」について、「心の科学」である心理学の観点から学びます。心理学の中でも、発達心理学を中心として、様々な学問領域から学んでいきます。具体的には、個々人が自分らしさをどのように形成してゆくのかという人格発達、人がどのように外界をとらえるようになってゆくのかという認知発達、心の病をどのように理解し、ケアするのかという臨床心理学、発達の障害をどのようにとらえ、支援してゆくのかという発達障害学などの学問領域から「心の発達」を科学的に学んでいきます。卒業後には、いろいろな進路が開かれています。まず、学部卒業での就職では、企業等の一般就職のほか、難関の試験を突破すれば、公務員心理職（児童相談所職員、家庭裁判所調査官、法務教官等）などが考えられます。また、カウンセラーなどの心理臨床職を希望する方は、本学大学院人間発達環境学研究科の博士前期課程臨床心理学コース（第1種指定）に進学し、臨床心理士資格の取得を目指すことが望ましいと言えます。さらに、大学教員などの研究職を希望する方は、本学大学院人間発達環境学研究科の博士後期課程まで進み、博士の学位を取得することが必要条件と言えます。（詳細は p.11 へ）

子ども発達論コース 子どもの発達を「観る」「聴く」「学ぶ」

子ども（乳幼児、児童、青年）を対象に、心や身体の発達、言語・音楽・造形表現の発達、数理認識の発達といった側面から総合的に学びます。子どもとかわる仕事をめざす方、子ども文化に興味のある方、子どもの発達の謎に迫りたい方などとともに、子どもを多面的に学び研究していきます。「子ども理解の基礎」として、子どもの認識や感情の発達について、基本的な特徴を学ぶとともに、その発達の变化をもたらすメカニズムについて研究します。また、発達理解のための方法を習得し、発達支援のあり方について検討します。「子どもの認識と表現の発達」として、家庭・地域での生活体験や学校教育ともかかわって発達する特性として、言語表現、数理認識、運動認識、音楽表現、造形表現があります。こうした子どもの認識や表現の発達について各領域から、発達課題とその達成のための援助の方法を研究します。「子どもの教育支援」として、今日の子どもたちがかかえる困難や発達のもつれに焦点を当てて、家庭、地域、学校などでの支援のあり方について臨床教育学的観点から検討します。子どもをめぐる環境・社会の関連性や、子どもたちの豊かな発達を実現するための環境・社会的条件について、地域文化、芸術環境、児童福祉などの観点から総合的にとらえ、子育て支援や子ども文化の創造をになう実践的力量を高めます。（詳細は p.15 へ）

教育科学論コース 教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？

「科学・サイエンス」という言葉で皆さんが思い浮かべるのは、おそらく自然科学や科学技術のイメージではないでしょうか。しかし、この言葉の語源「スキエンティア」（ラテン語）は、「物事が今のような仕方であるのはなぜかについて知る」という意味なのです。私たち教育科学論コースがめざすのは、まさに、「教育や学校のいろいろな現象やあり方が今のような仕方であるのはなぜか、そしてそれは望ましいあり方か？」を問うことです。皆さんは今まさに学校で教育を受けていますね。学校があり先生がいろいろな教科の授業が行われる。このような皆さんにとって自明の教育のあり方は、実は、法律・制度・行政・財政のルールや枠組みに即して運営され、しかも、このような学校教育制度が成立したのは、人類史的に見ればごく最近のことにすぎません。また、各教科の内容はそれぞれ、やはり人類の長期にわたる思索、探究、試行の結果が凝縮されたものですし、それを教える先生の教え方についても、実にさまざまな理論や方法の探究の歴史があります。たとえば、いくつもの長い川が合流した地点に皆さんの学校は立っていて、そこに皆さんがいるわけです。では、その「川」は今後どう流れていくか。それは皆さんにとってわからないだけではなく、実は私たち大人にもわかりません。でも、今よりもっとたくさんの豊かな水が活き活きと流れる川のあり方がきっとあるはずです。その「あり方」を皆さんと共に考えてみたい。それが、教育科学論コースのスタッフ一同の願いです。（詳細は p.19 へ）

学校教育論コース 小学校教諭、幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得できます

将来、小学校や幼稚園、特別支援学校の教師をめざす人たちが、学校教育を通じた人間発達と人間形成に関して、理論的、実践的に学びます。コースの所定の科目を履修することにより、小学校教諭、幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得することができます。そのために、コースに所属する皆さんにはまず、人間、文化、社会、自然のさまざまな事象について幅広く学ぶことを求めます。それらに関する広い関心と教養が、優れた学校教育実践の基礎として不可欠だからです。その上で、このコースでは、適切な学習環境づくりと発達支援のための子ども理解の方法、各教科や、道徳、総合的な学習などの指導法、さらには学校教育の歴史、制度など、教師として必要な専門的知識、技能についての学習を行います。それらの学習の成果を、実践的場面で、つまり実際の子どもを前にして試す場が教育実習です。実習を通して、教職の意義への理解と教育への情熱はいっそう深まることでしょう。以上の学びの集大成としての卒業研究は、「子ども発達論」か「教育科学論」のいずれかのコースの教員のゼミに所属してまとめます。子どもの発達や学校教育に関する多様な課題領域の中から「自分ならではの」テーマを選択し、1年以上をかけて追究していきます。（詳細は p.23 へ）

発達支援論コース (詳細は p.81 へ)

発達支援論研究を2年次に修得した学生は、3年次より4学科横断の発達支援論コースに進むこともできます。

ESDサブコース (詳細は p.84 へ)

ESD サブコースでは、履修コースに所属しながら「持続可能な社会づくりのための教育(ESD)」カリキュラムを受講できます。

人間形成学科の教育研究上の目的

広い知識を受けるとともに、人間の誕生から高齢期に至るところ及び諸能力の発達並びに人間形成に関わる諸要因について、社会的及び文化的な観点から教育研究を行い、教養並びに心理、発達、教育及び学習に係わる専門的な知識を身に付けた人材を養成することを目的としています。

コースの定員

第2年次より各履修コースに所属することになりますが、各履修コースには次の定員が設定されています。履修コースの決定に際しては、第1年次の終わりに所属学科の各コースのガイダンスやオリエンテーションの上、受け入れ可能人数を超えない範囲で希望を調整します。

- 心理発達論コース:30名
- 教育科学論コース:20名
- 子ども発達論コース:20名
- 学校教育論コース:30名

学科共通科目

心理学入門	発達心理学概論	子ども発達論	子ども教育論
現在多様な広がりをもせる心理学とその関連領域について、感覚・知覚心理学と発達心理学を中心にそれぞれの歴史的な経緯を踏まえつつ講義する。	発達心理学や発達支援についての基礎的理解を得られるよう、誕生から老年期に至る人間の発達の筋道に沿って重要なテーマをピックアップして解説している。	子どもを通して、人間や社会のいろいろな問題に気づき、深めていくことができることを、それぞれの領域における研究事例から学ぶ。	子どもの発達過程に適した教育について総合的に学ぶ。家庭教育、学校教育、社会教育の機能、現状、課題を知り、人的相互作用としての教育を考える。
教育学概論	道徳教育論	乳幼児発達論	幼児精神衛生論
教育や学校について考えるには、どんな切り口があるのか。教育学入門のための講義である。複数の教員が各自の持ち味を出しながら講述する。	日本および西洋の道徳教育の歴史的断面および道徳思想史を分かり易く繙きながら、現代における道徳教育とはどうあるべきかについて講義する。	乳幼児の姿を具体的にイメージして、子どもを「発達の理解する」こととはどういうことかを考えて、保育実践をすすめていくための幼児理解を深める。	幼児期におけるさまざまな問題行動を理解する視点を提示し、「問題行動を発達要求としてとらえる」ことについて保育実践事例から考察する。
児童心理学	青年心理学	児童青年精神医学	発達障害心理学 1
児童期（学童期）を特徴づける様々な心理的特性についての概観と、学校教育や他者との関わりが子どもの発達にもたらす影響について学ぶ。	青年期の心理について、青年期のアイデンティティ（自我同一性）形成の問題を中心として、青年期の精神病理や現代青年論についても、講義する。	児童期・青年期に現れる精神疾患、症状について説明するだけでなく、臨床現場での報告もふまえて、子供の心の課題や躰きへの支援について考える。	自閉症・ADHDの発達障害を中心に、障害のある子どもの理解と支援について心理学的な側面から講義を行う。
発達障害臨床学 1	教育心理学	相談心理学	臨床心理学
知的障害を中心に肢体不自由も含め指導法の原理について、運動、感覚・知覚、言語等領域の発達とその障害という観点から概説する。	子どもに対する教育活動の心理学的基礎として、発達と学習について多面から講義を行い、どのように教育実践に貢献しうるかを論じる。とりわけ、最近の子どもたちの現状を踏まえ、理論的基礎と現状の橋渡しをすることに留意する。	臨床心理学をベースにして、無意識、心理療法、カウンセリング、心の病いについて、具体例をまじえながら、解説する。	心理臨床に関わる主要な理論について学ぶとともに、実際の心理療法に必要な検査法やカウンセリングなどの治療技法について学習する。合わせて人間の心や人格についての理解を深める。
カウンセリング	認知発達論	異文化教育論	算数教育論
幼小中高大の教育現場における教育相談カウンセリングの理論と実際について、具体的な例を交えながらわかりやすく解説する。	言語的思考の発達を中心に、人間がどのように自覚的で随意的な内面（人格）を築いていくのかを、エリ・エス・ヴィゴツキーの理論に基づいて論じている。	前半で、「異文化と出会うとはどういうことなのか」を、身近に観察できる現象の中に捉え、種々の問題を考える。後半では、「日本語教育」に焦点をあて、日本語を外から見ることを試みる。	算数教育に関して、算数教育の目的、数学的な考え方の指導、算数教育の歴史、諸外国における算数教育の現状、現行カリキュラムの分析、などを考察する。

初等体育論	音楽表現発達論	造形表現発達論	児童言語教育論
小学校体育における体育の指導内容と指導方法について、演習を含めて実施する。	幼児期の手あそび指あそび歌から児童期の合唱までの子どもの歌を中心に実践的に検討する。	授業では、普段人々が有している一般的な美術・図工の概念の外側に、いかにフレキシブルな造形的表現が存在しているかが実制作を通して体験的に学ばれる。そして子どもの表現と教育の今日的な可能性が研究される。	子どもたちを取り巻く多様な言語環境を踏まえ、学校における国語科教育を中心としながら子どもたちの言語体験について考察する。
生涯学習論	教育ディベート入門	教育の歴史人類学	教職論
ユネスコの提案した生涯教育理念、イリイチの脱学校論、フレイレの被抑圧者の教育学、ノールズの成人教育学など、幅広く生涯学習の理論を紹介する。	ディベートとは一定のルールに基づいた討論のゲームである。ディベートを支える思想と具体的なルールを学び、実際に数回の試合体験を持つ。	教育の歴史的根源にまで降りたち、人間の営み全体のなかで位置づけ直すことによって、教育の歴史人類学への招待を試みる。	教師に求められる資質を多面的にとらえることを目的とし、現在の教師を取り巻く諸環境について映像や教師を題材とする小説などを使い具体的に考える。
教育制度概説	科学技術社会と教育	情報化社会と教育	初等社会科教育論
近年、わが国において大きく展開した教育制度改革を取り上げ、国際的な教育改革の動向とも比較しながら、可能な限り具体的に教育現場の教師と子どもたちの視点から吟味する。	専門分野の書籍・論文を通して、科学技術社会と教育をめぐる主要な研究テーマについて学習する。	現代社会における情報化と教育に関する諸課題について、専門分野の文献の講読や試行的な小規模調査をすることを通して理解を深める。	小学校社会科の歴史、目的や内容及び方法や評価のあり方について、内外の社会科教育に関する学問的成果を踏まえて講義する。

人間形成学特講

人間形成に関する問題について、自尊感情の形成過程を理解し、自尊感情をめぐる研究上の諸問題、実践上の諸問題を検討する。

発達支援論研究

ヒューマン・コミュニティ創成研究についての関心を得て、入門的な知識について学び、具体的な専門領域における支援の方法について考える。



主な取得可能な資格免許

- 幼稚園教諭一種免許状
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 学芸員
- 社会福祉主事任用資格
- 小学校教諭一種免許状
-
- 社会教育主事
- 環境再生医資格



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 心理学入門 ● 発達心理学概論 ● 子ども発達論 ● 子ども教育論 ● 教育学概論 ● 教育心理学 ● 臨床心理学 ● 異文化教育論 ● 生涯学習論 ● 教育ディベート入門 ● 教職論	● 道徳教育論 ● 乳幼児発達論 ● 児童心理学 ● 青年心理学 ● 児童青年精神医学 ● 発達障害心理学 1 ● 発達障害臨床学 1 ● 相談心理学 ● 認知発達論 ● 算数教育論 ● 初等体育論 ● 音楽表現発達論 ● 造形表現発達論 ● 児童言語教育論 ● 教育制度概説 ● 初等社会科教育論 ● 発達支援論研究	● 幼児精神衛生論 ● カウンセリング ● 教育の歴史人類学 ● 科学技術社会と教育 ● 情報化社会と教育 ● 人間形成学特講	
コース専門科目		● 心理学研究法 1 ● 外書講読 ● 心理検査法 1 ● 心理統計法 ● 人間関係発達論 ● 教育発達心理学 ● 深層心理学 ● 障害児発達学 ● 発達障害心理学 2 ● 発達障害臨床学 2 ● 科学教育論 ● 子ども社会論	● 心理学研究法 2 ● 心理検査法 2・3 ● 生涯発達心理学 ● 人格形成論 ● 障害児指導学 ● 心理発達論演習 A・B・C ● 知的障害の心理・生理・病理演習	● 心理学研究法 3
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

相澤直樹 准教授 臨床心理学, 臨床心理検査（投影法） 青年期における自己愛的傾向と対人恐怖の傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について実践的に研究しています。	赤木和重准教授 発達障害心理学 自閉症児のコミュニケーションの発達に関心をもって研究しています。特に自閉症児が他の子どもに「教える」という行動の発達に注目しています。	伊藤俊樹 准教授 臨床心理学 臨床心理学を専攻しています。特にアートを心理療法に用いた芸術療法や心理療法で相談者のイメージがどのように変わっていくかを研究しています。	齊藤誠一 准教授 発達心理学 思春期の身体発達や性的成熟が、その子どもや、親・友人などの周囲の人たちにどのような影響を与えるかを研究しています。
河崎佳子 教授 臨床心理学，発達臨床心理学 聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は、被虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	鳥居深雪 教授 発達障害臨床学 読み書きが苦手，多動，社会的な意味の理解が苦手，といった様々な困難さの背景にある脳機能と効果的な支援方法について研究しています。	坂本美紀 准教授 教育心理学 教科学習における知識の獲得とその活用について，学習者の内的過程と学習環境づくりの両面から研究しています。	谷冬彦 准教授 人格心理学 青年期におけるアイデンティティ形成や自己形成の研究を中心として，人格（パーソナリティ）の生涯発達に関して広い視野で研究をしています。
中村和夫 教授 発達心理学，教育心理学 エリ・エス・ヴィゴツキーの「高次心理機能の文化―歴史的発達理論」について研究しています。とくに，内言の意味の見地から人格の発達を解明しています。	森岡正芳 教授 臨床心理学，文化心理学， カウンセリング ナラティヴ(物語) や対話的自己という視点からトラウマのケア，心身相関，家族関係，文化と癒しの問題に取り組んでいます。	吉田圭吾 准教授 臨床心理学 幼小中高大を中心とした教育現場における教育相談の理論と実際，保護者面接の在り方，発達障害や精神障害を抱える人へのアプローチ方法について研究しています。	



伊藤俊樹 准教授（臨床心理学）



門田玲奈 さん（心理発達論コース 4 年生）

私の知らない私，
こころの奥にある「無意識」
の不思議に迫ろう

人の心の中には、自分でも気づいていない、「無意識」というものがあります。この「無意識」の働きによって、私たちは知らず知らずのうちに自分の行動を決定しています。たとえば、登校拒否の子どもが、頭では学校に行かなければと思っているのに体が動かないというのも、実は子どもの無意識がそうさせているからだ和我们は考えています。私たちのゼミでは、人の心の奥にあるこの「無意識」の不思議に迫るため、その人が心の中に抱いているイメージというものを重視しています。具体的には、絵を描いてもらったり、物語を作ってもらったり、コラージュ（雑誌などで自分の気に入った写真を切り抜いて画用紙に貼っていくもの）などを作ってもらって、その人の心の奥にあるものがどのように表されているかを探っていきます。人が作った作品の中にはその人自身も意識していない部分が表現されていて、驚く事がよくあります。心の不思議に迫りたい人に是非来てもらいたいコースです。

ひとの「こころ」に触れ，
仲間とともに成長する

心理学には様々な分野や領域がありますが、その中でも私にとって印象的だった授業の一つが、「心理検査法」です。この授業では、実際に検査のロールプレイを行い、自分や友人の検査結果を解釈します。自分や友人の検査結果を解釈することで、今までには気づかなかった新たな一面を発見することもあり、大変興味深いです。また、3年で行う共同研究では、全てを自分達で決めることができます。テーマを決めるときには難しく考えず、とにかく面白そうと思うアイデアを出し合いました。生活の中で感じる身近な不思議を研究する、ここにも心理学の面白さがあると思います。分析は思った以上に苦労しましたが、自分達の好奇心から生まれた研究を、仲間と協力してやり遂げた経験は、私にとって非常に大きな財産になりました。このコースで学ぶ中で新たな考え方に出会い、自分の成長に繋がったように思います。

心理発達論コース「心の発達」を様々な側面から科学的に追究する

主なコース専門科目

心理学研究法 1 心理学の基本的な研究法である実験法、観察法、調査法の手続きを理解するために、実際にデータを集め、分析し、レポートを提出してもらう。	心理学研究法 2 卒業論文作成に向けてデータ処理の技術、文献収集の方法等の基本的技能を習得し、各ゼミごとに研究テーマを決め、プレ卒論研究を行う。	心理学研究法 3 心理学研究の方法論的問題について検討し、卒業論文作成のための指導を行う。ゼミにおいて、研究課題、研究方法について発表し、討論を行う。	外書講読 英文の心理学関連テキストを講読し、その内容について議論する。
心理検査法 1 子どもの発達と障害を把握するための発達検査、知能検査を中心として、検査の目的、方法の概要を理解し、演習を通して検査法の実際について学習する。	心理検査法 2 臨床心理アセスメントに基本となる心理テストの方法を習得する。投影法、描画法、性格検査、作業検査などの基本的なものの紹介を行い、実習する。	心理検査法 3 バウム・テスト、文章完成法、ロールシャッハ検査法を中心に投影法心理検査に関する基礎的な知識、ならびに、実施法と解釈法の導入を学ぶ。	心理統計法 心理学研究におけるデータ分析の重要な手法として統計学の基礎を学び、収集したデータを記述し、それから推測することを学ぶ。
生涯発達心理学 受精から死までの人の生涯について、それぞれの発達段階の特徴を明らかにするとともに他の段階との関連や生涯の中での意義を論じる。	人格形成論 人格心理学について体系的に学ぶ。人格心理学の基礎について講義するとともに、様々な学問的立場からの人格のとらえ方について、説明する。	人間関係発達論 生涯発達の各期における人間関係の様相を中心テーマに、人間関係を通しての学びと、人間関係が人にもたらす影響などについて学ぶ。	教育発達心理学 児童生徒のニーズ把握に基づく支援、問題行動への心理的援助、家族支援や連携など、主として学校現場における支援のための基礎知識を学ぶ。
深層心理学 心理学者ユングの無意識の心理学について学ぶ。彼の育った背景、彼の内的体験から彼の理論がどのようにして生まれたかについても考える。	障害児発達学 関係発達臨床論の考え方を機軸に、障害児に対する基本的な理解と支援、および障害の中にある健康生成の姿をとらえる新しい視点について紹介する。	発達障害心理学 2 発達障害の心理学的な理解をふまえて、どのような支援が展開できるのかについて、具体的な実践を紹介しながら検討を行う。	発達障害臨床学 2 知的障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の発達障害、および重度・重複障害の特性と臨床指導法について概説する。
科学教育論 科学教育における学習科学分野の基礎的・基本的な理論と方法論について、専門分野の文献を講読することを通して体系的に習得する。	障害児指導学 知的障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害、および重度・重複障害の療育、教育の構造と指導法について講述する。	子ども社会論 現代社会における子どもに関する問題を社会的な視点から検討し、子どもの発達を支える社会システムについて論じる。	心理発達論演習 A 人格、自己、アイデンティティ等に関する文献を講読し、それらの領域における近年の心理学の研究に関して理解することを目標とする。
心理発達論演習 B 教えと学びにかかわる心理学の知見について、相互教授により学ぶ。	心理発達論演習 C 少年期、青年期の子供達の心理療法の実践例を皆で講読し、ディスカッションをしながら、悩みを持った子供達の心を理解していくことを学ぶ。	知的障害の心理・生理・病理演習 知的障害のある子どもの心理や生理について、発達段階別に講義・討論を行う。発達検査の実際についても触れる。	

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.91、p.94）

2009 年度 ● アメリカンファミリー生命保険会社 ● アロービジネスメイツ ● イトーヨーカドー ● 伊藤忠丸紅鉄鋼 ● キリンビバレッジ ● 高齢・障害者雇用支援機構 ● 島忠 ● 成基コミュニティーグループ ● 大阪地方裁判所 ● 神戸市職員 ● 名古屋市立図書館 ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 大阪安達学園大阪観光専門学校 ● 大阪大学大学院人間科学研究科 ● 京都教育大学大学院教育学研究科 ● 神戸大学大学院保健学研究科 ● 広島大学大学院教育学研究科

2010 年度 ● 旭川家庭裁判所 ● 大阪市立大学職員 ● 香川県職員 ● 神戸市職員 ● 東京家庭裁判所 ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 京都教育大学大学院教育学研究科 ● 鳴門教育大学大学院学校教育研究科 ● 大阪保健福祉専門学校 ● 佛教大学通信教育課程本科

卒業研究テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

- 青年期における自他への攻撃性について
ー分離個体化と対人葛藤場面における他者の意図の判断からー
- 青年期の攻撃性と自己愛・個人志向性・社会志向性との関連
- コラージュ集団継続作成における青年期男女の自己受容・他者受容・自尊感情の変化とその内的体験過程に関する研究
- 青年期の自己イメージと他者からのイメージの差異について
ー友人関係の取り方と自尊感情との関連からー
- 青年期における「ひとりではいられる能力」尺度作成の試み
ー自我同一性との関連の検討ー
- 意思決定場面における文脈効果と意思決定スタイルの関連
- 発達障害者雇用における企業と就労者の認識と就労支援の検討
ー阪神間でのインタビュー調査からー
- 自閉症児と関与者が寄り添うことによる関係発達における対人関係の障害及び関係障害の発達の変容
- 青年期の対人場面における性役割行動に関する研究
- ペットの愛着に影響を及ぼす要因の検討
ー世話への取組みと家族構成の側面からー
- 知的障害児者とスポーツに関する一研究
ー水泳の有効性を中心としてー
- 中学生の自己評価と主観的重みづけが心理的適応および学校適応に与える影響

2010 年度

- 5 歳児の相互交渉に関する検討
ーいざこざの解決過程に着目してー
- Erikson の親密性と自己愛について
- アタッチメントと孤独感「甘え」の関連
- 育児期女性のライフコース選択と心理的適応との関連
- 家族画における色彩反応の分析指標の検討
ー家族イメージ彩色法を用いてー
- 現代大学生の友人関係の類型と対人的信頼感・被援助志向性との関連
- 算数文章題の解決における支援の検討 ー目標明示化の効果ー
- 自己の経験を語ることの意味に関する研究
ー障害を持つ一人の男性の語りからー
- シャイネスのタイプの抽出とタイプごとの差の検討
- 小学生に対するチェックリストを用いた作文指導の効果
- 女子大学生における服装規範に関する研究
ー性役割と賞賛獲得の観点からー
- 自律の高校進学動機と将来目標が進路成熟に及ぼす影響
- 信仰者の困難体験への対処のプロセス
ークリスチャンへのインタビュー調査からー
- 青年期における「泣き」経験の持つ意味に関する探索的研究
- 青年期における失恋からの立ち直り要因に関する一研究
- 聴覚障害を扱う映画に反映された障害者観と健聴者の世界との葛藤について
- 障碍児者のきょうだいに関する一考察
ー親の期待ときょうだいの将来観の関連についてー
- 中学生の過剰適応と攻撃性との関連
- 個性化志向および逸脱回避志向が精神的健康に与える影響
- 年期における時間的展望と重要な他者との関連の発達的变化
- 社会科の教科イメージに関する研究 ー自己教育力との関連からー
- 発達障害をもつ不登校生徒への支援の試みについて
- 一般的な大学生の感じる「生きにくさ」の概念生成
- 部活動の競技特性におけるストレス反応への影響の違い
ー対人関係に焦点をあてての検討ー
- コヒアレンス感とソーシャルサポートの活用
- 青年の結婚意欲に影響を及ぼす要因について
ー結婚願望の高さと結婚意欲の低さの間に見られるズレの検討ー
- 看護師のストレスによる離職から再就職におけるプロセスと心理的变化
ー自己開示の関係 ー開示相手、開示側面の検討ー
- 青年期における発達促進的な対象と自我同一性の形成に関する研究
- 大学生におけるひとりの時間の持ち方と精神的健康との関連
- 大学生の職業興味に関する研究
ーHolland の職業選択理論を用いてー
- 中学生における言語発達と人格形成・対人関係の育成について
ー国語科教師 大村はまの教育実践からー
- ツイッターの利用とコミュニケーションに関する実態調査
- 定年退職による価値意識の変遷と幸せな老い
- ファミリーホームにおける愛着形成と自立支援に関する心理的考察 ー養育者の語りを通してー
- ペット飼育におけるペットとの関わりが子どもの共感性に及ぼす影響について
- 友人関係におけるストレス認知・コーピングが対人恐怖心症およびふれ合い恐怖の心性に及ぼす影響
- 女子青年における化粧行動に関する研究
ー顔に対する満足度と化粧効力感との観点からー
- 親の期待と過剰適応 ー子どもの性格特性との関連からー
- 青年期の愛着スタイルと親密性の関係
- 大学生の時間的展望における過去のとらえ直しについて
- 楽観性は適応的と言えるのか ー自己内省の観点からー

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 幼稚園教諭一種免許状

2010 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状

子ども発達論コース

子どもの発達を「観る」「聴く」「学ぶ」

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 心理学入門 ● 発達心理学概論 ● 子ども発達論 ● 子ども教育論 ● 教育学概論 ● 教育心理学 ● 臨床心理学 ● 異文化教育論 ● 生涯学習論 ● 教育ディベート入門 ● 教職論	● 道徳教育論 ● 乳幼児発達論 ● 児童心理学 ● 青年心理学 ● 児童青年精神医学 ● 発達障害心理学 1 ● 発達障害臨床学 1 ● 相談心理学 ● 認知発達論 ● 算数教育論 ● 初等体育論 ● 音楽表現発達論 ● 造形表現発達論 ● 児童言語教育論 ● 教育制度概説 ● 初等社会科教育論 ● 発達支援論研究	● 幼児精神衛生論 ● カウンセリング ● 教育の歴史人類学 ● 科学技術社会と教育 ● 情報化社会と教育 ● 人間形成学特講	
コース専門科目	 	● 子どもの発達 ● 子どもの心と教育 ● 子どもと生活 ● 子どものからだづくり ● 子どもの認識 ● 子どもの表現 ● 子どもの表現教育 ● 子どもとメディア ● 子どもの発達支援 ● 児童福祉論 ● 子ども社会論 ● 心理統計法 ● 人間関係発達論 ● 教育制度 ● 異言語指導論	● 外書講読 ● 子ども発達論演習 1・2 ● 数理認識発達論 ● 子どもスポーツ論 ● 幼年音楽論 ● 美術教育史論 ● 乳幼児認知発達論 ● 造形発達論 ● 児童文学論 ● 健康行動科学	● 子ども 発達研究法 1・2
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。



木下孝司 教授（発達心理学）

中川茜 さん（子ども発達論コース 4 年生）

実践現場で、
「子どもの不思議」から
「子どもの謎」に迫る

私たちの研究室では、乳幼児や障害をもつ子どもの発達やその支援について、いくつかの研究をしています。その研究テーマの一つが「心の理論」です。これは、お互いにわかりあうことがどのように発達していくのかというテーマです。また、様々な原因でこうした相互理解がうまくできない子どもたちは、どのような「生きにくさ」を感じているのか、それに対してどのような支援が必要なのかも、現場の先生とも議論しています。子どもと関わっていると面白いことがいっぱいです。おとなのもつ「当たり前」が、子どもにはそうでないことがたくさんあります。この「子どもの謎」を深く見つめていくことを、研究室では保育現場や障害児療育現場で進めています。学部生から博士後期課程の院生までが一緒に現場で学んだり、素敵な実践をされている先生とも交流する機会をつくって、子どもの発達を大切にする輪を広げていきたいと考えています。子どもの未来のために頑張りたい皆さんと学べることを期待しています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡部恭幸 准教授 数理認識論，数学教育 算数・数学の授業の中で子ども達はどのように概念を形成していくのか，またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	北野幸子 准教授 乳幼児教育学，保育学 子ども特に乳幼児（0～8 歳くらい）の遊び・生活・学びの内容や，乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。	木下孝司 教授 発達心理学 乳幼児や障害をもつ子どもたちが，発達の主体となり，相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。	國土将平 准教授 身体発育発達，保健体育科教育，健康・スポーツ測定 子どもの身体の発育や健康，体力・運動能力の発達，運動動作やスポーツ動作の発達を明らかにし，生活環境や生活習慣との関係を探っています。
五味克久 教授 幼年音楽，リトミック，合唱指揮 音楽でいかにあそぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは，手づくり楽器で音の発見というテーマです。	鈴木幹雄 教授 美術教育学，芸術教育に関連した教育学，教育学 子どもの心に語りかける教師達・自分の中に変化を発見する子ども達，モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	目黒強 准教授 児童文学，国語教育 近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。	



学び，触れ合いながら，
子どもの不思議を解き明かす

子ども発達論コースでは，子どもの素晴らしさや面白いところをたくさん知ることが出来ます。大学の教室での講義だけでなく，児童館へ実習に行って子どもと関わったり，子どもが最高に面白いと思えるような紙芝居を作ったり，身近なものを使って子どもと一緒に遊べるような楽器を作ったりしました。幼稚園の模擬保育をチームで考えて実践する授業では，実際に様々な種類の鬼ごっこや手作りの魚釣りゲームをしたり，小麦粉粘土や牛乳パックを使った製作活動をしなが，子どもがそれらの遊びのどこを面白いと感じたり，どこを頑張ろうと思っているのかをみんなで考えました。私自身は，授業や幼稚園の教育実習の経験から，子どもが絵本の何をどんな風楽しんでいるのか不思議に思ったので，卒論のテーマとして調べてみようと思っています。子どもが好きな人はもちろん，子どもって不思議だなと思う人は是非一緒に勉強しましょう。

子ども発達論コース

子どもの発達を「観る」「聴く」「学ぶ」

主なコース専門科目

子どもの発達
子どもの発達を研究するための視点および方法について学び、子どもの発達を理解することがどのように教育（保育）実践に寄与するのかについて検討する。

子どもの認識
子どもの認識に関する基礎的な理論について学習する。特に、数量・形などの概念の発達やそれらについての認識能力の獲得について考察する。

子どもの発達支援
子どもの発達を支援する児童厚生施設のひとつである児童館での体験学習に基づき、地域における子どもの健全育成を考える。

子ども発達研究法 1
卒業論文作成に向けて、児童発達研究に関する各専門領域に関する基礎的な知識を習得するとともに、卒業研究に必要な文献の講読、調査等の計画・実施を行う。

幼年音楽論
私たちは日常生活の中で様々な形で音楽と接している。音楽の周辺を探索する。

児童文学論
児童文学作品を作家論・作品論・読者論などの観点から分析し、児童文学史における作品の意義について考察する。

人間関係発達論
生涯発達の各期における人間関係の様相を中心テーマに、人間関係を通しての学びと、人間関係が人にもたらす影響などについて学ぶ。

子どもの心と教育
基本的信頼感、探究心、好奇心、自己肯定感、思いやり、規範意識等、子どもの気持ちを実践的に学び、子どもの心に応じた教育のあり方について考える。

子どもの表現
この授業では、子どものための美術館での対話を基本とした美術鑑賞と作品制作についての実践を紹介しながら、子どもの美術鑑賞に関する理解を深める講義をする。

外書講読
児童発達研究の各専門領域に関する英語等の文献を講読する。

子ども発達研究法 2
卒業論文作成に向けて、児童発達研究に関する各専門領域に関する基礎的な知識を習得するとともに、卒業研究に必要な文献の講読、調査、実験等を行い、データの処理方法を学び、論文の書き方を習得する。

美術教育史論
子どもの表現教育に関連した内容が平易に、文学史と芸術教育学との交叉点で研究される。モダニズム芸術の洗礼を受けた教育者達 / 詩歌と児童文学の世界に見る 20 世紀文学世界の拡大 / 芸術学校の改革と芸術教育改革。

児童福祉論
児童福祉法の成立過程から戦後日本の児童福祉の理念を学ぶとともに、「子どもの権利条約」の視点から子どもの「自立支援」に関する諸課題について議論する。

教育制度
制度としての学校が生み出す、あるいは挑む現代的な教育諸課題についての分析・検討を通じて、新たな教育制度のあり方を積極的能動的に探究する。

子どもと生活
子どもの生活の中での表現について実践的に検討する。音楽を使った紙芝居やペープサートなどを製作し子どもの生活と表現とを考察する。

子どもの表現教育
実験的・探究的な図画工作の授業がいかに魅力的なものとして築き上げられるかが、ドイツの老教授ブルクハルト氏の教育実践と著書を手掛かりに考察・研究される。こんな表現教育が可能なのかという感動が得られる。

子ども発達論演習 1
子ども発達に関係する文献や研究論文などを通して、各自の問題意識を深め、研究課題を探る。

数理認識発達論
人間の数学概念の理解や認識についての基礎理論について学習するとともにその知見に基づく教育の内容や方法について考察する。

乳幼児認知発達論
乳幼児の発達をとらえるための一手段である発達検査の成り立ちと特徴を理解し、発達診断を教育指導にいかすための視点を学ぶ。

子ども社会論
現代社会における子どもに関する問題を社会的な視点から検討し、子どもの発達を支える社会システムについて論じる。

健康行動科学
健康の維持・増進、生活の質（QOL）の向上に対する脳科学や心理学からのアプローチを、主に子どもの発達に焦点を当てながら紹介する。

子どものからだづくり
子どもの身体発育の機序を明らかにし、運動や遊びを含む生活習慣ならびに生活環境との相互作用より子どものからだづくりについて論考する。

子どもとメディア
子どものメディア環境について、メディア接触状況・コンテンツ・メディアの形式などの観点から考察する。

子ども発達論演習 2
子ども発達に関係する文献や研究論文などを通して、研究課題を絞り、その探究のための方法論を学ぶ。

子どもスポーツ論
子どもの遊びや身体活動、スポーツ活動を支える諸理論ならびに運動発達を支える環境について考察し、子どもの身体現象の洞察を深める。

造形発達論
1940 年代から 70 年代にかけて関西で活躍した前衛美術団体「具体美術協会」の作家たちが行った子どもたちへの美術教育活動の紹介とその意義の理解を深める講義をしている。

心理統計法
心理学研究におけるデータ分析の重要な手法として統計学の基礎を学び、収集したデータを記述し、それから推測することを学ぶ。

異言語指導論
2011 年度から小学校で英語活動が始まる。これを意識しつつ、子どもの言語習得過程の特質を踏まえ、子どもへの外国語の教授方法を学ぶ。

卒業研究テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

- 「なぜきょうだいが同胞の面倒を見なければいけないのか」を社会的背景から考える
- あそびにおける子どもの認識に関する研究
— ごっこ遊びの「おもしろさ」に着目して—
- リストカット経験者の語りの分析
— mixi 内のコミュニティにおける書き込みを分析対象として—
- 絵本におけるどうぶつの家族像
- 学校裏サイトにおける中高生のコミュニケーション
- 結婚・家族に関する価値意識の変化と少子化
- 雑誌『sesame』の変遷 ～ 2003 年以降に注目して～
- 小学校における給食残食の現状と残食量減少のための取り組み
- 小学校における障害理解教育のあり方
～ 知的障害・発達障害を中心に～

2010 年度

- 「年鑑広告美術 / ADC 年鑑」のポスター広告に見る子ども像の変遷について
- 2,3 歳児の砂山や砂山作りから発展した遊びの特徴
- 3 歳児クラスにおけるトラブルの発達
～ 未解決のトラブルに着目して～
- 4 歳児はどのように絵本をとらえるか
— 昔話「三びきのこぶた」の読み聞かせを通して—
- 公共図書館におけるヤングアダルト・サービ
— マンガ本等の選書に注目して—
- 子育てを通して母親が成長していくプロセス
— 幼児・学童期の子どもをもつ母親の語りの分析から—
- 子どもとパズル遊びに関する研究
- 子どもの赤ちゃん返りの実際と教育的対応に関する研究
- 子どもの生活時間実態についての考察
— 24 時間タイムテーブルをもとに—

- 小学校における上靴と運動靴の履き替えの有無による児童の遊び行動の相違
- 小学校の特別支援学級における交流及び共同学習
～ 相互交流を目指して～
- 食事場面における 3 歳児のおしゃべりについて
- 人を育てることへの一視点
— 賀川豊彦の思想を手掛かりとして—
- 朝食欠食率改善のための学校教育の取組
- 内省から見る成人性習得時期の変遷
- 美術ワークショップによる親子の気づきについて
- 表現の魅力を伝える教育についての考察
- 幼児期における“秘密”の発達
— 秘密を保持する・・・行動抑制との関連に着目して—
- 日本のキャラクター・キャラクターグッズの魅力

- 地域における子育て支援政策の展開
— 地域子育て支援センター事業に着目して—
- 地域に対する理解や興味を深めるための授業の工夫についての考察 — 総合的な学習の時間において—
- 知育玩具とその対象年齢
- 父親の育児参加とその影響 — 父母の違いに着目して—
- 定期的な冒険教育活動が子どもの意識や態度に与える影響
- 人々は魅力的な芸術教育をどのようにつくりあげてきたのか
— 3 人の美術教育者の試み—
- 表現の魅力を伝える教育についての考察
- 理科離れについての一考察
- 子どもの造形表現プログラムに参加する親の意識
— 「のびやかスペースあーち」「らくがきおばさんがやってきた」の参加者へのインタビューを通して—
- 週及的調査による小学校体育内容の達成度に関する研究

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.103）

2009 年度

- F. O. インターナショナル ● 光洋機械産業 ● 滋賀銀行 ● 積水ハウス ● 社会福祉法人いづみ福祉会 ● 宗教法人キリスト者学生会
- 新宿せいが保育園 ● つみき保育園 ● 西松屋チェーン ● ニッセイ同和損害保険 ● 兵庫信用金庫 ● 京都市立保育所 ● 神戸市職員
- 大阪府教員（小学） ● 神戸市教員（小学） ● 滋賀県教員（小学） ● 名古屋市特別支援学校教員

2010 年度

- アップ ● 生活協同組合コープこうべ ● 南都銀行 ● 西松屋チェーン ● ひかりのくに ● ミキハウス
- みずほファイナンシャルグループ ● リクルート HR マーケティング ● 神戸市職員 ● 奈良市職員 ● 大阪市教員（小学）
- 名古屋市立保育所
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状

2010 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 心理学入門 ● 発達心理学概論 ● 子ども発達論 ● 子ども教育論 ● 教育学概論 ● 教育心理学 ● 臨床心理学 ● 異文化教育論 ● 生涯学習論 ● 教育ディベート入門 ● 教職論	● 道德教育論 ● 乳幼児発達論 ● 児童心理学 ● 青年心理学 ● 児童青年精神医学 ● 発達障害心理学 1 ● 発達障害臨床学 1 ● 相談心理学 ● 認知発達論 ● 算数教育論 ● 初等体育論 ● 音楽表現発達論 ● 造形表現発達論 ● 児童言語教育論 ● 教育制度概説 ● 初等社会科教育論 ● 発達支援論研究	● 幼児精神衛生論 ● カウンセリング ● 教育の歴史人類学 ● 科学技術社会と教育 ● 情報化社会と教育 ● 人間形成学特講	
コース専門科目		● 教育学研究法 1～8 ● 教育思想史 ● 日本教育史 ● 教育制度 ● 教育政策 ● 教育方法学 ● 学習指導論 ● 科学教育論 ● カリキュラム論 ● 成人学習論 ● 社会教育計画論 ● 授業システム論 ● 教育哲学 ● 異言語指導論	● 外書講読 ● 教育科学論演習 1・2 ● 教育法 ● 教育行政学 ● 生活指導論 ● 社会科教育方法論 ● 教師教育史論	● 教育科学研究 1・2
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

稲垣成哲 教授 科学教育 科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論，方法，評価及び実践デザインの研究を行っています。	川木冴子 講師† 日本語学，日本語教育 談話の文法。近年，新しいタイプの教材開発を目指す中で，中級以上の，「読む」技能に資する文法を研究しています。	白水浩信 准教授 西洋教育史 教育の歴史人類学。〈教育〉とはそもそも何であったのか，人間の生きる営み全体をのなかで，大人と子どもの関係行為として〈教育〉を捉え直すを行っています。	勅使河原君江 講師 美術教育 美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり，この研究は美術を通して子どもを知ること，私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。	船寄俊雄 教授 日本教育史，教育学 「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」，このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。
山口悦司 准教授 科学教育 現在，子どもから大人までが，いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば，それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	山下晃一 准教授 教育制度論 教育制度改革論（子どもの豊かな育ちの保障に向けて，地域が学校に関与するしくみや，学校内部で教職員同士が協働するしくみ等）に関する研究をしています。	吉永潤 准教授 社会認識教育論 幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで（!?），他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決，または回避できるのだろう。	渡部昭男 教授 教育行政学 (地域教育学，特別ニーズ教育) 「学校」は個人的な体験と思い出の場に留まりません。特別ニーズ児を含む人間発達や地域創造の視点から教育行政の在り方を探求しています。	



吉永潤 准教授（社会認識教育論）

津田康裕 さん（教育科学論コース 4 年生）



教育への各自の問題関心を，
ともに探究していきます

私自身の研究テーマは社会科・社会認識教育で，近年は，「国民が外交意思決定へと参画していくために求められる資質・能力とは何か」というテーマに取り組んでおります。一方，私のゼミは現在，学部学生，大学院前期・後期課程の学生に加えアジア各国からの留学生研究生も所属しており，多士済々です。学生の研究テーマも様々で，最近のテーマとしては，道德教育，キャリア教育，教育評価論，討論教育，教科書制度の研究などについて指導してきました。しかし，学生の問題関心は，多彩であるように見えて，やはり今日これからの教育のあり方への深く鋭い問いを含んでおり，私自身，指導しながら実は大変勉強になっています。ゼミの授業は，3 年生では各自が関心を持つ文献を選んでの報告とディスカッション，4 年生になると卒論のための個別指導となります。夏と春にはフィールドワークを兼ねたゼミ合宿を行っており，見聞を広め親睦を深めるとともに，ゼミ仲間の問題関心の交流を図っています。

自分の興味，
可能性をのばせるコース

教育科学論コースは，教育について様々なことを学べる，自由なコースとなっています。「教育」は経済，法律，政治，歴史など，様々な要素と密接に関係しています。これらをじっくりと考えることが出来るのもこのコースの特長となっています。私は，このコースで自分が興味，関心を持っていなかったところに出会い，今まで自分が気づいていなかった「教育」の持つ多様な側面に気づき，より広い考えを持つことが出来るようになりました。また，豊富な知識をお持ちの先生が温かく，そしてしっかりとサポートしてくれますし，自分が持つ可能性を引きのばしてくれます。他のコースの授業も選択することもでき，自分が興味をもっているところに関してより多く学ぶことができます。また，教員免許も取得できます。皆さんもこのコースで自分の持つ可能性に気づき，それをのばして行きませんか。

教育科学論コース

教育や学校が今あるような仕方であるのはなぜだろう？

主なコース専門科目

教育学研究法 1
「戦時下の子どもたちと教育」がテーマである。このテーマを追究することを通して、「調べること」「記述すること」「発表すること」「討議すること」という研究の基本を体験する。

教育学研究法 5
2年生向けの科目で、テーブルを囲んだゼミ形式で行う。私の授業では、教育や学習を考える基礎体力作りのため哲学の書籍を輪読する。

外書講読
先進工業諸国に共通する教育課題に焦点を当てて、教育学・教育制度研究に関する英語文献を読み進め、教育と社会の現実について理解する。

教育科学研究 2
卒業論文の完成に向けて、研究内容の整理とまとめの方法、引用文献・参考文献の書き方等を含む具体的な執筆作法等について指導を行う。

教育法
教育と法の関係をめぐる思想や、具体的法規の内容・運営実態を取り上げながら、法が教育を支える局面／制限する局面について考察を進める。

学習指導論
授業とは事象の本質に迫る問いの設定と、問いをめぐる学習者の思考・言語活動の運営である。本講義ではこのような授業運営力量の形成をめざす。

社会科教育方法論
小学校社会科の具体的な学習指導を行う能力を養うことができるよう、カリキュラム編成や各学年の授業実践事例や評価方法を豊富に提示して講義する。

教師教育史論
日本の教師教育史を振り返りながら、今日の教師教育が抱える問題点の解決の方向性を探るとともに、大学における学びのあり方を考える。

教育学研究法 2
教育の歴史人類学を学ぶための基礎演習。教育とはそもそもいかなる営みであったのか？生病老死という人間の営み全般を見渡しながら、教育の古層へと降り立つ。

教育学研究法 6
科学教育における学習科学分野の基礎的・基本的な研究方法論について、受講生が主体的に調べ、発表する形式を通して習得する。

教育科学論演習 1
各人の卒業論文の内容に関連した文献の講読等の調査内容をまとめて発表、討議したことを踏まえ、指導教員が卒業論文のまとめ方・書き方といった観点から指導を行う。

教育思想史
西欧に端を発した近代教育思想の「あたりまえ」を相対化するために、その特異性はどこにあるか、何が問題とされてきたのかについて講述する。

教育政策
教育政策の歴史的变化と社会的要請の面から、教職の意義および教員の役割について系統的に捉えることをめざす。また、教員の職務内容と教職や教育関係の職員を志望する際に重要となるテーマを講義する。

生活指導論
学校の集団生活を通じた成長と社会性獲得を図るのが生活指導実践である。現代の学校をめぐる諸課題の具体的分析を通じて実践力量の形成をめざす。

成人学習論
社会をよりよくしていくために人々が日々実践している学習活動について、リアルな体験に基づいて、制度論、学習論などの視点から迫る。

教育哲学
古今東西の教育をめぐる思想・哲学が、どのような社会背景の下で、いかに生み出されてきたのかをたどり、その内容・意義に迫ることによって、現代の教育課題を逆照射することを目指す。

教育学研究法 3
「教育と社会の接点」に注目し、教育をめぐる人々の動きについて、それを規定する制度・組織・システムの観点から、諸資料を基に探究・協議を行う。

教育学研究法 7
科学教育のカリキュラムを批判的に読み解くための基礎的なトレーニングとして、専門分野の書籍・論文を通して、科学教育研究の研究方法を学習する。

教育科学論演習 2
卒業論文作成を目指して、研究モチーフの洗練化、研究課題設定、具体的な素材決定、調査方法の選択等を行い、先行研究のまとめ方、論文の項目設定の仕方や書き方等を含んだ指導を行う。

日本教育史
現在わたくしたちが抱える教育問題の歴史を探ることを通して、その解決に向けてどのような議論がなされ、どのような手立てがとられたかを考える。

教育行政学
教職に必要な教育行政および教職についての体系的知識を修得し、現行法制の下での教育行政の課題を明らかにする。

科学教育論
科学教育における学習科学分野の基礎的・基本的な理論と方法論について、専門分野の文献を講読することを通して体系的に習得する。

社会教育計画論
市町村に教育基本法と社会教育法に基づいて設置される、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設の意義や機能、その計画的な配置などについて学ぶ。

異言語指導論
2011年度から小学校で英語活動が始まる。これを意識しつつ、子どもの言語習得過程の特質を踏まえ、子どもへの外国語の教授方法を学ぶ。

教育学研究法 4
教育行政について、行政機構・行政主体・行政作用などの基本的事項の理解、さらに社会過程による変化を踏まえた現状認識を深めることを目的とする。

教育学研究法 8
児童・生徒の社会認識の発達や、社会を構成し運営すると共に社会的に自立した人間として力強く生きていくために必要な自省力・人間力・社会力の形成の在り方について考察する。

教育科学研究 1
実際の卒業論文作成にかかわって、各自の興味関心・研究題目に即して学習・調査してきた事柄を報告し、作成上の問題点や具体的な作業課題等について指導を行う。

教育制度
制度としての学校が生み出す、あるいは挑む現代的教育諸課題についての分析・検討を通じて、新たな教育制度のあり方を積極的能動的に探究する。

教育方法学
教育を「つくるもの」として創造的にとらえ、それを実現するための方法や、そこで出会う困難について深く学び考えることを受講者に求める。

カリキュラム論
学校教育の独自な教育課程を対象として、その意義、編成原理、類型、評価に関する基本的事項を学習する。また、学習指導要領の歴史の変遷や授業実践について理解することを目指す。

授業システム論
学習に関する理論的理解を深めるとともに実践力となる教育方法・技術を身につけることで、授業マネージに必要となる教師の資質・能力を獲得する。



卒業研究テーマ

2009 年度	● 日本における心理学のあゆみ —近代学校制度からの学問領域の形成と社会支配 ● 谷崎潤一郎の作品における学級と子どもたち ● ダンテ『神曲』の煉獄と悔悛 —教育おける自己内省の仕掛け ● 子どもと共に生きる教育の探求 —谷昌恒の教育観と実践に学ぶ ● 『子供の科学』の研究 ● 兵庫県における子育て学習センター事業に関する研究 ● ハンセン病「未感染児」共学拒否問題に関する研究 —竜田寮児童通学拒否事件を事例に ● 多角的アプローチによる学習塾に関する考察 ● 地方権化と教育委員会制度	● 公立の小・中学校における学校選択制に関する研究 ● 海王丸との交流における海事教育カリキュラムの開発と評価 ● デジタル版植生遷移ゲームの実践的評価 ● デジタル運勢ラインシステム (DFL) を利用した授業 —一次世代入力デバイスへの期待 ● 小学校の学級経営における自己肯定感育成の方法と課題 —構成的グループ・エンカウンターに着目して ● 日本の大学における“リベラルアーツ型学部”の可能性 —学際的カリキュラムの再検討を通して ● 孤独死におけるコミュニティの重要性について
2010 年度	● 階層化機能を実装した再構成型 コンセプトマップ作成ソフトウェアの実践的評価について ● 学級における教師－生徒関係の社会学的研究に関する一考察 ● 教育の地方分権化と国の役割 ● 教科書制度について考える ● 公立小中学校事務職員における労働の自己マネジメントと意義づけの検討 —心理主義化を超えて—	● 国定修身教科書「野口英世」の伝記教材 —伝記教材作成と教科書の在り方— ● 少年非行対策における学校と警察の連携の意義について —兵庫県警の実例を軸として— ● 新聞による自衛隊事故報道の研究 ● リコーダーの歴史と器楽教育

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.100）

2009 年度	● JTB 西日本 ● 助産士 ● ヤマシタコーポレーション ● ランドコンピュータ ● 石川県職員 ● 熊取町職員 ● 舞鶴高等専門学校職員 ● 芦屋市立朝日ヶ丘小学校教員 ● 神戸市教員（小学） ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
2010 年度	● 大阪厚生信用金庫 ● 山口銀行 ● 読売新聞大阪本社 ● 愛西市職員 ● 神戸市職員 ● 岡山県教員（中学）

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 小学校教諭一種免許状 ● 特別支援学校教諭一種免許状 ● 幼稚園教諭一種免許状 ● 学芸員	2010 年度	● 小学校教諭一種免許状 ● 中学校教諭一種免許状（社会） ● 特別支援学校教諭一種免許状 ● 幼稚園教諭一種免許状 ● 学芸員
---------	--	---------	--



カリキュラム

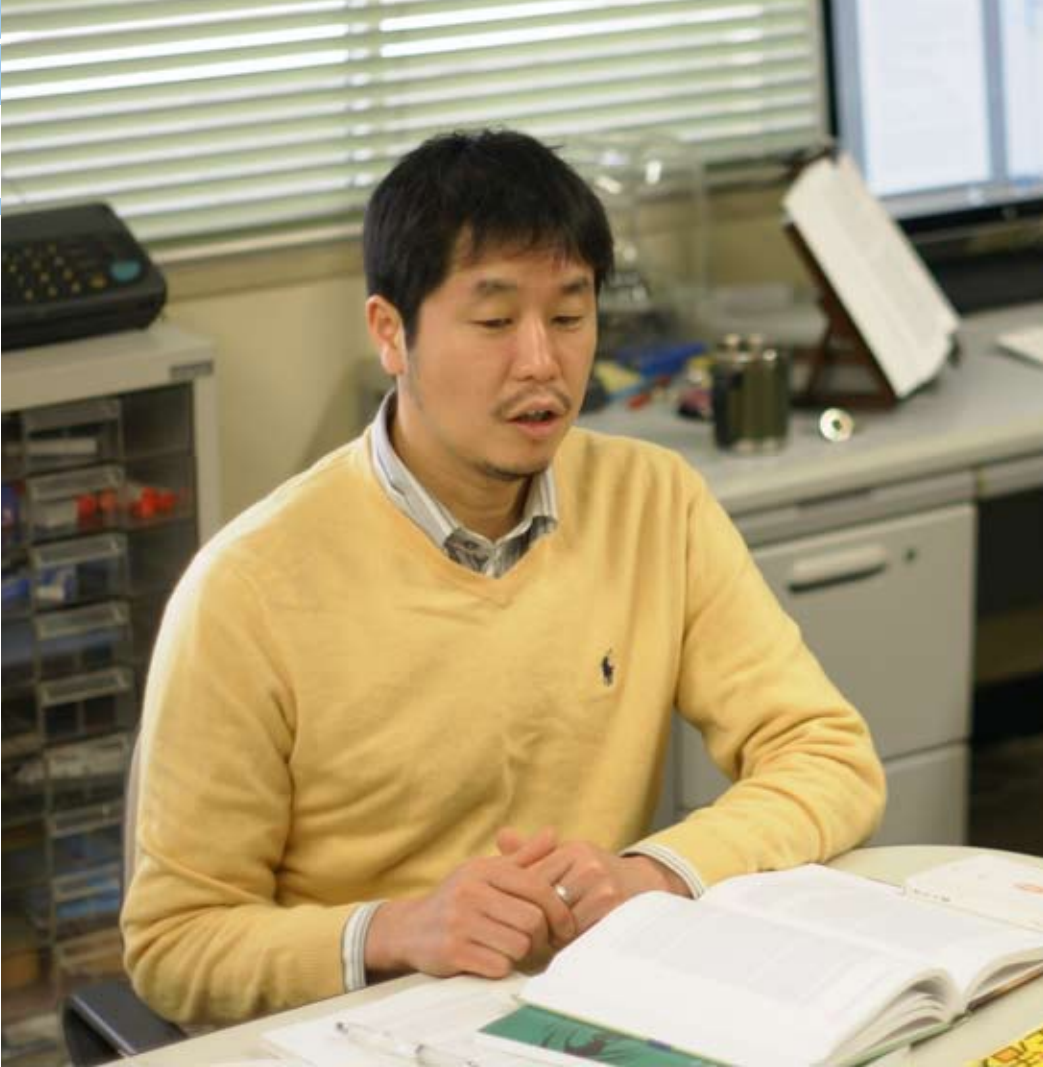
	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目	● 健康・スポーツ科学		
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 心理学入門 ● 発達心理学概論 ● 子ども発達論 ● 子ども教育論 ● 教育学概論 ● 教育心理学 ● 臨床心理学 ● 異文化教育論 ● 生涯学習論 ● 教育ディベート入門 ● 教職論	● 道徳教育論 ● 乳幼児発達論 ● 児童心理学 ● 青年心理学 ● 児童青年精神医学 ● 発達障害心理学 1 ● 発達障害臨床学 1 ● 相談心理学 ● 認知発達論 ● 算数教育論 ● 初等体育論 ● 音楽表現発達論 ● 造形表現発達論 ● 児童言語教育論 ● 教育制度概説 ● 初等社会科教育論 ● 発達支援論研究	● 幼児精神衛生論 ● カウンセリング ● 教育の歴史人類学 ● 科学技術社会と教育 ● 情報化社会と教育 ● 人間形成学特講	
コース専門科目	 	● 教育哲学 ● 学習指導論 ● 教育政策 ● 学習障害等教育総論 ● 異言語指導論 ● 教育思想史 ● 自然教育論 ● 生活科教育論 ● 国語教育方法論 ● 社会科教育方法論 ● 理科教育方法論 ● 算数教育方法論 ● 生活科教育方法論 ● 音楽表現教育方法論 ● 造形表現教育方法論 ● 幼児環境指導法 ● 幼児健康指導法 ● 幼児人間関係指導法 ● 幼児言語表現指導法 ● 教育方法学 ● カリキュラム論 ● 授業システム論 ● 特別活動指導法 ● 障害児発達学 ● 発達障害心理学 2 ● 発達障害臨床学 2 ● 特別支援教育総論	● 幼児教育内容論 ● 学校教育資料調査法 ● 子ども発達論演習 1・2 ● 教育科学論演習 1・2 ● 初等家政学概論 ● 家庭科教育方法論 ● 運動教育方法論 ● 幼児音楽表現指導法 ● 幼児造形表現指導法 ● 教師教育史論 ● 教育法 ● 教育行政学 ● 生活指導論 ● 特別支援教育学 ● 障害児指導学 ● 視覚障害児発達学 ● 児童文学論	● 子ども発達研究法 1・2 ● 教育科学研究 1・2
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

稲垣成哲 教授 科学教育 科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論，方法，評価及び実践デザインの研究をしています。	岡部恭幸 准教授 数理認識論，数学教育 算数・数学の授業の中で子ども達はどのように概念を形成していくのか，またどのように指導が効果的なのかについて研究しています。	川木冴子 講師† 日本語学，日本語教育 談話の文法。近年，新しいタイプの教材開発を目指す中で，中級以上の，「読む」技能に資する文法を研究しています。	北野幸子 准教授 乳幼児教育学，保育学 子ども特に乳幼児（0～8 歳くらい）の遊び・生活・学びの内容や，乳幼児を教育する専門職の専門性について研究しています。	木下孝司 教授 発達心理学 乳幼児や障害をもつ子どもたちが，発達の主体となり，相互にコミュニケーションを通して理解し合うプロセスについて研究しています。
國土将平 准教授 身体発育発達，保健体育科教育，健康・スポーツ測定 子どもの身体の発育や健康，体力・運動能力の発達，運動動作やスポーツ動作の発達を明らかにし，生活環境や生活習慣との関係を探っています。	五味克久 教授 幼年音楽，リトミック，合唱指揮 音楽でいかにあそぶかを考えています。一つは以前からの関心であるリトミックについてです。もう一つは，手づくり楽器で音の発見というテーマです。	白水浩信 准教授 西洋教育史関連した教育学，教育学 教育の歴史人類学。〈教育〉とはそもそも何であったのか，人間の生きる営み全体のなかで，大人と子どもの関係行為として〈教育〉を捉え直す研究をしています。	鈴木幹雄 教授 美術教育学，芸術教育に関連した教育学，教育学 1) 「子どもの心に語りかける教師達・自分の中に変化を発見する子ども達」，2) モダニズムの精神の洗礼を受けた教師達とその改革的教育について研究しています。	勅使河原君江 講師 美術教育 美術を通して子どもを理解し発達支援をする研究をしています。つまり，この研究は美術を通して子どもを知ること，私たちは人間に共通する美について理解する事につながる研究なのです。
船寄俊雄 教授 日本教育史，教育学 「子どもとは何か」「学校とは何か」「教師とは何か」「教育とは何か」，このような問いへの解答を歴史の中に求めて研究を行っています。	目黒強 准教授 児童文学，国語教育 近代日本において児童文学というジャンルがどのように成立したのかについて研究しています。	山口悦司 准教授 科学教育 現在，子どもから大人までが，いろいろな場所で「科学」を学んでいます。どうすれば，それらの科学の学びをよりよく支援できるのかについて研究しています。	山下晃一 准教授 教育制度論 教育制度改革論（子どもの豊かな育ちの保障に向けて，地域が学校に関与するしくみや，学校内部で教職員同士が協働するしくみ等）に関する研究をしています。	吉永潤 准教授 社会認識教育論 幼稚園の砂場のケンカから国際紛争まで (!?)，他者とうまく共存していくのはなかなか難しい。どうすれば紛争は解決，または回避できるのだろうか。



山口悦司 准教授（科学教育）

南埜誠幸 さん（学校教育論コース 4 年生）



科学の学びをデザインする

現代社会は，「科学」との出会いに満ちあふれています。したがって，子どもから大人までが，学校だけに限らず社会のいろいろな場所で「科学」を学んでいます。こうした一人ひとりの科学の学びをより有効に支援するためには，どのような学習環境が必要なのでしょう。また，その学習環境をいかにしてデザインすればよいのでしょうか。

山口ゼミでは，このような問題意識のもとに，小学校の先生と大学の教員と大学生がチームを結成し，優れた学習環境を作り出すことに貢献する研究を行っています。過去の研究や実践から「○○を使うと，△△という効果があるぞ」と分かっている理論，教材，実験・観察，教育方法，コンピュータなど，使えるものは何でも使いつつ学習環境をデザインし，そこから，優れた学習環境を作り出すための原則を見つけようとしています。

このような原則が見つかったら，子どもたちの潜在的な知的好奇心を刺激しつつ，学習内容の理解を深めることができると思います。そうすれば，子どもたちは「これからもずっと科学を学び続けたいな」という意欲が出てくると思いませんか？

机の上だけでは学べないものがここにはあります

学校教育論コースには学生同士の協力が必要とする授業や行事が数多くあります。例えば，ある行事のために休日返上してみんなで話し合い準備を行ったり，教育実習中は夜遅くまで残って，みんなで模擬授業会を行ったりしました。1 人では決してできなかったことも，みんなでやるからできる。そんな環境のなかで私は人と人が繋がること，本気で関わることの大切さを知りました。そして，この考えは教師になるという私の目標にも大きな影響を与えました。私はコースに入るまで，ただただ教師になりたいという気持ちしかなく，教師になることだけが目標でした。しかし，今では，一人の人間として本気で子どもたちと関わることでできる教師になりたいというはつきりとした目標ができました。今までの漠然とした目標が，このコースに入ったことによってはっきりと見えてきたような気がしました。このコースには机の前で話を聞いているだけでは学べない世界が広がっているのではないかと思います。

学校教育論コース

小学校教諭，幼稚園教諭および特別支援学校教諭の資格を取得できます

主なコース専門科目

教育哲学 古今東西の教育をめぐる思想・哲学が、どのような社会背景の下で、いかに生み出されてきたのかをたどり、その内容・意義に迫ることによって、現代の教育課題を逆照射することを目指す。	学習指導論 授業とは事象の本質に迫る問いの設定と、問いをめぐる学習者の思考・言語活動の運営である。本講義ではこのような授業運営力量の形成を目指す。	教育政策 教育政策の歴史的变化と社会的要請の面から、教職の意義および教員の役割について系統的に捉えることを目指す。また、教員の職務内容と教職や教育関係の職員を志望する際に重要となるテーマを講義する。	幼児教育内容論 幼児教育の内容とその援助方法を学ぶ。教育保育課程等を知り、遊びの計画・実践・省察に関する習を通じて実践をデザインする基礎技能を習得する。	学習障害等教育総論 学習障害（LD）、注意欠如多動性障害（ADHD）や高機能自閉症・アスペルガー障害（PDD）などの障害をもつ子どもの特徴について述べる。
異言語指導論 2011年度から小学校で英語活動が始まる。これを意識しつつ、子どもの言語習得過程の特質を踏まえ、子どもへの外国語の教授方法を学ぶ。	学校教育資料調査法 教育理論・教育実践に関する内外の諸資料・文献の精読・解析を通じて、学校教育をめぐる諸課題について論議し、理論と実践を関連づける力を高める。	子ども発達論演習 1 子ども発達に関する文献や研究論文などを通して、各自の問題意識を深め、研究課題を探る。	教育科学論演習 1 教育科学の観点から、各人の卒業論文の内容に関連した本を講読し、内容をまとめて発表、討議したことを踏まえ、指導教員が卒業論文のまとめ方・書き方といった観点から指導を行う。	子ども発達論演習 2 子ども発達に関する文献や研究論文などを通して、研究課題を絞り、その探究のための方法論を学ぶ。
教育科学論演習 2 教育科学の観点から、卒業論文のテーマ決定、先行研究のまとめ方、論文の項目設定の仕方や書き方等についての指導を行う。具体的な素材決定、調査方法の選択等を含む。	子ども発達研究法 1 卒業論文作成に向けて、児童発達研究に関する各専門領域に関する基礎的な知識を習得するとともに、卒業研究に必要な文献の講読、調査等の計画・実施を行う。	教育科学研究 1 教育科学の観点から、実際の卒業論文作成にかかわって、各自の興味関心・研究題目に即して学習・調査してきた事柄を報告し、作成上の問題点や具体的な作業課題等について指導を行う。	子ども発達研究法 2 卒業論文完成に向けて、児童発達研究に関する各専門領域に関する基礎的な知識を習得するとともに、卒業研究に必要な文献の講読、調査、実験等を行い、データの処理方法を学び、論文の書き方を習得する。	教育科学研究 2 教育科学の観点から、卒業論文の完成に向けて、研究内容の整理とまとめの方法、引用文献・参考文献の書き方等を含む具体的な執筆作法等について指導を行う。
教育思想史 西欧に端を発した近代教育思想の「あたりまえ」を相対化するため、その特異性はどこにあり、何が問題とされてきたのかについて講述する。	自然教育論 小学校の教科「理科」に関する講義である。本講義は、教員免許資格科目でもあり、理科に関する目標と内容構成論について概説する。	生活科教育論 ＜経験に裏付けられた知識を大切にする視点＞と、＜学問的知識を格科目でもあり、理科に関する目標と内容構成論について概説する。＞	初等家政学概論 従来の家政学の対象である衣・食・住分野に加えて、広く生活環境に関わる今日的諸問題についても主に環境学の視点から取り上げる。	国語教育方法論 国語科教育における学習方法を領域別（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に学び、国語科の授業実践について検討を加える。
社会科教育方法論 小学校社会科の具体的な学習指導を行う能力を養うことができるよう、カリキュラム編成や各学年の実践事例や評価方法を豊富に提示して講義する。	理科教育方法論 小学校の理科指導に関する基本的事項を実践的に学習し、具体的な授業設計のプロセスを理解することを目指す。	算数教育方法論 授業づくりの基本について学ぶとともに、実際にテーマを設定し、教材研究、指導案の作成、模擬授業を行うことを通して、実践的指導力をつけることを目的とする。	生活科教育方法論 「ゆとり」の中で自ら学び自ら考えることによって「自立の基礎を養う」ことを目的とする教科である、生活科の目標・内容・方法・評価について理論的・実践的に講義する。	家庭科教育方法論 家庭科教育について、理論的、実践的な理解を深め、実際の授業を構想できる能力をつける。家庭科の成立史、教科論をたどり、今日的課題をふまえて、家庭科教育の目標、内容、学習方法について講述する。
音楽表現教育方法論 音楽教育の動向を概観し、教育現場を想定したより具体的な音楽教育のあり方を考える。教育現場で要求される積極性、自主性、計画性を培うため、学生が主体となり活動する授業を行う。	造形表現教育方法論 この授業では、制作・表現のプロセスを柔軟に再構成した上で、初等教育における子ども達の表現教育の世界にどのような可能性が広がるかが学ばれる。	運動教育方法論 身体の発育・運動能力の発達過程を踏まえて、運動の教育ならびに、学習の方法論について論述するとともに、運動学習の実践を行う。	幼児音楽表現指導法 音の発見が主な目的である。紙でできる簡単な楽器作りを通して、こんなものでこんな音が出せる、という驚きや喜びを体験しながら、幼児期の子どもたちにどのように音に気付かせ楽しませるかを研究する。	幼児造形表現指導法 幼児造形表現及び造形教育の現状を理論的かつ実践的に学ぶ。作品制作を行い、その活動がもつ教育的意義と表現の背景を学ぶ。
幼児環境指導法 幼稚園保育の一環として主に植物栽培を例として、植物とそれを取りまく環境や人の暮らしとの関係について述べ、幼児に身近な環境への親しみや関心を持たせることができる保育内容（環境）について考える。	幼児健康指導法 今日の子どもたちのいのち・健康をめぐる問題をおさえた上で、幼児の健康な心とからだを育てるために重要な運動あそびや、基本的生活習慣の形成、保健・安全教育などのあり方について学ぶ。	幼児人間関係指導法 保育領域「人間関係」に関わる基礎知識と幼児の人間関係の発達を促す援助方法を学ぶ。指導案の作成と模擬実践を経験し、実践的知識と技能も習得する。	幼児言語表現指導法 幼児の言語発達について発話資料等を通じて理解を深め、発達段階による物語理解や幼児を取り巻く言語環境も踏まえた上で、言語指導の教材や、ことばあそびの選択と提供の方法を習得する。	教師教育史論 日本の教師教育史を振り返りながら、今日の教師教育が抱える問題点の解決の方向性を探るとともに、大学における学びのあり方を考える。
教育法 教育と法の関係をめぐる思想や、具体的法規の内容・運営実態を取り上げながら、法が教育を支える局面／制限する局面について考察を進める。	教育行政学 教職に必要な教育行政および教職についての体系的知識を修得し、現行法制の下での教育行政の課題を明らかにする。	教育方法学 教育を「つくるもの」として創造的にとらえ、それを実現するための方法や、そこで出会う困難について深く学び考えることを受講者に求める。	生活指導論 学校の集団生活を通じた成長と社会性獲得を図るのが生活指導実践である。現代の学校をめぐる諸課題の具体的分析を通じて実践力量の形成を目指す。	カリキュラム論 学校教育の独自な教育課程を対象として、その意義、編成原理、類型、評価に関する基本的事項を学習する。また、学習指導要領の歴史的変遷や授業実践について理解することを目指す。
授業システム論 学習に関する理論的理解を深めるとともに実践力となる教育方法・技術を身につけることで、授業マネージに必要となる教師の資質・能力を獲得する。	特別活動指導法 初等教育における特別活動について、そのねらいや歴史的変遷および具体的活動の一端を示すことにより、理解を深める。特別活動の位置づけや内容について講述し、実際に指導計画の立案・模擬実施を試みる。	特別支援教育学 特別支援教育の構想と課題について、目的、原理および権利論の立場から考察を進め、特別支援教育の在り方を問い、特別支援教育の制度的理解を深める。	障害児発達学 関係発達臨床論の考え方を機軸として、障害児に対する基本的な理解と支援、および障害の中にある健康生成の姿をとらえる新しい視点について紹介する。	障害児指導学 知的障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害、および重度・重複障害の療育、教育の構造と指導法について講述する。
視覚障害児発達学 障害についての考え方を習得し、視覚障害、及び視覚障害教育に関する基本的知識と視覚障害児・者の指導法に関する概要の習得を目的とする。	発達障害心理学 2 自閉性障害、学習障害（LD）、注意欠陥多動性障害（ADHD）等の発達障害の子どもの発達理解とその支援について、講義を行う。	発達障害臨床学 2 知的障害、自閉性障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の発達障害、および重度・重複障害の特性と臨床指導法について概説する。	特別支援教育総論 本講義では、特別支援教育の理念・現状・課題について講述する。個々の子どもが持つ様々な教育上のニーズと特性について解説し、学校や家庭などでの基本的な対応のあり方について理解を深める。	児童文学論 児童文学作品を作家論・作品論・読者論などの観点から分析し、児童文学史における作品の意義について考察する。

卒業研究テーマ

2009 年度

- 子どもにとって使いやすい教科書デザインとは ―教科書デザインの変遷を通して―
- ボランティア活動における よりよいコーディネートについて ―ボランティアとボランティアコーディネーターの関係を中心に―
- 美術館と小学校の連携による 小学校教師の鑑賞教育に対する意識の変容 ―神戸市立小磯記念美術館の取り組みを通して―
- 兵庫県内三市の小学校における食育の実態
- 特別支援学校の研究
- 公立小学校における英語活動の価値
- 「個別の教育支援計画」にみる障害をもつ子どもの発達保障
- 新聞記事にあらわれた「父親の育児」観の考察 ―父子家庭に関する記事を事例として―
- 小学校国語教科書における 戦争児童文学の授業実践に関する考察
- 再構成型コンセプトマップ作成ソフトウェアを利用した 小学 4 年生・人体のカリキュラム開発
- 野外体験の効果を増幅させる植生遷移ゲームの開発
- ケータイを利用した 小学校 2 年生生活科食育のカリキュラム開発と評価

2010 年度

- キャリア教育の現状と課題
- 『小学六年生』におけるジェンダーの変遷
- 英国ウエストミンスター校におけるチャレンジ試験 ―管理と効率の競争試験―
- 学校週五日制の再検討
- 公害教育の制度化研究
- 校庭芝生化の現状について
- 国内外の教員養成制度と今学生が求めているもの
- 子どものドッジボール投動作上達のための指導法の検討
- 再構成型コンセプトマップを利用した 小学校 3 年「磁石」におけるリフレクション支援
- 識字の場における識字者と非識字者の相互変容 ―「声の文化」の視点から見た戦後日本の識字運動―
- 自己評価能力を育成する授業実践
- 障害児教育における造形表現活動の変遷 ―雑誌『月刊実践障害児教育』研究を中心として―
- 小学校学校図書館における公共図書館との連携のあり方 ～「人」のつながりに着目した実践事例分析から～

- コンセプトマップを利用した協調学習におけるメタ認知の促進 ―小学校 5 年生の「生命の誕生」における授業デザインの比較―
- 大阪市の放課後対策事業に関する研究
- キャリア教育としての職場体験学習の現状と課題
- ボランティア学習の意義と課題
- 明治期における子守と教育 ―子守学校を中心に―
- 防災教育の新たな視点 ―神戸市の実践を事例として―
- 小学校教師の教科に関する得意・苦手意識と授業づくり
- 学校教育における障害理解とその教育について ―障害の肯定的な理解と 障害児の当事者性を大切にした障害理解―
- 教育の再生産論からみた「宿題」の内容と課し方の問い直し ―公立小学校の実態に基づいて―
- 「21 世紀型学力」をめぐる「学力評価」の方向性 ―学力評価の役割の再検討を通して―
- 職場体験のもつ教育的可能性 ―受入先事業所へのインタビュー調査を通して―
- 聴覚障害児に対する音楽の授業の可能性 ―K 聴覚特別支援学校での音楽の授業の見学を通して―
- 自分の表現と出会うことのできるプロセスについて
- 算数教育における創造性に関する研究

- 小学校におけるアーギュメント・スキルの育成：野生動物との共生問題を扱った総合的な学習の授業デザインと分析
- 生活綴方教育の現代的意義―野名・田宮論争をもとに―
- 精神の平静・自己充足・快 ―電子テキストの活用によるエビクロスの再読―
- 戦争第一世代教師にみる教育観と学校づくりの視点の形成 ―斎藤喜博氏の仕事を手がかりに―
- 総合遊具にみられる児童の基本動作
- 大学入試の意味論
- 対話を基本とした美術鑑賞におけるナビゲーターの役割 ―子どもの発達段階を軸として―
- 病棟における保育と看護の協働について
- 分数概念の習得の困難さに関する考察 ―認知発達の観点からのアプローチ―
- 文法理解育成と コミュニケーション能力育成の両立を目指す英語教育
- 幼小連携 ―小学校教員の意識調査からわかる現状と課題―

さらに学びたい人は大学院へ（p.100, p.103）

主な進路

2009 年度

- イオンリテール ● 滋賀銀行 ● 大都技研 ● 大日本印刷 ● DTS ● トヨタ自動車 ● 日本赤十字社 大阪府赤十字血液センター
- 尼崎市職員 ● 加古川市職員 ● 大阪市教員（小学）● 大阪府教員（小学）● 岐阜県教員（小学）● 神戸市教員（小学）
- 富山県教員（小学）● 兵庫県教員（小学）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 京都教育大学大学院

2010 年度

- NTT データ関西 ● ベニック・ソリューション ● みずほ証券 ● 三菱 UFJ 信託銀行 ● 大阪市教員（小学）● 神戸市教員（小学）
- 神戸大学附属小学校教員 ● 奈良県教員（小学）● 兵庫県教員（小学）● 報徳学園教員 ● 横浜市教員（小学）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 神戸大学大学院国際協力学研究科 ● 東京大学大学院教育学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状
- 学芸員

2010 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 幼稚園教諭一種免許状



人間行動学科

Department of Human Behavior

学科長 平川和文 教授
(身体行動論コース)

キーワードは人間・発達・身体・行動・健康です

私たちは、機械文明の発展、高度情報化の進展により多くの豊かさを手に入れ、毎日物の不足を感じることなく豊かな生活を送っているのではないのでしょうか。しかし、その豊かさの享受の反面、私たちの周りには、こころとからだの発達や各ライフステージでの健康問題、生活・生きがい感の多様化への対応など、多くの課題も生じています。例えば、子どもの体力・運動能力の低下と二極化の問題、青年の薬物問題、中・高齢者の健康問題などがあります。これらは、人間行動のあり方・考え方が問われている問題です。人間行動学科では、このような現代的課題の解決にむけて、人間の行動と身体・発達・健康・生きがいとの関係について教育・研究します。人間行動学科には、次の3コースが設定されています。健康発達論コースでは、生物学・生命科学領域および心理社会的領域から、健康に関する広範な知識を習得し、生涯の各ステージにおける健康課題に対する解決能力を育成します。行動発達論コースは、人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理について教育・研究し、現実のさまざまな人間行動を多角的に解明・理解する能力と実践力を身につけることを目指します。身体行動論コースは、日常生活活動からレジャー、競技スポーツに至る幅広い身体行動について、運動をする・みる・支える・創造するという視点から、人文・社会・自然科学的手法により教育・研究します。

人間行動学科の履修コース

健康発達論コース

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学べるコース

健康発達論コースは、人間の健康に関わる諸問題を扱う「健康科学」について学習・研究するコースです。健康科学においては、ヒトの構造や機能といった生物学・生命科学に関する領域、自然環境や生活環境に関する領域、健康政策や健康教育などヒトの心理的側面や社会科学などに関する領域についての広範囲な知識を身につけ、自ら問題提起をし、これらの問題に対して科学的且つ論理的に徹底して追及する能力が求められます。このような健康に関する広範囲な知識、および問題解決能力を身に付けることにより、より高度な学問を追求する研究者、あるいは実社会における指導者として活躍できる人材の育成を目標としています。このため、学習の目標を人々の健康増進（ヘルスプロモーション）に置き、そのために必要な基礎的な知識（疾病予防、健康増進のメカニズム、人間の発達と健康、環境と健康とのかかわりなど）および現実に生活している人々に直接貢献する実践的な知識（健康教育と行動変容、健康政策など）の両面について医学、保健学、教育学、心理学等の専門スタッフより教育がなされています。本コースにおいては、文科系、理科系双方の領域に関して広く関心と興味を持ち、ヘルスプロモーションに関する具体的な課題を発見し、健康科学に基づいて基礎的・応用的・実践的な問題を解明するため、徹底的に、且つ多分野にわたる人々と協力して問題解決を図っていくとする意欲ある学生を待っています。

(詳細は p.31 へ)

行動発達論コース

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

年齢とともに人間の行動はいかに発達し、人間はどのように社会に適応していくのでしょうか。人間の行動の発達にはどのような個人的・社会的課題が存在し、どのようにすればそれらの課題を解決でき、人間行動の発達を促進できるのでしょうか。行動発達論コースでは、そうした疑問や関心に答えられるように、人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理を学び、現実のさまざまな人間行動を多角的に解明、理解する能力と実践力を身につけ、人類社会に貢献しうる学生の育成を目指しています。行動発達論コースでは、以下に示すような学際的・総合的な4つの学習目標を設定しています。1) 人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける。2) 人間の行動を発達論的観点と社会・文化的観点から分析的に理解する能力を身につける。3) 人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する。4) 人間の行動と環境との関係についての理解を深める。これらの学習目標を達成するために、このコースでは、応用生理学、環境生理学、身体運動科学、加齢体力学、社会学、社会心理学、行動適応学、実験心理学、ジェロントロジー、アクティブエイジング研究、スポーツプロモーションなど行動発達に関わる諸領域の理論と方法を学び、実践力を養います。現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生、そして人間行動に関わる未知の分野を積極的、自主的に開拓する意欲のある学生を待っています。

(詳細は p.35 へ)

身体行動論コース

人間の行動・スポーツを科学するチームです！

身体行動には日常生活を構成する基本的な運動から、気晴らしや健康のための軽い運動、スポーツのような人間が創造した身体文化に至るまで、実にさまざまな身体活動が含まれます。本コースでは、このような身体行動に関するさまざまな事象を自然科学・人文科学・社会科学的手法を用いて分析し、人間の発達および社会との関わりにおいて身体行動が果たす役割を究明すること、さらにはこれらの知見をスポーツ行動や生活の場に応用し、運動機能の向上を助け、よりよい身体行動の実践に貢献したいと考えています。代表的な授業科目としては、体育・スポーツ史、運動心理学、体力科学論、身体運動制御論、ストレス生理学、スポーツマネジメント論、などの講義があります。時には学外からの講師を招く制度、ゲストスピーカーを利用して、講義に変化をもたせています。また、実験科目としてもバイオメカニクス実験や、運動生理学実験が用意されていて、種々の測定機器を駆使して分析し統計的解析を行い、身体行動を科学しています。実習科目では水泳系運動方法論、野外運動方法論など、学生と教員やティーチングアシスタント学生が宿泊をともにして展開されます。3年次からはゼミ配属され、演習を中心に卒業研究に十分な時間を費やします。これは学部から大学院への研究発展を目指しており、国内外の文献を検索し、その文献を論議し、論理的な思考を育て、広く社会に役立つ人材を育てています。

(詳細は p.39 へ)

発達支援論コース

(詳細は p.81 へ)

発達支援論研究を2年次に修得した学生は、3年次より4学科横断の発達支援論コースに進むこともできます。

ESDサブコース

(詳細は p.84 へ)

ESD サブコースでは、履修コースに所属しながら「持続可能な社会づくりのための教育(ESD)」カリキュラムを受講できます。

人間行動学科の教育研究上の目的

人間行動学科は、各年代における健康課題の解決策，子どもから高齢者に至る人間の行動の発達及び適応を多面的に解明する能力，並びに日常生活活動から運動・スポーツにわたる身体活動に関する高度な知識と応用力を自然科学及び人文・社会科学の両面から総合的に育成するとともに，活動的な実践力とリーダーシップを有する人材を養成することを目的としています。

コースの定員

第2年次より各履修コースに所属することになりますが，各履修コースには次の定員が設定されています。履修コースの決定は，第1年次の後半に履修コース希望緒調査と成績により，受け入れ可能人数を超えない範囲でコース分けを行います。

- 健康発達論コース: 15名
- 身体行動論コース: 27名
- 行動発達論コース: 15名

学科共通科目

健康発達概論 学科共通の1年次健康基礎科目として位置し，授業は複数教員によるオムニバス形式。医学，教育学，保健学の各分野からの健康情報を講義する。	行動発達概論 人間行動の発達と適応に関する仕組みや原理を社会・心理・身体に関連から概説し，行動発達論コースの科目受講のための基礎的な知識を習得させる。	身体行動概論 人間行動学科身体行動論コースで学ぶ身体行動について自然科学・人文・社会科学から概説し，コース専門科目への導入とする。	社会調査法 不適切な調査を行ったり，公表された調査結果を誤って解釈してしまうことのないように正しい社会調査の方法を身につけることを目指す。
生涯スポーツ論 生涯スポーツの意義と考え方をライフサイクル論から学び，アクティブ・ライフスタイルを実践する知識とスキルを習得する。	人体構造機能論 人体の構造（解剖学）と機能（生理学）について基礎的な知識を習得し，健康や疾病に関する理解を深めることを目標とする講義形式の授業である。	健康管理論 健康をいかに理解するか。自発的健康管理の意味，重要性を考え，実現するための要件を探る時間とし，方法論などについても講義する。	身体機能加齢論 身体機能の加齢変化について概説し，加齢による身体機能の低下を抑制・向上させるための身体運動科学的戦略について論考する。
身体運動のしくみ ヒトの身体運動について「発現させるためのしくみ」と「持続させるためのしくみ」という2つの観点から，運動生理学の基礎を学ぶ。	からだの構造と運動 身体諸機能である各関節の機能を解説するとともに，靱帯や腱の付着位置と身体運動との関係，および人の動きを客観的に分析する方法などについて理解を深める。	身体文化論 世界中に遍在してきた身体にかかわる文化の意味を比較文化史の手法を援用しながら解説し，現在の身体文化のあり様に対する理解を深める。	健康教育論 健康教育について，小学校，中学校及び高等学校学習指導要領「保健」の目標，内容，指導計画と内容の取り扱いについて講義をする。
公衆衛生学 本授業では，病気の予防や健康増進に必要な生活習慣と健康の関わりや，地域社会の努力による予防行動に関する科学知識と術を学習する。	身体運動発達論 胎児期から二足歩行獲得までのヒトの発生と発育について概観するとともに，身体運動に関わる諸器官の基本的構造と機能及びその発育・発達について解説する。	人間行動特論 A 学外から講師を招聘し，人間行動に関する最新のトピックについて講義を行います。人間行動特論 A，B の2つの授業が隔年開講される。	人間行動特論 B 学外から講師を招聘し，人間行動に関する最新のトピックについて講義を行います。人間行動特論 A，B の2つの授業が隔年開講される。
発達支援論研究 ヒューマン・コミュニティ創成研究についての関心を得て，入門的な知識について学び，具体的な専門領域における支援の方法について考える。			

主な取得可能な資格免許

- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 学芸員
社会教育主事
- 社会福祉主事任用資格
環境再生医資格



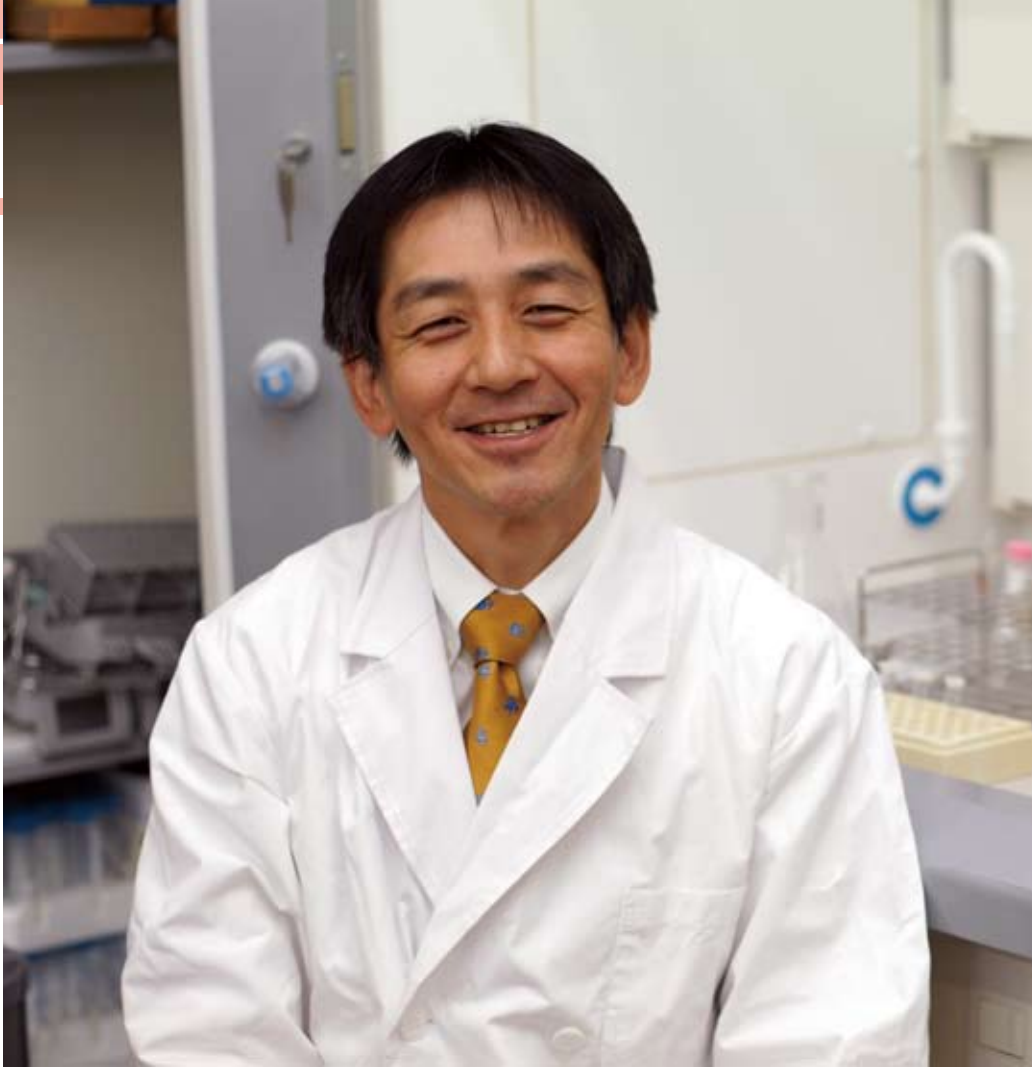
カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 健康発達概論 ● 行動発達概論 ● 身体行動概論 ● 社会調査法 ● 生涯スポーツ論 ● 人体構造機能論 ● 健康管理論 ● 身体機能加齢論 ● 身体運動のしくみ ● からだの構造と運動	● 身体文化論 ● 健康教育論 ● 公衆衛生学 ● 発達支援論研究	● 身体運動発達論 ● 人間行動特論 A・B	
コース専門科目		●ヘルスプロモーション論 ●安全行動・管理論 ●高齢者保健福祉論 ●救急医療概説 ●身体適応論 ●ストレス生理学 ●認知発達論 ●人間関係発達論 ●臨床心理学 ●カウンセリング ●子どもの発達支援 ●衣環境学 1 ●栄養学 ●生活環境共生論 1 ●生活環境心理学	●健康評価論 ●健康統計学 ●健康行動科学 ●予防医学概説 ●健康生態学 ●健康政策論 ●国際健康開発論 ●応用統計学 A ●健康発達研究法	●健康行動科学演習 1・2 ●健康評価論演習 1・2 ●健康生態学演習 1・2 ●健康政策論演習 1・2 ●ヘルスプロモーション 論演習 1・2
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

加藤佳子 准教授	川畑徹朗 教授	田中洋一 教授	辻本悟史 准教授	中村晴信 准教授
健康教育，健康心理学	健康教育， ヘルスプロモーション	健康科学，生態学	認知神経科学， 健康行動科学	公衆衛生学
生活科学と心理学の学際領域をベースとし，食行動など日常生活における健康に関連する人の行動について探究し，健康の増進をめざしています。	青少年が薬物乱用などの危険行動を避け，健康増進行動を主体的に選択できるようにするため，健康教育，ヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	足と靴の今と未来を考える。いい靴とはどういうものか。靴は足にとってイイモノなのか，ワルイモノなのか。そもそも必要なのか。足の未来像を考える。	「脳と心の健康な発達」をテーマに，心身の健康を如何に保ち増進させるかについて研究し，生活の質（QOL）の向上に資することを目指しています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について研究しています。フィールド調査で健康問題を発掘し，実験で証明するスタイルをとっています。



中村晴信 准教授（公衆衛生学）

立石由希子 さん（健康発達論コース 4 年生）



生活習慣と健康に関する

科学的知識と実践力を学ぶ

今日の日本は超高齢社会であり，日常の生活習慣が健康に大きく影響しています。しかし，生活習慣の一体どの部分がどのように影響するかについては，まだ未解明の部分がたくさん残されています。私のゼミでは，どのような生活習慣が疾病予防や健康増進と関連するのか，それはどのようなしくみになっているのかという問題に取り組んでいます。これまでに学生が取り組んだ主なテーマは，食事，アレルギー，メンタルヘルスと健康との関連性に関するテーマです。これらのテーマに取り組むうちに，メディアの関わりなど，研究から派生する要因にも踏み込んで研究を展開する例も見られます。これらの研究は，アンケートに代表されるフィールド調査や，実験室での実験による 2 つの証明方法を用いて行っています。ゼミの最終目標は卒業論文の完成ですが，科学的証拠に基づいた論文の完成を目指しています。せっかく大学に入るのでから，関心があることについて思い切り勉強してみませんか？

健康に関するあらゆる角度からの自由闊達な勉学環境

健康発達論コースは，「健康」が主な研究テーマです。ゼミでは人間生態学を専攻していますが，この学問では，人間の健康に関わるあらゆる事象（例えば，運動，ダイエット，食事，睡眠など）について学ぶことができます。健康という自分の身近で興味のあることを学べるので，とてもおもしろいです。大学生活では，勉学だけではなく部活動にも力を入れています。周りに，勉学と部活動やサークル活動を両立させている学生も多く，両立させて頑張れる環境も整っていると思います。学科・コースの友人はもちろん，学部を越えた部活動での仲間にも恵まれ，とても充実した大学生活を楽しんでいます。

健康発達論コース

人々の健康について基礎から実践まで一貫して学べるコース

主なコース専門科目

ヘルスプロモーション論 セルフエスティーム、意志決定スキル、ストレス対処スキルなどのライフスキルの形成に基礎を置く健康教育の理論と実際について学習する。	健康評価論 健康を維持・増進するためには、健康状態を正確に評価することが必要である。本授業では、健康を評価する指標や研究方法について学習する。	健康統計学 研究論文の読み書きや研究の実施に必要な統計学について、基本的な見方や扱い方を習得することを旨とし、特に基礎的な項目に重点を置いて講義する。	健康行動科学 健康の維持・増進、生活の質（QOL）の向上に対する脳科学や心理学からのアプローチを、主に子どもの発達に焦点を当てながら紹介する。
安全行動・管理論 『安全』は人任せでは成り立たない。この授業は、現代人の日常の行動様式を探り、安全管理のポイントの構想、構築を検討する授業である。	高齢者保健福祉論 高齢者に関わる『福祉』とはなにかを考え、身体的な福祉論、施設・政策的な福祉論など、様々な角度から高齢者への福祉を考える。	予防医学概説 疫学の基礎知識を身につけ、生活習慣病や感染症等の予防戦略を学ぶことにより予防医学戦略の理論を習得する。	救急医療概説 人体の構造と働きの概要、および創傷と外傷、スポーツ外傷・障害、事故・急病・中毒の病態と救急蘇生法、救急処置について学ぶ。
健康生態学 生態学的観点から現代社会の健康に関わる問題点を探る。問題解決のための効果的方策の構築。方策実施条件の検討、などについて講義する。	健康政策論 我が国の様々な健康政策について、基礎的かつ広範な知識を習得するとともに、政策の課題や策定法などを踏まえて、健康政策の現状と展望を概観する。	国際健康開発論 グローバルに通用する健康開発教育、健康教育に対するアプローチ、および健康を享受するための社会開発を促す対策・援助について学ぶ。	身体適応論 物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から概説し、適応のしくみを理解する。
ストレス生理学 ストレス状態における身体の生理学的な反応とその評価および日常的な身体行動によるストレス緩和方法の生理学的機序について講義する。	認知発達論 言語的思考の発達を中心に、人間がどのように自覚的で随意的な内面（人格）を築いていくのかを、エリ・エス・ヴィゴツキーの理論に基づいて論じている。	人間関係発達論 生涯発達の各期における人間関係の様相を中心テーマに、人間関係を通しての学びと、人間関係が人にもたらす影響などについて学ぶ。	臨床心理学 心理臨床に関わる主要な理論について学ぶとともに、実際の心理療法に必要な検査法やカウンセリングなどの治療法について学習する。合わせて人間の心や人格についての理解を深める。
カウンセリング 幼小中高大の教育現場における教育相談カウンセリングの理論と実際について、具体的な例を交えながらわかりやすく解説する。	子どもの発達支援 子どもの発達を支援する児童厚生施設のひとつである児童館での体験学習に基づき、地域における子どもの健全育成を考える。	衣環境学 1 持ち運びできる環境である衣服の着心地を科学的に捉える方法について解説する。また衣生活が環境に及ぼす影響に関して後述する。	栄養学 栄養と健康に関する基礎的事項を幅広く取り上げ、日常の食生活と人々の健康との深い関わりを認識する。現実の食生活を評価できる力を身につける。
生活環境心理学 生活環境が人間に及ぼす影響、快適な生活空間のあり方という視点から心理学的に展開する。心理的アメニティ、空間認知行動をモチーフとする。	応用統計学 A 多変量データの変数間の関係を統計的に推定する方法（最小2乗法）や仮説検定する方法（分散分析）など、回帰分析の基本的な考え方と応用を講義する。	健康行動科学演習 1 心の健康の背景にあるメカニズムや、心の健康の維持・増進などに関して、演習形式の授業を行い、問題設定や研究法の習得を目指す。	健康評価論演習 1 健康増進・疾病予防に関わるテーマを設定し、研究および口頭発表を行う。
健康生態学演習 1 現代における健康課題を生態学的な立場でとらえ、その問題点、解決方法などについて考察してゆく。	健康政策論演習 1 健康政策に関する論文の収集方法や読み方を習得し、健康政策の課題や政策の策定手法などの研究へと応用してゆくことを目指す。	ヘルスプロモーション論演習 1 健康教育、ヘルスプロモーションに関する基礎的文献を講読し、卒業研究を遂行するのに必要な基礎的知識の習得を目指す。	健康行動科学演習 2 データのまとめ方やプレゼンテーションスキルの向上に重点を置き、研究を遂行するためのスキルを、演習を通して身につけていく。
健康評価論演習 2 「健康評価論演習 1」に引き続き、健康増進・疾病予防に関わるテーマを設定し、研究および口頭発表を行う。	健康生態学演習 2 「健康生態学演習 1」に続き、現代における健康課題を生態学的な立場でとらえ、その問題点、解決方法などについてさらに考察を深めてゆく。	健康政策論演習 2 健康政策の課題や政策の策定手法などについて、「健康政策論演習 1」で習得した基礎知識や手法を踏まえたうえで、より発展的な議論を展開する。	ヘルスプロモーション論演習 2 「ヘルスプロモーション論演習 1」によって身に付けた基礎的知識をもとに、教員の指導を受けながら卒業研究に取り組む。
健康発達研究法 脳と心に関する幅広い研究分野において、実験や調査が実際にどのようなアイデア、手法で行われているのか、文献を用いて概説する。			

卒業研究テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度	● 学校環境の衛生学的評価に関する研究 —水筒の洗浄方法の検討— ● 学校環境の衛生学的評価に関する研究 —高気密性繊維状防ダニ布団の有用性に関する研究— IV ● 健康寿命に関する文献的研究 ● 歯の健康に関する文献的研究 ～ 8020 運動を中心に～ ● 幼児期の親子関係が 青年期に及ぼす精神的影響に関する文献的研究	● 過食症予防のための健康教育 —セルフエスティームと過食症との関連性からの検討— ● 思春期女子の身体活動を促進する方略についての研究 —トランスセオレティカル・モデルの適用可能性の検討— ● 日本人大学生におけるうつ病や抑うつに関する研究 —青年期に高まる抑うつ関連要因に着目して—
2010 年度	● 一般流動性知能と性格特性の相関について ● 顔の再認記憶における社会情報が及ぼす影響に関する研究 ● 健康増進に関わる防衛体力と それに対する運動効果に関する文献研究 ● 健康への運動効果に関する文献的研究 ● 高機能自閉症における一般流動性知能について ● 心の健康についての文献的研究 ～宗教的視点を中心に～ ● 社会的スキルを介した愛着と不登校問題の関係	● 若年女性におけるアレルギー疾患と食習慣 および体組成・免疫獲得機会・ストレスとの関連について ● 小学生における空間性ワーキングメモリの発達に関する研究 ● 摂食障害発症の関連要因に関する文献学的検討 ● 糖尿病患者における履物選択意識およびその行動 ● 美容から見た健康に関する文献的検討（化粧と健康との関係） ● ワーク・ライフ・バランスと健康に関する文献的研究

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.97）

2009 年度	● 池田銀行 ● 花王 ● システムズ・デザイン ● 東洋水産 ● 和歌山県教員（小学）
2010 年度	● SBS メディアビジョン ● エフアンドエム ● キャノン ● 興和 ● パソナ ● 三菱商事マシナリ ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 京都府立医科大学大学院保健看護研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 小学校教諭一種免許状	2010 年度	● 小学校教諭一種免許状 ● 中学校教諭一種免許状（保健体育） ● 高等学校教諭一種免許状（保健体育） ● 幼稚園教諭一種免許状
---------	-------------------------	---------	--



行動発達論コース

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 健康発達概論 ● 行動発達概論 ● 身体行動概論 ● 社会調査法 ● 生涯スポーツ論 ● 人体構造機能論 ● 健康管理論 ● 身体機能加齢論 ● 身体運動のしくみ ● からだの構造と運動	● 身体文化論 ● 健康教育論 ● 公衆衛生学 ● 発達支援論研究	● 身体運動発達論 ● 人間行動特論 A・B	
コース専門科目		● 行動発達研究法 ● エイジング研究 ● 行動適応論 ● 運動処方論 ● ストレス生理学 ● ヘルスプロモーション論 ● 身体適応論 ● スポーツプロモーション論 ● 運動心理学 ● 身体運動制御論 ● 栄養学 ● 乳幼児発達論 ● 臨床心理学	● 予防医学概説 ● 社会行動論演習 1・2 ● 身体機能加齢論演習 1・2 ● 身体適応論演習 1・2 ● アクティブエイジング研究演習1・2 ● 行動適応論演習 1・2 ● 健康行動科学 ● バイオメカニクス実験 ● 健康政策論	● 行動発達演習 1・2
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。



岡田修一 教授（加齢の身体運動科学）

中田久美子 さん（行動発達論コース 4 年生）

転倒予防のストラテジーと「七転び八起き」

の大切さを学ぶ

身体機能は、様々な発達（加齢を含む）ステージにおける人間の行動を規定する要因のひとつです。加齢に伴って身体機能は低下しますが、なかでも立位バランス能力の低下は他の能力に比べ大きいことが明らかになっています。日本の高齢者が抱える大きな健康問題となっている、老化期の転倒者の増加は立位バランス能力の低下が一因です。

直立二足歩行をとるヒトでは、転倒せずに生活を送るのはとても難しいことですが、少しの努力と知恵によって、転倒を予防することは可能です。私のゼミでは、身体運動科学的手法を用いて、転倒予防を視野に入れた高齢者の生活・運動機能の解析とその能力向上に関する研究や、人間の行動に関わる今日的課題の解決に向けた研究を行っています。ゼミ活動や学内外での実験や測定を通して、超高齢社会における人間の行動に関する身体運動科学的方策について考究するとともに、「七転び八起き」の重要性を学んでほしいと願っています。

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡田修一 教授	小田利勝 教授	近藤徳彦 教授	長ヶ原誠 准教授	増本康平 准教授
加齢の身体運動科学	社会学, ジェロントロジー (老年学), 地域研究	応用生理学, 運動生理学, 環境生理学	スポーツプロモーション, 健康行動科学, ジェロントロジー	高齢者心理学, 実験心理学, 認知心理学
高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価, 及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。	人間は、なぜ、そうした行動をするのか, しないのか。様々な場面における人間行動の不思議を社会調査と行動科学の理論に基づいて解明します。	物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を, 生理学的観点から検討し, ヒトのからだの不思議にせまります。	成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツ振興をテーマとして, 健康的かつ活動的に年齢を重ねていくための支援方法を探究しています。	ひとの記憶・注意・感情・思考といった認知機能の仕組みや, 加齢によるそれら認知機能の変化について実験心理学的手法を用いて研究しています。

人間行動を通して

発達・適応を科学する。

素敵な仲間と共に！

行動発達論コースで、人間行動の発達・適応を様々な角度から研究しています。その中で私はスポーツプロモーションを専攻しています。所属するゼミでは、スポーツの振興方法を科学する研究の一環としてスポーツイベントの企画・運営を行っています。このコースの最大の魅力は「素敵な人」がたくさんいる事です。卒業研究発表会などの場面ではきちんと意見を述べ合い、発表会を良いものにしようと協力しあっています。またコース研修では、みんなで鍋を食ベスポーツをして、仲良く遊ぶこともあります。公私ともに家族のように仲が良く、いつも元気をもらえました。先生方も親のように私たちに様々な事を教えてくれます。将来の事を考え進むべき道に対するアドバイスをしてくださり、生徒に真剣に向き合ってくれる先生ばかりです。このコースで自分の興味のある勉強ができること、私を支えてくれる仲間がたくさんいることに本当に感謝しています。



行動発達論コース

加齢にともなう人間の行動の「発達」と「適応」を学際的に探求

主なコース専門科目

行動発達研究法 人間行動と行動発達を研究する方法について，社会科学的方法と自然科学的方法の両方法を複数の教員が分担して実験・実習によって身につける。	エイジング研究 超高齢社会のまっただ中に生きることになる学生諸君に関わるエイジングの問題をジェロントロジーと呼ばれる学際的研究の成果に触れながら学ぶ。	行動適応論 認知・行動・感情といった心理機能の仕組みについて学ぶとともに，これらの機能が加齢とともにどのように変化するのかを理解する。	運動処方論 近年の体力・健康問題について，どのように運動を行えば「安全」でかつ「効果」的か，体力測定方法と運動プログラム作成について学ぶ。
ストレス生理学 ストレス状態における身体の生理学的な反応とその評価および日常的な身体行動によるストレス緩和方法の生理学的機序について講義する。	ヘルスプロモーション論 健康教育／ヘルスプロモーションに関する基礎的文献を講読し，卒業研究を遂行するのに必要な基礎的知識の習得を目指す。	予防医学概説 疫学の基礎知識を身につけ，生活習慣病や感染症等の予防戦略を学ぶことにより予防医学戦略の理論を習得する。	身体適応論 物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を，生理学的観点から概説し，適応のしくみを理解する。
スポーツプロモーション論 国内外のスポーツ振興に関する現状や取組みに関する知識を深め，人々のスポーツ活動を支援するための方法論とスポーツ文化の振興について探求する。	運動心理学 身体活動，運動，競技スポーツ，体育，野外活動など，我々の身体行動には心の関与が欠かせません。様々な運動・スポーツの場で生起する心理について概説する。	身体運動制御論 現段階で解明されている運動制御メカニズムについて講述するとともに，巧みな動作を獲得するために何が重要であるのかを考察する。	栄養学 栄養と健康に関する基礎的事項を幅広く取り上げ，日常の食生活と人々の健康との深い関わりを認識する。現実の食生活を評価できる力を身につける。
乳幼児発達論 乳幼児の姿を具体的にイメージして，子どもを「発達的に理解する」こととはどういうことかを考えて，保育実践をすすめていくための幼児理解を深める。	臨床心理学 心理臨床に関わる主要な理論について学ぶとともに，実際の心理療法に必要な検査法やカウンセリングなどの治療技法について学習する。合わせて人間の心や人格についての理解を深める。	社会行動論演習 1 「人間の社会行動を探る」を基本テーマに種々のサブ・テーマを設定し，課題を明確にして社会調査によってデータを収集する準備を行う。	身体機能加齢論演習 1 加齢に伴う身体機能の変化とその機能向上に関する国内外の文献を調べ，老化期における身体機能の向上に向けた身体運動科学的方策について考究する。
身体適応論演習 1 ヒトの呼吸・循環・体温調節機構の基礎的な文献を議論し，この分野の研究内容についての理解を深め，実験方法やデータ処理法についての演習を行う。	アクティブエイジング研究演習 1 成人・中高齢者を対象とした健康的かつ活動的なライフスタイルをテーマに，研究を実施するための基礎的な行動科学的手法を習得する。	行動適応論演習 1 人間の行動の適応に関するメカニズムや諸現象を探求し，科学的なアプローチを用いて分析を行うための基礎的な手法や方法論を習得する。	健康行動科学 健康の維持・増進，生活の質（QOL）の向上に対する脳科学や心理学からのアプローチを，主に子どもの発達に焦点を当てながら紹介する。
社会行動論演習 2 社会行動論演習 1 で学んだ成果を基に社会調査を行い，社会行動研究法で身につけた分析方法を駆使してデータを分析し，報告書を作成する。	身体機能加齢論演習 2 卒業研究に関連する文献を読み，それらの文献にみられる仮説や研究方法をまとめ，卒業研究の課題設定，研究計画について論議する。	身体適応論演習 2 身体適応論 1 で習得した呼吸・循環・体温調節機構の実験方法やデータ処理法をもとに，予備実験を行い，卒業研究の計画を作成する。	アクティブエイジング研究演習 2 成人・中高齢者を対象とした健康的かつ活動的なライフスタイルを研究テーマとして，研究成果の応用を前提とした科学的データの収集方法と分析方法について学ぶ。
行動適応論演習 2 人間の行動の適応を研究テーマとした様々な実験心理学的手法を総合的に学習すると共に，得られた研究成果のまとめ方と応用方法を学ぶ。	バイオメカニクス実験 身体運動のメカニズムについて実験を通して確認し理解する。また，バイオメカニクス研究に必要な測定機器の使用法を習得する。	健康政策論 我が国の様々な健康政策について，基礎的かつ広範な知識を習得するとともに，政策の課題や策定法などを踏まえて，健康政策の現状と展望を概観する。	行動発達演習 1 人間の行動について発達・加齢・適応の観点から探求し，科学的な手法を用いて研究活動を行うための基礎的な知識を習得する。
行動発達演習 2 人間の行動の発達・加齢・適応を探求するための研究プロジェクトを実践し，科学的手法に関する知識とその応用方法について学習する。			

卒業研究テーマ

2009 年度	● 大学を 3 年制にすることによる社会への影響 ● エコスタイルと消費行動 ● PTA の構造と機能に関する研究 ～ PTA 役員を対象とする調査に基づいて～ ● 公営ギャンブルとパチンコから見た日本のギャンブル ● 貧困問題の支援活動に取り組む人たちの苦悩と挑戦 ～大阪・釜ヶ崎から社会に向けて～ ● ボランティアにおいて重要となるスピリチュアリティについて ● ネットがもたらすつながり ～ mixi を介した若者の人間関係～ ● 早朝トレーニングが末梢性発汗反応の日内変動に及ぼす影響 ● 中高齢者の感覚年齢に影響を及ぼす要因とその影響度分析	● 中高年者夫婦における旅行意欲の関連要因に関する研究 ● 大学硬式野球部におけるマネージャーの役割意識に関する研究 ～男女マネージャーと選手への調査から～ ● アメリカンフットボールのヘルメット着脱が間欠運動時における生体反応へ及ぼす影響 ● 静的運動時における手掌中央部と指末端部の汗腺活動特性 ● 階段降下から安静な直立状態に至るまでの高齢者の姿勢制御に関する研究 ● 筋発揮張力維持スロー法がスポーツ選手の筋パフォーマンスに及ぼす影響
2010 年度	● 生け花が中高齢者に及ぼす心理・社会的効果に関する研究 ● 家族の死の受容に関する研究 ～ ネットがもたらすものとは～ ● 高齢者の就活に関する研究 ● 高齢者の投票参加に影響を及ぼす要因分析 ● 滋賀県民にみる国民幸福度の要因とは — 滋賀県民のスピリチュアリティに着目して— ● 自助グループにおける摂食障害者の新たな自己概念の獲得 ～ 「逃げ」 という前進～ ● ジョガーのランニングウェア選好に関する研究 ● 人智学に基づく学習サークルがもたらすスピリチュアリティとソーシャル・キャピタルに関する研究 — レインボーサークルを事例にして— ● 大学生のハンドボール継続に関する研究	● 暖色・寒色が温度環境の違いによる自律神経活動に及ぼす影響 ● 段鼻の色および動作局面が 高齢者の階段降下時の下肢筋活動に与える影響 ● 中高齢者の「婚活」プロセス — 結婚相談所に見る中高齢者の結婚活動の実態— ● 聴覚障害者の国外旅行の実態 (国外旅行経験に影響を及ぼす要因の分析) ● 募金を巡る社会行動論的研究 ● 歩数の違いが 高齢者の運動機能・認知機能および主観的健康度に及ぼす影響 ● 幼児の体温と身体活動性および環境要因との関連 ● ラベンダーとグレープフルーツの香りが 高温下での自律神経活動に及ぼす影響

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.112）

2009 年度	● NHK ● オムロン ● ガイナックス ● 高知信用金庫 ● しまむら ● 住友商事 ● デサント ● 長瀬産業 ● 西宮市消防局 ● 阪急交通社 ● 阪神電気鉄道 ● ミキハウス ● 三菱商事 ● 兵庫県警察本部 ● 大阪府教員（高校）
2010 年度	● 京都大原記念病院グループ ● コベルコシステム ● ソニー ● 西松屋チェーン ● 日本生命保険相互会社 ● 阪神電気鉄道 ● 平和堂 ● みなと銀行 ● ユニクロ ● 東京都職員 ● 大阪大学大学院人間科学研究科 ● 日本女子大学家政学部（編入）

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 中学校教諭一種免許状（数学） ● 中学校教諭一種免許状（美術） ● 高等学校教諭一種免許状（数学） ● 高等学校教諭一種免許状（美術）	2010 年度	● 学芸員
---------	--	---------	---



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 健康発達概論 ● 行動発達概論 ● 身体行動概論 ● 社会調査法 ● 生涯スポーツ論 ● 人体構造機能論 ● 健康管理論 ● 身体機能加齢論 ● 身体運動のしくみ ● からだの構造と運動	● 身体文化論 ● 健康教育論 ● 公衆衛生学 ● 発達支援論研究	● 身体運動発達論 ● 人間行動特論 A・B	
コース専門科目	 	● 体育・スポーツ史 ● スポーツ社会学 ● スポーツプロモーション論 ● 運動心理学 ● 身体運動技術論 ● 運動処方論 ● 体力科学論 ● 身体適応論 ● 身体運動制御論 ● ストレス生理学 ● 運動障害論 ● 陸上運動方法論 ● 水泳系運動方法論 ● 野外運動方法論	● スポーツマネジメント論 ● 子どものからだづくり ● 健康行動科学 ● 運動生理学実験 ● バイオメカニクス実験 ● 球技運動方法論 ● 武道系運動方法論 ● 舞踊運動方法論 ● 体育・スポーツ史研究法 ● スポーツ社会学研究法 ● 運動心理学研究法 ● 体育・スポーツ史演習 ● スポーツ社会学演習 ● 運動心理学演習 ● 身体運動技術論演習 ● 身体運動制御論演習 ● 運動処方論演習 ● 体力科学論演習 ● 運動障害論演習 ● ストレス生理学演習	● 体操運動方法論
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

秋元忍 准教授	河辺章子 教授	高田義弘 准教授	高見和至 准教授	武井義明 教授
体育・スポーツ史	運動生理学（身体運動制御）	運動生理学 （身体コンディショニング）	運動心理学	運動生理学 （健康運動生理学）
スポーツの未来を展望するには、その過去と現在に関する深い認識が不可欠です。身体・スポーツ文化の過去を新しい視点から解明します。	ヒトの運動の発現のしくみから動きの巧みさを考えるとともに、どのようにして巧みな動作を身につけることができるかを探究しています。	野球投手の障害予防や競技力向上のためにはどのようなトレーニングを行えばいいのかを、疲労とパフォーマンスの変化から研究します。	運動やスポーツは「時間とエネルギーの消費」とも言えます。では何故、人は夢中になり、何をを得ているのでしょうか。この人間の心理に潜む「何故」を探求しています。	運動などの刺激による身体ストレス状態を生理学的に定量評価する研究および日常的な身体行動によるストレス状態の軽減に関する研究をしています。
平川和文 教授	前田正登 教授	柳田泰義 教授	山口泰雄 教授	
運動生理学（運動処方論、体力・トレーニング科学）	スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学	スポーツ医学、特にスポーツ時における軽度頭部外傷	スポーツ社会学、生涯スポーツ論	
「子どもの体力・運動能力」、「スポーツの競技力向上」、「高齢者の運動と健康」について、運動処方の観点から研究しています。	身体運動やスポーツのバイオメカニクスとして人間（選手）の動作・技術を解析します。またそれらの運動技術の習得過程に関する研究を行います。	スポーツや身体運動、学校体育の場で発生する外傷（障害）について、その実態を調査し、発生原因を明確化したうえで実験方法を駆使して予防策を検討します。	スポーツの多様な社会的側面に焦点を当て、スポーツとまちづくり、スポーツ・ツーリズム、ボランティア、スポーツ政策などを研究しています。	



武井義明 教授（運動生理学）

三船真奈 さん（身体行動論コース 4 年生）



ストレスを把握し、
身体行動による
ストレスの軽減をめざす

ストレスとは生物学的には外的刺激によって生体に生じた歪みの状態を意味しています。このストレスには生体的に有益であるストレスと、不利益であるストレスの2種類があります。有益なストレスが適度な量だけ存在しなければ本来的に有する適応性が失われてしまいますが、過剰なストレスになると逆にバランスが失われてしまいます。健康なヒトでは安静時に心臓の拍動リズムにはゆらぎがありますが、過剰なストレスがかかるとそのゆらぎは減少します。ゼミでは身体に生じたストレス状態を、心臓の拍動リズムに認められるゆらぎを生体信号処理することによって生理学的に定量評価し、軽運動や呼吸法などの日常的な身体行動を用いたストレス緩和方法の検討を行っています。このように、ゼミでは生理学などの知識の習得とともに、パソコンを用いた実験データの処理についても学習・研究することになります。

スポーツ実習を通して築かれる
仲間との絆

身体コースには泊まりがけの実習がいくつかあります。その中でも特に六甲山縦走は一生の思い出です。六甲山を西端の神戸市須磨から東端の宝塚まで2日間かけて縦走します。この実習の課題は全員で完走することです。登山が始まると様々な困難が私たちを待っていました。後部隊が道を間違えて途中ではぐれてしまったり、体力のない女子が遅れを取ったりしました。体力的に厳しく本当はみんな他人を助ける余裕はなかったはずですが、それでも伝言を伝えに先頭から最後尾まで走ってくれる人、代わりに荷物を持ってくれる人、休憩中に歌ってみんなを盛り上げてくれる人、それぞれがお互いを助け合った結果、全員で完走することができました。この達成感には本当に一生の宝です。実習のたび絆を深め合うことができ、今では家族のようです。そして良きライバルとしてもお互いに切磋琢磨しています。

身体行動論コース

人間の行動・スポーツを科学するチームです！

主なコース専門科目

体育・スポーツ史
近代体育・スポーツの歩みを学ぶことにより、その現状を批判的に検討する視点と、スポーツ文化の主体的な継承のための構想力を得ることを目指す。

運動心理学
運動、競技スポーツ、体育、野外活動など、我々の身体行動には心の関与が欠かせない。様々な運動・スポーツの場で生起する心理について概説する。

身体適応論
物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から概説し、適応のしくみを理解する。

運動障害論
運動の実践では外傷や障害はつきものである。ケガは性別や年齢によっても異なる。運動時のケガや予防について広く学ぶ。

陸上運動方法論
陸上運動（走る、跳ぶおよび投げる）のパフォーマンスに影響する要因を探りながら各運動種目を実習し、陸上運動の特性を理解する。

舞踊運動方法論
舞踊を創る・踊る・観るという体験を通して、自分自身の身体に気づき、舞踊の理解を深めることを目的とする。またその指導法についても学習する。

スポーツ社会学研究法
スポーツ社会学の理論と基礎的研究法を実践的に学ぶ。研究論文の読み方、社会調査の基礎および調査データの処理法を実習する。

運動心理学演習
卒業研究に必要な研究論文の講読、データ収集や分析、自分の意見や研究内容を効果的に伝えるプレゼンテーションの能力をトレーニングする。

体力科学論演習
体力を科学的に分析するための基礎手法を学び、卒業研究に関わるデータの分析を行う。また関連文献の批判的検討を通して、卒業研究計画を立案する。

スポーツ社会学
現代社会におけるスポーツの系譜を社会学の視点から理論的かつ実践的に学び、スポーツのもつ多様で複合的な側面を分析する。

身体運動技術論
各系列で展開される運動方法論実習を技術的属性から捉え直し、技術要素、技術構造を明確にし、運動方法学の基礎理論を講義する。

身体運動制御論
現段階で解明されている運動制御メカニズムについて講述するとともに、巧みな動作を獲得するために何が重要であるのかを考察する。

健康行動科学
子どもから高齢者までのそれぞれの世代の人々が抱える健康に関する多岐にわたる問題を、さまざまな学問領域から総括的に捉える。

水泳系運動方法論
泳力向上・水泳指導法の習得、各種海洋スポーツの基礎技術の習得および AED 使用方法・心肺蘇生法を含む野外活動における安全管理について学ぶ。

体操運動方法論
徒手、手具、器械器具による各種体操運動を実習します。また実際の身体活動を通して「わかる」「出来る」に至る運動習熟の過程を体験学習する。

運動心理学研究法
本領域における自分の疑問点をリサーチクエスチョンに発展させ、実証的な問題解決に繋げていく研究方法を基礎から学ぶ。

身体運動技術論演習
用具を使うスポーツにおいて、人間の動作と用具を一つの系として考え、それらを解析し、人間の動作と用具の相互間の影響を検討する。

運動障害論演習
運動障害に関するテーマについて調査や実験を行い、研究成果をまとめる。

スポーツマネジメント論
スポーツマネジメントのハード面、ソフト面、ヒューマン面、情報面各分野の機能と運営方法について考察し、その現況と問題点、今後の課題を解明する。

運動処方論
近年の体力・健康問題について、どのように運動を行えば「安全」でかつ「効果」的か、体力測定方法と運動プログラム作成について学ぶ。

子どものからだづくり
子どもの身体発育の機序を明らかにし、運動や遊びを含む生活習慣ならびに生活環境との相互作用より子どものからだづくりについて論考する。

運動生理学実験
運動時の身体の適応と機能の向上について、筋機能・呼吸循環機能および体力面から実験を通して学ぶ。

球技運動方法論
バスケットボールの基礎的技能と集団的技能を実習します。個人技能向上からチーム別学習へと移行し、勝ちを目指すための戦術や戦略を検討する。

野外運動方法論
自然環境の中で展開されるアウトドアスポーツの醍醐味と安全かつ組織的な運営方法について、六甲山縦走と雪上スポーツの実習から学ぶ。

体育・スポーツ史演習
研究法で学んだ方法論をもとに、最終テーマの設定、研究計画書の作成等の作業を通して各自の関心を卒業研究の中間発表へと具体化していく。

身体運動制御論演習
身体運動の仕組みに関する研究を進めていく上で基礎となる手法（実験課題の設定・先行研究の収集とレビュー・実験装置の作成からデータ収集・解析まで）を学ぶ。

ストレス生理学演習
ストレス状態における身体の生理学的な反応とその評価および日常的な身体行動によるストレス緩和方法関する文献の講読と実験を行う。

スポーツプロモーション論
国内外のスポーツ振興に関する現状や取組みに関する知識を深め、人々のスポーツ活動を支援するための方法論とスポーツ文化の振興について探求する。

体力科学論
生活習慣病予防や健康増進からスポーツパフォーマンス向上まで、年代や目的にあった科学的なトレーニング法や運動について解説する。

ストレス生理学
ストレス状態における身体の生理学的な反応とその評価および日常的な身体行動によるストレス緩和方法の生理学的機序について講義する。

バイオメカニクス実験
身体運動のメカニズムについて実験を通して確認し理解する。また、バイオメカニクス研究に必要な測定機器の使用方法を習得する。

武道系運動方法論
柔道は日本の伝統文化としての特性をもち、その技術は投技、抑技、締技、関節技、当身技から構成される。その文化的特性や技術について理解し修得する。

体育・スポーツ史研究法
体育・スポーツ史の研究方法論を、自分史の執筆、仮テーマの設定、先行研究の検討、史料の所在調査、史料批判等の具体的な作業を通して学ぶ。

スポーツ社会学演習
卒業研究のテーマについて具体的に検討し、先行論文を講読する。また卒業研究のための方法論に関する文献を講読し、研究の課題と方法を明らかにする。

運動処方論演習
健康・体力・トレーニングに関わるテーマについて論議し、その課題に対して調査・実験を行い、その結果について見方・考え方をプレゼンテーションを通して学ぶ。



卒業研究テーマ

2009 年度

- 日本語「からだことば」の理解度に関する海外調査 ―オーストラリア人大学生はどのように解釈するか―
- 大学野球選手における打撃スランプの原因と脱出方法
- 大学入学時における競技種目選択の決定要因 ―競技人口の大小による種目間での比較―
- 大学運動部において、選手兼監督を務める主将が抱く心理的葛藤
- スプリントにおける腕振りの役割に関する研究
- 陸上競技 400m 走における疾走動作に関する研究
- 投球における初速度と正確さの関係
- サッカーインフロントキックの正確性に関する研究 ―ボールの軌道に着目して―
- 球技スポーツにおける“かわず”動作のテクニック
- 鼠径部痛症候群予防のためのクロスモーショントレーニング効果の検討
- サッカーのゴールキーパーに適したウォーミングアップ方法の検討
- ジャンプ着地動作の違いによる接地傾向と筋電図の検討 ―足関節内反捻挫に着目して―

2010 年度

- 1 分間の高強度激運動による疲労指標に関する研究 ―3 時間の休息期をはさむ運動の反復からの検討―
- Jリーグクラブにおけるボランティアマネジメントに関する研究 ―関西に拠点を置くクラブに着目して―
- 足関節捻挫経験者における足関節機能特性評価とパフォーマンス向上を目的とした装具との関連性 ―女子運動選手を対象として―
- ウォーキングイベントの初参加者とリピーターの比較分析 ―第 21 回名護・やんばるツーデーマーチ 2008 ―
- 運動後低血圧を引き起こす運動強度の下限の検討
- 運動後のクーリングダウンにおける PNF ストレッチが筋疲労回復に及ぼす効果
- 競技種目の違いからみた立ち幅跳びの最適跳躍角度に関する研究
- 競技スポーツにおける指導者の言葉かけに関する研究 ―選手の印象に残る言葉とその影響の探索―
- 筋出力量の記憶保持に関する研究 ―保持時間と発揮筋力の大きさに着目して―
- 繰り返し全力ペダリング運動がスピーチ課題前後における生理学のおよび心理的ストレス尺度に及ぼす影響
- 異なる種目における走方向変更動作の比較研究
- 主観的努力度と疾走動作の関連性に関する研究 ―パフォーマンスレベルに着目して―
- スポーツ観戦者におけるウェブサイト利用が観戦意図に及ぼす影響に関する研究 ―bj リーグのケーススタディ―
- スポーツ経験がスポーツ参与に与える影響 ―「みるスポーツ」と「するスポーツ」の 2 つの観点から―

主な進路

2009 年度

- アシックス ● アルペン ● 伊藤忠商事 ● エア・ウォーター ● 大阪 YMCA ● 大阪ガス ● 岡三証券 ● 花王 ● 関西電力 ● クレスコ ● 住友金属工業 ● 高島屋 ● ティーツー ● 電通 ● 広島銀行 ● 三井住友銀行 ● 楽天 ● 神戸市教員（小学）● 福井県教員（高校）● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 大阪教育大学大学院教育学研究科

2010 年度

- アクセンチュア ● 朝日新聞社 ● 大分県信用保証協会 ● 関西電力 ● さくらケーシーエス ● TIS ● 日本テレビ放送網 ● 福井新聞社 ● 富士フイルム ● 三井住友銀行 ● モンベル ● リクルート ● 兵庫県職員 ● 農林水産省 ● 大阪府教員（高校）● 兵庫県教員（高校）● 門真市教員（小学）● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 神戸東洋医療学院

主な資格免許の取得状況

2009 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）

2010 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（保健体育）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

- 動作前の発声が反応動作に及ぼす影響
- 膝関節角度の再現性に関する研究 ―課題運動の揭示方法に着目して―
- 日本における 11 人制ハンドボールから 7 人制ハンドボールへの移行過程
- 都市公園内野球場の設立に関する一考察 ―兵庫県立明石公園第一野球場の場合―
- 野球の打撃におけるインパクト比と体力要素の関係
- ローイング動作における関節可動域と発揮パワーの関係
- 住民参加型スポーツイベントにおける参加者の運動ステージ別にみたスポーツ志向と健康行動 ―チャレンジデーに着目して―
- チューブトレーニングがクロールのスイムパフォーマンスに及ぼす影響
- 音楽が歩行・走行において心理的・生理的運動強度に及ぼす影響について
- 子どもの動きにおける上肢・体幹・下肢の運動の評価と発達に関する研究
- ソフトテニス初心者のオーバーハンドサーブのスキルにボールの投げ指導が及ぼす影響

- スポーツ立国戦略の課題の提起 ―新聞記事分析と聞き取り調査を用いて―
- 大学運動選手における自信のある状態とその獲得要因
- 大学運動選手におけるセルフトークの使用状況と効果に関する研究
- 大学運動部の集団凝集性と部員の自己開示の程度との関連
- 大学運動部への入部動機に関する研究 ―硬式野球部員・準硬式野球部員への調査から―
- タイミング動作におけるメンタルブракティスの効果
- 男子ラクロス競技フェイスオフスキルに関する研究
- 投球数の増加に伴う上肢と下肢の筋疲労からみた投手の類型化の試み
- 野村克也の指導論 ―「弱者の兵法」に着目して―
- バスケットボールの試合による疲労がジャンプシュートに及ぼす影響
- バレーボールのスパイクジャンプに関する研究 ―両脚の使い方に着目して―
- 兵庫サッカー友の会に関する歴史的研究
- ボート競技において肩と肩甲骨の関節可動域が漕動作に及ぼす影響
- 腰痛症のあるバドミントン選手の身体特性とオーバーヘッドストローク・フォームとの関係 ―体幹の屈曲伸展動作に着目して―
- ラグビートップリーグにおけるファンサービスと観戦意図に関する研究 ―神戸製鋼ラグビー部のケーススタディ―

さらに学びたい人は大学院へ（p.109）

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。



人間表現学科

Department of Human Expression

学科長 塚脇淳 教授
(表現創造論コース)

人は歌い、踊り、描き、作り、そして考える

人はさまざまな表現行為を行いながら生きています。もしかしたらそれは、生存のためには、いわゆる生産行為よりも重要なものなのかもしれません。それらはそれぞれ音楽とかダンスとか絵とかデザインとか、さまざまな名前で呼ばれ、分野として分けられています。でも、それらはあくまで食べたり寝たりする行為も含めた広い人間行動のスペクトラムをある角度から切り分けたものでしかありません。私たちは人間表現学科を、人間の「表現」を基本的な人の行為としてとらえ、できるだけオープンな視点からそれにアプローチする場でありたいと考えています。そのため、音楽や造形芸術といった芸術表現の視点、デザインや建築やファッションやメディアや都市文化といった社会や生活に関わる視点、音楽療法や感性心理学のようなやや応用的な視点など、複眼的な視点からのアプローチを構築しようとしています。

私たちが目指すのは、これまで音楽大学、美術大学、文系学部などに分散されてきた教育研究の場を、「人間表現」という概念をキーとして一つに統合した、いままでにない教育研究の場の創成です。ここから表現と生活を結ぶ新しいアーティストや研究者が生まれてゆくことを願っています。

人間表現学科の履修コース

表現文化論コース あなたの知らなかった表現の世界へ

「表現」といえば、アーティストやパフォーマーの専売特許だと思いませんか？ もし、あなたがそんなふうに思っているなら、ぜひ表現文化論コースの扉を叩いてみてください。そこには、これまで知らなかった表現の世界が広がっているはずです。表現文化を学ぶ立場からすれば、あらゆる人間の生きた証こそが「表現」なのです。そのとき表現者とは、何か特別な才能をもった人たちばかりではありません。それとは比べものにならないくらい多くの普通の人びとがそれぞれの時代を懸命に生きる中で、さまざまなモノが創り出され、歌が生まれ、街ができ、流行と同時に変わらぬ伝統も受け継がれてきたのです。傑出した芸術作品もまた、この広がりを抜きには語れません。このようにして、近代社会の形成とともに人間をとりまく環境や身の回りのものごとは、目まぐるしく変容してきました。それはまた、人間の考え方や振る舞いにも影響を与えずにはおきません。表現文化論コースでは、近現代において独自の展開を見せてきた表現分野、たとえば建築、デザイン、メディア、ファッション、音楽文化、舞台芸術などを取り上げながら、人間の創造物や表現行為に関わる歴史や文化を、政治や経済、社会、技術といったさまざまな文脈から学び、人・モノ・社会の交流のなかに生成する近現代の表現文化を見つめ、考え、その可能性を探索します。そのなかから、あなたの知的好奇心は、新たな表現のあり方と人間の姿を発見することでしょう。

(詳細は p.47 へ)

表現創造論コース 次世代を担うクリエイター、ファシリテーターを目指そう！

私たち人間は古きから、思考や感情を表現しようとする欲求に駆られ、さまざまな文化を生み出し、この地球に生き長らえてきました。なかでも音楽や造形、舞踊といった創造的表現は、人間存在の根幹に関わるきわめて自然な行為とすることができ、人間の発達や人格の形成に欠くことのできない重要な営みとして受け継がれてきています。表現創造論コースではこういった人間の創造的表現の可能性を、音楽や美術に機軸を置いた実践的研究を通じて多面的に追求すると共に、私たちが生きている意味を考えていきます。また同時に、それらの枠組みでは捉えきれない多様な表現領域をも巻き込んだ「時間と空間における総合的な表現の創造」にも挑戦します。この試みはコース必修科目である一連の「表現創造演習」において総合的なパフォーマンスとして結実させますが、同時にアート・マネジメントの実践の機会としても活用し、企画立案からパフォーマンスまでのプロセスをトータルに学びます。一方、マルチメディアやニューテクノロジーによる先端的融合表現の領域をも視野に入れながら、次世代を担う複合的で新しいタイプのクリエイター、ファシリテーターの養成を目指しています。

(詳細は p.51 へ)

臨床・感性表現論コース 新しいアート・ヒューマンインターフェースの開拓に挑戦する

人々の価値観が多様化した現代社会においては、これまで我々の生き方を規定してきた文化的な枠組みは大きく変化し、社会と人間の間には新たな関係が見出されるようになってきました。人間の表現行為は、芸術から日常的な行為にまでさまざまな様態がありますが、そういった行為を一続きのものとする見方も、比較的最近になってからと言ってよいかもしれません。歌を歌う、踊る、ものを作るといった人間の表現行為は専門の芸術家でなくとも、すべての人間にとっても生きていく上で大変大きな意味を持っています。その領域は、音楽療法やダンス療法、美術療法といったさまざまな芸術療法という形に展開することができますし、あるいはデザインや生活上のさまざまな表現リソースの開発や研究としても展開できます。また、新しい時代の芸術表現の創造へと展開する大きな可能性も秘めています。臨床・感性表現論コースでは、従来のさまざまな芸術コースとも、諸芸術学ジャンルとも異なり、表現者として、新しいアート・ヒューマンインターフェースを研究し、開発する人材を養成していくための大変新しいコンセプトの履修コースです。具体的には、音楽療法、ダンス療法などの諸芸術療法、感性や心理をもとにしたデザインやメディアの研究、開発、マルチメディアなどを使った複合的芸術表現やインタラクティブ・アート、新しい表現教育などの領域の研究、開発、創造を目指します。

(詳細は p.55 へ)

発達支援論コース

(詳細は p.81 へ)

発達支援論研究を2年次に修得した学生は、3年次より4学科横断の発達支援論コースに進むこともできます。

ESDサブコース

(詳細は p.84 へ)

ESDサブコースでは、履修コースに所属しながら「持続可能な社会づくりのための教育(ESD)」カリキュラムを受講できます。

人間表現学科の教育研究上の目的

広い知識を授けるとともに、音楽、造形、パフォーミングアーツ等の人間の様々な表現や創造活動について教育研究を行い、教養、表現領域についての幅広い知識並びに個々の領域における専門的な知識及び技術を身に付け、研究、創造及び社会的実践に関する能力を有する人材を養成することを目的とします。

コースの定員

第2年次より各履修コースに所属することになりますが、各履修コースには次の定員が設定されています。履修コースの決定に際しては、第1年次の終わりに所属学科の各コースのガイダンスやオリエンテーションの上、受け入れ可能人数を超えない範囲で希望を調整します。

- 表現文化論コース:18名
- 臨床・感性表現論コース:12名
- 表現創造論コース:18名

学科共通科目

表現文化概論	表現創造概論	臨床・感性表現概論	人間の発達と表現
建築、音楽、ファッション、メディア、デザインなど、表現文化論コース各教員の研究トピックの紹介を通して、表現文化研究の概要と楽しみを伝える。	芸術作品の創造とその表現に関わる事柄について、コース教員が全員関わり、それぞれの分野から様々な観点でオムニバス形式により論じる。	音楽療法やダンス療法など、芸術あるいは表現療法領域の基礎的な概論と事例の紹介、また、感性心理や量的リサーチの基本的な知識、技術に関する授業を行う。	それぞれのゼミにおいて各自が取り組んでいる研究テーマについて、卒業研究に向けての発表と議論の場である。ゼミ及びコース単位で運営される。
アートマネジメント	デザイン史1	都市・建築文化論	ファッション文化論1
アートマネジメントは芸術と社会をつなぐ方法論と言える。具体的事例を通じてマネジメントの基礎知識とその応用について学び、社会における芸術の役割を考察する。	主として英国の近代産業社会の誕生から現代に至るまでのデザインについて、スライドおよびビデオを適宜使用しながら、社会的、文化的文脈から論じる。	都市はさまざまな表現活動の舞台となってきた。美術や音楽、そして写真、映画、百貨店、博覧会…。近代における表現文化と都市との関係を考える。	「ファッション」という観点から近現代の表現文化・身体文化・視覚文化を捉え直し、現代社会におけるファッションの役割について考察する。
舞台芸術論	メディア論	創造の発想とプロセス	音楽理論1
舞台芸術は歴史の鏡であり、「生み落とされた時代」と「上演される時代」との対話の場である。総合芸術としての「音楽劇」に表象される芸術思想を、歴史的、文化史的コンテクストから考察する。	現代社会で利用されているさまざまなメディア（活字・映像・デジタル等）について、歴史・制度・産業としての規模や影響力といった点から概説する。	「Don't think! Feel!!」がこの授業のテーマである。考えていては大事なものを逃してしまう。五感（身体）全体を使い、描き作り、表現する。	音楽を構成する要素は様々あるが、「音」そのものがどのように組織され「音楽」化されるかという過程を理論として学習する。「音楽概論」の理論的内容が中心となる。
音楽理論2	声楽表現概論	合唱表現演習	コミュニティー音楽
音楽の構成要素の一つとしてのハーモニー理論の講義と実習である。既存の楽曲の分析や編曲の演奏実習も行い、理論・実践を通じた音楽の総合的理解に繋げる。	声を使った表現の基本である呼吸法の基本を身につけ、語りから歌へと繋げながら、豊かな声楽表現とは何かを理論と実践を交えて学ぶ。	歌うことは身体に良い影響を与え、良い声を作り、人生までも変える。ハーモニーが生まれた時の喜び、集団活動の中での個の大切さを演習の中で学ぶ。	新しい音楽の形として欧米で始まったものであるが、これからの音楽を学ぶ基礎として、「音を聴くこと」から出発してさまざまな遊びや活動を行う。

ヴィジュアル・コミュニケーション論	身体表現論	空間表象論	サブカルチャー論
コミュニケーションにおいて、ある概念を視覚的に具体化し伝達する方法やその表現について、人間の視覚情報処理に対する心理学的アプローチの視点から概説する。	我々の身体は意識的・無意識的に関わらず、常に様々なメッセージを放っている。この授業では舞踊史を辿りながら、身体表現の今日的意義を探る。	空間や立体を投影によって2次元に変換し、かつ表現するための方法を学ぶ。錯視や立体視など、人間の視覚システムに関するトピックにも触れる。	われわれが日常的に接する文化的生産物が置かれた社会的文脈を、産業や制度、消費行動の側面から、主に音楽とマンガを題材として検討する。
先端表現演習A	遊びと芸術	表現ワークショップ論	表現の政治学
映像制作の基礎を課題制作を通じて習得する。ポータブルな撮影装置を用いた実写映像と、ストップモーションを用いたショートムービーの制作を行う。	ホイジンガやカイヨワなどの古典的な遊び論を学ぶとともに、生態心理学や発達心理学などの観点を取り入れながら、独自の「遊び論」を組み立てる。	ワークショップとは何かについての概論と事例の紹介、また、それにまつわる知的財産権をはじめとする様々な問題について論じ、表現としてのワークショップの可能性を探る。	文化的生産物の所有・帰属を定める法制度が、日常的なコミュニケーションや文化経験に及ぼす影響について、著作権を中心に考える。
心理学入門	生涯学習論	身体文化論	子どもの表現
現在多様な広がりを見せる心理学とその関連領域について、感覚・知覚心理学と発達心理学を中心にそれぞれの歴史的な経緯を踏まえつつ講義する。	ユネスコの提案した生涯教育理念、イリイチの脱学校論、フレイレの被抑圧者の教育学、ノールズの成人教育学など、幅広く生涯学習の理論を紹介する。	世界中に遍在してきた身体にかかわる文化の意味を比較文化史の手法を援用しながら解説し、現在の身体文化のあり様に対する理解を深める。	この授業では、子どものための美術館での対話を基本とした美術鑑賞と作品制作についての実践を紹介しながら、子どもの美術鑑賞に関する理解を深める講義をする。
発達支援論研究			
ヒューマン・コミュニティ創成研究についての関心を得て、入門的な知識について学び、具体的な専門領域における支援の方法について考える。			



主な取得可能な資格免許

- 中学校教諭一種免許状（音楽）・高等学校教諭一種免許状（音楽）
中学校教諭一種免許状（美術）・高等学校教諭一種免許状（美術）
- 学芸員
社会教育主事
- 社会福祉主事任用資格
環境再生医資格



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 表現文化概論 ● 表現創造概論 ● 臨床・感性表現概論 ● 創造の発想とプロセス ● 音楽理論 1 ● 音楽理論 2 ● サブカルチャー論 ● 先端表現演習 A ● 遊びと芸術 ● 心理学入門 ● 生涯学習論	● デザイン史 1 ● 都市・建築文化論 ● ファッション文化論 1 ● 音楽表現概論 ● 合唱表現演習 ● コミュニティー音楽 ● ヴィジュアル・コミュニケーション論 ● 身体表現論 ● 空間表象論 ● 子どもの表現 ● 身体文化論 ● 発達支援論研究	● 人間の発達と表現 ● アートマネジメント ● 舞台芸術論 ● メディア論 ● 合唱表現演習 ● 表現ワークショップ論 ● 表現の政治学	
コース専門科目	● 社会調査法 	● 都市と建築の 20 世紀 ● 西洋音楽文化論 ● 西洋音楽文化論演習 ● 音楽集団活動論 ● 音楽理論 3 ● 音楽理論 4 ● 立体造形論	● デザイン史 2 ● デザイン史演習 ● 都市と建築の 20 世紀演習 ● ファッション文化論 2 ● 映像論 ● 音楽療法論 ● 感性を測る ● 感性心理学概論 ● 臨床舞踊論	● ファッション文化論演習 ● 映像・メディア論演習
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

梅宮弘光 准教授	大田 美佐子 准教授	田畑暁生 准教授	中山修一 教授	平芳裕子 講師
近代建築史	西洋音楽史, 音楽美学	社会情報学, 映像論	デザイン史	ファッション文化論, 表象文化論
20 世紀の建築について研究しています。とくに日本の大正期, 昭和戦前期。実際に建てられたものだけでなく, 計画倒れや夢想に終わったものも興味深いです。	両大戦間の音楽文化の諸相（音楽・音楽劇における伝統の継承とその展開, 受容の問題）について研究しています。	現代は情報社会と呼ばれ, さまざまな情報メディアが社会で利用されていますが, その機能や影響について, 特に映像メディアを中心に, 研究しています。	近代英国のデザインに関する研究。とりわけ, ヴィクトリア時代の詩人にして工芸家で, 政治活動家でもあったウィリアム・モリスに関心をもっています。	ファッションとそれを取りまく文化の歴史を明らかにすることによって, 西洋近現代を中心とする「ファッションと女性」との関わりを考察しています。



田畑暁生 准教授（社会情報学, 映像論）

中山真理子 さん（表現文化論コース 4 年生）



映像やメディアという鏡を通して, 現代社会を考える

メディアは 現代の社会の中で大きな役割を果たしていますが, 高等学校までの学習では, 国語・政治経済・情報などいくつかの教科で簡単に触れることはあっても, 本格的に学習することはあまりないでしょう。私のゼミでは, ある種「怪物」的なところのなさと同時に魅力を有したメディアに対して, 学生が真っ向から, あるいは搦め手から, 取り組んでいます。ゼミの中身はレジュメ作成とディスカッションが中心となります。卒論でこれまで扱われたテーマも, ネットショッピングにおける価格形成の問題から, 黒澤明における「間」の表現, 岡崎京子のマンガ, アニメーション映画, 印刷技術のデジタル化による影響まで, 実に多種多様と言ってよいでしょう。卒業後の進路も, テレビ局や映像制作会社から, 一般企業, 公務員や教員, そして大学院進学者まで幅広く分布しています。巨大メディアに踊らされないために, そして, 主体的にメディアを活用できるオトナになるために, ぜひ一緒に学びましょう。

恵まれた環境の中で, 自分の好きなことを学べる幸せ

表現文化論コースの魅力は, 何と言っても知識豊富な先生のもとで, さまざまな角度から文化を学べるということです。文化を学ぶということは, とても幅広く, 一概に捉えることは容易ではありませんが, だからこそおもしろく興味深いです。日常に溢れているものは全て文化の構築なので, 学ぶ度に毎日の生活が面白くなっていきます。とても愉快で個性的な仲間にも恵まれ, 刺激し合いながら日々楽しい学生生活を送っています。

また, 私は交換留学生として, 一年間フランスのニース大学に留学しました。そこで受講した文化やアートの授業（カーニバルにも出場しました!）はもちろん, フランスでの毎日全てが私にとって文化の勉強だったので, とても有意義な一年間を過ごすことができました。これからは, フランスで感じた“日本人の特殊な美意識”, 例えば「かわいい」や重ね着の傾向等について, ファッション文化的な観点から, 卒業研究を進めて行く予定です。

表現文化論コース

あなたの知らなかった表現の世界へ

主なコース専門科目

デザイン史 2 デザインと工芸における日英の近代運動という観点からウィリアム・モリスと富本憲吉を取り上げ、主としてその影響関係に焦点をあてながら論じる。	デザイン史演習 デザイン史研究のリサーチ・スキル（卒論レベル）の修得を目的とした演習。具体的には、受講生一人ひとりがテーマを設定し、小論文を作成する。	都市と建築の 20 世紀 20 世紀社会のさまざまな変革が都市や建築にどのような変化をもたらせたのか。計画や設計に携わる人びとのみならず、生活者の意識変容を通して考える。	都市と建築の 20 世紀演習 「都市と建築の 20 世紀」で学んだことを履修者それぞれが自らの関心に引き寄せ、自分のテーマと授業テーマが交差する地点に課題を設定して研究発表する。
ファッション文化論 2 西洋近代に始まるファッション・デザインの歴史を振り返り、主要な作品の解説を行うとともに、同時代の批評や歴史的評価について再検討する。	ファッション文化論演習 ファッションやファッション文化研究に関する論文・著作の講読を行い、受講生各自が設定された主題のもとに研究発表を行う。	西洋音楽文化論 西洋の音楽文化の特性とその問題意識を前提に、毎年新たなトピックを設定し、テーマに沿って音楽芸術の表現様式の変遷と作品がもつ社会的、文化史的な意味を考察する。	西洋音楽文化論演習 西洋音楽文化論で習得した音楽史や文化史の知識および問題意識を前提にして、トピックに関連した外国語文献を精読する。後半は各人がテーマを選択設定し、研究・発表を行う。
映像論 映像に関する諸問題を扱う。前半は『映像と社会』に沿って基礎知識を身につけることを主眼とし、後半は古典映画などの映像作品の鑑賞を中心にディスカッションする。	映像・メディア論演習 洋書購読および演習。英米の映像やメディアに関する研究文献（英語）を選び、担当者に分担部分について発表してもらい、それをもとにディスカッションを行う。	社会調査法 不適切な調査を行ったり、公表された調査結果を誤って解釈してしまうことのないように正しい社会調査の方法を身につけることを目指す。	音楽集団活動論 全ての音楽表現にとって基本となる楽曲に対する研究を指揮者の立場から行い、実践に移すことを試み、アンサンブルをまとめる指揮法の一助とする。
音楽理論 3 バロック以降ロマン派までの西洋音楽のいくつかをサンプルとしながら、様々なパラメータの集合としての音楽様式と内容について解釈する。	音楽理論 4 20 世紀初頭における西洋芸術音楽の語法の変容と分裂を概観した後、受講生各自が選択した作品を分析し、成果発表、レポートとしてまとめる。	立体造形論 造形芸術の、主に彫刻の近代から現代までの作家の活動や作品に焦点をあて、その表現の意味と空間の変遷について考察する。	音楽療法論 その思想、歴史、即興技法などについて批判的な視点も交えながら進め、より新しいコミュニティ音楽療法などのあり方についても考える。
感性を測る ヒトの感性やイメージといった、主観的で曖昧な心理現象に関するデータの収集や分析手法について、感性に関わる具体的な事例を通じて学ぶ。	感性心理学概論 感性にまつわる学問の背景と歴史、現在の研究事例を紹介し、科学的な感性研究へのアプローチとして主に知覚心理学や認知心理学の方面から概説する。	臨床舞踊論 「臨床」という言葉は療法的な印象を与える語であるが、本授業では「現場に臨むこと」と広く捉え、様々な舞踊に主体的に関わる姿勢を学ぶ。	

卒業研究テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度	● 現代におけるオートクチュールとその存在意義 — オートクチュールの歴史と現状の考察から ● ストリート・ファッションの起源 — 1960 年代のロンドン・ファッションの考察を通じて ● ロイヤル・アカデミー・オブ・ダンス (R.A.D.) についての研究 ● 音楽聴取と情動反応に関する心理学的展望	● 職業的オーケストラのマネジメント ● 合唱文化の歩み — 兵庫県を例に ● 横尾忠則の 60 年代ポスターと絵画 ● チャップリンとルビッチに見るコメディ映画の風刺性 ● 日仏の美術交流に関する一考察 — アルフォンス・ミュシャを事例に
2010 年度	● 「アウトサイダー・アート／アール・ブリュット」の日本での受容 — ボーダーレス・アートミュージアム NO-MA の取り組みから — ● デジタル情報財の価値設定問題に対する考察 ～ 効率性と公平性の観点から～ ● 「ゆるキャラ」人気に関する一考察 ● 1936 年撮影神戸市空中写真の分析をとおして見た、戦前期神戸の都市景観に関する研究 ● 1968 年における男女の表象に関しての一考察 — 『平凡パンチ』と『婦人公論』を手がかりとして ● 4 マス媒体との比較から見るインターネット広告の課題	● iPod とウォークマンのコンテンツ保有からの考察 — テレビ CM 事例を通して— ● 朝日新聞の松屋（呉服屋）店の広告（1922-1942 年）に見られる銘仙の盛衰に関する一考察 ● エドゥアール・マネ 近代絵画と女性像 ● 音楽史のなかのバルエブック — ドビュッシーの作品と思想を通して— ● 芸術家と市民の「文化」観念の相違 ～ 明治期・大正前期の交響楽運動からみるオーケストラのアウトリサーチ活動への示唆 ● 雑誌『暮らしの手帖』による生活の提案に関する研究

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.115）

2009 年度	● アーバンリサーチ ● 大阪総合デザイン専門学校教員 ● 大阪東信用金庫 ● 経営情報センター ● コーベヤ ● しまむら ● 南都銀行 ● 三井住友ファイナンス & リース ● 神戸市教員
2010 年度	● オリンパス ● 神戸珈琲 ● サイバーエージェント ● セプテーニ・ホールディングス ● 大志学園 ● 中部電力 ● 博報堂プロダクツ ● モダンタイムス ● ワークスアプリケーションズ ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究所

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 中学校教諭一種免許状（美術） ● 高等学校教諭一種免許状（美術） ● 学芸員	2010 年度	● 中学校教諭一種免許状（音楽） ● 高等学校教諭一種免許状（音楽） ● 学芸員
---------	--	---------	--



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 表現文化概論 ● 表現創造概論 ● 臨床・感性表現概論 ● 創造の発想とプロセス ● 音楽理論 1 ● 音楽理論 2 ● サブカルチャー論 ● 先端表現演習 A ● 遊びと芸術 ● 心理学入門 ● 生涯学習論	● デザイン史 1 ● 都市・建築文化論 ● ファッション文化論 1 ● 音楽表現概論 ● 合唱表現演習 ● コミュニティー音楽 ● ヴィジュアル・コミュニケーション論 ● 身体表現論 ● 空間表象論 ● 子どもの表現 ● 身体文化論 ● 発達支援論研究	● 人間の発達と表現 ● アートマネジメント ● 舞台芸術論 ● メディア論 ● 合唱表現演習 ● 表現ワークショップ論 ● 表現の政治学	
コース専門科目		● 表現創造演習 1・企画 ● 音楽集団活動論 ● ピアノ演奏概論 ● ピアノ演奏演習 1 ● 音楽表現演習 I ● 音楽表現演習 2 ● 音楽理論 3 ● 音楽理論 4 ● 立体造形 ● 立体造形論 ● 絵画表現 ● 絵画表現論 ● 先端表現演習 B ● 舞踊創造論 ● 舞踊創造論演習	● 表現創造演習 2・運営 ● 表現創造演習 3・制作 ● 表現創造演習 4・総合 ● 合奏表現演習 ● ピアノ演奏演習 2 ● 室内楽 ● 音楽理論 5 ● 音楽理論 6 ● リトミック	● 映像・メディア論演習
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

岸本吉弘 准教授	斉田好男 教授†	佐々木倫子 教授	田村文生 准教授
絵画表現	指揮 (オペラ, 管弦楽, 吹奏楽, 合唱)	声楽	作曲, 編曲, 西洋芸術音楽を中心とした作品研究
現代における「絵画表現」を実践的(実技)また理論的(研究)な両側面より追求し, より本質的な人間表現としての「絵画」像を模索しています。	「指揮を通してのコミュニケーション, アンサンブル法」音楽表現を指揮者の立場からアプローチしています。自ら音を出すことはない指揮者の役割とは？	クラシックの声楽曲の中で, 日本・ドイツ・ロシアの歌曲を中心に研究・実践しています。どの歌曲も語るように歌うことがテーマです。	音楽作品の様式・実態・機能の分析により, 音楽の作られ方・聴かれ方を探る様々な演奏形態での音楽表現の多様性を, 作品の創作によって提示しています。
塚脇淳 教授	坂東肇 教授		
美術, 彫刻	器楽(ピアノ, 室内楽)		
20 世紀の美術, 特にロダン以降の抽象彫刻について研究教育しています。私自身は彫刻家として鉄の彫刻を制作し, 国内外に精力的に発表しています。	音の中に込められた想いはどのような形をとって表現となり人の心に達するのか。ピアノ演奏におけるコミュニケーションに内在する原理を探究しています。		



坂東肇 教授 (器楽 (ピアノ, 室内楽))

藤野志織 さん (表現創造論コース 3 年生)



自らの表現世界を究めて，人間本来の理想と生命力を取り戻そう！

人類が切望するところの理想世界の雛形は，自然界のあらゆる営みの中に垣間見ることができ，人間の歴史が生み出した，優れて創造的な営みにも示されています。その意味においては，優れた音楽表現を目指す演奏のプロセスも，理想実現を希求するプロセスそのものといえるのです。なぜならば，そこには過去・現在・未来という時間軸の中において，真・善・美を見失うことなく，対立する要素（主観と客観，静と動，柔と剛，独立と協調等）の絶妙な両立と調和をはかり，統一された有機体としての最高度のものを生み出そうとする営みがあるからです。音楽の中には，絶望と希望，夢と現実，臆病と勇気，愛と憎しみなど，人間のあらゆる感情が渦巻いています。

私のゼミでは，人間の根源的な営みに焦点を当て，心の奥底に眠るマグマの如きエネルギーとどのように向き合い，自己本来の自然な表現として演奏に結実させるか，について多面的に探究しています。この研究と多くの演奏実践をくぐり抜けたゼミ生は，そこで得られた成果があらゆる分野に通ずることから，さらなる可能性に目覚め，音楽の世界のみならず多方面で活躍しています。

自分の可能性にワクワクドキドキ，新しい自分に出会う場所

立体造形の世界に飛び込んだのは，自分のやりたいことにひたむきに打ち込む仲間たちに刺激を受け，「私もつくりたい」と思ったからです。それでも最初の頃は，果たしてこれは，ひとを幸せにしたいという自分の夢に繋がっていくのかと，不安でした。しかし，先生の「自分の持っている力を全て注いだ作品は，この世界へのギフトである」という言葉に私の不安は吹き飛びました。自分の表現をとことん追求することは，決して自分に閉じこもった自己中心的な行為ではなく，むしろ，他者とより深く繋がるためのプロセスなのです。

私は将来，つくることから生まれるひととの繋がりがや，新しい自分の発見を，さらに施設などの現場でセラピーとして活かしたいと考えています。そのために，大学生活では，とにかく「つくりたい！」という気持ちを大切にしながら，人間にとつてのつくることの意味や表現の役割を，一から問い直したいと思っています。このコースでは，同じ志を持つ仲間や，個性豊かな先生方に囲まれて，学生ひとりひとりが，のびのびと，そして真剣に自分のやりたいことに主体的に取り組み，日々，自分の可能性に挑戦しています。

表現創造論コース

次世代を担うクリエイター，ファシリテーターを目指そう！

主なコース専門科目

表現創造演習 1・企画 様々なパフォーマンスやインスタレーションを「知る・見る・体験する」ことからはじめ，学生独自の企画を「発想」しプレゼンテーションする実習である。	表現創造演習 2・運営 「表現創造演習 1・企画」において決定した内容に適した運営組織，発表場所の確保や折衝，広告方針などを決め，実現に向けた条件や環境を整備・把握していく。	表現創造演習 3・制作 「表現創造演習 4・総合」に向けた制作を行う。試作・試演などを通じて，想定される問題とその解決策を探りながら，各自の担当作業を進める。	表現創造演習 4・総合 これまでの表現創造演習の授業を踏まえ，発表に直結した準備（制作）と運営を行う。また，活動の評価や発表記録の整理など，事後に行うべきことも実習する。
音楽集団活動論 全ての音楽表現にとって基本となる楽曲に対する研究を指揮者の立場から行い，実践に移すことを試み，アンサンブルをまとめる指揮法の一助とする。	合奏表現演習 アンサンブルは音楽表現の中でも多くを占める。当演習では実際にアンサンブルを行うなかで，曲へのアプローチ・表現法および指導法の研究を行う。	ピアノ演奏概論 ピアノの多声楽器としての特性と，ピアノ演奏に見られる様々な表現創造の様態について学び，演奏という行為に内在する諸問題について考察する。	ピアノ演奏演習 1 二次元に記された音符を自己に根ざした実際の音として三次元の時空に甦らせ，独自の音楽を構築して，演奏における表現創造の方法及び可能性を追究する。
ピアノ演奏演習 2 ピアノ演奏演習 1 で習得したことをさらに発展させて，楽曲に内在する知・情・意を的確に把握・表現し，演奏における自己表現の可能性を探る。	室内楽 ピアノ二重奏をはじめ，ピアノと他の楽器による二重奏や三重奏等の室内楽曲，更には協奏曲等の研究を通して，アンサンブルの豊かな楽しさを追究する。	声楽表現演習 1 日本の歌曲を題材に，詩を読みこなし，それをどのように表現に結び付けていくのかを実践を交えて学ぶ。	声楽表現演習 2 独・伊の歌曲を題材に，イタリア歌曲では，メロディーラインと息の流れの関係を，ドイツリートでは，音楽とことばのかかわりを学ぶ。
音楽理論 3 バロック以降ロマン派までの西洋音楽のいくつかをサンプルとしながら，様々なパラメータの集合としての音楽様式と内容について解釈する。	音楽理論 4 20 世紀初頭における西洋芸術音楽の語法の変容と分裂を概観した後，受講生各自が選択した作品を分析し，成果発表，レポートとして纏める。	音楽理論 5 音楽作品を取り巻く様々な要素とその解釈について，関連する諸学問領域における理論を参照しながら，受講生各自の研究分野に即した方法を検討する。	音楽理論 6 音楽理論 5 より継続し，受講生の卒業研究に向けた課題設定・調査・資料の精読などをしながら，学期末の研究発表に向けた準備を行う。
立体造形 立体造形の基本的な技法や材料について，制作実習をとおして体験する。そのことによって，造形に関する幅広い応用への基礎力を養う。	立体造形論 造形芸術の，主に彫刻の近代から現代までの作家の活動や作品に焦点をあて，その表現の意味と空間の変遷について考察する。	絵画表現 偶然性を必然性に結びつける，カオスから方法論をクリエイトする，そうした「描く（表現する）」ダイナミズムと一緒に体験しよう。	絵画表現論 絵画とは歴史上どう展開し，また継承され，現在もお生き続けているのか？「神」も「額縁」もいらなくなった近代から現代の絵画の真相に迫る。
先端表現演習 B 日常見かける何気ない物を基点にして，その物の物理的特性やそこから広がる多様なイメージを鋭敏に感じ取り，その感性を生かして作品へと展開させる。	舞踊創造論 今この瞬間にもどこかで生まれる新しいダンス。一般にコンテンポラリーダンスと呼ばれるそれはどのようなものか，そもそもダンスとは何かを考える。	舞踊創造論演習 コンテンポラリーダンスを「踊る・創る・観る」経験を通して，身体表現の多様な可能性を探求し，創造の瞬間をつかみとることを目指す。	映像・メディア論演習 洋書購読および演習。英米の映像やメディアに関する研究文献（英語）を選び，担当者に分担部分について発表してもらい，それをもとにディスカッションを行う。
リトミック 音楽教育の一方法であるリトミックの概要を知ingことを目的としている。初歩的な導入段階を学習しながら，リトミックの教育方針を体験する。			

卒業研究テーマ

2009 年度	● 動く彫刻の黎明期に関する一考察 ● オーケストラの中のピアノの役割と効果 ● 教育における表現活動の役割 - ーレッジョ・エミリアのプロジェクト活動を通してー ● もの派に関する一考察 - ーリー・ウーファンの「出会い」の概念を中心にしてー ● 日本のオーケストラのレパートリー ● ジョージア・オキーフの絵画における写真的影響に関する考察 ● 公立文化ホールの現状と課題 ● 教育における合唱の役割 ● 銅版画家 長谷川潔の造形空間 - ー日本の『間』文化との関係性をめぐってー	● インターネット広告の可能性 - ー視覚表現と相互作用的要素の有用性への着目を中心にー ● 企業と芸術の発展のための企業メセナ ● ラフマニノフのピアノ協奏曲第 2 番第一楽章についての一考察 - ー名ピアニストの演奏比較を通してー ● 創作和太鼓の成立と発展 ● クラシック音楽における聴衆の成立と「きき」の様態 ● 初等義務教育の役割と音楽教育の位置づけ ● 映画音楽に関する考察ーキューブリックの作品を通してー ● ミュージカルにおける和訳詩 ● 表現と身体
2010 年度	● J-POP と社会 ● アーティストと学校の連携による教育実践の可能性 ● アルフレッド・リードが日本の吹奏楽界へ与えた影響 ● 横尾忠則の絵画における流用表現 ● イジー・トルンカ人形アニメーション作品における後期 4 作品の特殊性に関する研究ノート - ー『真夏の夜の夢』以前の作品との比較からー ● 歌・絵本に込められた子どもたちへのメッセージ - ー現実を語る作品から，社会の変化を読み解くー ● 描かれる「女性像」の変化に関する考察 ● コンサートホールとオーケストラ - ーその相互関係の現状と課題ー	● サイトスペシフィック・アートの発生と展開 ● ソルの教授法から見た練習曲集 ～教則本と作品 60 を通して～ ● ニキ・ド・サンファル研究 - ー射撃絵画から『ナナ』に至るまでの表現ー ● 日本における社交ダンスの風紀問題 - ー昭和初期までのダンスホールの商業化を中心にー ● モーリス・ラヴェルの音楽作品における機械的性質と卓越性 ● ヤン・シュヴァンクマイエルの芸術における触覚への拘泥 ● よさこい系祭の現状及び今後の可能性 ～関西の祭を中心に～ ● 肖像画の四分の三観面に関する研究 ● 創作和太鼓の成立と発展

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.118）

2009 年度	● いぬづか写真室 ● 大阪府教育委員会 ● 四条畷市職員 ● 住友生命保険 ● 日本通運 ● パナソニック ● ヤマハミュージック大阪 ● 読売新聞 ● りそな銀行 ● 兵庫県教員（中学） ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 京都大学大学院医学研究科
2010 年度	● アシックス商事 ● NRI ネットワークコミュニケーションズ ● 川崎重工業 ● 希学園 ● ケイ・オプティコム ● 真生印刷 ● 総合商研 ● 東京海上日動火災保険 ● バルス ● 大阪府警 ● 神戸市教員（小学） ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 京都大学大学院文学研究科 ● アートアニメーションの小さな学校 ● 大阪デザイナー専門学校

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 中学校教諭一種免許状（音楽） ● 中学校教諭一種免許状（美術） ● 高等学校教諭一種免許状（音楽） ● 高等学校教諭一種免許状（美術） ● 学芸員	2010 年度	● 中学校教諭一種免許状（音楽） ● 中学校教諭一種免許状（美術） ● 高等学校教諭一種免許状（音楽） ● 高等学校教諭一種免許状（美術） ● 幼稚園教諭一種免許状 ● 学芸員
---------	---	---------	--

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 表現文化概論 ● 表現創造概論 ● 臨床・感性表現概論 ● 創造の発想とプロセス ● 音楽理論 1 ● 音楽理論 2 ● サブカルチャー論 ● 先端表現演習 A ● 遊びと芸術 ● 心理学入門 ● 生涯学習論	● デザイン史 1 ● 都市・建築文化論 ● ファッション文化論 I ● 声楽表現概論 ● 合唱表現演習 ● コミュニティー音楽 ● ヴィジュアル・コミュニケーション論 ● 身体表現論 ● 空間表象論 ● 子どもの表現 ● 身体文化論 ● 発達支援論研究	● 人間の発達と表現 ● アートマネジメント ● 舞台芸術論 ● メディア論 ● 合唱表現演習 ● 表現ワークショップ論 ● 表現の政治学	
コース専門科目	● 社会調査法 	● 芸術療法論 ● 舞踊創造論 ● 舞踊創造論演習 ● 心理統計法 ● 生活環境心理学 ● 西洋音楽文化論 ● ピアノ演奏概論	● 感性心理学概論 ● 感性を測る ● 音楽療法論 ● 即興演奏 ● 臨床舞踊論 ● 臨床舞踊論演習 ● リトミック ● 深層心理学 ● 映像論 ● ファッション文化論 2 ● 合奏表現演習 ● 先端表現演習 B	
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

小高直樹 教授	関典子 講師	山本道子 講師	若尾裕 教授†
感性科学, 図形科学	舞踊学, コンテンポラリーダンスの創作と研究	造形心理学, 感性心理学	臨床音楽学, 即興演奏
芸術家の技や個性, デザイナーの暗黙知といった, 曖昧で多義的な感性の世界, いわば形容(動)詞の世界を科学的に取り扱うための方法を探究しています。	ダンスや身体表現の特質である「現在性」や「コミュニケーション」について, 表現活動と研究活動をフィードバックしながら探究しています。	よりよい情報伝達を行うために, 人間の情報処理に最適な表現やコミュニケーションを, 心理学的アプローチ方法によって探求します。	音楽療法を含め臨床音楽学という領域で, 音楽療法を通してみた音楽文化に関するさまざまな側面, 例えば即興演奏, 音楽学などについて研究しています。



得体のしれない感性の世界を,
さあどう料理しようか

私たちの研究室では, 「ひとの感性」について取り組んでいます。ひとの感性というのはとても謎めいています。あいまいで主観的, 多義的な世界, いわば形容詞や形容動詞の世界です。分ったようでよく分らない, こんな厄介で謎めいたシロモノを相手にするのはほんとうに大変なのです。だからこそチャレンジングで, 興味が尽きることがありません。たとえば, 芸術家の技や身体の匠, デザイナーの暗黙知ってなんだろう。芸人の絶妙な語りの間(ま)ってなんだろう。もし漫画に擬音語や擬態語がなかったら。笑いのツボとは, などなど。私たちの身の回りには, 経験しているけれどよく分らない, こんなにも不思議な謎が山のように転がっていると思いませんか。私たちの研究室では, 「感性」を共通のキーワードとして, それぞれがその関心に沿って具体的なテーマを持ち寄り, まな板の上に乗せてさてどう料理しようかと, 全員参加で楽しくかつ真剣に研究に取り組んでいます。

小高直樹 教授 (感性科学, 図形科学)

吉見紫彩 さん (臨床・感性表現論コース 4 年生)

芸術家と科学者の顔を使いこなす

私たちのコースの魅力は, 自分の新たな一面を見つけることができることです。私は人間表現学科へは美術受験で入学したのですが, 大学では美術といっても, 絵画からワークショップ, デザイン史, 感性心理学まで, 音楽もピアノから, 合唱, 文化論まで, ダンスも実技から舞踊論まで, といったように本当に幅広く, 授業は毎日が新しい発見の日々で飽きることがありません。自分の教養を深めると同時に, 新たに手を伸ばしたい「何か」を発見できます。私は元々は美術専攻でしたが, 現在の研究テーマは「音象徴」という, ある音に特定のイメージが伴う現象の研究で, 音声学と心理学をまたいだものです。コースの授業を受ける中で, 「音」と「感性心理学」に興味を湧き, 「名前はその人の性格に影響を及ぼすのではないだろうか」と思ったのがきっかけでした。もちろん美術活動も続けています。誰もが芸術家と科学者の顔を持つこのコースに飛び込んでみませんか?



主なコース専門科目

感性心理学概論 感性にまつわる学問の背景と歴史、現在の研究事例を紹介し、科学的な感性研究へのアプローチとして主に知覚心理学や認知心理学の方面から概説する。	芸術療法論 医療における芸術の意味について、これまでのさまざまな思想や実践を取り上げ、美学や哲学の視点も交えながら論じる。	感性を測る ヒトの感性やイメージといった、主観的で曖昧な心理現象に関するデータの収集や分析手法について、感性に関わる具体的な事例を通じて学ぶ。	音楽療法論 その思想、歴史、即興技法などについて批判的な視点も交えながら進め、より新しいコミュニティ音楽療法など新しいあり方についても考える。
即興演奏 さまざまな即興音楽、とりわけ民族音楽、魔法音楽、ジャズ、フリージャズ、フリーインプロヴィゼーションなどについての講義と演習を行う。	舞踊創造論 今この瞬間にもどこかで生まれる新しいダンス。一般にコンテンポラリーダンスと呼ばれるそれはどのようなものか、そもそもダンスとは何かを考える。	舞踊創造論演習 コンテンポラリーダンスを「踊る・創る・観る」経験を通して、身体表現の多様な可能性を探求し、創造の瞬間をつかみとることを目指す。	臨床舞踊論 「臨床」という言葉は療法的な印象を与える語であるが、本授業では「現場に臨むこと」と広く捉え、様々な舞踊に主体的に関わる姿勢を学ぶ。
臨床舞踊論演習 ダンスや演劇以前に誰もが慣れ親しんでいる自分の身体に改めて立ち返り、その内なる感覚と向き合うことから、非言語交流としての身体表現を探る。	リトミック 音楽教育の一方法であるリトミックの概要を知ることが目的とする。初歩的な導入段階を学習しながら、リトミックの教育方針を体験する。	深層心理学 心理学者ユングの無意識の心理学について学ぶ。彼の育った背景、彼の内的体験から彼の理論がどのようにして生まれたかについてにも考える。	心理統計法 心理学研究におけるデータ分析の重要な手法として統計学の基礎を学び、収集したデータを記述し、それから推測することを学ぶ。
生活環境心理学 生活環境が人間に及ぼす影響、快適な生活空間のあり方という視点から心理学的に展開する。心理的アメニティ、空間認知行動をモチーフとする。	社会調査法 不適切な調査を行ったり、公表された調査結果を誤って解釈してしまうことのないように正しい社会調査の方法を身につけることを目指す。	西洋音楽文化論 西洋の音楽文化の特性とその問題意識を前提に、毎年新たなトピックを設定し、テーマに沿って音楽芸術の表現様式の変遷と作品がもつ社会的、文化史的な意味を考察する。	ピアノ演奏概論 ピアノの多声楽器としての特性と、ピアノ演奏に見られる様々な表現創造の様態について学び、演奏という行為に内在する諸問題について考察する。
映像論 映像に関する諸問題を扱います。前半は『映像と社会』に沿って基礎知識を身につけることを主眼とし、後半は古典映画などの映像作品の鑑賞を中心にディスカッションする。	ファッション文化論 2 西洋近代に始まるファッション・デザインの歴史を振り返り、主要な作品の解説を行うとともに、同時代の批評や歴史的評価について再検討する。	合奏表現演習 アンサンブルは音楽表現の中でも多くを占める。当演習では実際にアンサンブルを行うなかで、曲へのアプローチ・表現法および指導法の研究を行う。	先端表現演習 B 日常見かける何気ない物を基点にして、その物の物理的特性やそこから広がる多様なイメージを鋭敏に感じ取り、その感性を生かして作品へと展開する。

卒業研究テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度	●化粧の習慣化における心理的・生理的效果についての研究 ●左利き用製品をめぐる企業とユーザーの意識調査 ●ダンサーと観客の身体感覚の共有 ～手の動きについて～ ●クラシックバレエの美の判断に関する研究 ～経験者と未経験者の違いから～ ●アウトサイダー芸術の展開に関する一考察 ●舞踊におけるコンタクトの概念に関する一考察	●“からだあそび”の試みから ～子どもの自己表現を引き出すには～ ●MIDI 音色から想起される図形イメージに関する基礎的研究 ●現代の音楽文化におけるデータベース聴取 ●音質調整による音楽の印象変化に関する研究 ～結婚式の披露宴における BGM を素材として～
2010 年度	●映画『ハリーの災難』の音楽分析 ～映画の中で音楽はどのような機能を担っているか～ ●競技ダンスにおける「コネクション」に関する一考察 ●競技ダンスにおける衣装の効果に関する研究 ●化粧前後の印象の違いとその判断部位に関する研究 ●サウンドスケープ論の広まり ――現代の日本における普及状況と今後の可能性を考える――	●図形とその副次的要素としての色彩に関する研究 ●知的障害児のための音楽療法 包括的教育での音楽療法モデル ●学びの場としてのワークショップに関する一考察 ●マンガにおけるスピード感の表現に関する研究

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ (p.115, p.118)

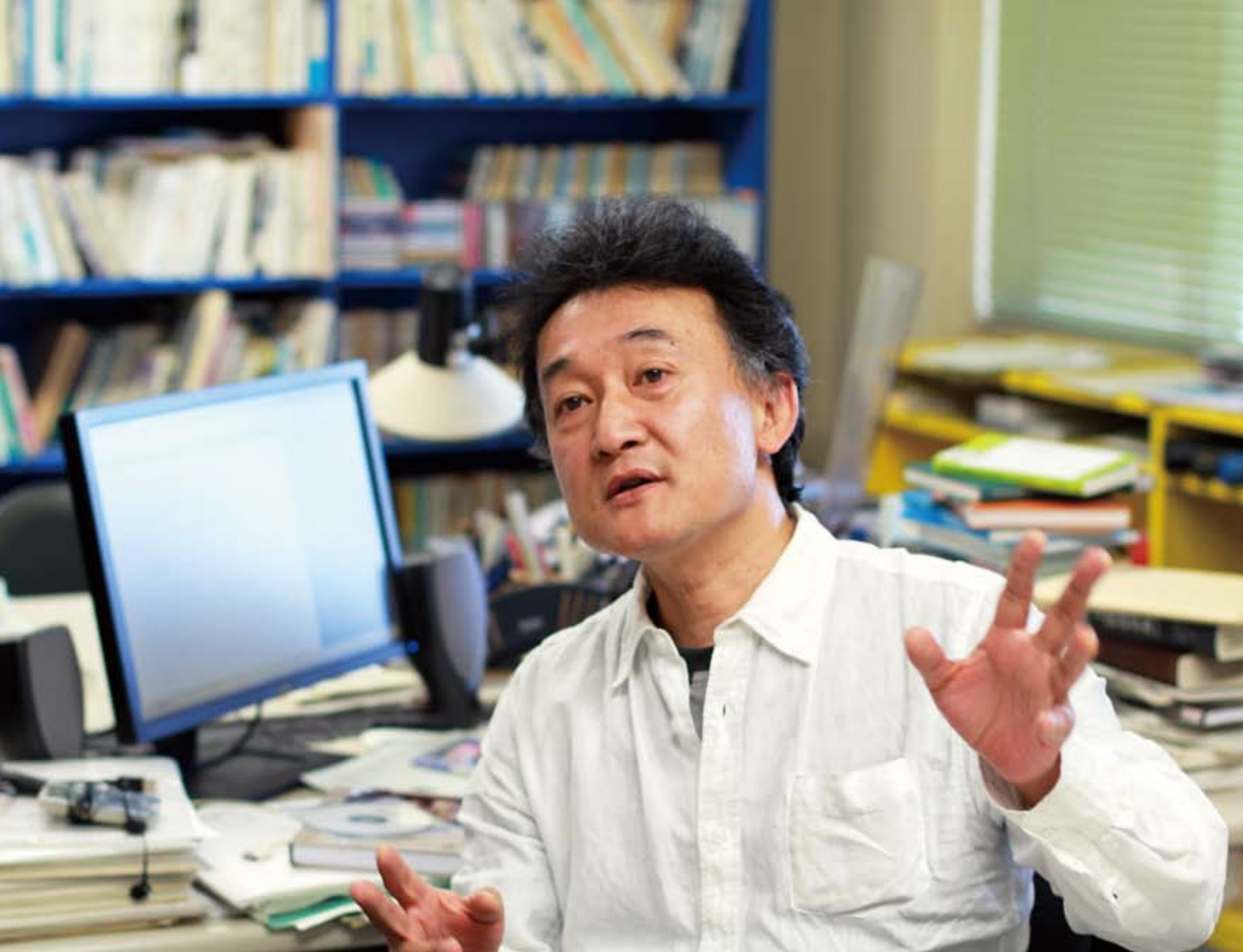
2009 年度	●岩尾 ●うすい百貨店 ●カマタメイクアップスクール ●J. フロント リティリング ●スルガ銀行 ●セントラルスポーツ ●三菱重工 ●モナカ ●神戸大学大学院人間発達環境学研究科
2010 年度	●キリンビバレッジ ●タマホーム ●西松屋チェーン ●ノバレーゼ ●日立造船 ●三菱電機 ●国際教養大学大学院 (専門職大学院) グローバル・コミュニケーション実践研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	●中学校教諭一種免許状（美術） ●高等学校教諭一種免許状（美術）	2010 年度	●高等学校教諭一種免許状（美術） ●学芸員
---------	-------------------------------------	---------	--------------------------





人間環境学科

Department of Human Environmental Science

学科長 平山洋介 教授
(生活環境論コース)

人間の発達を促す新たな環境の構築をめざして

21 世紀に入り、私たちをとりまく環境は、速度をあげ大きく変わろうとしています。そうした変化は、しばしば、高度情報化、少子高齢化、グローバル化などの用語で表されますが、注目すべきは、その動きのなかで、気候変動や資源枯渇に代表される地球環境問題や核拡散や紛争拡大にみられる平和問題など、個としての人間だけでなく、類としての人間の存在をも脅かす環境因子が次々に生み出されていることです。人間環境学科は、こうした因子をその本質から精緻に分析し、持続可能な発展に向けて、人間の発達を促進する環境を構築していくことをめざしています。そのため、本学科で行う教育と研究には、次のような特色があります。 第一に、学際性・総合性です。今日当面する問題は、特定の専門分野だけでは理解しがたい複雑な構造をもっています。本学科では、理系・文系の枠を超え、多様な学的知見の共有と統合をはかりつつ、幅広い視野とユニークな視点を備えた人材を育成します。 しかし同時に、高度な専門性の確保という点にも特色があります。本学科では、自然環境、数理情報環境、生活環境、社会環境という四つのコースを擁し、それぞれにおいて、現実と向き合う上で基礎となる専門教育を行っています。 さらに第三に、実践的で実証的な問題解決を重視しているという点です。本学科では、講義だけでなく、実験、実習、演習、調査、フィールドワークをとおして、実際に生起する諸問題に対し果敢に挑戦する積極的姿勢を養成しています。

人間環境学科の履修コース

自然環境論コース

科学の幅広い視野を備えて自然環境の本質を探究し、課題に挑む

環境問題に根本から取り組もうとすると、自然の成り立ちや法則を理解する事が必要となります。また、物理、化学、生物、地学などの学問の旧来の枠組にとらわれず、対象によって自分自身のポジションを自在に変えながら、状況に応じた解決策を見出すことが必要となります。現在は、人類が宇宙に足を踏み入れた宇宙時代の黎明期とも言える時代です。この時代に人類のアイデンティティーを確立するため、宇宙の創成と進化、太陽系や地球の形成の歴史、さらに物質の化学進化を経て生命の誕生と進化に至る壮大な歴史と、その中の個々のプロセスを科学的に解明していく必要があります。このような考えのもと、自然環境論コースでは、環境破壊などの身近な問題だけでなく、地球や宇宙の様々な場での物質と生命の多様な現象を本質から理解するための授業科目を用意しています。このコースでは、早くから自分の専門分野を限定せず、自然科学の様々な方法論の基礎を習得する事に特色があります。高学年次では、具体的な問題をより深く追求するため、環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境の4つの教育研究分野から2つを選び、さらに専門的に学習、研究します。4年生になると具体的な課題を決めて研究の訓練をすることになります。そのときには、生物学と化学、生物学と地球科学、化学と物理学などの境界領域の研究や環境問題の背後にあるより基礎的なテーマについての研究も可能です。

(詳細は p.63 へ)

数理情報環境論コース

数理と情報が手を結び、精密で信頼性の高い問題解決の手法を生む

膨大で多種にわたる情報を扱う環境は、人間の知的発達や産業構造に多大な変化を与えつつあります。このような情報環境において、様々な問題を解決するための基礎的技法を与えるのが数理科学です。このコースでは、数理的理論を基礎から応用まで幅広く学ぶこと、様々な情報環境問題を数理的に捉え、それらを解析し、処理する能力を養うことを2つの柱にします。2年次では、具体的な問題解決に必要な数学や情報科学の基礎理論を学びます。論理的な思考にもとづいてものを正確に表現するトレーニングを行い、プログラミングやネットワークに関する基礎知識を習得します。3年次では、次の3つの領域において学んでいきます。情報数理では、情報環境を構成するコンピュータを理論的に考察し、計算やプログラムのしくみなど情報そのものをもつ数理的メカニズムの解明をめざします。応用数理においては、自然科学や社会科学に現れる様々な現象を数学的な視点からモデル化します。また、それらのモデルをコンピュータを用いて詳しく解析する方法についても学びます。情報統計では、私たちの身近に存在する様々なデータを考え、情報のもつ理論的な背景を考察し、統計学的な問題解決の方法について学びます。3年次後半から4年次にかけて卒業研究に取り組みます。各自で設定した課題に対して、授業履修によって身につけた理論と方法論を駆使して問題の解明をめざし、結果を卒業論文にまとめます。

(詳細は p.69 へ)

生活環境論コース

日常生活の現場から環境のあり方を追究する

生活環境論コースは、日常生活と環境の関係をどのように理解し、組み立てるべきかという問題に対処できる人材の養成をめざしています。私たちの暮らしとそれを取り巻く環境は、かつてなく複雑な状況の中に置かれ、生活の基礎条件である衣食住の様相は変化し続けています。最先端技術は日常生活の利便性を高めると同時に、暮らしと環境に関わる新たな課題を生み出しました。住まいから近隣、都市にいたる環境は急速に変化しています。これらの状況を踏まえ、本コースでは、私たちが暮らし、働き、憩うための空間をどのように創造すべきかについて、住居、福祉施設、緑地、都市などの空間の実態を調べ、生活環境のあり方を考える生活空間領域、ハイテク製品、福祉機器などの新しい技術が暮らしの環境にどのように影響するのか、その現状を把握し、技術利用の方向性を考える生活技術領域、食糧、水などの資源環境と暮らしがどのような関係をもつべきなのかを追究し、生活のための資源利用・保全・管理の方法を考える生活資源領域という三つの領域から生活環境を捉えます。実験、フィールドワーク、シミュレーションを組み合わせる生活環境の分析を進め、生活製品設計の提案、福祉機器開発、食糧生産のあり方、まちづくりへの参画、高齢者施設計画への参加など、実践的なプロジェクトを重視して問題解決のための教育・研究を行っています。

(詳細は p.73 へ)

社会環境論コース

人間の発達と社会の発展を多様な視点から学ぶ

「社会」とは不思議なものです。社会は一人ひとりの人間の集合であり、社会を形作っているのは他ならぬ私たちです。そして私たちは、この社会の中で迷いや力不足を感じつつ、少しでも幸せに、充実して生きていこうとしています。しかしその一方で、私たちはこの社会の中でなかなか思うようには生きていきません。むしろ「生きにくい」と感じている人も少なくないでしょう。しかもこうした苦しさや不安、窮屈さは、最近ますます強まっています。私たち自身が社会を作っているはずなのに、なぜこうなるのでしょうか。こうした問題を考えるのが、社会についての新しい科学である社会環境論です。社会環境論では、社会を人間の自由な発達のための環境としてとらえます。今の社会で私たちはどんな状況に置かれているのか、私たちはなぜこうした社会を作り出したのか、一人ひとりが思う存分に生きるためにはどんな社会であればいいのか、そしてそうした社会を私たち自身がどう作り上げるのか。これが社会環境論のテーマです。社会全体の問題が一つの解法でなかなか解けないので、このテーマに取り組むには社会を多面的にみる必要があります。そのため社会環境論は、様々な分野(政治、経済、法律、歴史、地理、社会、思想…)をベースにしながら、その枠を越えた学問を目指してチャレンジしています。あなたもこのチャレンジに参加してみませんか？面白さは保証付きです。

(詳細は p.77 へ)

発達支援論コース

(詳細は p.81 へ)

発達支援論研究を2年次に修得した学生は、3年次より4学科横断の発達支援論コースに進むこともできます。

ESDサブコース

(詳細は p.84 へ)

ESD サブコースでは、履修コースに所属しながら「持続可能な社会づくりのための教育(ESD)」カリキュラムを受講できます。

人間環境学科の教育研究上の目的

広い知識を受けるとともに、人間の発達の在り方に深くかかわる環境の諸問題を総合的・学際的に探究し、自然環境、数理情報環境、生活環境及び社会環境の視点から教育研究を行い、理系・文系の枠を超え、教養及び多様な専門的知識を身に付け、それらの統合・融合を積極的に図り、新たな人間環境の創造に向け、理論的・実践的な問題解決の能力を有する人材を養成することを目的としています。

コースの定員

第2年次より各履修コースに所属することになりますが、各履修コースには次の定員が設定されています。履修コースの決定に際しては、第1年次の終わりに所属学科の各コースのガイダンスやオリエンテーションの上、受け入れ可能人数を超えない範囲で希望を調整します。

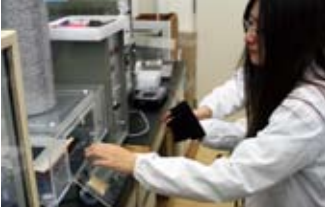
自然環境論コース:35名	数理情報環境論コース:25名
生活環境論コース:30名	社会環境論コース:30名

学科共通科目

人間環境学概論	自然環境概論	数理情報環境概論	生活環境概論
人間と環境との関係に関わる問題として自然環境破壊をとりあげ、それを人間環境学科の四つのコースに属する教員がそれぞれの専門領域の立場から検討する。	人類をとりまく自然環境を宇宙・地球・生命の発展史という観点から眺め、その視点から人類と自然との関わりと現代の自然環境問題を考える材料を提示しつつ論じてゆく。	急速な発展、変化をとげる様々な情報環境（コンピュータや情報ネットワークなど）に関わる諸問題に取り組む数理情報環境論の全体像を講義する。	私たちの暮らしをとりまく環境が実際の人間生活に及ぼす問題について、生活空間、生活技術、生活資源という三つの観点から、総合的に概説し考察する。
社会環境概論	統計の考え方	環境モデリング入門	高齢者環境論
現代の日本と世界に現れつつある社会環境の実態を、「グローバリゼーション」という用語を切り口に検証しながら、そこでの問題の構造を多面的に議論する。	現代社会は、情報が溢れていると言われる。これらは、すべてデータ化して客観的に取り扱うことが望まれる。このような統計の考え方を基本から解説する。	環境問題を自分なりに理解するために、簡単な数学的なモデルを組み立て取り扱う方法を、いくつかの具体的な環境問題を題材として学ぶ。	環境が人間活動の意味（心理）に及ぼす影響を考察しながら、高齢者福祉環境において、生涯にわたる人間の発達とそれを支える環境づくりを再考する。
エコロジー論	発達支援論研究		
「人間環境と自然・社会・発達」という総括的テーマで、現代の自然環境破壊・保全に関わる諸問題を、人間環境学・人間発達論の視点から考察する。	ヒューマン・コミュニティ創成研究についての関心を得て、入門的な知識について学び、具体的な専門領域における支援の方法について考える。		

主な共通専門基礎科目

物理学 B1	物理学 B2	物理学 B3	物理学 C1
自然現象を理解するための基礎として力学（ニュートンの3法則、エネルギー保存、運動量の保存等）を学ぶ。高校での物理の履修を前提としない。	自然現象を理解するための基礎として電磁気学（電場、磁場、電気回路等）を学ぶ。高校での物理の履修を前提としない。	自然現象を理解するための基礎として波動、熱など（流体、振動、波動、熱力学、統計力学等）について学ぶ。高校での物理の履修を前提としない。	自然現象を理解するための基礎として力学（ニュートンの3法則、運動方程式、振動、保存力とポテンシャル、エネルギー・運動量の保存等）を学ぶ。

物理学 C2	物理学 C3	物理学 C4	物理学実験
自然現象を理解するための基礎として波動、熱など（弾性体、流体、固有モード、共鳴、熱力学、統計力学等）について学ぶ。	自然現象を理解するための基礎として電磁気学（電場、磁場、電気回路、マックスウェル方程式等）を学ぶ。	自然現象を理解するための基礎として、マックスウェル方程式、電磁波および、現代物理学（特殊相対性理論、量子力学入門）を学ぶ。	物理学の各分野（力学、電磁気学、光学、原子物理学、実験技術）に関する基礎的実験を行う。現象を体験し、実験技術を修得し、物理学の理解を深める。
無機化学基礎	有機化学基礎	生物学 I	生物学 II
物質の性質は、原子の種類と原子間の結合様式によって決まる。物質の性質を理解するために必須の「原子構造」と「化学結合」を詳しく解説する。	有機化学における化学結合、立体化学、および反応について基礎を学ぶ。多様な有機化学反応の統一的把握を目指し、生活に関連する話題も取り上げる。	分子・細胞・個体・集団・種レベルにおいて、生命現象がいかにとらえられているかを、微生物を含む動・植物それぞれの分野について学ぶ。	生命の基本単位である細胞の特性、それが個体としての多細胞生物の構造や機能にどのように反映され、さらに生物多様性がどのように成立するかを学ぶ。
生物学 III	基礎地学	線形代数学入門	線形代数学 1
生命の起源と進化、生物の多様性と分類、微生物、動物および植物の世界を概観し、光合成、生物のエネルギー生産の仕組みなどについて学ぶ。	人間の住む地球とそれを取り巻く環境を理解するために、太陽系と地球、地球の内部構造、地球表面の変動と地震、大気と海洋など、地学の基礎を学ぶ。	文系学部 of 学生や高度な数学を必要としない学生を対象に、複数の項目の値（3次元までのベクトル）を、行列を使って効率よく扱うための数学的理論について学ぶ。	理系学部 of 学生や比較的高度な数学を必要とする学生を対象に、n次元ベクトルや行列に関する数学的理論（連立1次方程式、逆行列、ベクトル空間など）について学ぶ。
線形代数学 2	微分積分学入門	微分積分学 1	微分積分学 2
理系学部 of 学生や比較的高度な数学を必要とする学生を対象に、n次元ベクトルや行列に関する数学的理論（行列式、線形写像、固有値など）について考察する。	文系学部 of 学生や高度な数学を必要としない学生を対象に、関数の変化の仕方を求める微分、関数の変化の仕方に対して元の関数を求める積分について学ぶ。	理系学部 of 学生や比較的高度な数学を必要とする学生を対象に、1変数関数の微分に関してテイラーの定理、および多変数関数の微分である偏微分について学ぶ。	理系学部 of 学生等、専門分野で比較的高度な数学を必要とする学生を対象に、1変数関数に関する広義積分や多変数関数の積分である重積分について学ぶ。
数理統計学	法律学	経済学	政治学
確率変数とその期待値などの初等確率論と点推定・区間推定・仮説検定などの統計推測の利用方法、および誤差評価表について講義する。	法とは何か（法の分類・法の歴史・法の体系・法の解釈）の後、訴訟制度（刑事訴訟・行政訴訟・民事訴訟・憲法訴訟）について講じ、最後に国際法について取り上げる。	経済学の基礎理論をスミス、ケネー、リカード、マルクス、ケインズ等の学説に遡りながら解説し、現代経済の理解に必要な分析ツールを整理する。	現在の発展途上諸国家の政治状況をどのように見たらよいかを検討する。発展途上国の現状をこれまでの西洋社会中心の「政治思想」「政治学体系」で説明しうるのがどうかのポイントである。
人文地理学	外国史	社会学	日本史
地理学の性格・基本概念について考え、その学問的な発展動向を展望した後に、都市地理学の領域をとりあげ、その研究成果について検討を加える。	19世紀から現代にいたるヨーロッパおよびアメリカ歴史を概観する。構成は、近代の形成、近代の矛盾、近代の変容、近代から現代へ、である。	マックス・ウェーバーをはじめとする社会学の諸理論をもとに、合理的なはずの近代社会で生きる人々が抱えてしまう矛盾と困難について考える。	日本古代の文献「風土記」を素材に地域に残される景観、地名、民俗、信仰などの地域遺産を視野に入れながら古代の地域生活史を点描する。
倫理学			
具体的な問題（「テロと報復」、DVなど）を題材として、思想家たちの言葉を手がかりに、現代における自己と他者との関係のあり方を探る。			

主な取得可能な資格免許

中学校教諭一種免許状（理科）・高等学校教諭一種免許状（理科）	学芸員
中学校教諭一種免許状（数学）・高等学校教諭一種免許状（数学）	社会教育主事
中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）	社会福祉主事任用資格
中学校教諭一種免許状（家庭）・高等学校教諭一種免許状（家庭）	環境再生医資格

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
共通専門基礎科目	● 物理学 B1・B2 ● 物理学 C1・C2・C3 ● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎 ● 生物学 I・II・III ● 基礎地学 ● 線形代数学入門 ● 線形代数学 1・2 ● 微分積分学入門 ● 微分積分学 1・2 ● 法律学 ● 経済学 ● 政治学 ● 社会学 ● 倫理学	● 物理学 B3 ● 物理学 C4 ● 物理学実験 ● 数理統計学 ● 人文地理学 ● 外国史 ● 日本史		
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 人間環境学概論 ● 自然環境概論 ● 数理情報環境概論 ● 生活環境概論 ● 社会環境概論	● 統計の考え方 ● 環境モデリング入門 ● 発達支援論研究	● 高齢者環境論 ● エコロジー論	
コース専門科目	● 自然科学演習 ● 自然科学総合演習 	● 自然環境科学実験 A・B・C ● 自然環境科学 ● 環境地球科学 A・B ● 現代物質科学 ● 現代物理化学 A ● 現代生命科学 A ● 宇宙史 ● 大気環境学 ● 環境計測学 A ● 鉱物学 ● 植物環境学 1・2 ● 生活環境緑化論 1 ● 生物多様性論 ● 自然環境科学特論 A・B ● 自然環境総合演習 ● 情報処理演習 ● 環境数値解析 1 ● 応用数学入門・同演習 ● 数理の基礎 ● 解析系の基礎 ● 数理統計の基礎	● 現代物理化学 B ● 現代生命科学 B ● 環境物理学実験 ● 物質環境科学実験 ● 生物環境科学実験 ● 地球環境科学実験 ● 野外生物学実習 ● 分子生命科学実習 ● 地球環境科学特別講義 ● 地球環境変遷学 ● 宇宙環境物理学 ● 無機化学 ● 環境植物生態学 ● 科学哲学論 ● 環境遺伝学 ● 環境地球化学・同演習 A ● 環境計測学 B ● 生活環境緑化論 2 ● 環境経済学 ● 公衆衛生学 ● 身体適応論 ● 環境物理学 ● 量子物理学 ● 基本粒子物理学 ● 分析化学 ● 環境有機化学 ● 生物有機化学 ● 化学反応論 ● 量子化学 ● 高次分子生命科学 ● 生物環境科学 ● 動物行動生態学 ● 環境地質学・同演習 1 ● 地球流体力学 ● 自然環境科学特論 C・D ● 人間環境学総合演習 ● 環境数値解析 2 ● 生命情報科学 A ● 応用解析学 A ● 応用統計学 A ● 情報環境科学 A・B・C	● 環境地球化学・同演習 B ● 環境地質学・同演習 2 ● 現代物質化学演習 ● 環境物理学特別演習 ● 生命情報科学 B ● 応用解析学 B ● 応用統計学 B
卒業研究				● 卒業研究

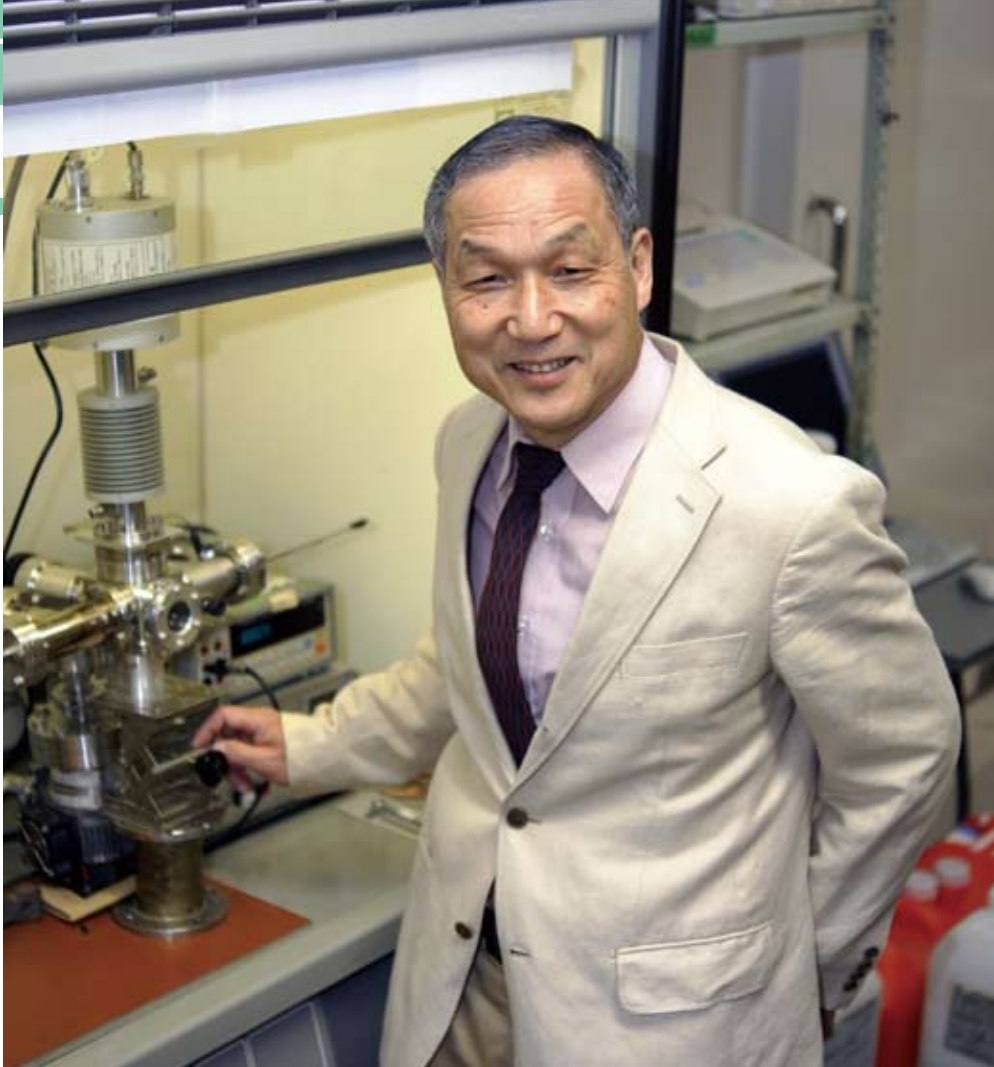
ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。



分光光学で迫る
生命の起源と環境科学

太陽の光をプリズムで分けて細かく見たことがありますか？ 緑や赤の光を背景に見える黒い細い筋は水や酸素などの分子が原因です。黒い線は多数あって、線の波長と強さを測るとあなたと太陽の間にある分子の数が分かるのです。分光光学による大気環境科学と言います。日本の人工衛星「いぶき」はこの原理を使って地球上の二酸化炭素の絶対量を宇宙から測っています。自然環境論コースの大学院生がこの研究に参加しました。

太陽光は生物に有害な紫外線も出しているのはよくご存じですね。実はこの有害な紫外線を化学反応の原動力として宇宙でもアミノ酸などの生体分子が出来るのです。最初の生命が誕生する前の物質としての進化を化学進化と言い、私たちは、紫外線がどんな分子をどのように作るか、大型放射光施設・SPring-8 などを使って調べています。国際宇宙ステーションの実験施設「きぼう」や探査機「はやぶさ 2」での実験も計画しています。我と思わん方、どうぞご参加を。



中川和道 教授（放射光物性物理学，環境物理学）

神谷麻梨 さん（自然環境論コース 4 年生）



恵まれた環境で将来を見つめ、
「今」を思い切り楽しんでいます

自然環境論コースでは、自然科学を総合的に学びます。4 回生では専攻を 1 つ決めますが、授業は全ての分野にまたがって開講されるので、境界分野の研究や、一つの分野だけでは解決できない環境問題に取り組むのに役立ち、さらに進路にも数多くの選択肢が生まれます。私は高校で生物と化学を選択しましたが、大学では地学と物理も含め、どんな質問も歓迎して下さいと先生と、共に学ぶ仲間のお蔭で今まで知らなかった物の見方を得ました。特色ある授業が多く、学外の研究所などの見学旅行や、自分で仮説を立て研究する授業で、私は本当に研究したいテーマに出会い、現在大学院への進学を希望しています。

学んだことや自分の考えを発表・表現する機会も豊富にあり、私は天文ボランティア「アストロノミア」で、望遠鏡を小学校へ持って行き子ども達と星を見たりしています。さらに、合宿・バーベキュー・スポーツ大会などコース全体のイベントも多く、先生や先輩との繋がりが強いのも魅力です。

自然環境論コース

科学の幅広い視野を備えて自然環境の本質を探求し，課題に挑む

スタッフと研究分野・研究テーマ

＋2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

青木茂樹 教授	伊藤真之 教授	上地眞一 教授＋	丑丸敦史 准教授	榎本平 教授
素粒子・宇宙線物理学	宇宙物理学，科学教育	生物有機化学	植物生態学	分子生物学
素粒子および宇宙線に関する実験的な研究をしています。	人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測の研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	環境に優しい触媒である酵素を用いて，有用物質の変換（化学反応）や光学異性体の分離を行っています。また，酵素表面を化学修飾することによって酵素の機能改変を試みています。	花（被子植物）の形質進化や多様性創出機構および里山や都市域における生物多様性保全を目的とした希少種の分布特性・環境依存性の解明を目指しています。	高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類 Botryococcus braunii の開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。

江原靖人 准教授	蛭名邦禎 教授	大串健一 准教授	齊藤惠逸 教授	高見泰興 准教授
生物有機化学	環境物理学，理論生命科学	地球環境	分析化学	進化生態学
生物の優れた能力を利用した，新規機能性物質の創製，さらに，それらの物質を組み合わせた人工細胞，人工生命の構築を行っています。	地球システムと生命システムのダイナミクスを理解するための基礎理論の構築と，環境問題に係わる科学研究の成果の批判的な検討を行っています。	地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。	発光現象を利用した物質の分析法，有機化合物を用いた金属イオンセンサー，ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	地球上の多様な生物が，どのように生じ，維持されているのかについて，形態学，行動学，生態学，進化学の各視点から研究しています。

武田義明 教授	田中成典 教授	寺門靖高 教授	中川和道 教授
植生学，植物生態学	計算生物学，理論生命科学	環境地球化学	放射光物性物理学，環境物理学
植物群落は，気候，地形・地質等の環境および人為影響などの総合的な環境を反映して成立しています。その環境と種類組成，種多様性の関係を研究しています。	タンパク質や DNA，RNA などの生体分子に対する計算機シミュレーションや原子・分子のミクロなレベルからコンピュータ上で構築する理論構造生物学について研究しています。	元素の濃度や同位体の分析による地球環境（河川水などの水質，サンゴや貝殻を造る生物鉱化作用，環境物質の起源，岩石や地殻の成因など）について研究しています。	大気環境科学（太陽を光源とした温暖化ガスの検出など）やシンクロトン放射を用いた生体分子の分光（アミノ酸や DNA 分子など）に関する研究を行っています。

主なコース専門科目

自然環境科学実験 A（主として地学）	自然環境科学実験 B(主として生物学)	自然環境科学実験 C（主として化学）	自然環境科学
地質，古生物，岩石，鉱物，水質に関する基本的実験を行う。	生物環境を研究する重要な基礎としての生物学の基礎的な実験を行う。	物質の性質と反応について理解を深めるために，金属イオンの定性分析を行う。さらに，環境物質の合成・抽出・定量に関する基礎的な実験を行う。	大気環境科学の入門を講義する。
環境地球科学 A	環境地球科学 B	現代物質科学	現代物理化学 A
地球環境を考える基礎となる地球表層部における物質を中心に固体地球の構造と歴史を地球のダイナミックな動きと合わせて解説する。	安定同位体による古気候研究，放射性同位体を用いた年代測定，河川水・海水の化学組成と物質循環を中心に地球環境に関する基礎的事項を解説する。	無機化学における溶液化学の実験的な取り扱いや，ラジカル反応による環境破壊などの有機化学分野と様々な環境問題との接点について解説する。	あらゆる物質のもととなる原子の振る舞いを理解する基礎として量子力学の基本を学ぶ。
現代物理化学 B	現代生命科学 A	現代生命科学 B	環境物理学実験
分子論的なアプローチを併用した熱力学の基本原理と気体への応用，電気化学の基礎的事項（電解質溶液，可逆電池）と応用（pH の測定，腐食・防食など）について講義する。	アミノ酸，タンパク質の高次構造，遺伝子からタンパク質への転写，翻訳，および糖の構造について講述する。	群集構造（食物網の構造等）や群集の遷移などの生態学の基礎的な内容，また自然選択や性選択，中立進化など進化学の基礎的な内容について講述する。	環境科学に必要な実験のうち，大気分光，放射線測定，蛍光 X 線解析など，物理学に関わりの深い課題を取り上げ，実験実習を行う。

物質環境科学実験	生物環境科学実験	地球環境科学実験	野外生物学実習
有機化学，生化学，無機化学，分析化学に関する実験技術の習得を目的とし，環境に関わる有機および無機物質について，合成・抽出・分析の実験を行う。	生物環境を研究する重要な基礎としての生物学の基礎的な実験を行う。	自然環境科学実験（2 年次）で学習した内容を深める発展的実験を行う。	野外において被子植物と昆虫の調査を行うとともに，その生態および環境との関係を把握する実習を行う。
分子生命科学実習	宇宙史	環境遺伝学	鉱物学
体の組織や細胞からゲノム DNA，RNA，タンパク質などを抽出・分離し，特定の遺伝子の構造，機能を分子生物学の技術を用いて，実験解析する。	宇宙の誕生から惑星形成に至る物質進化と天体形成過程および宇宙の各階層の天体を概観し，現代科学の宇宙像を学ぶ。	環境の変化が，生物集団の遺伝的多様性にどのように影響をおよぼすのかについて，集団遺伝学の理論と様々な研究事例を基に解説する。	環境物質を研究する基礎となる鉱物について結晶構造を中心に基礎的用語や研究手法，さらに主要鉱物について具体例を挙げて解説する。
地球環境科学特別講義	地球環境変遷学	宇宙環境物理学	無機化学
地球表層部の環境変化に大きく影響しているのが海洋－大気－生物間の物質循環である。本講義では地球環境における物質循環の役割について最新の情報を解説する。	これまでの古環境研究に基づいて明らかとなった地球環境の変遷について講義する。特に人類の進化した第四紀の環境変動を重点的に紹介する。	人工衛星等による宇宙利用を念頭に置き，宇宙環境の物理的特徴を学ぶとともに，物理学の知識に基づき，宇宙空間の諸現象を理解，記述する基礎を学ぶ。	無機化学の重要な一分野である錯体化学について解説する。元素および化合物の性質，反応などを電子配置の類似性と関係付けて解説する。
環境植物生態学	科学哲学論	大気環境学	環境地球化学・同演習 A
植物の生育や分布の環境要因，植物群落の成立要因とその環境，植物の生活戦略，生物の多様性，人間と植物群落の関わりなどについて講述する。	自然科学の目的，方法，性格，価値，理解の構造などの問題を，科学者としての内側からの視点と，科学哲学者による外側からの視点の両側面から論じる。	地球の大気・水圏の成立ちについて論じた上で，大気圏と水圏，特に赤道域での大気・海洋の相互作用を論じる。	主として水質および二酸化炭素循環に関する地球化学の基礎となる溶液と鉱物の基本的事項について解説し，水質や環境に関する具体的研究事例についても紹介する。
環境地球化学・同演習 B	環境計測学 A	環境計測学 B	環境物理学
水環境や水質を考える場合に重要な事柄および地球化学のうち主として水の関係する基礎的事柄について解説し問題演習を行う。	水質成分の計測法について説明し，キャピラリー電気泳動とはどのような分析法なのかを説明する。また，無機イオンの分析と，有機化学物質の分析についても，それぞれ解説する。	放射線と物質の相互作用，場の量の表現など放射線環境計測について学び，センシング技術，信号伝送と変換，システム化など環境計測の基礎を修得する。	環境科学のうち，自然エネルギー，原子力エネルギー，放射線と物質や生物との相互作用について論ずる。
量子物理学	基本粒子物理学	分析化学	環境有機化学
自然理解の基礎としての量子物理学について学ぶ。解析力学の基礎から初めて量子物理学に必要な考え方や数学的定式化を学び，基本的枠組みを修得する。	人類がこれまで理解を深めてきた物質の成り立ち（原子→電子・原子核→陽子・中性子→クォーク）の考え方を学ぶ。	化学反応を念頭において機器分析について解説する。主に物質の光学的，電気的性質を利用する機器分析法の原理と応用について解説する。	環境負荷物質として主に PCB を，環境負荷軽減物質として生分解性プラスチックを取り上げて，酵素機能を利用する環境改善のための化学について解説する。
生物有機化学	化学反応論	量子化学	高次分子生命科学
遺伝子操作の基礎，核酸，ペプチドの固相合成，抗体酵素などについて講述する。	化学反応率をどのように取り扱うか，率を決める要因は何か，化学反応を分子レベルで考えるどのように扱えるかなど，化学反応研究の基礎を学ぶ。	現代化学の基礎であり，量子力学と電磁気学に基づいて物質の化学的な性質を解明する量子化学の基礎を扱い，分子論的な物質理解への導入を与える。	地球生命体の源である光合成機構や生命体のエネルギー獲得・利用システムであるミトコンドリアでの ATP 生成などについて環境要因と絡めながら講義する。
生物環境科学	動物行動生態学	生物多様性論	環境地質学・同演習 1
陸上生態系の生産者である被子植物の進化・多様化について学ぶ。また，世界中で進行する被子植物の多様性減少の現状についても講述する。	動物の行動がどのように決められるのかについて，個体発生，神経生理，適応，系統進化という 4 つの視点から，多くの例を基に解説する。	陸上維管束植物の進化について理解し，各地の多様な植物群を概観，系統分類学の方法論を学ぶ。さらに，生物多様性保全の取組みについて学ぶ。	地層から読み取れる環境情報の解析技術について学ぶ。さらに，土砂災害，土壤汚染，地下水汚染など環境地質学に問題について解説する。
環境地質学・同演習 2	地球流体力学	自然科学演習	自然科学総合演習
地球表層部の環境変動について理解を深めるため，専門誌に掲載された最新の環境地質学関連の論文を輪読する。	大気や海洋を理解するための基盤となる流体力学の基礎を学ぶ。流れの記述法，流体力学の基礎方程式，音波，水の波，渦などについて講述する。	物理学および数学を中心として，大学の初年次に学ぶ内容の演習を，少人数のグループに分け，大学院生のティーチングアシスタントの補助のもとで行う。	サイエンスのプロになるための基本的な素養とは何かを知る。基礎的な測定技術，データの整理の仕方，結果のまとめ方，発表の仕方の基礎を学ぶ。

次のページに続く

自然環境論コース

科学の幅広い視野を備えて自然環境の本質を探求し，課題に挑む

主なコース専門科目（続き）

自然環境総合演習

環境科学の先端的課題について，研究の前線の状況を調べて発表した後，国立環境研究所，宇宙航空研究開発機構などの研究機関を訪問，見学する。

情報処理演習

文書編集，表計算，プレゼンテーションなどで，広く利用されている標準的ソフトウェアの基本的使用法について，演習・実習を行い習得する。

生命情報科学 B

生命科学・生物科学をゲノムや蛋白質等に関する情報を基に研究するバイオインフォマティクスの基礎と実践技術を講義と演習によって学ぶ。

人間環境学総合演習

参加者自らが環境科学，自然科学などに関する課題を設定し，調査・研究計画を立てて研究を遂行し，ポスターセッションによる発表と論文の提出を行う。

環境数値解析 1

プログラミングの初歩を学び，自然現象を再現するシミュレーションプログラムを作成する実習を行う。

応用数学入門・同演習

自然や社会の現象を理解するための数学的手法の習得を目指し，基礎数学をベースとして，解析学，線形代数学の入門について講義と演習を並行して行う。

現代物質科学演習

無機化学，分析化学，有機化学および生物有機化学に関する演習を行う。また，英語で書かれた論文を講読し，それを基に討論する。

環境数値解析 2

環境数値解析 1 での学修をふまえて，オブジェクト指向言語によるプログラミングの実習を行う。

環境物理学特別演習

受講生が自ら取組む研究の経過や関連する文献の紹介など，コロキウム（セミナー）形式で発表を行い，プレゼンテーションや学術的議論の方法を習得する。

生命情報科学 A

新しく発展しつつある生命情報科学のツールを使いこなすための基本的な考え方と，そこで必要となる生命科学・情報科学の基礎概念を解説し，演習を行う。

卒業研究テーマ

2009 年度

- 大腸菌トリプトファン合成遺伝子プロモーター発現検出ベクターの構築の試み
- アガロースゲル培養・グリセリン処理法による Botryococcus braunii の迅速な同定・分離
- グリセリン処理法による Botryococcus braunii の細胞単離と単一細胞の培養
- Botryococcus braunii の遺伝子検出のための細胞 PCR 法の開発
- Botryococcus braunii rRNA 遺伝子プロモーターの検索
- 合成アダプター / ゲル抽出による Bb 特異的 DNA の PCR 増幅の試み
- 阪神地区におけるトノサマガエル集団の遺伝的構造～生息地周辺の景観が与える影響～
- ネジバナにおける隣家受粉による自殖の増加
- 圃場整備畦畔と伝統的畦畔の資源環境と半自然植生～植生変化のメカニズム～
- ウバメガシ林の管理と群落構造
- 再度山人為処理区の 30 年間の遷移動態について
- 計算機シミュレーションによるインフルエンザタンパク質と宿主因子の結合解析

2010 年度

- Barkner Marshall モデルの改良の試み 死骸による紫外線遮蔽
- RNA を切断する DNA 酵素 (DNAzyme) の in vitro Selection
- イオン選択性電極におけるイオン感応物質としての新規大環状ポリチオエーテルジカルボン酸の合成
- イカダモの培養による水質変化
- インフルエンザウイルスヘマグルチニンタンパク質と抗体の複合体に対する分子動力学計算の拘束条件の決定
- エマルジョンガンマ線望遠鏡用コンバーター部のテストビームを用いた組立精度の評価
- オンライン光化学反応—化学発光検出法によるニトロソアミン類の高感度 HPLC 分析
- 木曽馬の産地・開田高原における管理の放棄・変化に伴う半自然草原の植物多様性減少メカニズム
- グリシン固相における真空紫外線誘起化学進化実験の再検討
- クロナガオサムシにおける精液物質の生理学的機能の解析
- 原子核乾板中の α 崩壊核種の存在量に関する研究
- 原子核乾板内での多重電磁散乱を用いた GeV ガンマ線の運動量測定
- 光合成色素蛋白質複合体の分子動力学シミュレーション—クロロフィルの力場作成

- SEM-EDX を用いた神戸市東部におけるエアロゾルの個別粒子分析
- 北海道苫小牧沖における有孔虫の酸素同位体比に基づく過去 1 万 6 千年間の環境変動
- 下北半島沖海底コアの有孔虫酸素同位体比に基づく完新世の古環境変動復元
- 岩石中のフッ素の定量方法の検討と六甲花崗岩への応用
- 藻類の培養による水質形成過程に関する実験的研究
- シアル酸修飾 DNA の合成とそのキャラクタリゼーション
- ルテニウム錯体化学発光法を用いた還元糖の検出
- 月 α 線観測のシミュレーションによる評価
- ガンマ望遠鏡のためのデイトタイムスターカメラシステム開発に向けた CCD カメラを用いた基礎研究
- 80K における真空紫外線誘起化学進化
- クロロフィル蛍光時系列データに対する定量的解析法の提案
- 分子動力学における熱浴法の批判的検討

- 交雑帯における遺伝子浸透を利用した種分化遺伝子の解析
- 神戸層群凝灰岩の Rb-Sr 年代と Sr 同位体比
- 神戸大学における酸性雨の主成分および微粒子の観察
- 触媒能を有する DNA 創製のためのカルボン酸修飾 dcTP の合成とその導入評価
- チョウセンカマキリにおけるセクシャルカニバリズムの適応的意義
- 電気化学発光検出を用いる微小流体デバイスの開発
- 糖鎖修飾非天然 DNAzyme の RNA 切断能評価
- 糖鎖認識核酸構築のためのフェニルボロン酸修飾 UTP の合成
- 都市公園におけるクロヤマアリの遺伝的多様性とコロニー数及び集団構造の解析
- ナラ枯れが森林の植生と多様性に与える影響
- ニホンミツバチの体の窒素同位体比を用いた都市環境における窒素負荷調査
- 圃場整備地における多様性の減少と群集組成の変化～植生高が繁殖に及ぼす影響～
- フィルタ捕集法を用いたリン酸イオンの化学発光検出
- ブシネスク方程式によるローレンツアトラクタの考察

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ (p.121, p.125)

2009 年度

- アステラス製薬 ● 香川県職員 ● 京阪電鉄 ● コスモ石油 ● 神戸市職員 ● 福知山市職員 ● 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 神戸大学大学院システム情報学研究科 ● 神戸大学大学院理学研究科
- 大阪大学大学院生命機能研究科 ● 北海道大学大学院環境科学研究科

2010 年度

- アルペン ● NTT ファシリティーズ ● 商船三井 ● 北杜林 ● 類設計室 ● 神戸市職員 ● 神戸大学職員
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 神戸大学大学院システム情報学研究科 ● 大阪大学大学院医学系研究科
- 慶應義塾大学大学院医学系研究科

主な資格免許の取得状況

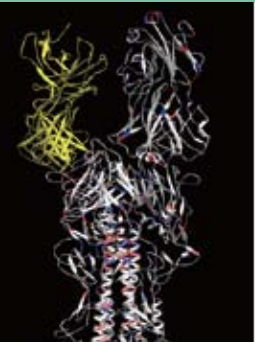
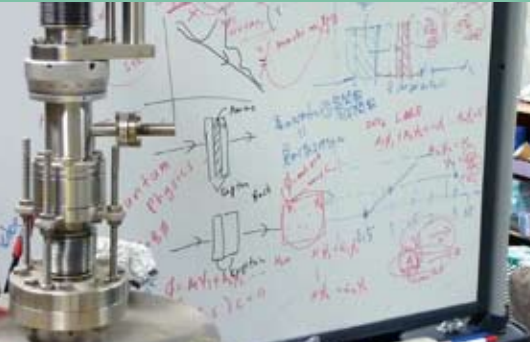
社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度

- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 学芸員
- 環境再生医資格

2010 年度

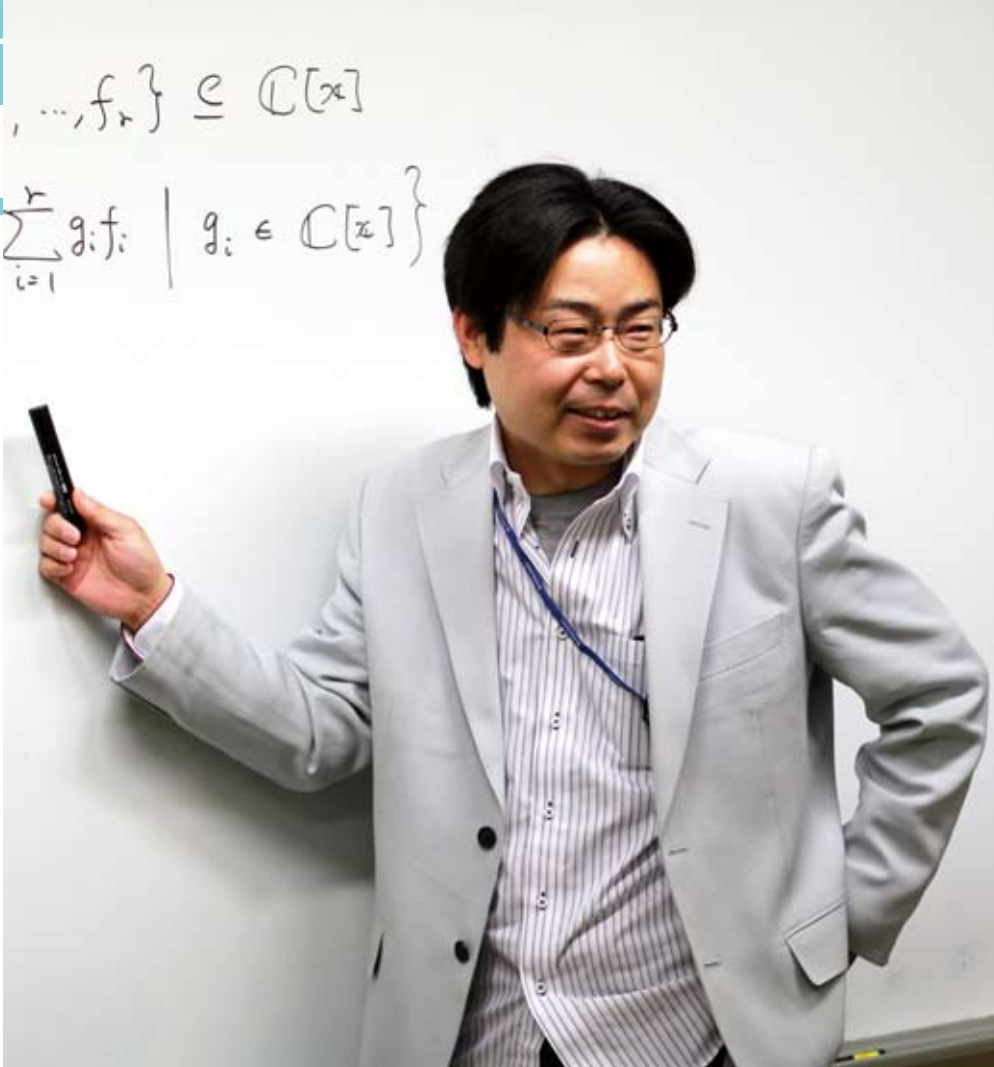
- 中学校教諭一種免許状（理科）
- 高等学校教諭一種免許状（理科）
- 学芸員
- 環境再生医資格



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
共通専門基礎科目	● 物理学 B1・B2 ● 物理学 C1・C2・C3 ● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎 ● 生物学 I・II・III ● 基礎地学 ● 線形代数学入門 ● 線形代数学 1・2 ● 微分積分学入門 ● 微分積分学 1・2 ● 法律学 ● 経済学 ● 政治学 ● 社会学 ● 倫理学	● 物理学 B3 ● 物理学 C4 ● 物理学実験 ● 数理統計学 ● 人文地理学 ● 外国史 ● 日本史		
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 人間環境学概論 ● 自然環境概論 ● 数理情報環境概論 ● 生活環境概論 ● 社会環境概論	● 統計の考え方 ● 環境モデリング入門 ● 発達支援論研究	● 高齢者環境論 ● エコロジー論	
コース専門科目		● 数理の基礎 ● 数理と計算機 ● 計算機科学 A・B ● 幾何系の基礎 ● 解析系の基礎 ● 代数系の基礎 ● 数理統計の基礎 ● 生活環境メカニクス 1 ● 生活環境電子計測論 1 ● 社会調査法	● 応用代数学 ● 数理と論証 ● 計算機数学 ● 応用解析学 A・B ● 応用幾何学 A・B ● 応用統計学 A・B・C ● 数理情報先端特論 ● 情報環境科学 A・B・C ● 代数学 II ● 解析学 III ● 幾何学 III ● 確率論 I ● 環境経済学 ● 生命情報科学 A・B ● 生活環境メカニクス実験 ● ヒューマンエレクトロニクス実験 ● 数理認識発達論 ● メディア論 ● 応用数理特論 1 ● 情報環境特論 1	● 応用数理 特論 2・3 ● 情報環境 特論 2・3
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。



長坂耕作 准教授（計算機代数）

坂本美樹 さん（数理情報環境論コース 4 年生）



パソコンに数学をさせることで、魔法のようなことを実現しよう

「Any sufficiently advanced technology is indistinguishable from magic.（意訳：進歩した科学技術は、魔法のように見える）」とは、SF 作家アーサー・C・クラークが定義した第 3 法則です。実際のところ、我々の社会の至る所で活躍するコンピュータは、まさに魔法のような機械と言っても過言ではないでしょう。しかし残念ながら、コンピュータは魔法の力で動いているわけではありません。地道な要素技術（数学や工学など）の組み合わせによって実現されているものです。例えば、コンピュータに数学の問題を解かせるためには、コンピュータに数学を理解させるところから始める必要があります。私のゼミでは、数式や数値の計算方法とウェブなどの情報技術を組み合わせることで、実社会の複雑化した問題をコンピュータを介して克服しようとしています。学生には、魔法の追求ではなく地道に知識を積み重ねることで、数理科学を深く理解して欲しいと思っています。

自分の考えが広がる！
視野が広がる！

私は、数学とは机上で学ぶだけで、社会であまり使われることがないという思いがあり、なるべく数学を使わない情報系のゼミに進もうと当初考えていました。しかし、企業の方から品質管理に関する講義を受ける機会があり、企業の品質管理において統計学が広く使われているということを知りました。それは統計学に基づいた品質管理の実験を行うことで、今まで学んでいた統計学が、実際に社会で使われていることを初めて知った瞬間でした。
この経験から社会での統計学の必要性を強く感じ、現在は統計学のゼミで実学としての数学を学んでいます。数理情報環境論コースは、これら様々な講義などを通じて、自分の考えの幅を広げてくれるコースだと思います。また、数理情報環境論コースは、先輩と後輩の隔たりがなく、先輩に相談にのってもらったり、経験談を聞いたりすることが多く、将来についての視野も広がります。将来について真剣に話ができる仲間がいる、これもこのコースの魅力です。

スタッフと研究分野・研究テーマ

稲葉太一 准教授 数理統計学，応用統計学，データ解析 統計学は，データを解析することから始まります。学部生の間に，自分の興味を持てるテーマを選び，適切な統計手法の適用方法を研究することを目的としています。	桑村雅隆 准教授 応用解析学 物理学，化学，生物学などに現れる問題を解析学（微分積分学を基礎としている数学の一分野）とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。	阪本雄二 准教授 数理統計学 水の流れの中を漂う花粉の運動や株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について，そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。	高橋譲嗣 教授 数理論理学 論証による証明を効率よく理解しかつ正しく書くために有効な実践的知恵の体系化，及び数理的方法全般の数理論理学の手法を用いた考察に取り組んでいます。
高橋真 教授 情報論理学 システム検証（ソフトウェアが信頼できるかどうかを数学的な方法で検証する方法）と公理的集合論（集合の理論を公理的に扱う体系）を研究しています。	長坂耕作 准教授 計算機代数 数値・数式融合計算（パソコン上で様々な計算を行うために必要な理論研究やプログラミングによる実現）と，その応用（ICT による様々な分野への展開）について研究しています。	宮田任寿 教授 幾何学的トポロジー 様々な図形をトポロジーと呼ばれる「柔らかい幾何学」によって分類したり，その考え方や技術を数学内外の様々な分野に応用する研究をしています。	

数理情報環境論コース

数理と情報が手を結び、精密で信頼性の高い問題解決の手法を生む

主なコース専門科目

数理の基礎
数理における諸分野（集合、論理、代数、解析、幾何、論理など）から題材を取り上げ、本コースで学ぶために必要な証明を読み書く能力を養う。

幾何系の基礎
最も身近なユークリッド空間上の図形を対象に、幾何学的トポロジー（柔らかな幾何学）の基礎概念を直感的に把握し、理論的体系を理解する。

応用代数
現実の問題を数学の知識を用いて解くときに必要となる代数的な性質（因数分解や方程式）の計算に関する基本的な考え方と古典的な解法を講義する。

応用解析学 B
フーリエ級数（放物型方程式の初期値境界値問題の解法など）およびラプラス変換（常微分方程式の初期値問題の解法など）の基本事項を学ぶ。

応用統計学 B
多変量データを少ない変数にまとめる統計手法（主成分分析）やグルーピング手法（判別分析、クラスター分析）の考え方や応用について講義する。

情報環境科学 B
自然界あるいは社会において観察される様々な現象の解析を、数式処理ソフトウェアないしは数値計算ライブラリを使って行う能力を養成する。

幾何学Ⅲ
位相幾何学を中心とする現在の幾何学の基本的道具であるホモロジー群（単体的ホモロジー群と特異ホモロジー群）の概念と計算方法について紹介する。

応用数理特論 2
セミナーを通して、応用数理特論 1 において習得した応用数理に関する基礎知識を発展させ、発表や論文の書き方に関する発展的な能力を身につける。

数理と計算機
数理情報分野における様々な問題に対して、コンピュータ上でデータ構造とアルゴリズムの知識を活用して、それらの問題を適切に解く能力を養成する。

解析系の基礎
微分積分学と線形代数学を復習しながら、常微分方程式の基本事項（変数分離法、定数変化法、級数展開法、行列の指数関数など）を学ぶ。

数理と論証
数理的主張の論理構造を正確に理解し、論証による証明を正しく書くために必要な知識と技能を、実践的に習得することを目的とする。

応用幾何学 A
距離の概念について考察し、この概念をもつ空間上の図形を対象に幾何学的トポロジーの基礎概念について解説し、フラクタル幾何学についても考察する。

応用統計学 C
統計的理論と計算機を用いて、問題解決を試みる講義である。具体的には、投石器でコルクを飛ばす演習を通して、実際の場面での改善活動について学ぶ。

情報環境科学 C
数理統計学の内容を実践で活かすために、計算機を用いる能力を高めることを目的としている。日々進化する「フリーソフト R」を用いて実行力を高める。

確率論Ⅰ
測度論の基礎を用いて確率論の基礎的な概念を導入し、大数の法則および中心極限定理について学ぶことにより確率変数とその分布の概念を理解する。

情報環境特論 2
セミナーを通して、情報環境特論 1 において習得した情報環境に関する基礎知識を発展させ、発表や論文の書き方に関する発展的な能力を身につける。

計算機科学 A
コンピュータの基本的な仕組みや目的に応じた OS・ソフトウェアの使い分けなど、計算機科学に関する基礎的な能力の養成を行う。

代数系の基礎
数理情報系の各専門分野に必要な代数系の基礎的な概念（整数、多項式、可換環、体など）について学び、計算の構造を理解する能力の養成を行う。

計算機数学
計算機科学の基礎となる数学的理論について解説する。特に、計算可能な関数全体が数学的にどのような構造をもっているかということを様々な計算のモデルを通して考察する。

応用幾何学 B
多面体などの比較的単純な図形を対象に、ホモロジー（単体的ホモロジー）の概念と実際の計算方法、および他分野への応用について紹介する。

数理情報先端特論
数理情報環境に関わるテーマを選んで、その最先端の研究内容や関連分野の動向を解説する。

代数学Ⅱ
加法と乗法の 2 つの演算を持つ「環」の基礎理論、および環の上の「加群」について学び、アーベル群の基本定理との関連について考える。

応用数理特論 1
応用数理の立場から文献を選び、セミナーを通して応用数理に関する基礎知識を習得し、発表や論文の書き方に関する基礎能力を身につける。

応用数理特論 3
セミナーを通して、応用数理特論 1・2 において習得した応用数理に関する知識をより発展させ、発表や論文の書き方に関する実践的な能力を身につける。

計算機科学 B
C 言語を取り上げ、プログラムの基本的な考え方、言語の文法、データ構造とアルゴリズムについて学び、プログラミングの基礎能力を養成する。

数理統計の基礎
確率変数とその期待値などの初等確率論と点推定・区間推定・仮説検定などの統計推測の利用方法、および誤差評価表について講義する。

応用解析学 A
ベクトル解析（ガウスの発散定理、ストークスの定理など）および複素解析（コーシー・リーマンの関係式、コーシーの積分定理など）の基本事項を学ぶ。

応用統計学 A
多変量データの変数間の関係を統計的に推定する方法（最小 2 乗法）や仮説検定する方法（分散分析）など、回帰分析の基本的な考え方と応用を講義する。

情報環境科学 A
アプリケーションソフトウェア（ウェブないしはデータベースなど）の開発をテーマに、プログラミングの実践的な能力を養成する。

解析学Ⅲ
主に 3 次元ユークリッド空間におけるベクトル解析、および微分形式や電磁気学との関係等について紹介する。

情報環境特論 1
情報環境の立場から文献を選び、セミナーを通して情報環境に関する基礎知識を習得し、発表や論文の書き方に関する基礎能力を身につける。

情報環境特論 3
セミナーを通して、情報環境特論 1・2 において習得した情報環境に関する知識をより発展させ、発表や論文の書き方に関する実践的な能力を身につける。

卒業研究テーマ

2009 年度

- Firefox を使った広報システムの開発 ～学内デジタルサイネージ～
- 「教科書仲介サイト」の機能とデザインの考察
- モデル検査ツール (SPIN) を用いたシステム検証について
 - ―状態遷移ダイアグラムの解析
- モデル検査ツール (SPIN) を用いたシステム検証について
 - ―リアルタイムタスクの検証
- モデル検査ツール (SPIN) を用いたシステム検証について
 - ―検証対象システムの抽象化
- Gentzen の基本定理と自然数論の無矛盾性
- スクイークを用いた数学・科学教育について
 - ―変数の活用と教材作成―
- 微分方程式モデルによる社会事象の分析
 - ―成長曲線のアラベスク
- 微分方程式モデルによる社会事象の分析 ―最小 2 乗法について
- 微分方程式モデルによる社会事象の分析 ―技術革新の波紋
- 微分方程式モデルによる社会事象の分析
 - ―戦闘のモデル ～トラファルガル海戦～

2010 年度

- Degree Theory and Borsuk-Ulam Theorem
- F1 ラップタイム解析のための数量化法
- On universal ultrametric spaces
- アメリカンフットボールにおける怪我の要因分析
- サッカーのシュートとペナルティエリア内での攻防に関する考察
- 常微分方程式について
- スクイークを用いた「速さ」教育について
- スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発
 - ～グラフ表示アプリケーション「Math Graph」～
- 測度の初歩
- バドミントンの勝敗における要因解析
- バレーボールにおけるスパイク決定率に関する分析
- ファッションコーディネートシステムに向けた Web アプリケーションの作成
- プロ野球ドラフト分析
- メビウスの帯と精神分析学の関係について
- 留数定理を用いた実定積分の計算
- ルベーク積分の初歩

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.126）

2009 年度

- 朝日生命 ● アップ企画 ● NTT コムウェア ● オースビー ● 三共 (SANKYO) ● 住友生命保険 ● ダイキチカバーオール
- 日本生命保険 ● 富士通 ● 三井住友銀行 ● みなと銀行 ● リクルート ● 京都市教員（高校）● 神戸市教員（中学）
- 三田学園高校教員 ● 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 神戸大学大学院理学研究科 ● 東京大学公共政策大学院

2010 年度

- インテリジェンス ● ウィザス ● 富士通エフ・アイ・ピー ● 三菱東京 UFJ 銀行 ● リアル ● 京都市職員 ● 学校法人平安学園
- 滋賀県教員（中学）● 奈良県教員（高校）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 東京大学大学院新領域創成科学研究科 ● 奈良先端科学技術大学院大学

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度

- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）

2010 年度

- 中学校教諭一種免許状（数学）
- 高等学校教諭一種免許状（数学）
- 特別支援学校教諭一種免許状



カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目	● 健康・スポーツ科学		
共通専門基礎科目	● 物理学 B1・B2 ● 物理学 C1・C2・C3 ● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎 ● 生物学 I・II・III ● 基礎地学 ● 線形代数学入門 ● 線形代数学 1・2 ● 微分積分学入門 ● 微分積分学 1・2 ● 法律学 ● 経済学 ● 政治学 ● 社会学 ● 倫理学	● 物理学 B3 ● 物理学 C4 ● 物理学実験 ● 数理統計学 ● 人文地理学 ● 外国史 ● 日本史		
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 人間環境学概論 ● 自然環境概論 ● 数理情報環境概論 ● 生活環境概論 ● 社会環境概論	● 統計の考え方 ● 環境モデリング入門 ● 発達支援論研究	● 高齢者環境論 ● エコロジー論	
コース専門科目	 	● 生活環境基礎実験 ● 生活環境調査法 ● 生活空間計画論 1・2 ● 生活環境心理学 ● 生活環境緑化論 1 ● 衣環境学 1・2 ● 生活環境メカニクス 1 ● 生活環境電子計測論 1・2 ● 食環境学 1・2 ● 植物環境学 1・2 ● 生活環境共生論 1・2 ● 栄養学 ● 現代生活論	● 生活環境緑化論 2 ● 住宅設計論 ● 生活電気・機械 ● 生活環境メカニクス 2 ● 生活エネルギー機器論 ● 食環境学実験 ● 衣環境学実験 ● ヒューマンエレクトロニクス実験 ● 植物環境学実験実習 ● 食環境学実習 ● 生活環境共生論実習 ● 生活環境心理学演習 ● 生活環境緑化論演習 ● 衣環境学演習 ● 動作解析コンピュータ演習 ● 植物環境学演習 ● 生活環境共生論演習 ● 環境経済学	● 生活環境メカニクス実験 ● 生活空間計画論演習
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。



城仁士 教授（生活環境心理学）

栗山なつき さん（生活環境論コース 4 年生）



一緒に「お助け心理学」を
研究してみませんか

私は生活環境の中でおこる様々な問題に心理学を用いてアプローチしています。日常生活の中の人間行動の不思議を心理学的に解明し、困っていることを改善するという新しい生活環境心理学の試み（お助け心理学）です。現在、「高齢者の発達を支援する環境づくり」、「キャリア発達研究」、「生活環境とストレス」の 3 つの研究テーマを追求しています。それぞれのテーマで、高齢者の発達を支援する様々な介護サービスとその評価方法を開発し、心理的満足度の高いサービスと生活環境のあり方を提案したり、幼稚園から大学院までの一貫したキャリア発達支援プログラムの開発を行ったり、生活にともなう様々なストレスサーからひき起こされるストレス反応やそれへの対処を考えたりしています。皆さんには、身近な生活環境から研究テーマを探しだし、それを心理学的研究手法で解明し、問題解決の方法を具体的に提案できる力「社会人基礎力」を身につけてもらいたいと思います。一緒に「お助け心理学」を研究してみませんか。

スタッフと研究分野・研究テーマ

市橋秀樹 教授 植物環境学 植物が生活環境において果たしている多様な働きを量的に評価して、それに基づいた植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	井上真理 准教授 衣環境学, 感性工学 着用感・使用感の良い製品設計のために、繊維状材料をはじめ生活の中で人が触れて用いる材料の特性と人間の感覚との関係を捉える研究を行っています。	近江戸伸子 教授 環境バイオテクノロジー 農業、医療、食糧生産、環境保全に貢献するための人間生活の中で変化する環境に対応する植物バイオテクノロジーに関連する研究を行っています。	城仁士 教授 生活環境心理学 身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的实践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。	白杉直子 教授 食環境学 食生活が生み出す環境問題（台所排水の汚濁負荷、肥料による地下水の窒素汚染）に関する研究や食品成分からみた味覚研究を行っています。
田畑智博 講師 環境システム工学 地域、個人等、様々なレベルでの環境負荷の発生要因やその構造を調査、解析し、解決に導くための手法論を提案する研究を行っています。	平山洋介 教授 生活空間計画 住居からコミュニティ、都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか、という問題を理論と実証の双方から考えています。	福田博也 准教授 生体電子計測, ヒューマンエレクトロニクス 人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。	矢野澄雄 教授 振動工学, バイオメカニクス 日常生活動作を力学的に分析し、骨や筋肉などの身体機能・特性を計測して福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発などにかかわる研究を行っています。	

日常生活における
身近な問題の解決を、
多様な研究分野の仲間たちと共に

生活環境論コースは文系のコースというイメージが強いかもしれませんが、私が所属している衣環境学ゼミでは布の伸縮性を測る機械を用いたり、温湿度計をつけてエアロバイクで走るなどの実験をもとに衣服の着心地を捉え、快適な衣服への提案を行っています。アンケートやイメージ評価ではなく、測定を行い客観的に捉えられるデータを重視した研究を行いたいと考えていた私には最適なゼミです。他にも学外でのフィールド調査や化学実験を行うゼミがあり、学生の多様な意欲に柔軟に対応してくれるコースです。
私は身近な問題について深く考えることの面白さに惹かれ、生活環境論コースを選択しました。自らの研究が身の回りの環境を変える可能性があるなんて、すごいことだと思いませんか？私たちの生活の向上に直結する研究の面白さに、ぜひ触れてみてください。

生活環境論コース

日常生活の現場から環境のあり方を追求する

主なコース専門科目

生活環境基礎実験 生活環境にかかわる実験・実習を行い、身につけておきたい「基礎的な実験手法」や「データの取り扱い方」「安全管理の知識」などを学ぶ。	生活環境調査法 生活環境について研究を行うための基礎的な技術として、さまざまな調査法を体系的に学習し、修得する。	生活空間計画論 1 都市空間の計画を中心とした生活空間計画について、その理論と実践の変遷を解説し、あわせて現代都市の構造再編に関して講述する。	生活環境心理学 生活環境が人間に及ぼす影響、快適な生活空間のあり方という視点から心理学的に展開する。心理的アメニティ、空間認知行動をモチーフとする。
生活環境緑化論 1 植物が生活環境において果たしている働き、生活環境の緑化体系および特殊環境の緑化上の課題などについて詳述する。	衣環境学 1 持ち運びできる環境である衣服の着心地を科学的に捉える方法について解説する。また衣生活が環境に及ぼす影響に関して講述する。	生活環境メカニクス 1 設計や計測で用いる力学用語や原理、力・荷重の基礎知識について概説し、生活機器や用具の機能性や安全性について理解する。	生活環境電子計測論 1 生活環境における諸特性を理解するために、電気的諸量の測定法、演算増幅回路、センサ・インタフェース等の基礎について、実例を挙げながら講述する。
食環境学 1 情報があふれる現代において「食の安全」をどう捉え、考えたらよいかについて講義する。「食生活が生み出す環境問題」についても述べる。	植物環境学 1 生活の中での環境バイオテクノロジーに関する事項について講義する。テーマは植物の環境応答、遺伝子組換えと安全性評価である。	生活空間計画論 2 住居の設計・デザイン、住宅市場と住宅政策、住空間の再生について述べ、住居を中心とする生活空間計画のあり方を考える。	生活環境緑化論 2 生活環境における諸特性を理解するために、論理回路、A/D・D/A 変換器、デジタル計測等の基礎について、電子応用計測の実例を挙げながら講述する。
住宅設計論 住宅・住環境の設計手法を講述したうえで、小グループによるコーポラティブ住宅の設計を指導し、空間の組み立て方に関する理解を促進する。	生活電気・機械 生活者のためのエレクトロニクスおよびメカニクスについて概説する。また、それらの内容に関連する文献や書籍を購読し、最新トピックスについて学ぶ。	生活環境メカニクス 2 メカニクス 1 の基礎知識をもとに、身体の力学と計測方法を理解し、動力学解析や設計へと応用し、動作と機器に対する力学的考察力を高める。	衣環境学 2 被服の歴史やファッションの変遷について解説し、被服の心理的な意味を理解する。また被服が個人と社会に及ぼす影響について学ぶ。
生活環境電子計測論 2 生活環境における諸特性を理解するために、論理回路、A/D・D/A 変換器、デジタル計測等の基礎について、電子応用計測の実例を挙げながら講述する。	生活エネルギー機器論 生活に利用されている最新のエネルギー機器に関する文献や書籍を購読し、受講生自らがこれに関わるテーマを設定して口頭発表と討論を行う。	食環境学 2 食環境学の理解に必要な食品学の基礎を学ぶ。代表的な食品成分について主に化学的側面から説明し、食品貯蔵や発酵・加工食品の原理について述べる。	植物環境学 2 環境バイオテクノロジー先端研究を理解するにあたっての情報収集ならびに議論の方法について講義する。
栄養学 栄養と健康に関する基礎的事項を幅広く取り上げ、日常の食生活と人々の健康との深い関わりを認識する。現実の食生活を評価できる力を身につける。	生活環境共生論 1 我が国における重要な環境政策である、循環型社会、低炭素社会、自然共生社会について解説し、我々の生活が環境に及ぼす影響やその解決策を学ぶ。	生活環境共生論 2 環境問題を定量的側面から評価し、改善策を見出す手法であるライフサイクルアセスメントについて解説し、製品等を対象とした本手法の適用方法を学ぶ。	食環境学実験 食品や水を対象とした定量分析実験を通して、環境計測の手法を身につける。滴定による容量分析や、高速液体クロマトグラフィーによる機器分析を行う。
衣環境学実験 繊維、糸、布の観察及び材料実験を行うとともに、着心地に影響を及ぼす衣服内気候、衣服圧、布の風合いを測定し、感覚と材料特性の関係について理解する。	生活環境メカニクス実験 生活動作や人間特性に関する問題を取り上げて、計測方法の考案、実験と力学的分析、シミュレーションをとおして、力学的理解を高める。	ヒューマンエレクトロニクス実験 異なる光源を用いた照明環境下で光強度の周波数スペクトルの違いを比較することにより、身近な存在になりつつある LED 照明の特徴について考察する。	植物環境学実験実習 生活の中での植物環境学に関する技術（作物、花の栽培実験、組織培養実験、緑地の設計・評価・施工など）について実験や実習を通じて学ぶ。
食環境学実習 微生物学実験や食品添加物の定性実験行って食品衛生の知識を身につける。また調理科学・食品加工学の視点を養う目的で調理や食品加工実習を行う。	生活空間計画論演習 住宅・コミュニティ・都市・地域などの生活空間の計画について、何らかの特定の主題を設定し、それについて文献講読と討論を行う。	生活環境心理学演習 生活環境が人間に及ぼす影響、快適な生活空間のあり方という視点から心理学的にアプローチする。学生自身の興味にもとづくテーマで班別に演習していく。	生活環境緑化論演習 生活環境の緑化に関する文献の講読、要旨作成、発表、質疑応答を行い、専門的知識の習得、併せて、プレゼンテーション能力の育成を図る。
衣環境学演習 生活の中で使用される繊維製品の快適性能や環境問題とのかかわり、衣生活と生活文化など、衣にかかわるテーマを選定し、発表と討論を行う。	動作解析コンピュータ演習 日常生活動作について身体機能や力学的に考察するため、動画や荷重の計測、センサの使い方、分析方法をパソコンで演習しながら習得する。	植物環境学演習 環境バイオテクノロジー先端研究の具体的事例について英文論文を読み、理解し、議論する。	生活環境共生論演習 地域環境施策を対象としたライフサイクルアセスメント手法の応用方法について習熟する。特定の課題を通じた演習を行う。

生活環境共生論実習 学生が興味を持っている環境問題を題材として、環境負荷の定量化方法や改善方法を、実習を通じて学び、発表と討論を行う。	現代生活論 経済、家族、性、労働、社会政策にかかわる今の社会の「主流秩序」を意識し、それに対抗するオルタナティブな生き方（生活スタイル）を考える。
卒業研究テーマ 以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。	
2009 年度	● 乳清に繁殖する細菌に対する精油の抗菌性評価 ● ジャトロファの組織培養における効率的な再分化条件の確立 ● ジャトロファへのレポーター遺伝子導入に関する基礎研究 ● ジャトロファの縦列型反復配列の単離 ● 住宅前緑化の組織的管理に関する研究 ● 集中状態にある騎手の騎乗中における環境知覚の個人別態度構造分析 ● 大学生の就職活動に対する自己効力の研究 ● 海洋教育プログラムが小・中学生の海のイメージに与える効果 ● 色と匂いが人に及ぼす効果 ● 肌着編布の風合い評価と物理特性 ● 布の性質が運動時の衣服内気候・着用感に及ぼす影響 ● 不織布の物理特性が乳児用紙おむつの性能に及ぼす影響 ● 死別単身高齢者の時空間 ● 犬と住む ―公営住宅団地におけるペット飼育の可能性― ● 若年層におけるライフコースの分岐と住宅条件 ● 乳酸の塩味増強効果に関する研究 ―クロキンバエ味細胞を用いた電気生理学実験― ● 乳清ミネラル画分の塩味増強効果における有機酸の寄与度 ―クロキンバエ味細胞を用いた電気生理学実験― ● 慣行栽培茶園と減肥有機栽培茶園における土壌溶液のアルミニウム含有量の比較 ● 減肥有機栽培緑茶の浸出液中フッ化物イオン濃度に関する調査 ● 低周波音が植物の生体電位に及ぼす影響と気孔開度 ● マイクロ波が植物の生体電位と温度環境に及ぼす影響 ● 発電インソールと誘導結合を組み合わせた非接触給電方式の検討
2010 年度	● タオルの風合いと物理特性の関係 ● CLASS を用いた集団構造分析とセルフモニタリング・集団主義との関係 ● 音刺激が植物の気孔開度に及ぼす影響と生体電位応答 ● 片付け志向尺度の開発と自己意識及び性格特性との関係 ● 慣行栽培と有機栽培および施肥量の違いが茶園土壌溶液のアルミニウム含量に与える影響 ―フレイム原子吸光を用いた定量分析― ● 既婚女性の就労・育児と住宅事情 ● 携帯電話の入力操作が歩行に及ぼす影響 ● 高機能綿織物の性能評価 ● 公共空間における音声情報伝達についての潜在因子抽出による検討 ● 高齢期以前の年代における主観年齢と老いへの抵抗感について ● 若年層の居住に関するデンマークと日本の比較研究 ● ジャトロファの組織培養における効率的なシュート再分化に関する研究 ● 住宅所有形態の少子化の関係についての研究 ● 集団競技における凝集性と協同意識 ● 生活空間としての学習塾 ● 静止時における手の握り強さが動き出し反応時間に及ぼす影響 ● トイレットペーパーの風合いと物理特性 ● 都市のすきまのカフェ ● 乳酸の塩味増強・抑制効果に関する研究 ―発酵漬物をモデルとした塩味の官能評価― ● 布と皮膚の摩擦特性に関する測定方法の検討 ● 肌着用編布の熱水分移動特性 ● 有機栽培碾茶園における減肥プロジェクト ―統計解析による窒素溶脱低減化の評価― ● 布の性質が運動時の衣服内気候着用感に及ぼす影響

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.129）

2009 年度	● アイテック阪急阪神 ● 香川銀行 ● キャスター ● グンゼ ● 孝進塾 ● コヴィディエン グループ ジャパン ● シャープビジネスコンピュータソフトウェア ● ソフトバンク ● 中央出版 ● TKC ● ディーバ ● 労働者健康福祉機構 ● 福岡県職員 ● 京都大学職員 ● 国土交通省近畿運輸局 ● 文部科学省 ● 柳学園教員 ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
2010 年度	● アグレックス ● ウィルウェイ ● 京都銀行 ● セクスイハイム近畿 ● ソフトウェア興業 ● 千趣会 ● 中国電力 ● トマト銀行 ● ニトリ ● 日本生命保険相互会社 ● 三井住友カード ● 三菱東京 UFJ 銀行 ● 楽天 ● 高槻市職員 ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 中学校教諭一種免許状（家庭） ● 中学校教諭一種免許状（社会） ● 高等学校教諭一種免許状（家庭） ● 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） ● 環境再生医資格	2010 年度	● 中学校教諭一種免許状（家庭） ● 高等学校教諭一種免許状（家庭）
---------	--	---------	--

カリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
共通専門基礎科目	● 物理学 B1・B2 ● 物理学 C1・C2・C3 ● 無機化学基礎 ● 有機化学基礎 ● 生物学 I・II・III ● 基礎地学 ● 線形代数学入門 ● 線形代数学 1・2 ● 微分積分学入門 ● 微分積分学 1・2 ● 法律学 ● 経済学 ● 政治学 ● 社会学 ● 倫理学	● 物理学 B3 ● 物理学 C4 ● 物理学実験 ● 数理統計学 ● 人文地理学 ● 外国史 ● 日本史		
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	● 人間環境学概論 ● 自然環境概論 ● 数理情報環境概論 ● 生活環境概論 ● 社会環境概論	● 統計の考え方 ● 環境モデリング入門 ● 発達支援論研究	● 高齢者環境論 ● エコロジー論	
コース専門科目		● 社会規範論 A・B ● 社会文化環境論 ● 産業社会環境論 A・B ● 地域社会環境論 A・B ● 国際社会環境論 A・B ● 社会環境思想史 ● 社会変動史 ● 産業構造論 ● 労働史 ● コミュニティ論 ● 国際平和論 ● 地域空間システム論 ● 現代日本社会史 ● 生活空間計画論 1・2 ● 生活環境心理学 ● 現代生活論 ● 生活環境緑化論 1 ● 社会調査法 ● 教育思想史	● 都市地域論 ● 社会政策史 ● 福祉国家論 ● 農村開発論 ● フィールドワーク実習 ● 憲法秩序論 ● 公共性論 ● 家族論 ● 自治体論 ● 国際開発論 ● 環境経済学 ● 生活環境緑化論 2 ● 環境植物生態学 ● 数理と論証 ● メディア論 ● 公共性論演習 A・B ● 社会環境思想史演習 A・B ● 社会文化環境論演習 A・B ● 産業構造論演習 A・B ● 労働史演習 A・B ● 都市地域論演習 A・B ● コミュニティ論演習 A・B ● 国際平和論演習 A・B ● 国際開発論演習 A・B	
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

† 2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

浅野慎一 教授	岩佐卓也 准教授	太田和宏 准教授	岡田章宏 教授	澤宗則 准教授
社会文化環境論	社会政策	途上国政治経済	社会規範論, イギリス統治構造論	人文地理学, 地域社会論
国境を越えて移動する人々を主な対象として、歴史に翻弄されながらも、自ら主体的に新たな歴史を創り出す諸個人の生活や行為について研究しています。	新自由主義的な制度改革と社会編成が進行するなかで、雇用のルールはどのように変容してきているのか、賃金問題などを焦点に研究しています。	グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。	近現代におけるイギリス地方自治の形成と展開を検討の対象としながら、住民自らが自治を行う可能性とそのあり方について研究を行っています。	グローバル化にともなう地域社会の変容、特に開発途上国インドの農村の変化、先進国の移民社会の形成について、現地調査に基づいて研究を行っています。
二宮厚美 教授†	橋本直人 准教授	山崎健 教授	和田進 教授	
経済学, 産業社会環境論	社会思想, 社会学史	都市地理学	憲法学, 平和論	
世の中のお金の流れ、勤労者の生活、国や自治体の予算といった経済構造の分析を基礎において、国民の暮らしを担う福祉国家を研究しています。	ドイツの哲学・社会学を中心に、これまで現代社会がどうとらえられてきたかを研究することで、社会と人間に関する新しい考え方を探求しています。	日本及び中国の都市・都市圏内部の地域構造の形成と変容について、地理学的手法を用いて研究を行っています。	日本国憲法の特質を形成する平和主義を、その理念、歴史的経緯と現状、日本国民の平和意識、日米安保体制の展開等について研究しています。	

グローバル社会に求められる
視点と分析力を養う

哲学・思想の勉強——退屈そうですね。「倫理は暗記ばかり」とウンザリですか。でも、本当は思想ってとても面白いんです。だって、天才たちの「眼」を借りて世の中をながめることなんですから。たとえば、ピカソやゴッホの眼を借りて草木や街並みを見ることができたら、と想像してみてください。ワクワクしませんか。思想を学ぶのも同じことです。しかも、思想の天才たちはみんな考えたことを文字で残しているので、その文章を読めば、実際に彼らの「眼」=見方を借りることができるんです。ゼミの卒業生たちが書いた卒業論文にも、そんな「眼」で身近な事柄を見つめなおしたものがたくさんあります。「相撲の国際化」、「言い間違い」、「中学の教科書」、…。「思想」っぽくないですね。でも、どれもれっきとした「哲学・思想」ゼミの卒業論文なんですよ（もちろん、もっとオーソドックスなテーマの卒論もたくさんありますが）。

どうですか。あなたも、天才たちの「眼」で世の中をながめてみませんか。

橋本直人 准教授（社会思想，社会学史）

鈴木孝典 さん（社会環境論コース 4 年生）

人間を取り巻く社会環境を
多角的な視点から読み取る

みなさんは「人間環境」という言葉で何を連想しますか？ 社会環境論コースでは法律，政治，経済，思想，地理，歴史といった様々な分野から人間をとりまく環境を学ぶことができます。私は「復興」というキーワードを通して人の営みを考えたいという動機から社会環境論コースを目指しました。入学後は、学内のボランティアサークルを通して、神戸，能登半島や東北地方など災害の被災地で生活する人たちと関わっています。被災した後、その土地で生活していた人たちに起こる多くの出来事に立ち会うにつれて、災害が起こる前から存在した地域の課題や、災害が起こったあと時間がたつに連れて顕在化するまちづくりの問題点などを実感することが多々あります。そんな時には特に人間をとりまく環境を多角的な視点から考えて行かなければならないと思います。被災地の「復興」とは何か今後も、勉学と実践の中で学んで行きたいと思います。

社会環境論コース

人間の発達と社会の発展を多様な視点から学ぶ

主なコース専門科目

社会規範論 A ホッブズを起点としてイギリスの思想の歴史をたどりながら、そもそも社会の秩序やルールがなぜ成り立つのか、その前提にまでさかのぼって考える。	社会規範論 B 現代日本社会に生起する問題を具体的にに取り上げ、それに対する法的対応の諸側面を概観しながら、法的規範がもつ問題構造を検証する。	社会文化環境論 「日本らしさ」や日本人の文化・社会意識の歴史的構築過程、およびそれらとグローバリゼーション下での現代日本の社会変動との相互連関を解明する。	産業社会環境論 A 近代社会と戦後日本の特徴をおさえ、これまでの企業社会と福祉国家の相互関係を分析したのち、21世紀の日本が当面する福祉国家の課題を検討する。
産業社会環境論 B 1990年代以降の日本における新自由主義的改革について概観する。構成は、労働―派遣問題など、教育、社会保障―医療保障、財政と税制である。	地域社会環境論 A 大都市圏の地域構造の変容をテーマとし、とりわけ都市の発展段階における反都市化段階に注目し、その背景・要因とインナーシティ問題について考える。	地域社会環境論 B 人間の空間的行動（どこに買い物に行くのか、どのようにして住宅購入を行うのかなど）や空間の認知（頭の中の地図）は個人によって多様である。その多様性を解く鍵を探す。	国際社会環境論 A 「国際社会」の成立と展開（主権国家の成立・国民国家の成立と展開）、第二次大戦後の国際社会環境についての基本的問題を講義した上で、「日米同盟」と呼ばれるようになった日米安保体制の展開過程について考察する。
国際社会環境論 B グローバル社会の光と影について概観したうえで、日本の現在置かれている立場、またこれから取るべき方向性について学生間の討論を交えて考える。	社会環境思想史 ヒトラーの支配を経験したドイツの哲学者たちの思想を通して、現代社会がなぜ新たな野蛮と暴力を生み出してしまうのか、そのメカニズムを分析する。	社会変動史 国境を越えた移動に伴う人間発達と世界社会変動の関連を、歴史のおよび現代社会論的な視点から把握する。	産業構造論 資本主義経済の基礎的構造を把握したあとで、主に現代日本の国民経済及び産業構造の歴史的特徴を分析し、これからの産業構造のあり方を考える。
労働史 日本の労使関係の歴史を概観する。構成は、戦前から占領期の労働史、50年代から高度成長期の労働史、新自由主義的改革期の労働史、賃金問題の歴史である。	都市地域論 中国の都市地域構造をテーマとし、封建時代・新中国成立後、さらには改革開放政策実施後の3つの時期にわたるその変容について検討を加える。	コミュニティ論 阪神淡路大震災を事例に、住民にとってコミュニティとはどのような存在なのかを明らかにする。被災者の立場に立った授業である。授業者もその一人であるので。	国際平和論 戦争と平和に関する国際法の展開、国連憲章体制、核兵器体系の登場を講じた上で、日本国憲法平和主義原理（成立、理念、展開）について考察する。
社会政策史 戦後の欧州各国における社会政策について概観する。構成は、社会民主主義政党の変容、労使関係、社会保障、欧州統合のインパクトである。	福祉国家論 福祉国家の歴史的起源、国際比較、制度的支柱を説明し、現代日本に問われる新たな福祉国家の課題とそももとの人間発達の条件を検討する。	農村開発論 開発途上国・インドを事例に、経済のグローバリゼーションが、いかにインド経済や農村社会に多様な変化をもたらしつつあるのかをみてゆきたい。	地域空間システム論 都市システムの概念について検討を加えた後、人口移動からみた日本の都市システムについて考察しつつ、その歴史的・地域的展開プロセスを明らかにする。
フィールドワーク実習 コンピュータを用いた情報収集、フィールドワークの方法、フィールドに関するレポートのまとめ方、コンピュータを利用したプレゼンテーションの技法を習得する。	現代日本社会史 戦後日本社会の歴史展開を政治経済の動向を中心に概観しながら、現在の諸矛盾がいかなる歴史構造のなかで生起してきたのかを検証する。	憲法秩序論 憲法上の争点を中心とする諸事件に関する判決を取り上げて検討することにより、憲法規範の現実社会において果たしているあり方とその問題点について考察する。	公共性論 近代以降にみられる公共性の歴史的変遷と特殊日本的な公共性のあり方を理論的・実証的に検討し、あわせて今後のあるべき方向を探る。
家族論 家族をめぐる現代の諸問題と変容について、「親密なつながり」と「生きる基盤」に着目して社会学的考察を加えるとともに、その将来像を展望する。	自治体論 日本の地方自治の成立・発展過程、直面する諸課題とそれに対する政策的課題や解決の方向性について、地域社会の諸条件に関連づけて概観する。	国際開発論 発展途上国の貧困や国際間格差について考える。これまで開発政策の中で取り組まれた実践やその思想的背景などについて検討する。	環境経済学 人間の社会・経済を分析の対象として、環境問題発生メカニズムの解明と政策の提示に取り組んできた環境経済学について、基礎的な理論を学ぶ。
公共性論演習 A 「現代福祉国家と地方自治」という枠組みを設定し、そのなかで公共性に関わる諸問題を学生自身による実態調査をふまえて具体的に検討する。	社会環境思想史演習 A 現代の社会思想における古典をグループで読みながら議論すること、で、思想研究の方法、思想と歴史・社会との関係の捉え方などを学ぶ。	社会文化環境論演習 A 人間発達と社会環境の相互関連を、客観的な経済社会構造のみならず、主体の文化的・社会心理的諸要素にまで踏み込んで考察する。	産業構造論演習 A・B 戦後日本経済と企業社会の分析を中心にしつつ、教育・福祉・社会保障・自治体制度等の人間の発達を担う制度・条件を幅広く検討する。
労働史演習 A・B 労働史に関する文献を輪読する。2010年度はマルクス『資本論』第一巻を読んでいる。その他レポートの作成方法などを指導する。	都市地域論演習 A 都市に関連する著書・専門雑誌等から論文を選び、それについて報告者を決め、輪読形式で演習を行う。また、適宜、都市地域フィールドワークを実施する。	コミュニティ論演習 A コミュニティに関する基本的文献の講読とフィールドワークの実践を行う。批判的な論文の読み方、資料・データの収集方法、フィールドワークの方法と結果のまとめ方を習得する。	国際平和論演習 A 日本国憲法平和主義および日本と世界における平和問題を取り扱っている文献、論文を講読し議論していく。
国際開発論演習 A グローバル社会における途上国の貧困や格差問題を多角的に検討する。グローバル政治経済の実態を主として理論的な側面から討議する。学生間の議論が中心となる。	公共性論演習 B 「現代福祉国家と地方自治」という枠組みを設定し、そのなかで公共性に関わる諸問題を学生自身による実態調査をふまえて具体的に検討する。	社会環境思想史演習 B 参加者がそれぞれ社会思想を題材にテーマ発表を行い、グループで発表について議論することで、各人の問題関心を深めながら思想について学ぶ。	社会文化環境論演習 B 人間発達と社会環境の相互関連を、国境を越えて移動する人々（移民・出稼ぎ・難民等）の生活・意識を主な素材として考察する。
都市地域論演習 B 都市に関連した卒業論文の研究テーマを明確化するために、関心のある学術図書・雑誌の内容を紹介し、参加者全員との討論の中で、問題意識を高め、研究テーマをしっかりと定めていく作業を行う。	コミュニティ論演習 B コミュニティに関する基本的文献の講読を行う。また大学院生と共同で合宿形式のフィールドワークを行う。現地で地域の人々と交流しながら、地域の問題を議論する。	国際平和論演習 B 日本国憲法平和主義および日本と世界における平和問題についてさらに高度な文献を考察していく。	国際開発論演習 B グローバル社会における発展途上国の貧困や格差問題を多角的に検討する。個別のテーマを設定して実証的にアプローチする。学生により主体的な関与が条件となる。

卒業研究テーマ

2009 年度

- 半農半兵から兵農分離へ―長宗我部氏の挫折―
 - 『心のノート』の歴史的位置づけ
 - ―『修身教科書』との比較から―
 - 日本における外国人労働者受け入れのあり方
 - ―今後の政策面に関する考察―
 - ニュースカマーの子どもと教育
 - 多民族社会における高齢者福祉
 - ―福祉施設に同居する在日韓国・朝鮮人の高齢者を事例に―
 - 「神戸らしさ」にみる場所イメージの多重性について
 - ―旧居留地・トアウエストをフィールドに―
 - 場所のイメージからみた神戸の洋菓子
 - ―KOBESWEETSを事例に―
 - 阪神・淡路大震災後の高齢者の人的ネットワークの形成
 - ―HAT神戸復興住宅を事例にして―
 - 「まちなみ型観光地」の可能性と展望
 - ―奈良町のまちづくりを事例に―
 - 「環境と経済の共生」にむけて
 - ―「日本版グリーン・ニューディール」の課題―
 - 「循環型社会」の10年―「国内循環」から「国際循環」へ―
 - 現代日本における農業経営―法人化の意味とその可能性―
 - 公立病院改革と地域医療の公共性
 - 混合診療問題についての考察
- 地方分権改革と保育制度問題
- 日本とスウェーデンの生活保障
- ショーペンハウアーの世界観―生と死―
- 星野道夫の思想とその現代的意義
- 「駅ナカ」商業施設の現状と課題
 - ―JR東日本ecute（エキュート）を事例に―
- 歴史的観光都市・京都四条通における歩行者と交通の共存問題
 - ―歩いて楽しいまちなか戦略社会実験と事例に―
- 道の駅の役割と将来像―近畿地方の事例を中心に―
- 現代社会が抱えるコミュニケーション関係の課題について
- 若者のコミュニケーション能力の低下とデジタル化
 - ―高校生・大学生の「ケータイ」を中心に―
- 日本におけるアメリカン・フットボールの普及についての考察
 - ―野球との比較に見る近代スポーツの日本的受容―
- 男と女と「自分らしさ」―ポスト・団塊ジュニアの視点から―
- 世界連邦構想の検討
- 新しい安全保障主体としてのEU
- 民主的なコーヒー市場の実現のために
 - ―支配される一杯の重み―
- タイ王国における王権イデオロギーについての考察
- これからのマイクロファイナンスのあり方

2010 年度

- 経済格差から見る教育格差の新たな展望
 - 現代人の幸福の在り方～幸福を多角的に考える～
 - 理解社会学における行為と秩序―官僚制的支配を事例に
 - 『空飛ぶモンティパイソン』の魅力とは？
 - CMCの利用による「公論」形成可能性
 - エーリッヒ・フロムの思想の考察―自発的な仕事のありかた―
 - 大阪2011年問題の課題と展望
 - ―百貨店業界をめぐる問題を中心に―
 - 介護労働者の社会的地位の向上―デンマークとの比較から―
 - 学生団体による地域再生活動の目指すべき方向性
 - 環境先進国ドイツの課題
 - ―生物多様性に関する取り組みについて―
 - 現代社会が抱えるコミュニケーション関係の課題について
 - 郊外住宅団地における男性退職者のネットワーク形成について
 - ―神戸市垂水区
 - 団地スポーツ協会を事例にして―
 - 産業社会における遊びの自由と抵抗の可能性
 - 立ち上げれ鉄人28号
 - ―神戸市・新長田地区商店街の活性化プロジェクトの軌跡―
- 地域づくりににおける社会関係資本の形成
 - ―丹波市における新規定住者獲得に向けた取り組みを事例に―
 - 天王寺地区の発展と課題―阿倍野再開発問題を中心に―
 - 道州制による社会への影響と今後
 - 日米安保と自衛隊の半世紀
 - 日本における「ミュージアム」の実像
 - 日本における命のリレー
 - ひきこもりの人の内面のキェルケゴール的分析
 - 貧困緩和のための新しいビジネスモデル
 - ―BOPビジネスの展開を素材にして―
 - 不登校・ひきこもりの経験者の生活と意識
 - ―内的葛藤と新たな社会認識の錯綜―
 - プロサッカーチームを活用したまちづくりと地域活性化の可能性
 - ―広島市の事例を中心に―
 - ボランティア学習の意義と課題
 - ―国立ハンセン病療養所邑久光明園でのワークキャンプを事例に―

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.132）

2009 年度

- イトーキ ● 大阪市立大学職員 ● オムロン ● 関西テレビ放送 ● 関西電力 ● キリンビール ● 島津製作所
- 全国労働者共済生活協同組連合会 ● タキイ種苗 ● 特別法人地方競馬全国協会 ● 西日本高速道路 ● 西日本電信電話 ● 百十四銀行
- 不二貿易 ● ベネッセコーポレーション ● 三井住友銀行 ● モンベル ● ヤマハリビングテック ● 山久 ● 神戸市職員 ● 裁判所
- 財務省近畿 ● 財務局 ● 三鷹市職員 ● 米子工業高等専門学校職員 ● 兵庫県教員（中学） ● 兵庫県教員（高校）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

2010 年度

- 関西アーバン銀行 ● クボタ ● さなる ● JA共済連大阪本部 ● 情報技術開発 ● 神明 ● 中国電力 ● 西日本電信電話
- 西日本旅客鉄道 ● 日亜化学工業 ● 日の出証券 ● ファーストリテイリング ● 三井物産 ● りそな銀行 ● 芦屋市職員 ● 豊中市職員
- 奈良県教員（高校） ● 兵庫県教員（小学）
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科 ● 京都大学大学院情報学研究科 ● 京都大学大学院人間・環境学研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度

- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 学芸員

2010 年度

- 小学校教諭一種免許状
- 中学校教諭一種免許状（社会）
- 高等学校教諭一種免許状（地理歴史）
- 高等学校教諭一種免許状（公民）
- 特別支援学校教諭一種免許状
- 学芸員
- 環境再生医資格

発達支援論コース

4学科横断のユニークなコースで、鋭い問題意識を幅広い観点から鍛える

発達支援論コースは、発達科学部の特色を生かすことを目的に作られました。どの学科からでも3年次から、実践的研究に関心のある学生ならこのコースに進むことができ、自分の関心に基づいて他のどのコースの授業でも受講することができます。卒業論文にその成果をまとめることが目的です。卒業研究に当たっては、人間発達環境学研究科に設置されたHCセンター（ヒューマン・コミュニティ創成研究センター）の活動と連動しながら、アクション・リサーチという、実践現場に足をのいた研究方法の指導を受けることができます。HCセンターには、「ヘルスプロモーション」、「ジェンダー研究・学習支援」、「子ども・家庭支援」、「労働・成人教育支援」、「障害共生支援」、「ボランティア社会・学習支援」という6つの領域があります。詳細は、それぞれの教員紹介欄をご覧ください。HCセンターでは、アクション・リサーチに取り組むために大学外の市街地に、のびやかスペース「あーち」というサテライト施設をつくっています。ここでは6つの部門の内の「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」という、2つの部門がさまざまなプログラムを展開しています。毎年、この施設を利用して卒論に取り組む学生がいます。また、学生たちの表現活動の場にもなっています。このコースで学ぶためには、社会の動きに目を向けその成り行きに関心をもっていることや、さまざまなアクティビティに自分から参加して、参加者の間をつないでいくような能動的な姿勢が必要です。

カリキュラム

	1年	2年	3年	4年
全学共通科目	● 教養原論 ● 外国語科目 ● 情報科目 ● 健康・スポーツ科学			
学部共通科目	● 発達科学への招待			
学科共通科目	【入学時の学科の学科共通科目を履修します】			
コース専門科目	● 発達支援論研究		● 発達支援論演習（ジェンダー研究・学習支援論） ● 発達支援論演習（労働・成人教育支援論） ● 発達支援論演習（ヘルスプロモーション論） ● 発達支援論演習（子ども・家庭支援論） ● 発達支援論演習（ボランティア社会・学習支援論） ● 発達支援論演習（障害共生支援論） ● 発達支援研究法	
	【2年で所属するコースのコース専門科目を履修します】		【発達科学部のすべての授業科目を履修することができます】	
卒業研究				● 卒業研究

ESD サブコースについては 84 ページをご覧ください。

スタッフと研究分野・研究テーマ

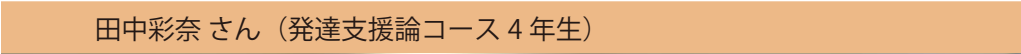
伊藤篤 教授 子ども家庭福祉論 出産から青年期までの子どもの発達を支援する仕組みを、当事者である家庭と学校を含む公的資源およびNPOを含む地域資源との協働という視点から考えています。	川畑徹朗 教授 健康教育，ヘルスプロモーション 青少年が薬物乱用などの危険行動を避け，健康増進行動を主体的に選択できるようにするため，健康教育とヘルスプロモーションに関する研究を行っています。	末本誠 教授 社会教育，成人教育，成人学習論，ライフヒストリー 社会に存在する学校以外の場で，成人の学習の意義やその支援の方法などについて研究しています。現在とくに取り組んでいるのは，ライフヒストリーを成人教育に応用するという方法論の開発です。	高尾千秋 助教 ESD，青少年教育，野外教育 ESD サブコースのコーディネーターとして，ESD（持続可能な開発のための教育）を推進するプログラムの研究・開発や，野外での体験学習やワークショップ等による青少年教育の実践的研究を行っています。
津田英二 准教授 生涯学習論，障害者学習支援論 障害の問題を社会の問題として捉え，社会的排除のない共生社会にどのように近づくことができるかということを実践的に追究する研究を行っています。	朴木佳緒留 教授 ジェンダー問題と教育・学習 日本のジェンダー問題を明らかにし，教育や学習の問題また学習者支援について具体的，実践的に追究する研究を行っています。	松岡広路 教授 生涯学習論，福祉教育・ボランティア学習論 持続不可能な開発をしつづけてきた現代社会を変革するためのさまざまな市民活動・社会的事業・教育活動を対象に，その推進方策・原理を実践的に研究しています。	

新しい社会づくりのリーダーを育てたい

「発達支援論コースとは、何をするとこですか」という質問をよく受ける。私は「発達科学部の看板」と答える。ここは、発達科学部の長所を集約させ、人類・社会・人間の幸福のみならず、生きとし生けるものすべての幸福を追究しようとする「みなに開かれた場」だ。教育関係者、地域の活動家、ソーシャルビジネスの実践家、自然科学者、経済学者、社会学者が入り乱れる。当然、学生は発達科学部の学生だけではない。経済学部・文学部・農学部・工学部・理学部あるいは他大学の学生もやってくる。ゼミは「閉じた教授と学生の空間」だろうか。私のゼミの特徴は「ネットワーク」である。新しい社会を創ろうとする世界中のリーダーたちと出会い、彼らとともに学び合い育っていく開かれた空間だ。研究のキーワードは「多元的人間の創成—持続可能な社会づくりのリーダーはどう生まれるのか」である。さあ、みな集え。



松岡広路 教授（生涯学習論，福祉教育・ボランティア学習論）



田中彩奈 さん（発達支援論コース 4 年生）

専門・学年を越えた出会いとひとりひとりに寄り添った学び

「あなたが興味・関心のあることは何ですか？」これは、発達支援論コースの第一回目の授業で多くの先生が私達に仰った言葉です。私達の答えを先生はすべて書き取って、授業プランを考えてくださいます。例えば、子ども・家庭支援の授業では、母子家庭から学力格差の問題まで、受講したすべての学生の興味に寄り添って授業が進められました。このコースの凄いところは、別々の専門を持って学んできた人たちに、学部や大学院・ゼミなどの枠を越えて出会える事です。例えば、ジェンダーについての授業でまさか「ファッション」の議論になるなんて、私には最初は想像もつきませんでした。しかし、この表現学科らしい切り口によって、私は「問題」としてではない「ジェンダー」について、初めて考えることができました。様々な人が集まるから、それぞれにとって新しい発見がある。発達支援論はそんなコースだと、私は感じています。



主なコース専門科目

発達支援論研究	発達支援論演習 (ジェンダー研究・学習支援論)	発達支援論演習 (労働・成人教育支援論)	発達支援論演習 (ヘルスプロモーション論)
2年次に関講されるオムニバス授業であり、6名の教員が担当する。コース6部門に関する基礎的知識等の理解を深める。3年次からのコース進学条件となる必修科目である。	ジェンダーとは何かを概説し、現代日本のジェンダー問題について理解を深める。主に労働・生活問題、セクシュアリティに関わる問題を取り上げ、私たちを取り巻くジェンダー問題とは何かについて追求する。	支援論の方法として、ライフヒストリーの成人教育への応用の課題に取り組む。ライフヒストリーという方法論の理論的な背景についての説明のほか、実際に自分の人生を物語るという経験をする。	健康教育／ヘルスプロモーションに関する基礎的文献を講読し、卒業研究を遂行するのに必要な基礎的知識の習得を目指す。
発達支援論演習 (子ども・家庭支援論)	発達支援論演習 (ボランティア社会・学習支援論)	発達支援論演習 (障害共生支援論)	発達支援研究法
子育て支援にかかわる国内外の施策動向と支援実践の実態を、サービス利用者および提供者の視点から考え、サテライト施設「あーち」が提供する子育て支援サービスを通して、地域子育て支援拠点のあり方を考察する。	ボランティア社会のめざすものや、ソーシャルビジネスを含む幅広いNPOの活動をふまえて、ボランティア学習のありようを考究する。	共生社会への思いと関連した受講生の興味関心を引き出し、社会的実践に結びついていくような受講生どうしの相互学習を展開する。	発達支援にかかわる横断的な問題意識の醸成とそれに取り組む際の研究方法の定着を目指している。各ゼミ個別、複数ゼミ合同、あるいはオムニバス形式等、必要に応じて演習形態を工夫している。

卒業研究テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度	● 神戸大学カフェ「みのり」プロジェクトおよび「カフェ・アゴラ」の調査に関する報告 ● 四国遍路巡礼における「接待」に関するエスノグラフィー「生きる意味」を探索する演劇 ● 父親の子育てにおける役割意識の変容を促進させる要因に関する研究	● 学童保育所が地域のつながりに対して果たす機能に関する研究 ● 育児と育児支援に関する地域プロファイリング研究 -兵庫県内 49 行政区を事例として ● 家族単位社会における同性カップルの葛藤
2010 年度	● 「共生」への戦略 ―「自立」をめぐる葛藤を越えて― ● アスペルガー障害のある学生の高校から大学初年度にわたる支援についての一提言 ● 学童保育施設における健康児と障害児の関係の発展に関する一考察 ● 児童相談所におけるマンパワー不足問題―児童相談所数・児童福祉数等の量的問題について ● 性行為におけるジェンダーについての研究―デンマーク・オーフス市の事例と聞き取り調査を通して―	● 男性の育児休業取得促進のために ―スウェーデンの育児休業制度・企業対応・人々の意識を参照して― ● 地域と【協働】するワークキャンプに関する一考察―ワークキャンプ実践が未来への懸け橋となる事を願って― ● 内的キャリア形成のあり方についての考察―自己のライフストーリーをもとに― ● 薬物をめぐる文化に関する考察 ● ゆとり教育をめぐるメディア報道の当事者的観点からの考察～新聞記事に対する当事者へのインタビューを通して～

主な進路

さらに学びたい人は大学院へ（p.106）

2009 年度	● 赤ちゃん本舗 ● アップ ● 学習塾（自営） ● 社会福祉法人恵伸会 ● NPO 法人 W・I・N・G- 路をはこぶ ● ミキハウス ● 兵庫県職員
2010 年度	● Verizon Communications Singapore Pte. ● エステティシャン ● NPO 法人ブルービーンズショア ● 京都新聞社 ● タガヤ ● 読売新聞大阪本社 ● モラブ阪神工業 ● 鳴門教育大学大学院学校教育研究科

主な資格免許の取得状況

社会教育主事，社会福祉主事任用資格を除きます。

2009 年度	● 中学校教諭一種免許状（家庭） ● 高等学校教諭一種免許状（家庭） ● 学芸員	2010 年度	● 特別支援学校教諭一種免許状 ● 幼稚園教諭一種免許状
---------	--	---------	---------------------------------

このコースは、発達科学部だけではなく、文学部・経済学部・農学部を加えた 4 つの学部が協働し運営している学部を超えた領域横断型のユニークなコースです。発達科学部の学生は主専攻に加えて選択できるコースとなっているため、サブコースと呼ばれています。

ESD サブコースは、三つの大きな特徴を持っています。ひとつには、ESD に求められる課題の多様性に対応し、文学部の「新しい倫理の形成」，「リスクマネジメント・防災」，経済学部の「持続可能な経済活動」，農学部の「食農実践」，発達科学部の「人間の変革可能性」など 4 つの学部の特色を生かした多様な領域からの学びが用意されています。

次に、学生のみなさんは、地域社会の個々の活動現場に出かけ、学外の人々と連携しながら実践活動への参画（アクション・リサーチ）を通して、持続不可能な社会や仕組みの問題性あるいは解決の方向性を探究することになります。学外のフィールドに出かけ現場での学びやワークショップなど参加・体験を重視しています。そして、4 年間で関連科目を含め 14 単位を取得することで、卒業学位とは別に「ESD プラクティショナー」として認証を受けることができます。こうした特徴的な仕組みのなかで、個別の専門知識に偏らない複眼的な視点、実際の問題を解決する上で求められる組織・集団の調整能力、および問題を解決する意志とスキルを持った人材の養成を目標としています。

経済協力開発機構（OECD）が組織したあるプロジェクト報告によると「共に生きるための学力を身に付けて、人生の成功と、良好な社会を形成するための鍵となる能力」として、(1) 自律的に行動する能力、(2) 社会的な異質の集団における交流能力、(3) 社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力の 3 つの鍵となる能力を示しています。持続可能な開発のためには、一人ひとりが、世界の人々や将来世代、環境・社会・経済との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革する教育が求められていますが、ESD サブコースにおいても、この 3 つの能力は重要な鍵となるものと考え、授業に取り組んでいます。

ESD (Education for Sustainable Development)

地球規模の環境破壊や、エネルギーや水などの資源保全の問題など、人々が現在の生活レベルを維持しつつ、次世代も含む全ての人々により質の高い生活をもたらすことができる社会づくりが重要な課題になっています。これを解決するため、日本政府の発案により、世界中で取り組むことが国連で決議された「持続可能な開発のための教育」のことを ESD (Education for Sustainable Development) といいます。

サブコースのカリキュラム

	1 年	2 年	3 年	4 年
基礎科目	● ESD 基礎（持続可能な社会づくり） ● 実践農学入門 ● ESD 論			
関連科目	● 生涯スポーツ論 ● 農と植物防疫入門 ● 熱帯有用植物学	● ヴィジュアル・コミュニケーション論 ● 子どもの発達 ● 自然教育論 ● 健康行動科学 ● 都市・建築文化論 ● 生活空間計画論 1 ● 生活環境緑化論 1 ● 環境 NPO ビジネスモデル設計概論 ● 社会コミュニケーション入門 ● 食糧生産管理学 ● 植物栄養学	● 国際開発論 ● 環境植物生態学 ● エコロジー論 ● メディア論 ● 生涯発達心理学 ● 環境人文学講義Ⅰ ● 環境人文学講義Ⅱ	
フィールド演習科目		● ESD 演習Ⅰ（環境人文学） ● ESD 演習Ⅰ（環境経済学） ● ESD 演習Ⅰ（兵庫県農業環境論）	● ESD 演習Ⅰ（環境発達学） ● ESD 演習Ⅱ（環境発達学） ● ESD 演習Ⅱ（環境人文学） ● ESD 演習Ⅱ（環境経済学） ● ESD 演習Ⅱ（実践農学）	
総合実践科目				● ESD 実践論

ESD 論	ESD 演習Ⅰ（環境発達学）	ESD 演習Ⅱ（環境発達学）	ESD 実践論
ESD（持続可能な開発のための教育）について、4 学部の多様な観点から学ぶ。一部フィールドに出かけ実地の体験をする。	ESD（持続可能な開発のための教育）に関連するフィールドにおいてアクション・リサーチ（仮説探求・仮説検証型研究）を行い、ESD の進め方や原理などを考究する。	フィールドでのアクション・リサーチが通年となるため、前期 ESD 演習Ⅰから継続し開講している。複数学部で運営している ESD コースの特徴を生かし、文学部・経済学部の ESD 演習生と合同での交流発表会も企画されている。	参加型授業を進める上でも重要なワークショップを企画し運営するために、ファシリテーションやファシリテーターとしての実践的なスキルを学び、ESD の支援・推進方法を探る。

神戸大学
発達科学部

大学院 人間発達環境学研究科

Graduate School of Human Development and Environment

附属施設などは p.136 をご覧ください

教育の特色

本研究科の教育プログラムは、個々の学生が、本研究科在学中のあらゆる機会を通じて身につけていく知識・スキル・能力・資質の獲得と、それらの自己開発力の獲得とを、トータルにプロデュースし、支援していく組織的な取り組みとなっており、学ぶ側の立場に立った能力開発支援型の教育プログラムです。このようなカリキュラム編成の考え方に沿って、博士課程前期課程、博士課程後期課程では、各々次のような具体的方策を実施しています。

博士課程前期課程

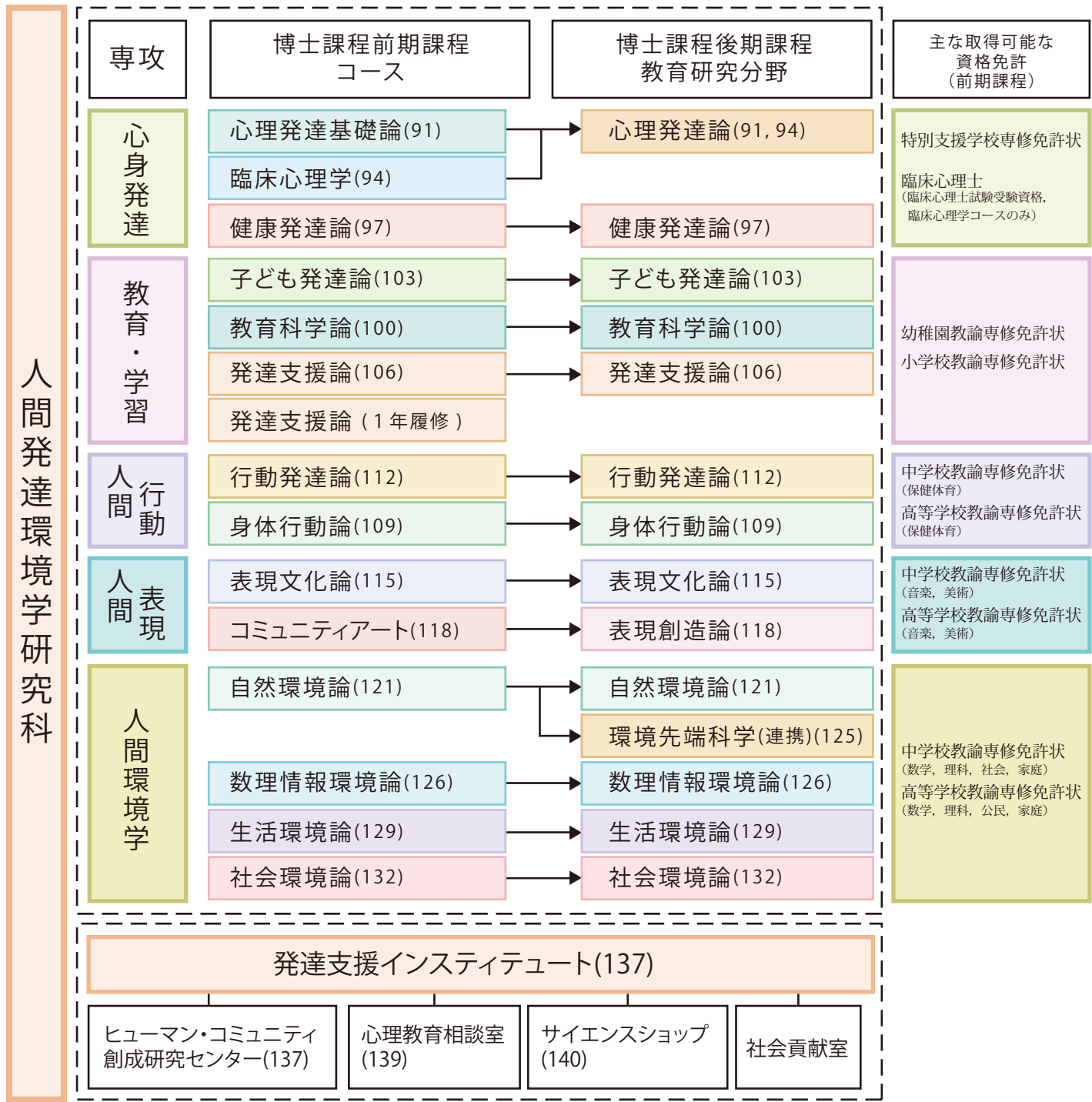
- 積み上げ方式のカリキュラム構成
専門力量の形成を支援するために、研究課題に応じ、基礎科目（特論Ⅰなど）、展開科目（演習など）、および関連科目からなる積み上げ方式のカリキュラム構成となっています。また「演習」においては、開発するスキル群をシラバスに明記し、スキル開発を重視しています。
- 研究科共通科目(ヒューマンコミュニティ創成研究)の設定
共通科目「ヒューマンコミュニティ創成研究」において、ヒューマン・コミュニティ創成研究センター、「あーち」、サイエンスカフェなどを活用した産学官民協働のフィールド研究活動に積極的に参画し、それらの活動を通して、ヒューマン・ディベロップメント、ヒューマン・コミュニティ創成のマインドを醸成します。
- 研究科共通科目(特別研究Ⅰ・Ⅱ)の設定
共通科目「特別研究Ⅰ」において、文献調査法や資料収集法、フィールドワークやアクション・リサーチの技法など、研究に必要な方法論の基本的手法を修得することで研究能力の基礎を固めます。さらに共通科目「特別研究Ⅱ」において、フィールドワークやワークショップ、プロジェクト研究や作品展など、研究の実際の場面に関わることで、研究の実際的手法を修得します。また、後期課程進学志望者については、1年次の「学会参加」、2年次の「学会発表」を支援します。
- 長期履修制度や柔軟・適切な教育方法の実施(社会人学生)
社会人学生については、長期履修制度を設けるとともに、学習の機会が制約されないよう、（大学設置基準第14条に定める教育方法の特例にもとづく）夜間・休日開講など、柔軟かつ適切な教育方法を実施します。
- ソフトスキルや社会人基礎力の育成
専攻レベル、研究室レベルで実施されている諸活動（専攻研究セミナー、修士論文発表会など）について、「参加」「運営」といった役割を担うことを通して、コミュニケーション・スキル、ネゴシエーション・スキル、企画力、マネジメント・スキル、チームワーク・スキル、リーダーシップ・スキルといったソフトスキルや社会人基礎力の育成を支援します。
- 取得できる学位と後期課程への進学
前期課程では、修士(学術)が基本ですが、教育研究内容によっては、教育・学習専攻においては修士(教育学)、人間環境学専攻においては修士(理学)を取得することができます。また、前期課程を修了した者が引き続き後期課程に進学を希望する場合は、選考の上、進学することができ、後期課程への入学科は必要ありません。

博士課程後期課程

- 専門力量の深化
さらなる専門力量の深化を目指した高度化科目（特論Ⅱ）を展開します。
- 研究科共通科目(特別研究Ⅲ・Ⅳ)の設定
共通科目「特別研究Ⅲ」において、文献課題やレビュー論文の作成などを通して、国内外の研究状況を把握するための能力発展を目指します。さらに共通科目「特別研究Ⅳ」において、フィールドワークやワークショップ、研究会、学会、プロジェクト研究などの企画・運営に参画し、研究を組織化する方法を修得することができます。
- 体系的な博士論文作成指導システムの提供
前期課程、後期課程の5年間で円滑に博士論文を作成できるようにするため、複数教員による体系的な論文作成指導システム（基礎論文、プロポーザル、予備論文、中間発表、公開最終試験）が準備されています。
- 実践的な教育力の涵養支援
大学教員を目指す学生に対して、学部教育実習に相当する科目「教育能力養成演習」の履修により、実践的な教育力の開発を支援します。
- 取得できる学位
博士(学術)を基本としますが、教育研究内容によっては、教育・学習専攻においては博士(教育学)、人間環境学専攻においては博士(理学)を取得することもできます。

人間発達環境学研究科の組織

()は該当ページ



人間発達環境学研究科の求める学生像

本研究科は、「ヒューマン・コミュニティ創成研究」に関する幅広い視野と深い専門的知識の上に立って、人間形成や人間環境に関する高度な専門知識と創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、自立して新たな知見や価値を創出できる高度専門職業人や研究者を養成します。そのため、次のような資質・能力を持った学生を積極的に受け入れます。

- 高度な研究を遂行していくための基礎的な資質・能力
- 人間や環境に関する諸問題に対する鋭敏な感受性と深い専門知識にもとづいて新しい課題を析出していく資質
- 多角的かつ重層的に課題を分析・考察し、体系的に概念化と理論化を行うことができる高度な知的能力
- 現代的諸問題を解決するための具体的方策を提案し、アクチュアルに対応できる行動力

各専攻の概要



心身発達専攻

Division of Psychological Development and Health Promotion

専攻長 中村和夫 教授

(心理発達論)

心の発達とヘルスプロモーションの見地から人間を理解する！



教育・学習専攻

Division of Education and Learning

専攻長 稲垣成哲 教授

(教育科学論)

人間形成における教育と学習のあり方を多面的に考究する



人間行動専攻

Division of Human Behavior

専攻長 平川和文 教授

(身体行動論)

アクティブな人間行動と加齢・適応・発達について研究する

心身発達専攻は、「心理発達論」と「健康発達論」の2つの教育研究分野から構成されています。「心理発達論」は、人間の心の発達に焦点を当て、心理学をベースにして、発達の基礎理論、人格形成、心理適応、発達障害といった心理発達や心理臨床の領域を教育研究対象としています。「健康発達論」は、人間のヘルスプロモーション（健康増進）に焦点を当て、健康科学をベースにして、人間の健康発達に関わる要因、健康政策や健康教育、健康行動学などの領域を教育研究対象としています。前期課程においては、人間の生涯発達を理解する上で欠かせない発達心理学の基本的諸問題や発達障害の教育臨床的諸問題を教育研究する「心理発達基礎論コース」、心の健康や心の病理・心理療法などの心理適応の諸問題を教育研究し、臨床心理士の養成をおこなう「臨床心理学コース」、生涯発達の基礎をなすヘルスプロモーションのメカニズムに関わる健康発達・健康教育・健康政策などの諸問題を教育研究する「健康発達論コース」があります。各コースとも、それぞれのコースにおける高度な専門的知識を身に付け、人間的で成熟した市民社会の形成過程に主体的に貢献できる人材を養成しています。後期課程においては、上記の諸問題をさらに専門的かつ総合的な観点から俯瞰でき、高度な専門的学識と創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、自立して新たな知見や価値を創出できる研究者を養成しています。さらには、研究能力に加えて、確かな教育能力・教育開発能力を備えた大学教員を養成しています。

教育や学習という人間形成に関する社会的・個人的営為に焦点を当て、社会的営為としての教育現象に対して、歴史、制度、行政、社会認識、科学教育の観点から解読し、その改善を研究対象とする「教育科学論コース」、乳幼児から学齢期の子どもを対象にして、心や身体、言語や文学、音楽、造形表現、数理認識等の発達と教育を研究対象とする「子ども発達論コース」、現代社会における人間形成機能の社会的、教育的な開発支援として、児童発達、継続教育、ジェンダー文化、生涯学習、成人学習の領域から、その理論と実践の融合を研究対象とする「発達支援論コース」の三つの教育研究分野から構成されています。前期課程では、広義の「教育」、「学習」という人間形成に関する社会的・個人的営為を多面的に探究する高度な専門的知識を身に付け、人間的で成熟した市民社会の形成過程に主体的に貢献できる人材を養成します。また、「発達支援論コース」には、1年履修コースも併設され、人間の発達とその支援に関する経験と実績を有する社会人を受け入れ、質の高い実践的技能・支援技術、実践的研究のための技法を身に付けた人材を養成しています。後期課程においては、こういった人間形成に関する社会的・個人的鋭意に関する高度な専門的学識と創造性豊かな優れた研究・開発能力を持ち、自立して新たな知見や価値を創出できる研究者、又は、研究能力に加えて、確かな教育能力・教育開発能力を備えた大学教員を養成します。

高度に発展した現代社会においては、人の生き方や価値観が多様化しており、それに伴って人間の行動も複雑かつ多様化しています。このような現代の人間の行動を解明するには、新たな枠組みと学際的なアプローチが必要です。人間行動専攻では、人間の行動と発達をめぐる課題を「身体行動」と「行動発達」の視点から学際的に探求します。人間行動専攻は、「身体行動論」分野と「行動発達論」分野の二つの研究分野から構成されています。「身体行動論」分野では、日常生活活動からレジャー、運動・スポーツにわたる身体活動について、身体運動のメカニズムや効果、障害予防、運動心理、スポーツの歴史、スポーツ振興施策の面から教育・研究します。「行動発達論」分野では、人間行動を老年学（ジェロントロジー）、運動老年学、社会学、応用生理学、身体運動科学、行動適応学の理論と方法を用いて、加齢と発達の過程や環境への適応に関わる課題を、学際的観点から教育・研究します。前期課程では、人間行動における身体活動に関わる事項および高齢化や環境への適応に関する事項に関して高度な専門的知識を身に付け、人間行動に関する諸現象について、確かな見方・考え方のできる人材を養成します。後期課程においては、人間行動や行動発達に関するより専門的で高度な知識や分析能力を習得し、学際的かつ創造的な優れた研究能力および教育能力を発揮して、新たな知見や価値を創出できる研究者・教育者を養成します。



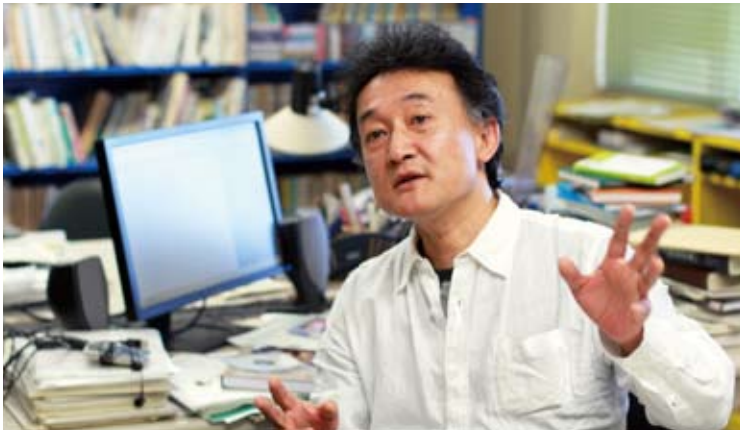
人間表現専攻

Division of Human Expression

専攻長 塚脇淳 教授

(コミュニティアート)

日常生活から芸術まで一人間の表現行為をとらえるー



人間環境学専攻

Division of Human Environmental Science

専攻長 平山洋介 教授

(生活環境論)

人間環境の探求と発達を促進する環境の開発

人の表現行為は日常生活における何気ないものから、もっとハレのある芸術の世界におけるものまでさまざまです。またその様相も歌や踊り、演技や描画やものづくりなど実にさまざまです。もしかしたらそれは、人の生存のためには、いわゆる生産行為よりも重要な部分があるのかもしれませんが。それらはそれぞれ音楽、ダンス、絵画、デザインなど、さまざまな名前で呼ばれ分野として区分けされていますが、あくまで食べたり寝たりする行為も含めた広い人間行動のスペクトラムをある角度から切り分けられたものでしかないと考えられます。私たちは人間表現専攻を、人間の「表現」を基本的な人の行為としてとらえ、できるだけオープンな視点からそれにアプローチする場でありたいと考えています。そのため、音楽や造形芸術といった芸術表現の視点、デザインや建築やファッションやメディアや都市文化といった社会や生活に関わる視点、音楽療法や感性心理学のようなやや応用的な視点など、複眼的な視点からのアプローチを構築しようとしています。私たちが目指すのは、これまで音楽大学、美術大学、文系学部などに分散されてきた教育研究の場を、「人間表現」という概念をキーとして一つに統合したいままでない教育研究の場の創成です。専攻は表現行為を文化研究や科学の視点からとらえることを主眼とする表現文化論コースと、芸術と生活を新たな視点で統合することを目指すコミュニティアートコースに分かれています。ここから表現と生活を結ぶ新しい研究者やアーティストが生まれてゆくことを願っています。

人間環境学専攻は、人間の発達を促進し支援する環境因子の解明と開発に焦点をあてます。この課題に対処するため、本専攻には、教員組織として、環境因子の解明に比重をおく環境基礎論講座と、環境因子の形成に比重をおく環境形成論講座がおかれています。そして、多様な分野からのアプローチを可能にするため、環境基礎論講座に、自然環境の成り立ちや自然環境と人間の相互作用を研究対象とする「自然環境論」と、数理科学の専門性を基礎にして情報環境を研究対象とする「数理情報環境論」、また、環境形成論講座に、快適な生活環境の形成に向けた分析とその開発を研究対象とする「生活環境論」と、現代の社会環境に生起する諸矛盾の分析とその克服を研究対象とする「社会環境論」という全部で四つの履修コースがおかれています。本専攻では、前期課程において、専門的な知識だけでなく、人間の発達に対し自らが主体的に関わっていく素養を身につけることで、修了後も、自治体や民間企業、NPO など多様な領域で、引き続きこの分野と関わりを持ちながら積極的に貢献していく人材を養成します。また、後期課程においては、高度な専門的学識と創造性豊かな優れた研究・開発能力を備え、新たな知見や価値を自立的に創出できる研究者や、そうした能力とともに確固とした教育能力・教育開発能力を具備する大学教員を養成します。

各履修コース・研究分野については、下記ページをご覧ください。

心身発達専攻	心理発達基礎論 （後期課程：心理発達論）	… 91	人間表現専攻	表現文化論	… 115
	臨床心理学 （後期課程：心理発達論）	… 94		コミュニティアート （後期課程：表現創造論）	… 118
	健康発達論	… 97			
教育・学習専攻	教育科学論	… 100	人間環境学専攻	自然環境論	… 121
	子ども発達論	… 103		環境先端科学（後期課程）	… 125
	発達支援論	… 106		数理情報環境論	… 126
人間行動専攻	身体行動論	… 109		生活環境論	… 129
	行動発達論	… 112		社会環境論	… 132
			各研究分野の主な博士論文テーマ一覧		… 135

「心の科学」を体系的に追究し、専門的な力量を深める

前期課程では、心理学の専門的知識・技術を持って、心の発達と様相をトータルに研究するための能力と円滑な人間関係をマネジメントできる実践力を養成します。そのために、心のはたらき、心のメカニズム、心の発達と形成、心の障害の理解と支援などにわたる、基本的かつ総合的なカリキュラムを用意しています。学生は、同じ人間発達論講座の臨床心理学コースの科目と併せて履修することにより、心の問題について、基礎的、原理的な理解の上に臨床的、実践的な理解を積み上げ、一層専門的な力量を深めることができます。就職先としては、自治体の心理職（心理判定員・心理相談員）、法務省専門職（家庭裁判所調査官、鑑別技官）、民間企業や自治体の一般職などが考えられます。

後期課程では、前期課程（臨床心理学コースを含む）での学習・研究を踏まえ、生涯にわたる心の発達について、さらに高度な専門的知識を深めると同時に、解明を求められている研究課題について、多面的・総合的な視点から研究することのできる人材を養成します。また、修了後に大学などの教育研究機関で働くにふさわしい教員としての教育力の育成を図ります。人間の生涯発達を理解する上で欠かせない人格形成の諸問題、発達心理学の諸問題、心理的適応と心の健康・病理や発達障害などの臨床的諸問題などの研究を通して、より高度な専門的教育・研究を行います。修了し、博士号を取得した後の就職先としては、大学教員等の研究職が考えられます。

研究最前線 赤木和重 准教授（発達障害心理学）



とめています。例えば、強度行動障害とよばれる非常にこだわりの激しい自閉症成人に対して支援を行い、行動障害が改善した実践を論文としてまとめました。また、発達相談員として10年以上関わってきた社会福祉法人と共同して、障害者作業所や保育園での実践を本としてまとめました。そこでは、障害のある方の労働や地域生活支援、集団づくりなど、実践を行ううえで、重要なテーマについて検討しました。今後も、意義のある実践をまとめ、現場に見通しと元気を与えることができればと考えています。

理論的かつ実践的に、 障害のある子どもの内面に迫る

教示行為の発達と障害に関する基礎研究において、子どもが「教える」という教示行為の発達研究を行っています。特に自閉症のある子どもが教示行為をどのように発達させるのかに注目しています。教示行為の発達というのはあまりメジャーなテーマではありません。それでも注目する一番の理由は、教示行為を通して、自閉症のある子どもの主体性について考える契機になるからです。近年の自閉症児への支援は、「大人が自閉症児をいかに上手く教えるか」ことを前提としています。確かに、様々な困難をもつ自閉症児をどのように教えるかは重要な課題です。しかし、自閉症児は、教えられるだけの存在ではありません。みなさんも、教えられてばかりだとしんどいですよね。子ども自身が教えるという主体的な役割をもつことで、「自分が主人公」という感覚をもち、発達を豊かにできる側面があるはずです。このような見地から、自閉症の子どもの見方や支援のあり方を問い直すべく、教示行為についての研究をすすめています。また、発達障害児者の支援に関する実践的研究において、現場の教職員と共同して、発達障害児者に対する実践をまとめる研究を行っています。発達相談員として現場に関わるなかで出会った意義のある実践を、論文や本にしてま

心身発達専攻

スタッフと研究分野・研究テーマ

* 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

赤木和重 准教授
発達障害心理学
自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

* 齊藤誠一 准教授
発達心理学
思春期の身体発達・性的成熟が当の青年及び親・友人など周囲の人間に与える心理的影響に関して研究しています。

* 坂本美紀 准教授
教育心理学
児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

* 谷冬彦 准教授
人格心理学
青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広くパーソナリティ（人格）や自己に関する実証的研究をしています。

鳥居深雪 教授
発達障害臨床学
発達障害の背景にある認知神経心理学的な問題について追及するとともに、どのような介入を行うことが脳の発達を支えるのかについて研究しています。

* 中村和夫 教授
発達心理学, 教育心理学
エリ・エス・ヴィゴツキーの「高次心理機能の文化—歴史的発達理論」を研究しています。とくに、内言の意味と想像におけるイメージの相互関係について研究しています。

主な授業科目と概要

* 後期課程開講科目

人間発達特論Ⅰ
L. S. Vygotsky により基本枠組みが提唱された「高次心理機能の文化・歴史的発達理論」について、基本文献を精読しつつ、その概要について理解していく。

人格形成特論Ⅰ
人格形成論に関するトピックを取りあげ、代表的な論文を講読しながら、最新の研究動向などについて議論し、自分がその研究をしたらどうするかを考える。

自己形成特論Ⅰ
自己およびアイデンティティに関する心理学的知見を概説し、自己形成あるいはアイデンティティ形成の心理学的メカニズムについて論じる。

教育発達心理学特論Ⅰ
教科学習における子どもの論理と心理を解明することを通して、教育支援・発達支援のあり方と学習環境づくりの指針を理解することを目指す。

行動発達分析学特論Ⅰ
自閉症児の発達と障害を理解するために、近年の発達研究の文献をとりあげ、講義・議論を行う。

発達障害臨床学特論Ⅰ
知的障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、高機能自閉症等の発達障害がある子どもの個々のニーズに対応した適切な指導と臨床的支援について検討する。

心理統計法特論
心理学研究に必要な統計法について、実際のデータ処理をすることを通して、解説していく。講義と実習を交互に行いながら理解を深める。

ヒューマンコミュニティ創成研究
本授業は、ヒューマンな環境形成の条件や前提、問題群等への理解を深め、博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養うことを目的とする。

* 人間発達特論Ⅱ
L. S. Vygotsky の「高次心理機能の文化・歴史的発達理論」の諸概念や方法論についてさらに検討を深めていく。とくに内言の意味論と想像の発達論との関係を探究する。

* 人格形成特論Ⅱ
人格形成に関わるテーマから一つを選び、最近の関係論文を収集・講読し、最近の動向と今後の方向性を明らかにしていく。

* 自己形成特論Ⅱ
近年のアイデンティティ形成や自己形成に関する理論的・実証的研究を取り上げ、アイデンティティ形成をはじめとする自己形成の問題について論じる。

* 教育発達心理学特論Ⅱ
実際の実践や学術論文を素材に、教育支援・学習支援の実践研究における支援の具体的内容と効果検証の方法を、研究者の視点から検討する。

* 教育能力養成演習
大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し、指導教員の指導監督のもとで、専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目の「模擬授業」を実施する。



【博士課程 前期課程】臨床心理学コース

【博士課程 後期課程】心理発達論分野

心身発達専攻

心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力を身につける

臨床心理士養成を目的とするコースで、心理臨床の専門職に求められる実践力と研究能力をともに高めることを目指しています。臨床心理士受験資格取得の第Ⅰ種指定大学院コースです。資格認定協会指定カリキュラムに対応した授業科目と発達支援インスティテュート 心理教育相談室や外部実習施設での実習を通して、心理や発達上の問題を抱える子どもや成人への心理臨床面接や心理検査・発達検査、コミュニティ支援について専門的力量を養成します。学生は人間発達論講座心理発達基礎論コースとの連携による研究指導，ならびに同コース院生との交流を通じて、心理教育に関わる問題についてより広い視野から、臨床実践の専門的力量と研究能力を高めることができます。コース修了者は各県のスクールカウンセラー，病院の心理士，家庭裁判所調査官，鑑別所技官，少年院の法務教官，企業の産業カウンセラー，自治体の心理職（心理判定員，心理指導員），児童養護施設心理職員，学生相談室カウンセラーなど多方面で活躍しています。

研究最前線

吉田圭吾 准教授（臨床心理学）



学校を 楽しいところにするために

私の研究領域である教育臨床の現場のひとつであるスクールカウンセラーでの最前線に，リストカット症候群への対処などがあります。中学校でスクールカウンセラーをしていると，親子関係や友人関係の中での欲求不満やいらいら，納得できない想いや腹立ちなどの負の感情を親や友人にぶつけることができず，様々な考えや気持ちがうずまき眠れぬ苦しいひとりの夜に，自分の気持ちを落ち着かせるために，安定剤としてリストカットを繰り返す生徒がいます。その生徒たちは夜にガス抜きをしてしまってから学校にやってくるので，教師には明るくふるまうので，傷を見せてもらうまでは子どもの苦しみや問題に気づきにくいのです。また，仮に気づいたとしても，「そんな自分を傷つけるようなことはしてはいけません」と指導するだけでは，かえって子どもの逃げ場を奪うことにもなりかねません。そのような場合には，その生徒が一番苦しんでいる夜中に，親も教師もあるいはカウンセラーにも援助してもらえず孤独を感じていることを理解し，その生徒の対人関係を巡る深い苦しみや悩みに共感し，その苦しみをリストカットなしでも対処できるようになるまで支える必要があります。他にも，

ADHD や，アスペルガー障害を含む広汎性発達障害などの発達障害の診断を受けた（あるいは疑いのある）生徒や，問題行動を呈している生徒に intensiveに関わり，子どもの生活環境の改善に携わったりします。私の教育相談室には多くのぬいぐるみ，折り紙セット，描画セット，粘土，トランプが欠かせません。ぬいぐるみは，子どもが話しかける相手になったり，抱き心地よい安全基地になったり，時には攻撃を向ける対象となったり，大活躍です。折り紙や粘土細工，描画を通して自己表現したり，トランプで居場所づくりをしたりすることが，悩み苦しむ生徒にとって，学校を楽しめる環境にすることに役立つのだと思います。

心身発達専攻

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

【博士課程 前期課程】心理発達基礎論コース

【博士課程 後期課程】心理発達論分野

修士論文テーマ

2009 年度

- 中学生の対人交渉方略とメタ認知的モニタリングの効果
- 青年期における理想—現実自己のズレに対する意識について
- 複数の高機能広汎性発達障害児をもつ母親の心理過程

2010 年度

- 愛着との関係からみる自己愛人格の構造に関する研究
- 青年期における親子関係および父母関係の認知と対人態度の関連
- 高校生のポータブルメディアの利用と「1人でいられる能力」による情動発達との関連について

主な進路

2009 年度

- 鈴鹿英数学院
- 神戸市教員(小学)

2010 年度

- アステラス製薬
- さいたま家庭裁判所

主な資格免許の取得状況

2010 年度

なし

大学院生の声

北代祐 さん（前期課程 2 年生）



こころの問題を

「発達」的観点から捉え、主体的に学ぶ

私は「自己評価と学校適応」をテーマに研究しています。学部生の時から学校現場を訪れ，多くの不登校の子どもたちと関わってきました。自信がなく消極的だった不登校の子どもが，関わり合う中で変化していく様子を見て，このテーマをさらに研究したいと思い大学院に進学しました。心理発達基礎論コースでは代表的な発達理論だけでなく，自由度の高いカリキュラムを活かし，臨床心理学や教育・健康といった他分野の授業にも積極的に参加することで幅広い見地を身につけることができます。私自身も様々な考え方に触れることで，子ども観や発達観を広げることができました。また現在，心理発達論コースの補佐員として，学生の相談やサポートを行っています。研究や授業をサポートする側になって改めて気づかされることも多く，学部生と院生と一緒に考えながら，楽しく大学院生活を送っています。

【博士課程 前期課程】臨床心理学コース

【博士課程 後期課程】心理発達論分野

心身発達専攻

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

- 対人関係におけるアンビバレンスに関する研究
—愛着の視点から—
- 大学生のストレス・モデルの構造に関する研究
- 幼児を育てる母親の理想と現実のズレについて
- 児童期の子どもの抑うつ状態の特徴について
—家族関係および攻撃性の観点から—
- 自我同一性と自己愛の観点からみた
男子学生のアパシー傾向に関する研究
- キャリア発達における節目体験の意味づけと効果
- 中年期危機における変化とネガティブな自己評価について
- 児童期男児における Rough-and-tumble play 概念の再検討
—子どもの体験とその意味づけの分析を通して—
- 育児期の夫婦間における家事役割分担・性役割分業作業と
夫婦関係満足度との関連
- 女子青年の母親に対する依存性に関する研究
- 対人関係におけるアンビバレンスに関する研究 —愛着の視点から—
- 大学生のストレス・モデルの構造に関する研究

2010 年度

- 子育てをする母親の仲間関係
- 中学生の登校動機と学校適応
- 育児休業を取得した男性と配偶者の語り
—夫婦関係に焦点を当てて—
- 風景構成法における“表現”についての研究
—語りと構成の観点から—
- 現代青年における第二反抗期
—反抗が親子関係に与えた影響を中心に—
- 特別支援教育における協働者としての保護者の可能性
- 成人バイリンガルの文化的アイデンティティー
～対話的自己論の視点から～
- 精神的落ち込みからの回復プロセスに関する一研究
- 大学生のアレキシサイミア特性における対人関係の様相
—対人ストレスとの関連及び TAT 反応からの検討—
- 小学校における学級担任によるストレスマネジメント教育の実践
～セルフモニタリングに焦点を当てて～
- 自己受容に他者からの受容がおよぼす影響についての検討

主な資格免許の取得状況

臨床心理士試験受験のための基礎資格を除きます。

2010 年度 なし

大学院生の声

岸本美鶴 さん（前期課程 2 年生）



新しい道へ向かって：

夢だった臨床心理士への歩み

私は他大学の英文科を卒業し、数年間公立高校で勤務した後このコースに入学しました。もともと人のところや対人関係に興味を持っていましたが、高校教員として働く中で再びこの分野を勉強する必要性を感じるようになり、臨床心理士を目指すことにしました。その中で神戸大学の臨床心理学コースを選んだ理由は、人間発達環境学研究科のもとにあり、教育や青年期に関する研究をすることができると考えたからです。人間発達環境学研究科には心理教育相談室があり、学生一人一人がケースを持つことができ、本格的なカウンセリングの実習経験を積むことができます。また、ケースカンファレンスも充実しており、丁寧な指導や助言をしてもらうことができます。コースは全体的に温かく親切的な雰囲気があり、先輩や先生方もフレンドリーです。このような恵まれた環境を活かし、私も一つでも多くの知識と経験を積みながら、学び続けたいと思います。

心身発達専攻

* 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

スタッフと研究分野・研究テーマ

相澤直樹 准教授	* 伊藤俊樹 准教授	河崎佳子 教授	* 森岡正芳 教授	* 吉田圭吾 准教授
臨床心理学, 臨床心理検査（投影法）	臨床心理学	臨床心理学, 発達臨床心理学	臨床心理学, 文化心理学, カウンセリング	臨床心理学
青年期における自己愛的傾向と対人恐怖的傾向に関する調査研究を行っています。ロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について実践的に研究しています。	芸術療法や心理療法におけるクライエントのイメージの変化、および、ロールシャッハテストを用いた芸術家の創造性について研究を行っています。	聴覚障害児の心理発達と家族支援について研究してきました。近年は、被虐待児童への心理的ケアについて乳児院・児童養護施設を舞台に取り組んでいます。	ナラティヴアプローチによる治療の意味生成に関する研究。対話関係の中で自己が積極的に構成されるプロセスを質的研究の方法を用いて分析しています。	幼小中高大を中心とした教育現場における教育相談の理論と実際、保護者面接の在り方、発達障害や精神障害を抱える人へのアプローチ方法について研究しています。

主な授業科目と概要

* 後期課程開講科目

心理療法特論Ⅰ	臨床人間関係学特論Ⅰ	臨床心理学特論Ⅰ	芸術療法特論Ⅰ
心理療法の基本的な視点や態度を学び、心理臨床の意義や心の問題の専門家としての臨床心理士の専門性について考える。とくに心理臨床のケース理解について検討を深めたい。	心理療法の理論と技法への統合的視点の探求。技法的には多様な展開を見せている心理療法に共通する要因とは何か。その可能性と限界について検討する。	臨床心理学の理論と実際、精神障害・発達障害の理解とその症状別の心理療法、司法、病院、福祉、教育などの現場別の臨床心理学の実際などについて、幅広く解説する。	芸術療法の理論を学ぶだけでなく、実際に作品を作って、その作品を媒介にしてロールプレイを行うことによって、芸術療法を実際に体験する。
臨床心理検査特論	臨床心理実習Ⅰ	精神医学特論	教育臨床特論
ウェックスラー式知能検査、K式発達検査を中心とする知能検査法、発達検査法、ならびに、MMPIを中心とする人格検査法に関する基礎知識、実施法と解釈の導入について学ぶ。	臨床心理士に求められる心理臨床実践能力や職業的責任能力を養い、また事例発表を通して事例理解や心理臨床の事例研究能力を養う。	現場からの精神科をテーマとし、精神科臨床のリアルな現状に触れてもらい、臨床と概念の両方に触れる。代表的疾患について、症例提示やビデオ供覧を行い、丹念にフィードバックと質疑を行っている。	今、教育臨床に何か起きているのか、心理臨床家に何が求められているのかの理解を深めると共に関わり方について学び合う。具体的には、ひきこもり事例やいじめ・暴力の問題を通して教育臨床について考えていく。
イメージ臨床特論	ヒューマンコミュニティ創成研究	* 臨床人間関係学特論Ⅱ	* 臨床心理学特論Ⅱ
臨床心理学ではイメージの使用が根幹にかかわる。ロールシャッハテストや描画療法、箱庭療法において大切になるイメージについて、理論と実際を独創的に解説する。	本授業は、ヒューマンな環境形成の条件や前提、問題群等への理解を深め、博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養うことを目的とする。	臨床人間関係学に関わるテーマについて、具体事例をもとに議論し、理解を深める。同時に、人間科学の質的研究法や事例研究法の根拠を明確にしていく作業を共同で行う。	臨床心理学の視点で、参加者の研究テーマを照らして見えてくる研究課題を詳しく検討し、教育学・心理学・社会学・民族学・音楽論・法学・福祉学・医学・哲学・言語学・芸術論などを学際的に融合させて考察する。
* 芸術療法特論Ⅱ	* 臨床心理実習Ⅱ	* 教育能力養成演習	
芸術療法に関する英語の文献を講読し、芸術療法の理論と実践を深く学ぶ。又、自分が実践している芸術療法のケースについて発表する。	臨床心理事例研究。保健医療、学校カウンセリングや家族関係・発達支援の場面での事例を中心に検討を行う。事例発表のプレゼンテーションについてのスキルも習得する。	大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し、指導教員の指導監督のもとで、専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目の「模擬授業」を実施する。	

主な進路

2009 年度 ● 社会福祉法人光明会 ● ジューシービー ● 大阪市職員
● 京都光華女子大学職員 ● 吹田市立教育センター
● 福井県職員 ● 福岡県職員

2010 年度 ● 富士通エフ・アイ・ピー ● 松原病院 ● 伊丹市職員
● 堺市教員(小学) ● 兵庫県職員
● 人間発達環境学研究科研究生

ヘルスプロモーション研究の最高峰

ヘルスプロモーションとは、人の健康に関わる環境要因と個人要因への働きかけを意味しています。前者が健康政策を含む「環境づくり」であり、後者が「健康教育」です。そして、私たちスタッフの共通のキーワードが「一次予防」です。健康を損なった人の治療や回復に係る「二次予防」や「三次予防」はもちろん重要ではありますが、一般的には多くの費用を要しますし、費用の割には効果もそれほど大きくはありません。また、病気やけがで苦しんでいる間は、QOL（生活の質）も大きく低下します。こうした点を考慮して、私たちスタッフは、そもそも病気やけがをしないようにすること、あるいは現在の健康レベルをさらに高めることを目指す「一次予防」を重視しています。

具体的な研究としては、人を取り巻く様々な環境要因が人の健康や発達、あるいは健康に関わる考え方や行動に及ぼす影響とそのプロセスを明らかにすること、そうした知見に基づいて具体的な健康教育プログラムを開発し、その有効性を検証し、広く普及する活動などがあります。このような一連の研究を包括的に推進するため、私たちのコースでは、医学・生理学や心理・行動科学など基礎的研究から健康教育学などの応用まで幅広くカバーする一線のスタッフが揃っています。

私たちスタッフは、科学研究費をはじめとする外部資金を毎年のように獲得していますし、国や地方自治体の各種委員会の委員長や委員を数多く務めています。また国レベルのヘルスプロモーションや健康教育関係の学会において重要な役割を果たしています。以上のことから、「ヘルスプロモーション研究の最高峰」というキャッチコピーは決して誇張ではないと自負しています。

研究最前線 川畑徹朗 教授（健康教育，ヘルスプロモーション）



思春期の危険行動を防止し、心の能力を育てるプログラムの開発

私たちの研究室では、思春期の子どもたちが、喫煙、飲酒、薬物乱用や性の逸脱行動などの危険行動を避けるために有用で、かつ、自分らしく有意義な人生を送るために不可欠なライフスキル（心の能力）を育てる試みに取り組んでいます。私たちの研究の特徴は、教育委員会や学校などと積極的に連携しながら実践研究を行っている点にあります。例えば、埼玉県川口市、新潟県村上市、広島県福山市において、喫煙、飲酒、薬物乱用や性の逸脱行動の防止プログラムの開発と評価研究を行っています。新潟市においては、いじめ防止プログラムの開発と評価研究を行っています。また、2010年度からは兵庫県警や姫路市教育委員会と連携して、地域ぐるみで非行を防止する取組をスタートさせました。私たちの研究室ではまた、海外の研究者とも連携しながら研究を進めています。例えば、オーストラリアのEdith Cowan大学のCross教授とは十数年にわたって交流を続け、ライフスキル教育プログラムの開発と評価研究に取り組んできました。数年前からはシドニー大学のO' Dea准教授との交流も始まり、セルフエスティームやメディアリテラシーを高めることによって思春期のボディイメージを向上させるプログラムの開発研究に取り組んでいます。また、上

海大学の楊講師とは、私たちの研究室が中心となって開発した中学生用の性教育プログラムを中国の中学校に適用するための共同研究を進めています。私たちの研究室には、博士課程後期課程院生、前期課程院生、大学院研究生が在籍し、ライフスキル教育を様々な健康問題に適用するための研究に取り組んでいます。アカデミックでありつつ、活動的でもありたい人にとっては、私たちの研究室は最良の選択肢の一つであると確信します。

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

加藤佳子 准教授	＊ 川畑徹朗 教授	＊ 田中洋一 教授	＊ 辻本悟史 准教授	＊ 中村晴信 准教授
健康教育，健康心理学	健康教育，ヘルスプロモーション	健康科学，生態学	認知神経科学，健康行動科学	公衆衛生学
心や体の健康に関する人の行動を探り，健康行動の獲得に関連する要因について解明し，HR-QOLとWell-beingの向上をめざしています。	思春期の様々な危険行動と関連が深いセルフエスティームなどのライフスキルやメディアリテラシーの形成に焦点を当てたプログラムの開発と評価研究を行っています。	足と靴の現状分析と未来像の構想。足と靴のベストマッチな条件とは。現代必須ギアとしての靴のあり方。靴を常用した場合の全身の影響等について研究しています。	「こころ」を脳内の物質現象として捉え，心理学と脳神経科学を組み合わせ，心身の健康の維持・増進および発達を追求しています。	生活習慣と疾病予防や健康増進との関係について，疫学調査と実験を組み合わせ，健康問題に関するメカニズムの解明について研究しています。

主な授業科目と概要

＊後期課程開講科目

健康教育学特論Ⅰ	健康行動学特論Ⅰ	小児健康発達学特論Ⅰ	健康生態学特論Ⅰ
理論を導入した健康行動や健康教育に関連する研究論文のレビューを行い，健康行動の変容のための知見獲得につながる研究を行う能力を養う。	健康教育／ヘルスプロモーションに関する専門文献を講読し，研究を遂行するのに必要な基礎的研究能力の形成を目指す。	子どもの心身の健康な発達に関して，特に脳と心の問題に焦点を当てて最新の研究動向を概観し，各自の研究に生かすことを目標とする。	健康に関わる衣・食・住の衣の中で，特に靴文化を取り上げ，その歴史的意義，現状と問題点等について，自分自身の視点で学ぶ。
健康増進科学特論Ⅰ	ヒューマンコミュニティ創成研究	* 健康行動学特論Ⅱ	* 小児健康発達学特論Ⅱ
健康科学を研究するに当たり，多数の人を対象にして調査することは必須の手段となる。そのために必要な手法としての疫学について学ぶ。	本授業は，ヒューマンな環境形成の条件や前提，問題群等への理解を深め，博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養うことを目的とする。	健康教育とヘルスプロモーションに関する学位論文を執筆するに当たって必要な能力（文献収集及びレビュー，調査実施，統計解析，論文執筆，プレゼンテーション等）の向上を図る。	子どもの心身の健康に関して，脳と心に関する最新の研究動向を踏まえた高度な議論を行い，受講者各自の研究に活かすことを目標とする。
* 健康生態学特論Ⅱ	* 健康増進科学特論Ⅱ	* 教育能力養成演習	
「健康生態学特論Ⅰ」で学んだ事柄を，フィールド調査，実験等の手法を使いながら検証を行い，問題解決のための戦略的対策の構築を学ぶ。	健康増進に関して最新の研究動向を踏まえた高度な議論を行い，受講者各自の研究に活かすことを目標とする。	大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し，指導教員の指導監督のもとで，専門領域の基礎的内容を取り扱う学部の講義科目の「模擬授業」を実施する。	



【博士課程 前期課程】健康発達論コース

【博士課程 後期課程】健康発達論分野

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

- いじめ被害の影響とレジリエンシーとの関連
- 薬物乱用防止教育に関する研究
- カナダの学校における性教育に関する近年の動向と日本の学校における性教育との比較研究

2010 年度

- 青少年の医薬品使用に関わる要因
- ネットいじめ防止に有効なアプローチの検討
- いじめ加害防止の観点から—
- 非行少年の再犯にかかわる要因に関する文献研究

主な進路

2009 年度

- みずほ情報総研
- 法務省
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

2010 年度

- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

主な資格免許の取得状況

2010 年度

なし

大学院生の声

鄔妍 さん（前期課程 2 年生）



「健康」について幅広く、かつ深く、探求する

私は、他大学で心理学を専攻し、ストレスについて研究してきました。特に、育児によるストレスが、児童虐待やうつ病などの社会問題や心理的な病を引き起こすことが少なくないということを、卒業研究で報告しました。現代社会において、ストレスは多くの人に関係する深刻な問題です。人は過度のストレスを受けると、過食や飲酒、喫煙のような不健康な行動によってストレスを解消する傾向にあります。そこで、「ストレス」についてさらに深く研究するために、健康科学に関する教育・研究の環境が整っている健康発達論コースに入ることを決めました。現在は、ストレスと食行動の因果関係について、文献を読んだり、実験を行っています。この研究科には様々な分野の研究者が集まっており、分野を超えて多くの先生や先輩からアドバイスをもらって日々研究しています。多くの人に出会い、支えられ、充実感と幸せを感じる毎日です。

教育・学習専攻

【博士課程 前期課程】教育科学論コース

【博士課程 後期課程】教育科学論分野

教育現象を解読し問題を摘出できる高度な専門能力育成

私たち教育科学論コースでは、今日の社会が直面するさまざまな教育課題への対応を念頭に置き、高度な専門的知識と技能・技法をあわせ持って教育現場のリーダーとして貢献できる人材（教員・研究職・教育行政職など）を養成しています。すでに初等・中等教員免許を取得している学生諸君に対しては、学校教育という社会制度をあらためて「教育科学」という視座から考察していく中で、高度な知識と研究スキルを習得させることにより、批判的洞察力・自己内省力・自己開発力を兼ね備え、学校現場において指導的役割を担っていくことのできる教員を養成しています。また同時に、これらの専門能力育成の過程を通じて、理論と実践の両方で教育界に貢献できる研究者や教育関係専門職業者の養成をめざしています。コースにおける学習・研究では、教育科学研究各領域のアプローチの特性を活かし融合して、高度な専門的知識の深い理解を図るだけでなく、特定の教育問題や教育事象の生起する「場」に具体的に介入しつつ、それらを解読する技能・技法を、演習などを通じて習得していきます。現代教育をめぐる具体的現象と同時に、その根源的原理や理論的基盤、または歴史的位相や人類史的意味についても理解と考察を深めることによって、より高い水準での現状分析能力および問題解決能力を身につけていきます。

研究最前線

白水浩信 准教授（西洋教育史）



教育の歴史人類学：

身体と精神の

統治技法のアルケオロジー

私の研究の出発点は、教育が統治と緊密に結びつくようになった契機、18世紀フランスのボリス論を分析・考察することにあります。ボリス論とは、衛生・治安・救貧をはじめとした生活に密着する内政実務の総体でした。教育実務もまた、このような〈生〉を圍繞し、治安と福祉を交差させるボリスの一領域として立ち上がってきたのであり、このことは特筆に値するでしょう。今日の行政実務家の思惟はなおもこの隠微な影響下にあり、これをどこまで克服し、〈生〉はどこまで自由でありうるのか、こうしたことを考えてみることはスリリングなことに違いありません。こうしたボリス論の系譜は、どうも近代にとどまるものではないことが分かってきました。古代の国家統治に関する著作には同様の考え方が溢れていますし、近代のボリス実務家たちも彼らの著作から多くを学んだ形跡が認められます。ここ数年、私が少し拘ってみているのは、この〈統治〉に関する思惟の系譜と、そこから眺めた〈教育〉という言説／実践の歴史の変容を再検証することです。そこで次第に判明してきたのは、どうやら「教育」と無造作に訳され続けてきた education の語源、ラテン語 educatio は、子どもを食べさせ、肥え太らせる営み、〈生〉を養い育てることを意味していたということです。ラテン語 educatio は、統治論に組み込まれる以前は、家畜の飼育方法の形で農業論に頻出し、またごく幼い子どもの養育に関わって用いられていました。統治論はこうした education 観を一変させ、幼少期の子どもの世話はもとより、人間の全生涯にわたる〈生〉そのものの経営管理に乗り出します。そして今日、〈教育〉の原義は能力を引き出すことであるとする謬説が跋扈するようになり、われわれは能力の商品化、人間の能力化の波に翻弄されているのです。それゆえ私は言説の古層にまで降り立って、〈教育〉にその原義を取り戻させることを企図しています。〈教育〉とは〈食〉であり、そのことによって〈生〉を養い育てる営みであってみれば、何よりそれは快いことに違いないのです。

教育・学習専攻

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

* 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）															
<table><tr><td>* 稲垣成哲 教授</td><td>* 白水浩信 准教授</td><td>勅使河原君江 講師</td><td>* 船寄俊雄 教授</td></tr><tr><td>科学教育</td><td>西洋教育史</td><td>美術教育</td><td>日本教育史，教育学</td></tr><tr><td>科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論，方法，評価及び実践デザインについて研究しています。</td><td>西洋を中心とした教育の特異性，その統治性に関する教育思想研究。教育を規定し，構成してきた身体と精神の関係の歴史人類学的研究を行っています。</td><td>美術を通した子どもの発達支援研究をしています。研究テーマは，前衛美術作家集団，具体美術協会が行った子どもの美術教育と対話を基本とした美術鑑賞と制作活動です。</td><td>明治時代以降現在に至る教員の養成史を研究しています。その中でも最も関心をもっているのは，戦前にあった中等教員の国家検定試験（文検）の研究です。</td></tr></table>	* 稲垣成哲 教授	* 白水浩信 准教授	勅使河原君江 講師	* 船寄俊雄 教授	科学教育	西洋教育史	美術教育	日本教育史，教育学	科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論，方法，評価及び実践デザインについて研究しています。	西洋を中心とした教育の特異性，その統治性に関する教育思想研究。教育を規定し，構成してきた身体と精神の関係の歴史人類学的研究を行っています。	美術を通した子どもの発達支援研究をしています。研究テーマは，前衛美術作家集団，具体美術協会が行った子どもの美術教育と対話を基本とした美術鑑賞と制作活動です。	明治時代以降現在に至る教員の養成史を研究しています。その中でも最も関心をもっているのは，戦前にあった中等教員の国家検定試験（文検）の研究です。			
* 稲垣成哲 教授	* 白水浩信 准教授	勅使河原君江 講師	* 船寄俊雄 教授												
科学教育	西洋教育史	美術教育	日本教育史，教育学												
科学教育におけるテクノロジーを利用した学習支援のための理論，方法，評価及び実践デザインについて研究しています。	西洋を中心とした教育の特異性，その統治性に関する教育思想研究。教育を規定し，構成してきた身体と精神の関係の歴史人類学的研究を行っています。	美術を通した子どもの発達支援研究をしています。研究テーマは，前衛美術作家集団，具体美術協会が行った子どもの美術教育と対話を基本とした美術鑑賞と制作活動です。	明治時代以降現在に至る教員の養成史を研究しています。その中でも最も関心をもっているのは，戦前にあった中等教員の国家検定試験（文検）の研究です。												
<table><tr><td>* 山口悦司 准教授</td><td>* 山下晃一 准教授</td><td>* 吉永潤 准教授</td><td>渡部昭男 教授</td></tr><tr><td>科学教育</td><td>教育制度論</td><td>社会認識教育論</td><td>教育行政学（地域教育学，特別ニーズ教育）</td></tr><tr><td>科学教育研究（Science Education Research）という専門分野です。人々の科学の学習をより有効に支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。</td><td>学校の存立に関する組織・制度論的探究（地域と学校の批判的創造的関係の再構築，校内運営組織の刷新，学校と福祉・司法等機関との連携等）について研究しています。</td><td>社会認識とは何か。それは，つきつめれば，人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。あなたならどう答えますか？</td><td>特別ニーズ児を含む人間発達と地域創造を保障できるような教育行政の在り方，特に住民と身近な基礎自治体（市町村）の可能性を探っています。</td></tr></table>	* 山口悦司 准教授	* 山下晃一 准教授	* 吉永潤 准教授	渡部昭男 教授	科学教育	教育制度論	社会認識教育論	教育行政学（地域教育学，特別ニーズ教育）	科学教育研究（Science Education Research）という専門分野です。人々の科学の学習をより有効に支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。	学校の存立に関する組織・制度論的探究（地域と学校の批判的創造的関係の再構築，校内運営組織の刷新，学校と福祉・司法等機関との連携等）について研究しています。	社会認識とは何か。それは，つきつめれば，人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。あなたならどう答えますか？	特別ニーズ児を含む人間発達と地域創造を保障できるような教育行政の在り方，特に住民と身近な基礎自治体（市町村）の可能性を探っています。			
* 山口悦司 准教授	* 山下晃一 准教授	* 吉永潤 准教授	渡部昭男 教授												
科学教育	教育制度論	社会認識教育論	教育行政学（地域教育学，特別ニーズ教育）												
科学教育研究（Science Education Research）という専門分野です。人々の科学の学習をより有効に支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。	学校の存立に関する組織・制度論的探究（地域と学校の批判的創造的関係の再構築，校内運営組織の刷新，学校と福祉・司法等機関との連携等）について研究しています。	社会認識とは何か。それは，つきつめれば，人間がどうすれば共存しうるかという問いへの各自の答えの構築だと考えています。あなたならどう答えますか？	特別ニーズ児を含む人間発達と地域創造を保障できるような教育行政の在り方，特に住民と身近な基礎自治体（市町村）の可能性を探っています。												
2009 年度		2010 年度													
● 科学情報の評価に関する討論の教育効果についての実践的研究 ● 倉石武四郎と民間中国語学習 ● 19 世紀イギリスの自叙伝にみる父親像 ● 就学と当事者の選択 —オルタナティブな教育施設の事例分析を通して— ● 家庭—教育関係の変貌 —育児休業法にみる家族観を中心に— ● 岡本太郎の「対極主義」 ● 中国における青少年の学校外教育活動に関する研究		● 高等学校における教員養成プログラムの展開と課題 —「教育」関連コース等の設置と教育実践に着目して— ● 「文検図画科」の研究 ● 現代の若者支援政策における「自立」観についての批判的検討 —「自立」から「自律」への転換を念頭において— ● 暁荘学校の研究 —陶行知教育理論の実践— ● 学社連携型コミュニティ・スクールにおける 教員と住民との協働可能性に関する研究 —学社連携コーディネーターのライフヒストリーを素材として—													

主な進路

2009 年度

● 朝日エル ● 山陽 ● 愛媛大学職員
● 神戸市教員(小学)
● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

2010 年度

● スギモト ● 神戸市立雲雀丘中学校教員

主な資格免許の取得状況

2010 年度

なし

大学院生の声

榎景子 さん（前期課程 2 年生）

アットホームな雰囲気と互いに学び合える環境が魅力

教育科学論コースは，今日の教育が抱える問題や具体的な現象を，歴史的，制度的，方法論的な視点で読み解き，理解を深めることができるコースです。その中で私自身は教育制度論を専攻し，学校と地域が協働しながら子どもを育てていくしくみについて研究しています。研究は地道な作業ではありますが，一つの事をとことん追究する過程には大きな楽しさがあります。また，コースには，他大学，他学部出身の学生や，留学生，社会人経験者も数多く在籍しており，バックグラウンドと専攻する研究領域が異なるメンバーが，ひとつの部屋を共有して研究生活を送っていることも大きな魅力のひとつです。そのため「教育」という共通関心に対し，研究領域や国境を越えた議論や学び合いを日常的に行うことができ，思考の幅を広げたり深めたりすることに恵まれた研究環境にあります。さらに，大学院生同士の仲の良さは抜群で，このアットホームな雰囲気は日々の研究の励みとなっています。



【博士課程 前期課程】子ども発達論コース

【博士課程 後期課程】子ども発達論分野

大学院 人間発達環境学研究所 教育・学習専攻 子ども発達論

教育・学習専攻

スタッフと研究分野・研究テーマ

* 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

子ども 発達 教育 表現 生活 運動

子ども発達論コースは、乳幼児期から青年期の子どもを対象に、心や身体の発達、言語・音楽・造形表現の発達と教育、数理認識の発達と教育に関する研究を総合的に進めています。子どもを中心軸に置いてさまざまな専門領域の方法論を学びながら、子どもの発達について学際的に研究を深めており、大学院の履修コースとしては全国的に数少ない場となっています。現代の子どもをめぐる問題は深刻かつ多様なものとなっています。それに対して、問題を生み出している要因を、個々の子どもの発達プロセスを明らかにすることで解明するだけではなく、社会的あるいは歴史的な視座からとらえ直すことで、問題の本質を見抜く高度な専門的研究力量を養成します。また、子どもが育っていくうえで、学校や地域、家庭においてかかわる文化の役割は見落とせません。子どもの発達の源泉である文化についても、それぞれの学問領域の成果に学びながら、学校・園や地域などのフィールドへの参加も含めて、理論的な分析能力と実践能力を形成します。以上のような学びと研究活動を通して、子どもの発達と教育に関する高度な知識と技術をもち、子どもが育つ場で起こる新たな問題に対処できる専門家の養成を行います。

研究最前線

五味克久 教授（幼年音楽，リトミック，合唱指揮）



子どもから音楽を学ぼう

「音楽を教える」あるいは「音楽を教わる」ってどんな風に捉えているでしょうか。学校での音楽の授業やピアノを習っていたときのイメージが大きいのではないかと思います。先生が常に指導的な立場で注意を与え続けるという構図が多く、細かな指示を受けながら授業が進められる、といったイメージになるかもしれません。取り方によっては、いつも注文ばかり言われている、ということになるかもしれません。先生が常に指導的な立場で注意を与え続けるという構図を覆せないものかと、私は考えています。その理由は、音楽を主体的に楽しみながら学ぶ、という観点を中心にしたいからです。音楽を楽しく学ぶために学習の構図を変換してみたらどうなるのかな、という発想です。対象年齢は幼児や児童です。方法としてはリトミック（動くこと）や歌うことを念頭にしています。たとえば紙芝居を製作してそれに音楽を付けたら どうなるだろう、というように今までの音楽教育ではあまり行われてこなかった試み（まったくなかったわけではありません）を実践し、製作の問題点 や課題を検討したりします。製作の問題点としては、子どもたちが製作可能なのか、あるいは幼稚園と小学校の連携という立場から連携の取れる指導となるのかななどの問題点を検討しています。しかしこれだけでは、音楽

が持つ背景とでも言ったものが見えず、実践の研究になってしまいます。そこで、音楽と他の分野との融合と音楽を取り巻く様々な問題を洗い出して考究しています。たとえば音楽療法を考えると音楽とは何ができ何ができないかが少し見えてくるかもしれません。環境音楽（音）を考えると音楽と私たちの暮らしとの関係性が見えてくるかもしれません。音楽療法も環境音楽も私の直接の専門ではありませんが、音楽をできるだけ広い観点から眺めて、それを音楽教育に生かせないかと考えています。

教育・学習専攻

スタッフと研究分野・研究テーマ

岡部恭幸 准教授	* 北野幸子 准教授	* 木下孝司 教授	國土将平 准教授
数理認識論，数学教育	乳幼児教育学，保育学	発達心理学	身体発育発達，保健体育科教育，健康・スポーツ測定
算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識の構造や概念形成についての研究とそれに基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。	乳幼児（0～8 歳くらい）を対象とした，教育内容や方法，保育者の専門性，その確立や向上を図るシステムに関する研究（専門組織の活動や政策）を行っています。	乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に，教示行為の発達と心の理論・実行機能との関連や，障害をもつ乳幼児の自己発達について研究しています。	児童生徒の発育，体力・運動能力の発達，健康現象の計量と生活環境との相互作用について研究しています。
* 五味克久 教授	* 鈴木幹雄 教授	目黒強 准教授	
幼年音楽，リトミック，合唱指揮	美術教育学，芸術教育に関連した教育学，教育学	児童文学，国語教育	
リトミック及び幼年音楽に関する研究です。どのような課題をどのように指導するか，といった事です。	ヨーロッパの芸術教育学に関心があります。この点で，ナチズム期亡命者達によりアメリカにもたらされたヨーロッパの学問に関心があります。	近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に，歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。	

主な授業科目と概要

* 後期課程開講科目

乳幼児発達特論Ⅰ	乳幼児教育保育特論Ⅰ	数理認識発達特論Ⅰ	造形表現学習特論Ⅰ
乳幼児期における発達過程について，コミュニケーションの発達を中心に検討する。これらの講義を通して，乳幼児の発達をとらえる視点を習得し，発達支援について考察する力量を養成する。	乳幼児教育保育の原理と方法について講ずる。国内外の論文を講読し保育の質とその向上に関わる研究動向と保育改革の実践を学ぶ。	数理認識能力への発達に関する基礎理論について学習し，数学教育の観点から考察する。	講義では戦中・戦後米国におけるヨーロッパ亡命芸術教育学者達の貢献とリベラリズムの遺産が研究される。題材は，ヒットラー帝国の誘惑を拒絶した女優の生涯，シカゴにみるヨーロッパ亡命知識人達の苦悩と遺産他。
幼年音楽表現特論Ⅰ	児童造形表現特論	児童文学表現特論	身体運動発達特論Ⅰ
日ごろ感じている音楽についての疑問を出し合って検討するとともに各年ごとに決めたテーマをもとに資料等を調べる。	美術を通した子どもの発達支援活動の検討とそれらの活動がもつ意義について考察する。	子ども観の歴史的検討を通して，児童文学における子ども表象の歴史的・社会的・文化的意味について考察する。	身体の発育や運動能力の発達，生活習慣との相互作用に関わる文献をレビューし，子どもの発達発達の理解を研究的視点で促す。
ヒューマンコミュニティ創成研究	* 乳幼児発達特論Ⅱ	* 乳幼児教育保育特論Ⅱ	* 数理認識発達特論Ⅱ
本授業は，ヒューマンな環境形成の条件や前提，問題群等への理解を深め，博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養うことを目的とする。	乳幼児期における自己理解という角度から，乳幼児期の発達研究に関する今後の課題を明らかにするとともに，発達心理学的研究の理論問題を考察する枠組みを相互に検討する。	乳幼児教育保育関係の国際組織の研究動向や組織の活動を検討し，保育の質とその維持向上に関する議論を分析し，今後の展望を図る。	数理認識能力への発達に関する高度な理論について学習し，数学教育の観点から検討を加え，その知見に基づく教育の内容や方法について考察する。
* 造形表現学習特論Ⅱ	* 幼年音楽表現特論Ⅱ	* 身体運動発達特論Ⅱ	* 教育能力養成演習
現代芸術教育学が，1）ドイツ語圏における 20 世紀芸術教育学の歴史と理論，2）新教育運動の歴史と理論，3）ドイツにおける芸術教育の実践，これら三者の相互影響関係として創られてきた経緯が研究される。	特にテーマは決めていない。受講生と話し合いながら研究を進める。	身体の発育や運動能力の発達，生活習慣との相互作用に関わる最新の研究成果をレビューし，子どもの発達発達の理解を研究的視点で促す。	大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し，指導教員の指導監督のもとで，専門領域の基礎的内容を取り扱う学部の講義科目の「模擬授業」を実施する。

教育・学習専攻

現場の実践者と協働した実践的研究を行う

発達支援論コースは前期，後期ともに，現代社会における人間形成機能の社会的，教育的な開発支援を研究対象にしています。具体的には「生涯学習支援」，「ジェンダー文化学習支援」，「成人学習支援」，「児童発達支援」，「継続教育支援」の５つの分野に分かれ，アクション・リサーチを方法論とする実践的な研究を行っています。また研究科に設置されたヒューマン・コミュニティ創成研究センターの６つの部門研究の内の，「ジェンダー研究・学習支援」，「子ども・家庭支援」，「労働・成人教育支援」，「障害共生支援」，「ボランティア社会・学習支援」の５部門の活動と連動した，ノンフォーマル教育，インフォーマル教育領域での実践的，理論的研究に取り組みます。なお発達支援論コースには全国的に見てもユニークな，１年制の履修コースがあります。このコースは，主に現職の社会人に向けて開かれたものです。社会人が，豊富な現場経験を基に研究に取り組み実践経験を学問的に仕上げることを通して，再び戻った社会でさらにレベルアップした活動に取り組むことができるようになることを目的にしています。また研究科には，のびやかスペース「あーち」というサテライト施設が付設されており，発達支援論コースの「子ども・家庭支援」と「障害共生支援」の２つの部門による，アクション・リサーチの拠点になっています。このコースは，研究能力に実践能力を併せ持つ支援者として，企業や行政，NPO など幅広い領域で指導的な役割を果たすことができる，有能な人材の養成を目指しています。

研究最前線

末本誠 教授（社会教育，成人教育，成人学習論，ライフヒストリー）



ライフヒストリーを語るワークショップを展開し，そこにどのような学びが展開するかを実践的に確かめています。

人の人生は未知に満ちています。成人は子供に比べて，自分を変えることが不得手です。しかしそんな成人が自分を変えることは可能です。成人が自らを変えるということは，生活の全体が変わることです。みなさんのお父さんやお母さん，おじいちゃんやおばあちゃんが，みなさんのような若い人と同じように学び成長することとは，素晴らしいことではないでしょうか。生涯学習の時代とは，人々が大人になっても自己変革を遂げる可能性を探求するという，ダイナミックな人間のドラマについての研究なのです。

教育・学習専攻

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

修士論文テーマ

- 2009 年度
- 広汎性発達障害児における自他の意図理解と調整の発達
 - 数学教育におけるソフトウェアの活用について

- 2010 年度
- 割合概念の獲得にみられるつまずきとスキーマ形成の関連
 - 時間的広がりをもった感情理解の発達
 - 幼児期の絵における意図の発達
 - ―意味づけによる意図の持続の検討―
 - 自閉症の幼児における笑いと発達
 - ―通園施設での観察事例の分析―
 - 中学校国語科総合単元学習における
 - 協同学習によるメディア・リテラシー教育の単元開発
 - 神戸ゆかりの美術館における
 - 高齢者対象の「対話を基本とした美術作品鑑賞」についての一考察
 - ―生涯学習教材としての郷土作家作品の可能性を探る―

主な進路

- 2009 年度
- 国立成育医療研究センター

- 2010 年度
- 神戸ゆかりの美術館
 - 近大姫路大学教員
 - 神戸市教員(小学)
 - 神戸大学附属中等教育学校教員

主な資格免許の取得状況

- 2010 年度
- 小学校教諭専修免許状

大学院生の声

橋本夢仁 さん（前期課程 2 年生）



人とのつながりを

出発点として，日々自らの

視野と見識が広がる場

子ども発達論コースの最大の魅力は，人
と人とのつながりをタテ・ヨコに大きく
広げることができる点です。コースの学
生はモチベーションが高く，ゼミだけ
でなく，授業や院生控室において他ゼミ
の友人や先輩方と交流をし，様々な議
論をすることによって，日々多くの見
識を得ることができています。また，
学会や研究会にも参加することで考え
を深めたり新たな観点を獲得することが
できるので，これらは非常に貴重な経
験となっています。私は現在，自閉症
児の現実・虚構世界に関する認識の違
いを，自閉症児自身の物語の産出・理
解の面から見ていきたいと考えていま
す。言葉によるコミュニケーションに
困難があるとされている自閉傾向の子
どもも，「人とつながりたい」という
願いをもっています。そうした願いが
子どもたちの語る言葉の中にどのよ
うに表されているのかを研究すること
で，「他者に物語る」ことの意味を考
えていきたいと思います。

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

＊伊藤篤 教授	＊末本誠 教授	＊津田英二 准教授	＊朴木佳緒留 教授	＊松岡広路 教授
子ども家庭福祉論	社会教育，成人教育，成人学習論，ライフヒストリー	生涯学習論，障害者学習支援論	ジェンダー問題と教育・学習	生涯学習論，福祉教育・ボランティア学習論
地域における子育て支援の質を高めるための支援構造を，家庭のライフサイクル・被支援者のニーズやリスクの水準・支援主体間の協働・センターモデルなどから検討します。	成人が学ぶことにはどのような意味があり，どのような支援が求められているのかを，ライフヒストリーを応用することによって実践的に探究する研究を行っています。	障害に関する社会的課題を切り口として，インクルーシヴな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追及する実践的研究を行っています。	現代日本のジェンダー問題の特質をとらえ，ジェンダー問題克服のための学習支援のあり方や方策を追及する実践的研究を行っています。	ESD 推進の原理・システムを，生涯学習論および福祉教育・ボランティア学習論の観点から考究し，ポスト近代教育の枠組みの構築をめざしています。

主な授業科目と概要

生涯学習支援特論Ⅰ	成人学習支援特論Ⅰ	継続教育支援特論Ⅰ	ジェンダー文化学習特論Ⅰ
インフォーマル教育・ノンフォーマル教育・フォーマル教育の関係性を，ESD の観点から考究する。	社会的排除の問題に焦点を当て，障害，社会政策，社会福祉，障害児教育などに関する基礎的なディシプリンに親しむ。	継続教育の中でも，労働や職業に関わる成人教育を実践的に研究する授業。ライフヒストリーを成人教育に応用することを目的にした，問題点の整理や実地のアクションリサーチに取り組む。	現代日本のジェンダー問題の固有成性について，受講者同士のディスカッションを交えて，その問題克服のための課題を追及する。受講者の既習程度に応じた具体的な教材を設定する。
児童発達支援特論Ⅰ	子ども・家庭支援論	労働・成人教育支援論	ヘルスプロモーション論
家庭・学校・地域において展開されている子どもの発達を支援する多様な取り組みについて，子ども家庭福祉論・発達心理学・教育心理学などの観点から理解する。	国内外で展開されている子育て支援実践を，予防 / 対応・支援主体間の協働・地域子育て拠点としての機能などの観点から検討する。	院生自身の社会での活動経験を基にしながら，支援という理念の意味やその理論的な背景を学び，ライフヒストリーを成人教育に応用するという実践的なテーマに取り組む。	主として青少年を対象とした国内のヘルスプロモーションに関する文献を読むことによって，批判的思考力を形成する。
ボランティア社会・学習支援論	ジェンダー研究・学習支援論	障害共生支援論	発達支援技術論
市民的・社会的活動の原理を，生涯学習論・ESD の観点で考究する。	ジェンダー問題の解決を目指す教育・学習について概観し，受講者の関心もふまえて具体的な教材を指定した上で，問題の解決策を探るディスカッションを行う。	共生社会をめざそうとする社会的実践を題材として，日々起こる問題に焦点を当てながら，それを研究として成り立たせていく方法を模索する。	大学サテライト「あーち」が提供する「赤ちゃんふれあい体験」に参加することを通して，支援技術のあり方に関する受講生の理解を深める。
ヒューマンコミュニティ創成研究	＊生涯学習支援特論Ⅱ	＊成人学習支援特論Ⅱ	＊継続教育支援特論Ⅱ
本授業は，ヒューマンな環境形成の条件や前提，問題群等への理解を深め，博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養うことを目的とする。	福祉教育・ボランティア学習やESD に関連する先行研究を踏まえて，おもにリフレクションの機能について考究する。	社会的実践と個人・集団の学習との関係を追究する。実践者・学習者の思いを大切にしながら，社会的価値のある実践を促進していく実践的研究のあり方や方法を論議する。	継続教育の理論的・実践的課題について，より原理的な論述を行う。とりわけ成人の学習理論を進める糸口として，ガストン・ピノーの自己教育論を検討する。
＊ジェンダー文化学習特論Ⅱ	＊児童発達支援特論Ⅱ	＊教育能力養成演習	
受講者の研究テーマに照準をあて，そのテーマと関係するジェンダー問題を取り上げ，文献購読を行う。2009 年度には「科学技術とジェンダー問題」を取り上げた。	家庭・学校・地域において展開されている子どもの発達を支援する多様な取り組みについて，受講生の専門領域から批判的に検討し，課題解決の方策を導出する。	大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し，指導教員の指導監督のもとで，専門領域の基礎的内容を取り扱う学部 の講義科目の「模擬授業」を実施する。	

（1 年履修コースの科目も掲載しています）

教育・学習専攻

教育・学習専攻

修士論文テーマ

- 2009 年度
- ライフストーリーの生成における学びの成立過程 —成人の学習の支援の探求—
 - 「共に生きる」という関係づくりの支援 —そこに見られる葛藤に関する考察—
 - 不登校・ひきこもり経験スタッフの〈ゆらぎ〉の意味 —フリースクール運動推進活動への影響に着目して—
 - 障害者のきょうだいが抱く葛藤と共生社会の方向性
 - 中間集団に位置する NPO の学びの場としての可能性
 - 音楽を中心とした 家族支援プログラム「トレッペンハウス」の実践と有効性
 - 母子生活支援施設における 母親のエンパワメントプログラムの開発
 - 農業者の主体形成からみた普及指導員の役割 ～コウノトリ育む農法実践者のライフ・ストーリーを通して～
 - 国際協働学習の普及における NPO の課題と役割
 - 児童虐待防止「親グループ」の効果についての評価 —フォローアップによる質的検討をくわえて—
 - インクルージョンの推進と知的障がい者のキャリア形成支援
 - 育児におけるソーシャルサポート源の機能に関する一考察

- 2010 年度
- ペアレンティングの継続的受講と親としての発達との関係性 —大学サテライトにおける 乳幼児の親を対象としたプログラムを通して—
 - 教育・学習 発達支援論 活動コーディネートにおける 〈さそいあい〉行為の意味についての考察 —ESD ボランティア推進プロジェクトを事例にして—
 - 看護継続教育における「実践知」に関する研究
 - ひきこもる若者における「居場所」研究の再構築 —支援スタッフと利用者が織り成す現出空間として—
 - 障害児の発達を促す環境形成に向けた地域資源の相互連携
 - 共感的自己肯定感を育むインクルーシブ教育に向けて —特別支援学校における工業高等専門学校と 高齢者小規模多機能施設のつながりを通して—
 - ひろばにおける子育て支援—その質的向上と安定的継続に向けて—
 - 子どもの発達を見取るための 幼稚園教師・保護者間連携システムの構築とその効果に関する研究
 - 不登校をめぐる教師の支援に関する調査的研究 —卒業生とその保護者および中学校教師を対象として—
- （1 年履修コースのテーマも掲載しています）

主な進路

- 2009 年度
- 尼崎市民生児童委員協議会連合会
 - NPO法人心のサポートステーション
 - 社会福祉法人大阪府社会福祉協議会
 - 日本公文教育研究 ● 林産婦人科 ● 阪神心理研究室
 - 姫路市職員 ● 兵庫県農政環境部農林水産局

- 2010 年度
- アーサ ● NPO法人Welnetさんだ ● ローソン
 - 大阪市職員 ● 三木市職員
 - 神戸大学附属明石幼稚園教員 ● 富田林市教員(中学)

主な資格免許の取得状況

- 2010 年度
- 小学校教諭専修免許状
 - 幼稚園教諭専修免許状

大学院生の声

衣笠梨代 さん（前期課程 2 年生）



興味と視野を広げ，
自分を成長させてくれる場所

私は学部生の時から親子リズム遊びの活動にスタッフとして参加していたことから，子育て支援に強く興味を持つようになりました。そして研究を深めたいと考え大学院に進学しました。子育て中の親や子どもたち，支援に携わるスタッフとの関わりの中で，現場で感じたことを出発点として，地域における子育て支援のあり方，親子での活動の意義を研究テーマとしています。

発達支援論コースでは，授業以外にも大学のサテライト施設での実践や合宿など，様々な学びの場があります。また大学院には留学生や異なる大学・学部出身の学生，それに社会人の学生も多く在籍しており，様々な研究を行っている人がいるため，授業等においてもいつも新しい視点を得ることが出来ます。物事の捉え方や考え方も，人から影響を受けることが多いこの環境の中で，これからもさらに多くのことを吸収していきたいです。

人間の行動・スポーツを科学するチームです！

近年のスポーツ科学の進歩は目覚ましいものがあります。たとえば、水泳競技のスイムスーツや、安定した“やり”の飛行を目指した用具の開発などであります。もちろん選手の心理状態に関しての研究や、運動生理学を駆使したトレーニング方法の開発などの成果もレベルが高いです。本コースの大学院担当教員は身体行動に関する基礎的研究はもちろん、それらの研究手法を駆使して広く社会に役立つ応用研究にも専念しています。受験生も理学療法士やスポーツ・トレーナーなど、すでに社会で実践的に活動している人たちもいて、コース内に活気をもたらせてくれています。授業では、身体運動のメカニズムや心理・生理的效果および運動障害予防について、運動生理学、バイオメカニクス、トレーニング・コンディショニング科学、運動心理学の各面から、また、運動・スポーツの文化・歴史および振興施策について、スポーツ文化史、生涯スポーツ論の各面から学び、身体行動に関する知識と実践力および研究手法を修得します。身体活動およびスポーツ科学分野の研究者養成とともに、スポーツ分野の指導、および政策立案などの高度専門家としての能力も育成します。

研究最前線

前田正登 教授（スポーツ技術論，スポーツバイオメカニクス，スポーツ工学）



スポーツ用具を使いこなすために ー動作研究と用具研究の交点

やり投げや野球などの用具を用いるスポーツ種目では、その用具を使いこなせるかどうかが競技成績を大きく左右すると言っても過言ではありません。そのため、スポーツ種目における選手の動きや技術を無視したスポーツ用具の開発はあり得ないといえます。最近のスポーツ用具は高性能なものも多くあります。しかし、モノとしては優れていても、競技成績の向上にほとんど貢献しないモノや使用したことが逆に傷害の原因となってしまうモノ、そのスポーツ種目のルールを変更させる元になってしまったモノなど、選手に悪影響をもたらしたりスポーツの発展を妨げたりしているモノもあると言われています。例えば、やり投げのやりは、飛行中には振動（ブレ）が少ない、剛性の高いやりが飛距離も大きい「飛ぶやり」とされていますが、剛性の高いモノがすべての選手にとって良いやりであるとは限りません。やりの振動を発生させる源は選手の投げ動作にありますから、仮にやり振動を起こさせないような投げ方をしていれば、飛行中の振動は小さくて

済み、投げ方によってはやりの剛性が高くなくても良いことになります。つまり、選手は自分に適した剛性のやりを使用することにより、投げの能力を最大限に発揮できることが期待できます。このように、使い心地の良いスポーツ用具を探究するには、モノとして極めるだけでなく、選手の動きや運動技術を詳細に分析して選手（人間）を理解しなければならないのです。私たちの研究視点は、「人間の動きや運動技術を考慮に入れたスポーツ用具とは？」という点にあります。そのためには、それぞれ発展してきた、スポーツの動作・技術研究（スポーツ技術論）と用具研究（スポーツ工学）の両者を融合し、これら相互間の影響を含めた研究視点が不可欠です。スポーツで勝つために、あるいはスポーツをより楽しいものにするには、その人が使いこなせる、その人の動きにマッチしたスポーツ用具でなければならないと考えています。

人間行動専攻

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

＊ 秋元忍 准教授 体育・スポーツ史 19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。	＊ 河辺章子 教授 運動生理学（身体運動制御） 随意運動の制御機構を探求し、ヒトの動作の巧みさを探るとともに、巧みな動作の獲得過程を解明し、スキル向上への貢献を目指しています。	高田義弘 准教授 運動生理学（身体コンディショニング） 競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響についての研究しています。	＊ 高見和至 准教授 運動心理学 現在の研究テーマは、「運動習慣の心理的プロセス」です。人間行動の発現から定着、習慣化を生み出す心理的プロセスを運動行動から解明しています。	＊ 武井義明 教授 運動生理学（健康運動生理学） 運動による身体ストレス状態の生理学的な定量評価、および日常的な身体行動によるストレス状態の軽減に関する研究を行っています。
＊ 平川和文 教授 運動生理学（運動処方論，体力・トレーニング科学） 子どもの体力向上・動きづくりのための運動プログラムの研究、間欠運動時ハイパワー持続能力向上のための運動処方について研究しています。	＊ 前田正登 教授 スポーツ技術論，スポーツバイオメカニクス，スポーツ工学 運動・スポーツにおける合理的な動作・技術の探究とその習得過程に関する研究、および選手の技術レベルに応じた用具の設計開発のためのスポーツ工学的研究を行います。	＊ 柳田泰義 教授 スポーツ医学，特にスポーツ時における軽度頭部外傷 スポーツ時における軽度頭部外傷，特に軽度脳震盪に関するバイオメカニクス，その予防と安全教育について研究しています。	＊ 山口泰雄 教授 スポーツ社会学，生涯スポーツ論 スポーツの社会科学の理論と手法により，スポーツ参与，スポーツ政策，スポーツ・ツーリズム，国際比較研究などに取り組んでいます。	

主な授業科目と概要

＊後期課程開講科目

身体運動処方特論Ⅰ 興味・関心のある運動処方の文献を報告し，その中から健康・体力に関わる問題点・課題を考察し，安全で効果的な運動プログラムのあり方について論議する。	運動心理学特論Ⅰ 運動・スポーツ心理学領域における最先端の研究を主に文献講読を通して学び，研究テーマの変遷と今後の可能性について考察する。	身体運動制御特論Ⅰ 現段階で解明されている随意運動の発現・制御メカニズムについて講述するとともに，巧みな動作の獲得過程や巧みさをもたらす要因について考究する。	身体システム特論Ⅰ 心拍変動性解析によるストレス状態の定量評価および日常的な身体行動によるストレス緩和方法の生理学的機序について講義する。
スポーツバイオメカニクス特論 人が行う身体運動のより合理的な方法やスポーツ技術の改善について，バイオメカニクスの手法を用いた分析から論述する。	スポーツ文化史特論Ⅰ 近代社会におけるスポーツ文化の特質について講義し，スポーツ文化の現在に対する理解を深め，将来への構想力を育むことをねらいとする。	生涯スポーツ特論Ⅰ 人間の各ライフステージにおけるスポーツとのかかわりに関する社会科学的の研究の研究動向をレビューし，研究成果と研究課題を明らかにする。	身体コンディショニング特論 これまで得た知識をさらに積み上げるだけでなく，現場で実践するためにはどのように組み合わせ応用するのかについて学ぶ。
身体運動障害特論Ⅰ 脳の解剖と機能について解説したうえで，スポーツにおける頭頸部外傷のメカニズムや障害予防のための方策について論じる。	ヒューマンコミュニティ創成研究 ヒューマンな環境形成の条件や前提，問題群等への理解を深め，博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。	＊ 身体運動処方特論Ⅱ 身体運動に関する現代的課題について報告し，その課題に題する原因・対策を論議し，今後の身体活動とライフスタイルのあり方について論究する。	＊ 運動心理学特論Ⅱ 担当教員と院生の研究テーマに関して，最新文献講読，研究遂行上の課題解決を共有することで研究能力の向上を図る。
＊ 身体運動制御特論Ⅱ 最新の随意運動の制御機構に関する研究について講述し，新たな観点から随意運動の制御システムに関わる課題について考察し，その実証的研究の可能性を探る。	＊ 身体システム特論Ⅱ 心拍変動性解析によるストレス状態の定量評価に関する非線形な手法およびストレス緩和方法の評価への高度な応用について講義する。	＊ 身体運動技術特論 様々な身体運動やスポーツにおいて，最も目的に合致した運動技術を研究するとともに，用具や器具などの諸環境と運動動作の相互関係から身体運動技術を考究する。	＊ スポーツ文化史特論Ⅱ スポーツ文化史に関する国内外の先行研究の批判的検討を通して，スポーツ文化史研究のこれまでの成果と今後の課題について討議を行う。
＊ 生涯スポーツ特論Ⅱ 研究論文のレビューを行い，専門分野の研究計画を立て，データを収集し，学会発表や学会誌への論文を投稿する。	＊ 身体運動障害特論Ⅱ 外傷性脳損傷における神経心理テストについて簡単なテストを実施したり，ゲストスピーカーを招いて臨床の場での実際を知る。	＊ 教育能力養成演習 大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し，指導教員の指導監督のもとで，専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目の「模擬授業」を実施する。	

人間行動専攻

行動の発達・適応を多角的に究明する分析力と問題解決能力を磨く

高度情報化や少子高齢化における現代社会の課題は、本質的には人間行動の問題であり、これらの課題の解決には、人間行動が年齢とともにどのように発達し、それが社会・環境へどのように適応しているのかの仕組みや原理を理解する必要があります。このコースでは、社会科学及び自然科学の両面から現実のさまざまな人間行動を多角的に捉えるために老年学（ジェロントロジー）・運動老年学・社会学・応用生理学・身体運動科学・行動適応学などの多分野の研究領域を設け、人間行動の加齢に伴う発達や環境への適応に関わる課題を学際的観点からアプローチできる人材を養成します。

行動発達論コースでは、以下に示すような学際的・総合的な 4 つの具体的な学習目標を設定しています。

- 1) 人間の行動を生体メカニズムから社会・文化的行動まで総合的に理解する能力を身につける
- 2) 人間の行動を発達論的観点と社会・文化的観点から分析的に理解する能力を身につける
- 3) 人間の行動を自然科学と社会科学の両面から観察・解明する方法を習得する
- 4) 人間の行動と環境との関係についての理解を深める

これらの学習目標を達成するため、身体、心理、社会に関わる発達と適応に関する諸現象を科学的に捉え、各メカニズムを解明するための分析能力を基本として、問題点の抽出と改善策を提案できる総合的な研究能力の習得を目指します。現代の人間や社会が抱えている多様な課題に情熱を傾けて意欲的に取り組む学生、そして人間行動の発達に関わる未知の分野を積極的、自主的に開拓する研究意欲の旺盛な大学院生を待っています。

研究最前線

長ヶ原誠 准教授（スポーツプロモーション，健康行動科学，ジェロントロジー）



るアクションリサーチ，マスタースポーツ大会の招致活動と効果測定等の各種研究プロジェクトを通じて，成人期・中高齢者を対象としたスポーツプロモーションの実践と理論の体系化と総合的構築を目指しています。生涯にわたるスポーツの織りなす様々なドラマやエピソードは豊富であり，人生を活性化するスポーツの「力」と，その具体的内容に着目しながら，行動，組織，社会，文化，人生の可能性と成熟とは何かを，「ジェロントロジー（加齢発達学）」の観点から探求しています。

<http://www.h.kobe-u.ac.jp/>

人間行動専攻

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

修士論文テーマ

2009 年度 ● 上肢・下肢・体幹に装着した3軸加速度計による運動時身体活動量の評価 ● 漸減速度競歩時における下肢筋活動およびエネルギー代謝応答に関する研究 ● 体幹屈曲伸展動作における脊椎と骨盤の運動学的分析	2010 年度 ● 競技スポーツ選手における音楽を用いた心理的コンディショニングづくり ● 頭部位置による四肢の筋力発揮への影響 —緊張性頸反射による関与の可能性を探る— ● 短距離走スタート局面における加速様式に関する研究 —出発動作から疾走動作への移行に着目して— ● スポーツ振興くじの購買意図に影響を及ぼす要因に関する日・中比較研究
---	---

主な進路

2009 年度	● ISIソフトウェア ● アサヒビール ● 東広運輸	2010 年度	● MSTコーポレーション ● 福井県教員(高校) ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
---------	-----------------------------	---------	---

主な資格免許の取得状況

2010 年度	● 中学校教諭一種免許状(保健体育)
---------	--------------------

大学院生の声

呂路 さん（前期課程 2 年生）



多様な視点から

人間の行動を研究する

中国のスポーツ大学を卒業した私は、自分のスポーツ経験や大学での勉強を通して、スポーツは勝負だけではなく、スポーツ経験が青少年の心理にも大きな影響を及ぼしていることを痛感しました。大学卒業後もさらに専門的に学びたいと思い、青少年の心理社会的発達や精神的健康に寄与するスポーツの在り方を研究するために、神戸大学に留学しました。本研究科の特徴の一つは先生の専門分野が多岐にわたることだと感じています。様々な授業を受講した今、私が入学当初に構想していた研究計画を振り返ってみると不十分な点が多いことに気づくとともに、多くの新しい構想や考え方が湧いてきました。やはり学ぶ学問領域が広がるに従って、課題を分析・考察するのに必要な研究能力も高くなるのではないのでしょうか。現在、私は中国社会において複雑な問題を抱える青少年の健全な育成のために、スポーツを手段として貢献することを研究の目標にしており、そのためにスポーツ経験が青少年の社会的スキルにどのような影響を与えているのかについて日々研究を重ねています。

【博士課程 前期課程】行動発達論コース

【博士課程 後期課程】行動発達論分野

人間行動専攻

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

- 運動・スポーツを開始する際のサポートニーズに関する量的・質的研究
- アメリカにおける高齢者向けフォスターファミリーホームに関する研究
- マスターズスポーツ参加者の楽しさに影響を与える要因の分析

2010 年度

- 運動トレーニングの違いがヒトの熱放散反応に及ぼす影響
- 成人・中高齢者の主観年齢に影響を及ぼす要因の分析
―体力年齢とスポーツ活動の関連性に着目して―
- 空巢高齢者のサクセスフル・エイジング
- 宗教は都市型コミュニティにおいてソーシャル・キャピタルとしてどのように機能しているのか
―大阪府天王寺区下寺町「應典院」を事例として―
- スクーバダイビングの継続要因に関する研究
―初期実施におけるスクーバダイバーの満足度尺度の開発を通じて―

主な進路

2009 年度

- エス・エム・エス
- 岡山瀬戸内学園教員
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

2010 年度

- キョードー関西グループ
- ペトロマテリアル

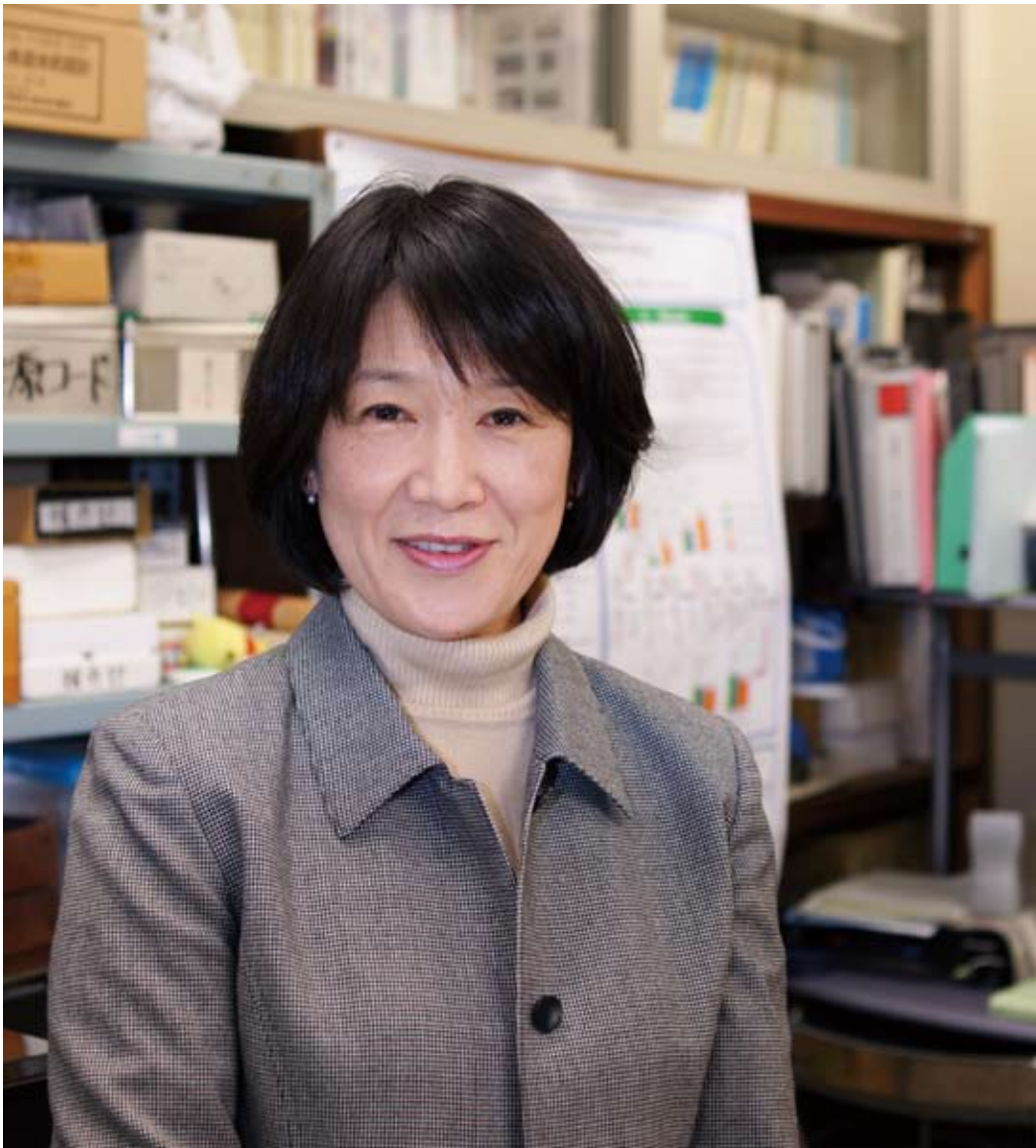
主な資格免許の取得状況

2010 年度

- 中学校教諭専修免許状(保健体育)
- 高等学校教諭専修免許状(保健体育)

大学院生の声

原田信子 さん（後期課程 3 年生）



プロフェッショナルを生かした学際的研究を目指す

行動発達論コースでは「人間行動」について自分の専門領域を追究するだけにとどまらず、他の分野の学問も学ぶことで新たな発想や手法を身につけることができます。私は理学療法士として医療現場で働いていましたが、現在は加齢に伴う認知機能の低下が高齢者の立位姿勢調整能に変化を与えるメカニズムについて研究を行っています。世界が超高齢社会に向かう中で、高齢者を取り巻く環境や行動はますます多様化しています。このため高齢者を対象とした研究では、自分の専門領域の知識や概念を体系的に整理することに加え、演習や研究発表など討論の場で、社会学や運動生理学など他の分野からの新しい理論や研究手法を知ることが非常に役立っています。大学院では国際学会の発表や欧米誌への投稿も積極的に指導していただいています。また、地域高齢者を対象としたフィールドワークも行っており、社会のニーズを認識し、そのニーズに応えることのできる研究へと発展させたいと考えています。

人間行動専攻

＊前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊岡田修一 教授(副研究科長)

＊小田利勝 教授

＊近藤徳彦 教授

＊長ヶ原誠 准教授

増本康平 准教授

加齢の身体運動科学

高齢者の立位バランス能力の多角的な分析・評価、及びその知見に基づいた転倒予防法の開発と効果判定に関する研究を行っています。

社会学，ジェロントロジー（老年学），地域研究

少子高齢・人口減少社会における生涯発達論的観点からのサクセスフル・エイジングの研究とサクセスフル・エイジングを支える諸制度・諸組織の研究を行います。

応用生理学，運動生理学，環境生理学

運動，年齢，性差，日内変動，運動トレーニング，人種差などからヒトの体温調節機能のしくみを統合的な観点から研究し，この機能の魅力にせまります。

スポーツプロモーション，健康行動科学，ジェロントロジー

成人・中高齢者を対象とした健康増進やスポーツプロモーションに関する理論・実証的研究と共に，アクションリサーチを通じた事業評価研究を行っています。

高齢者心理学，実験心理学，認知心理学

豊かな高齢社会を実現するための環境・技術の構築を目指し，加齢による認知機能・行動要因の変化について実験心理学的手法を用いた研究を実施しています。

主な授業科目と概要

＊後期課程開講科目

ジェロントロジー特論Ⅰ

ジェロントロジーの課題と方法を取り上げ，少子・高齢化問題や高齢期の心身の変化に関わる問題を科学的に分析・検証できる能力の養成を目指す。

ジェロントロジー特論演習

ジェロントロジーに関わる国内外の多様な研究成果と最新の研究動向を検討しながら，資料やデータの収集と分析の方法および分析結果の発表に関する技術を身につける。

スポーツジェロントロジー特論Ⅰ

加齢を成熟へのプロセスと捉えるジェロントロジーをベースに，成人・中高齢者を対象としたスポーツプロモーションと文化振興のあり方について考察する。

スポーツジェロントロジー特論演習

スポーツによる個人と社会の成熟化をテーマとする振興事業と文化プロデュースの方法論について，実際のプロジェクト関与とアクションリサーチの観点から学習する。

身体機能加齢特論Ⅰ

加齢に伴う身体機能の変化を引き起こすメカニズムやその機能変化に対する身体運動の影響について，身体運動科学の観点から考察する。

身体機能加齢特論演習

身体機能の加齢変化に関する研究資料を基に，加齢に伴う機能変化を引き起こすメカニズムに関しての高い新規性および独創性を有する研究について討論する。

身体機能調節特論Ⅰ

ヒトの生理学的調節機構をいろいろな調節機構との関連や多くの影響要因から統合的な観点でみることで，身体機能調節を検討する。

身体機能調節特論演習

ヒトの生理学的調節機構を統合的にみることにより，からだの問題（例えば，健康問題）をどのように解決できるのか文献から検討する。

行動適応特論Ⅰ

加齢にともなう認知機能の低下，その結果生じる日常生活の問題，問題に対する対処について最新の研究を概観し，今後の研究課題や実践課題を考察する。

ヒューマンコミュニティ創成研究

ヒューマンな環境形成の条件や前提，問題群等への理解を深め，博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。

＊ジェロントロジー特論Ⅱ

最新の研究動向を検討するとともに，少子高齢・人口減少社会の課題解決に向けたジェロントロジー研究の一翼を担うことができる実務者や研究者の養成を目指す。

＊スポーツジェロントロジー特論Ⅱ

ヘルスプロモーションやプロジェクトマネジメントの学問領域における振興理論に準拠し，加齢と共に広がるスポーツ文化振興の可能性と課題について，学術的議論と新たな仮説構築を目指す。



＊身体機能加齢特論Ⅱ

老化期の人間の行動に関わる課題について明らかにするとともに，新規性および独創性の高い方法論に依拠した実証的研究の可能性について論考する。

＊身体機能調節特論Ⅱ

体温調節機能の入力と出力の関係を複合的な対応関係から，また，この機能と呼吸・循環調節機能との相互関係から検討し，身体機能の調節特性を考察する。

＊教育能力養成演習

大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し，指導教員の指導監督のもとで，専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目の「模擬授業」を実施する。

人間の表現と文化のかかわりを解き明かす

私たちは小さい頃から自分らしくあれと言われ続けてきました。表現についても同様です。個性的であること、オリジナルであることが賞揚されてきました。しかし、ほんとうでしょうか？ いったい個性やオリジナルとは何でしょうか。そもそも、そうした言説はどのようにして成立したのでしょうか。表現文化論研究は、まず、表現を疑うところから始まります。表現に限りない関心をもつからこそ、疑うのです。

表現文化論コースは、表現を、人間が意識するとしないうちに問わず生み出してきた文化として捉え、歴史的・社会的に探求します。人間ひとりひとりの想像力は、残念ながら身の丈を超えることはできません。しかし、そうした人間が集まった社会では、想像を絶することが起こり得ます。そして、その社会がまた次の時代の個性に影響を与えます。これまで素直に好きでいられた表現の世界にちょっとした疑念が生じたとき、そのときこそが、さらなる探求への出発点です。文献調査や、実験、フィールドワークに実際の表現活動といった様々な研究へのアプローチの中で、表現文化の過去・現在・未来に対する深い認識と柔軟で創造的な構想力を養い、さらに、その認識や構想を他者に向かって分かりやすく説得的に伝えることのできる論理的な表現力を涵養します。官公庁や民間企業・組織の専門職、研究者、学芸員、アートマネージャー、ステージマネージャー、編集者、ジャーナリスト、ライターなど、これからの成熟社会において表現文化の諸領域で活躍が期待される人材を養成します。

研究最前線 梅宮弘光 准教授（近代建築史）



忘れられたものから

建築と都市を読み直す

「表現文化論分野」は、人間と世界の相互関係を、表現や象徴を切り口に探求しているところです。そのなかで私は、空間的な拮据りをもった世界、とくに「建築」や「都市」を対象に、その意味を近代という時代と社会の脈絡の中で探ろうとしてきました。とくに関心をもって取り組んできたのは、頓挫した計画、挫折した人生、忘れられた存在……。とにかく少々残念な結果に終わったものに、私はみよように惹かれるのです。そこに、世界に對峙したときの人間の真実を垣間見るように思うからです。たとえば建築の場合だと、日本のモダニズム。その最尖鋭たるアヴァンギャルドたちの活動です。彼らは既存の安定した技術や表現を否定し、夢想的なユートピアを描くのですが、うまくいきません。現実を踏まえていないのだから当然です。それならと現実的な活動にシフトするのですが、歴史はそれを評価しません。今度は凡庸に過ぎるのです。たとえば都市の場合だと、戦災復興期。戦後の焼け野原にいち早く展開したのは、ヤミ市や不法占拠といった違法性と無計画を含みながら絶妙の間合で権力に対応した民衆的活動でした。そうした環境形成が復興の序を開くわけですが、世の中の安定につれて強大な計画性のなかに回収されていきました。このように、かつて一瞬の輝きを放ちながら、確かな足跡を残さないまま消えていったものを、歴史は必ずしもていねいに見つめようとはしません。とくに、近代や戦後の比較的新しい事柄については、その意義や重要性に気づくのが遅れがちです。ようやく気づいたときには建物は取り壊され、当事者は亡くなり、資料は散逸。自分の見識のなさが恨めしいですが、一方、歴史研究はここからほんとうのスタートだとも思います。ささやかな情報をたぐり寄せ、細部や暗部がその姿を現し始めたとき、歴史の全体もまた、これまでとは異なる光景として立ち現れる。それを確かめたいと念じています。

人間表現専攻

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

＊ 梅宮弘光 准教授	＊ 大田美佐子 准教授	＊ 小高直樹 教授	＊ 田畑暁生 准教授
近代建築史	西洋音楽史、音楽美学	感性科学、図形科学	社会情報学、映像論
近代建築の歴史・都市環境形成史が専門です。前者では建築におけるモダニズム思想の生成と変容、後者ではとくに戦後神戸の都市環境形成史を研究の柱としています。	両大戦間の音楽文化の諸相（音楽・音楽劇に表象された芸術思潮や時代精神、伝統の継承やその展開（受容）の問題）について研究しています。	芸術などの創造的表現における、あいまいで、主観的、多義的、状況依存的な感性情報を抽出し、工学的に取り扱うことができる論理情報に置換する方法を模索しています。	情報社会に関する理論的・実践的な諸問題を扱います。具体的には、情報社会論の思想的系譜や、映像の内容分析、地域情報化政策の影響などを扱います。
＊ 中山修一 教授	平芳 裕子 講師		
デザイン史	ファッション文化論、表象文化論		
19世紀から現代に至る英国のデザインに関する研究。とりわけ現在は、陶芸家富本憲吉のウィリアム・モリスの受容過程について研究を進めています。	西洋近現代における「ファッションと女性」との関わりを、雑誌や絵画などのメディアを中心とするイメージ・言説の分析を通して考察しています。		

主な授業科目と概要

＊後期課程開講科目

芸術総合特論	デザイン史特論Ⅰ	デザイン史特論演習	図形科学特論Ⅰ
人間表現研究の基礎として、さまざまな芸術ジャンルにおける研究を横断的に扱い、芸術研究の総合的な視座を求めることを目的とする。	デザイン史研究における基本的枠組みとその発展史について主として論じ、あわせて最近の視覚文化研究や物質文化研究の成立事情に関しても言及する。	デザイン史研究のリサーチ・スキル（修論レベル）の修得を目的とした演習を行う。具体的には、受講生一人ひとりがテーマを設定し、小論文を作成する。	言語とともに重要な情報伝達手段の一つである図形に注目し、その基本的な構造・性質と表現方法、また人間の認知メカニズムとの関連について考察する。
図形科学特論演習	建築文化史特論Ⅰ	音楽史特論演習	ファッション文化特論
図形科学特論Ⅰの内容を踏まえ、図や形によって構成された情報伝達手段としてのデザインのイメージや表象、評価等の問題について演習を行う。	近代におけるモダニズム建築思想や都市環境形成の背景をなしている近代社会を、建築や都市との関連から、文献研究とフィールド調査を通して検討する。	西洋、または日本の近現代における音楽文化のトピックを選び、外国語の文献を精読する。後半は各人が関連したテーマを設定し、その発表を相互に論評しあい、問題意識を共有する。	ファッション研究の方法論的問題を検討したうえで、ファッションをめぐるイメージや言葉を通じて、視覚文化の諸問題を考察する。
ファッション文化特論演習	ヒューマンコミュニティ創成研究	＊ デザイン史特論Ⅱ	＊ 図形科学特論Ⅱ
ファッション研究に関する基本的文献の講読をふまえ、受講生各自が設定されたテーマのもとに研究発表を行い、全員で討議を行う。	ヒューマンな環境形成の条件や前提、問題群等への理解を深め、博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。	デザイン史研究の最前線の動向を知るうえで必要とされる、国内外の最近の重要な研究成果や主要な論点を取り上げて紹介し、詳しく解説する。	言語とともに人間の重要な情報伝達手段の一つである図形が有する情報の二つの性質、すなわち形式的な論理情報と状況的な感性情報について論考する。
＊ 建築文化史特論Ⅱ	＊ メディア情報社会特論Ⅱ	＊ 教育能力養成演習	
日本の建築におけるモダニズム建築思想の展開過程について、その背景をなす社会状況や芸術諸分野との関連に着目しながら検討する。	メディア情報社会特論Ⅰおよび演習を踏まえて、博士課程に籍を置く院生が、自らの研究を発表し、お互いに切磋琢磨し批評し合う場所として機能させる。	大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し、指導教員の指導監督のもとで、専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目目の「模擬授業」を実施する。	



【博士課程 前期課程】表現文化論コース

【博士課程 後期課程】表現文化論分野

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

- 大戦間期アメリカ東海岸の芸術音楽にみるポピュリズムとその変容
―アーロン・コーブランド《交響的オード》からの出発
- 環境広告の比較にみる日本と台湾の文化
―トヨタ・プリウスの CM を中心に
- リサイクル広告が環境配慮型行動に及ぼす効果についての一考察
- 子どもとメディアアートに関する考察
- モンゴルの民族音楽とホーミー

2010 年度

- ファッションとミュージアムの関係の変容
―京都服飾文化研究財団の事例による一考察
- 神戸市の震災復興過程における都市環境の変容に関する研究
- トレンディードラマの視聴による観光振興の効果について一考察
―哈日族と華流を基本資料として―
- バリ島の民族芸能「ジェゴグ」に関する研究

主な進路

2009 年度

- 威力盟電子股份有限公司
- 大阪府立教員(高校)
- 岡山県立岡山東養護学校教員

2010 年度

- 樹光会大村病院

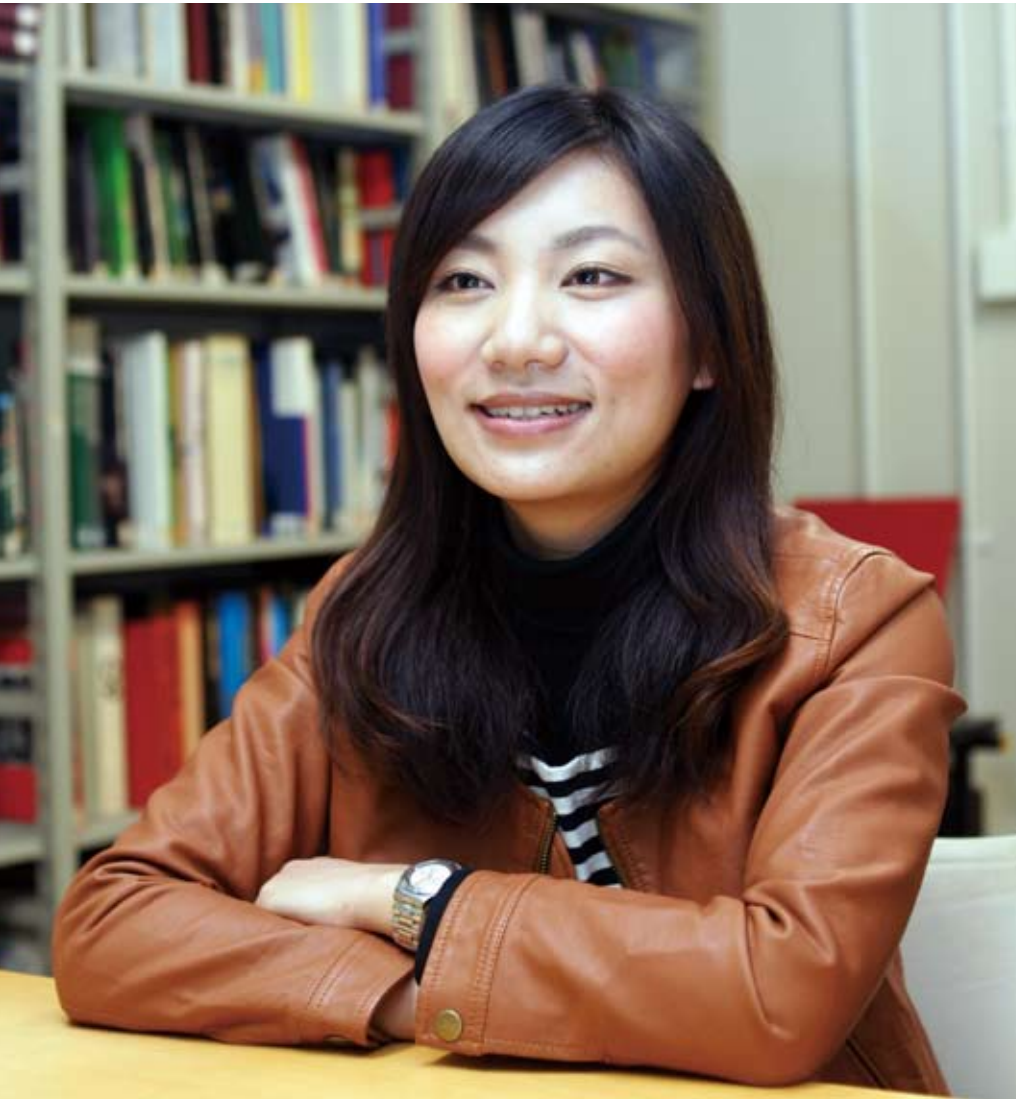
主な資格免許の取得状況

2010 年度

なし

大学院生の声

汪鋭 さん（前期課程 2 年生）



知らないところで、

知らない世界に触れる喜びを感じる

私は中国の大学で主に日本語を学び、もっと日本を身近に理解しようと思い、留学しました。表現文化論コースには、中国の近現代における視覚・物質文化に関する研究を指導していただくにふさわしい先生がいらっしゃるので、ぜひここで留学生活を送りたいと思いました。いま私は、表現文化論コースのデザイン史の研究室に所属し、中国の画報『良友』（1926－45 年）の広告に見られる女たちについて研究をしています。ここでの指導を通じて、自主的に勉強に取り組むことの大切さを知りましたし、修士論文において自分が何をやるべきかがはっきりとわかってきたところです。新しい研究上の観点に立ち、これまでよく知らなかったところ（日本）で、知らない世界（自分の国の歴史や文化）に触れる喜びを、いま強く感じています。

人間表現専攻

【博士課程 前期課程】コミュニティアートコース

【博士課程 後期課程】表現創造論分野

芸術と生活を新たな視点で統合することを目指します

描く，作る，歌う，演じる，こういった人間の表現行為は，従来，言葉を超えた存在とされており，それ故そういった表現に内在する思想や哲学，創造性に焦点をあて研究することは困難が伴いました。

絵画や彫刻の制作，音楽の作曲や演奏，そして舞踊や身体表現など，自らも表現者として豊かな実践経験を持つ教員によって構成されるコミュニティアートコースは，その確かな実践理論の上に立って，敢えてこの困難な課題に挑戦し，独自の表現学の構築を目指します。実践行為の探究による表現学の構築と，実践論を社会に作用・展開させる方法論の開拓，これは他大学・研究機関にはない神戸大学独自の研究分野といえるでしょう。

また一方，現代社会において芸術的行為は，いわゆるハイアートのみならず，生涯教育，パブリックアート，療法などの分野で発展しており，クオリティ・オブ・ライフ，いわゆる QOL を重視する福祉社会が実現するにつれ，それらの需要，必要性は高まると考えられます。本コースでは，未だ分野として明確に成り立っていない諸領域を一元的に扱うことにより，将来的な発展を先導します。そして，地域社会において芸術に関わる生涯教育のファシリテーターや指導者の育成，あるいはそれと関係した音楽療法などの実践研究，及びコミュニティアートとしての新しい芸術形態の創造開発を目的とした教育研究を行ないます。

研究最前線

塚脇淳 教授（美術，彫刻）



捨てるだけ捨ててしまっ
て、残ったものを表わせ

私は彫刻家だ。しかも鉄を素材に抽象彫刻を制作する彫刻家だ。もうかれこれ 30 年鉄という素材と向き合っている。鉄をたたくことで得られる反りが作り出す空間を組み合わせ構成する表現と，また一方，そういった構成を考えずに鉄に向かう表現とが振り子のように存在していて，ここ数年はその振り子は後者に大きく振れているように思う。使う材料の形状や方法は前者よりもさらに単純になっている。けれども出来上がった作品は逆に饒舌になっている。「捨てるだけ捨ててしまっ
て、残ったものを表わせ」。この言葉を唯一の手掛かりとして始めた長いながい鉄との旅，今や接続のためのボルトもなくなって 1 枚の鉄板をぐるぐる巻きにしていくな
ってしまった。けれどもこれが自分の表現にとつて大事なことに抵触している感覚がある。その感覚を信じて進むしかない。今日，ありとあらゆる知識や情報が簡単に手に入るようになった。そういった状況のなかでの表現の探究は困難を極めることでもある。私が学んだこの造形哲学は，今日のよ
うなグローバル化した文化状況であるが故に，これから表現を学ぶ人にとって，自分の立ち位置を見据える手掛かりを与えてくれるのではないかと
思っている。社会的な活動としては，国内では彫刻家集団 NEW HEAVY の代表として精力的に活動を行っている。国際的には，近年はロシアとの交流を積極的に開始し，一昨年はロシア・ベンザ市の彫刻シンポジウムに招待され現地制作を行った。また神戸大学に

彫刻家や研究者を招聘し，日本ロシア芸術交流シンポジウムの開催や，ベンザ州立大学と交流協定を結ぶなどその交流を深めつつある。それはロシアが構成主義という造形芸術の重要な概念を生んだ国であり，その哲学は巡りめぐって私たち日本人の美術に深く入り込んでいると思うからだ。私たちが西洋から学んだものは何だったのか，何を自分たちのものとしてきたのか，そして何を発信しようとしているのかを問う時，構成主義は重要な検討課題であり，そこに 21 世紀の美術のあり様を見出せるのではないかと考えている。

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度	2010 年度
● 高等教育機関における生涯音楽学習にみる課題と展望	● アウトサイダー・アート作品における反復性 ―病理との関連性と表現形体の比較から―
● 日本におけるキリスト教合唱音楽 ―日本人の宗教観とキリスト教音楽―	● パウル・クレーのポリフォニー絵画における「造形思考」
● 《SONGS》からとらえる武満徹の音楽	● 図形楽譜を使用した子どもとの創造的音楽活動 ―音楽療法の視点を通して―
● 音楽療法における＜聴取＞―意味の生成と共有をめぐる―	● 即興演奏の習得に関する研究
● 岡本太郎とメキシコに関する一考察 ―壁画『明日の神話』を中心として―	● イタリアオペラのジャポニスム ―マスカーニ『イリス』にみる日本の「象徴」―
● ヘレン・フランケンサラー作品におけるイリュージョンの開放性 ―クレメント・グリーンバーグの言説との照応からの考察―	● W. ルトスワフスキの創作前期の意義 ―ポーランドの社会的状況と作品に見られる技法的特徴から―

主な進路

2009 年度	● 芸術家 (作家活動)	● 阪神総合レジャー	2010 年度	● 大阪センチュリー交響楽団
	● 京都大学大学院人間・環境学研究科			● 社会福祉法人京都ライフサポート協会

主な資格免許の取得状況

2010 年度	● 中学校教諭専修免許状（美術）
	● 高等学校教諭専修免許状（美術）

大学院生の声

石名智子 さん（前期課程 2 年生）



自分に挑戦できる。
アクティブに動いて
フィールドを広げる。

コミュニティアートコースでは、理論と実技の両面から身体表現の追求を目指していますが、1 年生では特に実技面に力を注いできました。私は、ベルギーの舞踊学校 P. A. R. T. S. の最終選考に残り、現地まで受験に行ったり、「ダンスの時間」という公演に出演し、発達科学部の後輩達と作品を創作・発表しました。また、工学研究科の大学院とも協力し、オーストリアで行われた「アルス・エレクトロニカ」に参加し、最先端技術とアートを融合させ、200 個もの LED を縫い付けた衣装で踊る『Lighting Choreographer』というパフォーマンスを披露しました。このようにアクティブにフィールドを広げられたのも、神戸大学が多くの学部・研究科を有する総合大学であるという魅力とともに、先生の大きなサポートであると深く感謝しています。大学院へ進学したからこそ、多くの刺激を受け、成長できているのだと感じています。この 1 年の経験を活かして、2 年生では修士論文に向け理論と実技を相互にフィードバックさせ、双方の一層の充実を目指しています。

【博士課程 前期課程】コミュニティアートコース

【博士課程 後期課程】表現創造論分野

人間表現専攻

スタッフと研究分野・研究テーマ

* 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）
† 2012 年 3 月 31 日をもって退職予定

＊ 岸本吉弘 准教授	＊ 斉田好男 教授 †	＊ 佐々木倫子 教授	関典子 講師
絵画表現	指揮 (オペラ、管弦楽、吹奏楽、合唱)	声楽	舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
近代以降の絵画表現を造形的な視点より分析し、それらを継承する形で現代性を俯瞰、それらに対称化される「日本」という存在を見つめています。	「指揮を通してのコミュニケーション」音楽表現を指揮者の立場から研究しています。多くの分野にわたる音楽表現について、効果的な表現方法を探求しています。	歌曲における朗唱法に関する研究、特に日本歌曲、ロシア歌曲、ドイツリートにおいて「語る」と「うたう」の差異を明確にしつつ表現法を研究しています。	舞踊は有限の身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その「現在性」にこだわり、表現・研究活動をフィードバックしながら探究しています。
田村文生 准教授	＊ 塚脇淳 教授	坂東肇 教授	＊ 若尾裕 教授 †
作曲、編曲、西洋芸術音楽を中心とした作品研究	美術、彫刻	器楽 (ピアノ、室内楽)	臨床音楽学、即興演奏
20 世紀の西洋音楽を中心とした音楽語法の分析や、様々な演奏形態における音楽の新しい表現手法の開拓と創造に取り組んでいます。	私たちは西洋から何を学び何を受け入れ何を自分たちのものとしてきたのか、20 世紀美術を代表する作家や表現を様々な角度から考察・検証し、「彫刻」を思考しています。	演奏は生命の響きそのものであり、人間のすべてを映し出すものです。人間の個性や人格の発達と、その演奏との相関に興味があり、研究しています。	臨床音楽学という立場から、従来の音楽療法の西洋中心性や近代性の批判を通した音楽療法の新しい考え方を模索しています(即興演奏や音楽学などを含む)。

主な授業科目と概要

* 後期課程開講科目

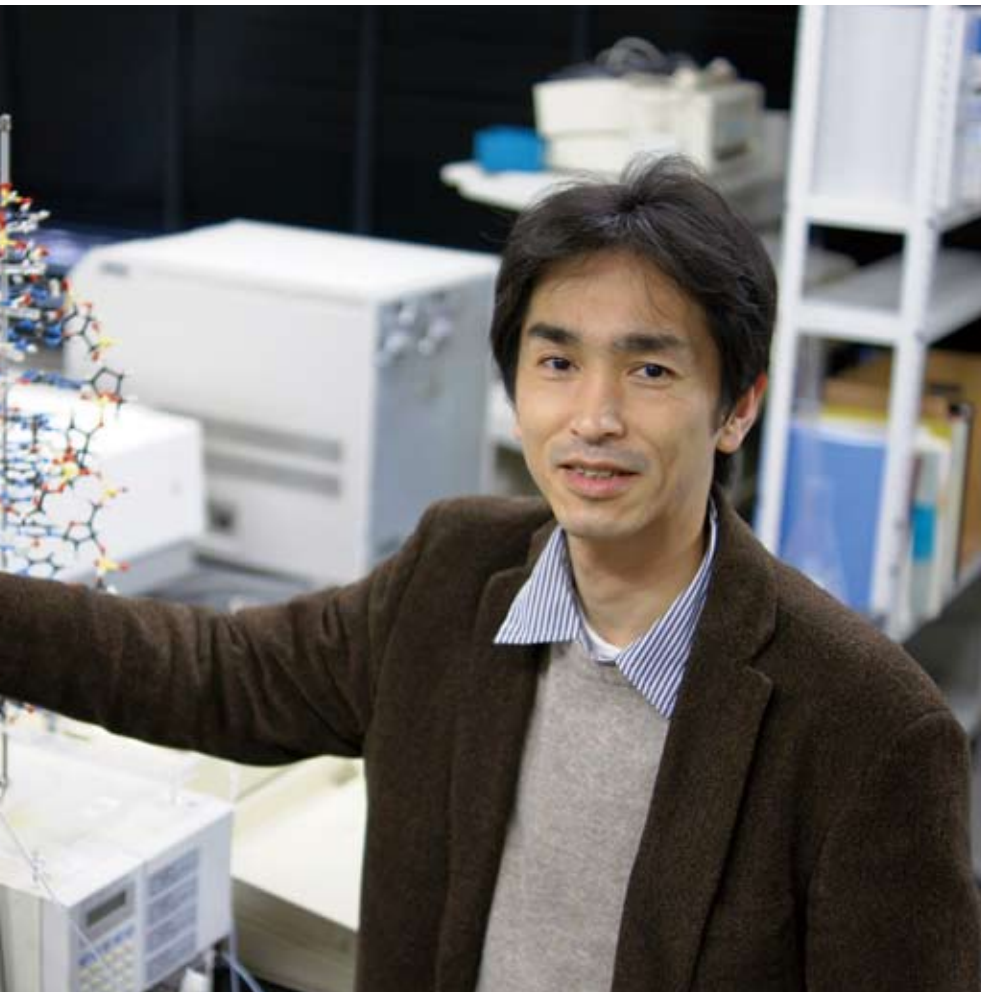
音楽集団活動特論	音楽療法特論Ⅰ	現代彫刻特論	声楽表現特論
オペラ、管弦楽、吹奏楽、合唱等、音楽活動の集団表現を中心とした研究、またそれら集団活動が社会に果たす役割についての考察も行う。	臨床音楽学やその関連領域における研究を進める上で必要な基礎知識について、講義、文献講読、ディスカッションを通して学ぶ。	変態する人間（芸術家変態論）。芸術家は創作活動の中で、ある時、飛躍的な変化を遂げることがある。その時作家に何が起こったのか、その変貌期について考察する。	年度ごとにテーマを決め、様々な角度から声楽表現法を研究し、表現するとはどういうことかを議論し深めていく（例えば、2010 年度は、H. Wolf 作品）。
器楽表現特論	現代絵画特論Ⅰ	音楽創造特論	音楽作品研究特論
音楽を聴いて感銘を受けた経験を持ち寄り、その音楽のどこに感銘を受けたのか一つずつ検討し、その内容を共有・考察する事を通して音楽の内実に迫る。	日本にモダニズム絵画は存在したのか？西洋近代絵画をフォーマリズムの視点より見つめ、それらに対称化される日本の絵画像とその問題点に迫る。	19 世紀末から 20 世紀前半にかけての西洋芸術音楽を、「曖昧さ」という観点で実証的に分析し、その実態を構造的側面から把握する。	前期の「音楽作品研究特論」を踏まえ、組織的・非組織的両側面から、自らの作品を創作することによって、より実際的な音楽把握を試みる。
舞踊表現特論Ⅰ	ヒューマンコミュニティ創成研究	＊ 音楽史特論Ⅱ	＊ 音楽療法特論Ⅱ
総合芸術としての舞踊の特性について、他ジャンルとのコラボレーション、古典作品の新解釈などをトピックとして、具体的な事例を取り上げ考察する。	ヒューマンな環境形成の条件や前提、問題群等への理解を深め、博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。	近現代の音楽史、音楽文化からトピックを選び、内外の文献を精読する。後半はレポートを作成し、その論評を土台に議論を深める。	作ることと思考することが繰り返されることによって練り上げられていく造形の世界。そこに潜む「表現(者)の論理」について、様々な知見を援用しながら考察する。
＊ 教育能力養成演習			

自然科学の広い視野を備えて環境の本質をとらえ，課題解決に挑む

20世紀に科学は大きな発展を遂げましたが，同時に専門化，細分化が進みました。一方，気候変動，生物多様性保全，資源・エネルギー問題など，環境問題を始めた科学に関わる現代社会の諸課題は複合的な性格を持ち，持続可能な社会の構築に向けてそれらの解決に取り組むには，旧来の学問の諸分野・領域を超えた総合的な知の在り方や，異なる背景や専門性を持つ人々の連携をコーディネートできるような能力・人材が必要となっています。このような背景を踏まえて，博士課程前期課程の自然環境論コースおよび後期課程の自然環境論分野では，自然環境の成り立ちや，環境と人間の相互作用に関する基礎的研究を行う能力を有し，自然科学の立場から人間環境の具体的諸課題の解決を目指す人材を養成します。そのために，自然環境に関わる物質系，生命系，地球表層から宇宙にいたるまでの幅広く，基礎的な理解を深めるとともに，環境汚染，生物多様性を含む自然環境保全などの人間生活と密接に関係する環境問題に関して深く考究します。カリキュラムには，専門諸領域の多彩な授業科目に加えて，環境科学の大学院レベルの幅広い基礎力を修得する環境基礎物質科学，環境基礎生命科学等の科目群，先端のトピックスを取り上げる自然環境先端科学の科目群の他，サイエンスコミュニケーション演習，インターンシップなどの特徴ある科目が用意されています。これらを基盤として，特別研究や論文作成を通じて研究能力を養います。多様な領域の教員や大学院生の仲間との対話と相互作用の中で，高い専門性と総合力を培い，自然環境の諸課題に挑む意欲ある皆さんを歓迎します。

研究最前線

江原靖人 准教授（生物有機化学）



生命活動における多くの触媒反応は，主としてアミノ酸から構成される酵素によって行われています。しかし，既に RNA が酵素機能，遺伝子抑制機能などを持つことが発見されています。また DNA に関しても，従来は遺伝情報の担い手としてしか考えられてきましたが，近年，試験管内高速進化法と呼ばれる手法によって，酵素機能を持った DNA が発見されました。このように，生体分子にはまだ発見されていない多くの潜在能力があると考えられます。このような機能を持った生体分子を思いのままにデザインし，合成することができれば，生命科学分野の基礎科学研究をはじめ，医療・エネルギーに関する社会問題を解決することも可能になります。しかし，生体内ではアミノ酸は 20 種類，核酸は 4 種類と規定されているため，その可能性が限定されてしまっています。そこで，わたしたちは有機化学と遺伝子工学を組み合わせ，DNA に種々の化学修飾を行った分子をデザインして実際に合成しています。こうして合成した化合物を社会に役立てる一例として，インフルエンザウイルス感染を阻害する化学修飾人工 DNA を作り出すことに取り組んでいます。インフルエンザウイルスは現在，パンデミックが最も危惧されているウイルスですが，治療の問題点として，必ず治療薬に対して耐性を有するウイルスが出現してしまう点が挙げられます。実際にタミフル耐性のウイルスも既に確認されており問題となっています。一方，わたしたちが合成したヘマグルチニン (HA) タンパク質を標的とした化学修飾人工 DNA は，どのように変異したインフルエンザウイルスに対しても治療が可能である可能性があることがわかりました。みなさんが研究室で合成した化合物が，実用化され社会で活躍したり，生命誕生の謎を解き明かす日がくるかもしれません。

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊ 青木茂樹 教授 素粒子・宇宙線物理学 ニュートリノ振動実験や宇宙ガンマ線の観測などの研究をしています。	＊ 伊藤真之 教授 宇宙物理学，科学教育 人工衛星等によって得られるデータを用いた宇宙の観測の研究や地域社会における市民科学活動支援システムの構築に関する研究をしています。	＊ 上地真一 教授† 生物有機化学 酵素機能の一つであるエナンチオ選択性の発現機構の解明及び酵素表面を磁性粒子やクラウンエーテルなどを用いて化学修飾することによる酵素の機能改変を試みています。	＊ 丑丸敦史 准教授 植物生態学 送粉者による花形質の進化の解明を目指し，及び送粉ネットワーク構造や水田生態系における希少種（半自然草地の草本，カエル類）の分布特性の解析も行っています。
＊ 榎本平 教授 分子生物学 高増殖性・高重油生産性を有する重油生産藻類 Botryococcus braunii の開発に関する研究や遺伝子クローニング技術の開発を行っています。	＊ 江原靖人 准教授 生物有機化学 遺伝子を構成している核酸塩基を改変した人工核酸を合成し，試験管内高速進化法と組み合わせることにより，がん細胞，ウイルスを標的にした新しい核酸医薬を創製しています。	＊ 蛭名邦禎 教授 環境物理学，理論生命科学 地球システムと生命システムの時間発展ダイナミクスのモデル化と，それに基づく地球環境理解に取り組んでいます。	＊ 大串健一 准教授 地球環境 地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。
＊ 齊藤恵逸 教授 分析化学 化学発光・蛍光を利用した物質の分析法，有機試薬を用いたイオン選択性電極の開発，ストレスマーカー測定法の開発に取り組んでいます。	＊ 高見泰興 准教授 進化生態学 生物多様性と進化に関わる性淘汰と種分化のメカニズムについて，野外調査，行動実験，形態解析，DNA 解析などを組み合わせて研究しています。	＊ 武田義明 教授 植生学，植物生態学 生物多様性は，人間の影響による低下だけでなく，逆に放置されても低下する場合があります。植物群落を対象に，生物多様性の保全を目的とした研究を行っています。	＊ 寺門靖高 教授 環境地球化学 元素濃度や同位体組成の分析による地球環境の研究（河川水などの水質，サンゴや貝殻を造る生物鉱化作用，環境物質の起源，岩石や地殻の成因など）について研究しています。
＊ 中川和道 教授 放射光物性物理学，環境物理学 大気環境科学（太陽を光源とした温暖化ガスの検出など）やシンクロトロン放射を用いた生体分子の分光研究（アミノ酸や DNA 分子など）について研究しています。			

主な授業科目と概要

自然環境先端科学 A 地球大気中の化学物質の濃度や分布，それらの時間変化を支配するメカニズム，地球規模の物質循環に関わるプロセスなどについて基礎レベルから講述する。	自然環境先端科学 B 地球環境問題の解決に向けた学際的・総合的な学問創出の一環として総合地球環境学研究所等で進められている文理融合型の研究事例を紹介・解説する。	自然環境先端科学 C 新しい生活環境を含む環境化学の体系化を行い，リスク評価に必要なバイオチップやマイクロ流体チップなどの先端計測化学の基礎と応用を解説する。	環境科学特別講義 A 各教員や訪問研究者が環境科学に関する時宜を得た最新の話題についてそれぞれの視点から解説する。
サイエンスコミュニケーション演習 非専門家や他分野の研究者などとのコミュニケーションを中心として，科学に関わるコミュニケーション・スキルを高めるための演習を行う。	インターンシップⅠA 環境科学に関わる研究機関や，企業，自治体，NPO などで，2 週間程度の実習を行い，研究や社会の現場で必要となる資質を高めることを目指す。	インターンシップⅠB 環境科学に関わる研究機関や，企業，自治体，NPO などで，3 週間程度の実習を行い，研究や社会の現場で必要となる資質を高めることを目指す。	インターンシップⅠC 環境科学に関わる研究機関や，企業，自治体，NPO などで，1 ヶ月程度の実習を行い，研究や社会の現場で必要となる資質を高めることを目指す。
環境基礎物質科学 A 宇宙の進化の中で原子がどのように作られてきたのかについて，星（太陽）に対する理解を深めながら学ぶ。	環境基礎物質科学 B 大気科学を題材として，物質のマクロな特性や動態を扱う，物質輸送，連続体力学，熱力学など，環境科学の大学院レベルの基礎を学ぶ。	環境基礎物質科学 C 環境科学を学ぶために必要な物質科学の基礎を理解するための講義と演習を行う。具体的には，物理化学のうち，熱力学，統計力学，化学反応論などを扱う。	環境基礎生命科学 A 生命現象のミクロレベルの理解の基礎として，主として分子生物学の実験的研究成果とバイオインフォマティクスなどの理論的側面について講述する。

主な授業科目と概要（続き）

環境基礎生命科学 B 生命現象をマクロレベルで理解するための重要な概念である生物多様性（景観、群集、種の多様性）について、ミクロレベルとの関連も踏まえて講述する。	環境植生学特論Ⅰ 植物群落は、様々な環境に対応して成立しており、その要因としては気候や地形・地質などの自然環境や人為的な影響であることを理解する。
環境創成科学特論Ⅰ 自らの専門研究が環境科学の文脈においてどのような意義を持つのかについて考え、学際的視野の育成と研究アピールのためのプレゼンテーション能力の向上を目指す。	環境地球化学特論Ⅰ 環境地球化学に関する基礎となる文献や最先端の論文を講読し議論などを交えて専門性を深める。
粒子物理学特論Ⅰ 現代の素粒子モデルが確立されて来るまでの過程について学ぶ。	紫外線・放射線作用特論Ⅰ 生体分子や有機材料等に紫外線や放射線を照射することによって誘起される効果をシンクロトロン放射を用いた放射光物性論の観点から講義する。
環境有機化学特論Ⅰ 酵素としてリパーゼやエステラーゼを主として取り上げ、酵素反応を利用する農薬や医薬などの有用物質のエナントオ選択的変換について解説する。	超分子化学特論 水素結合、静電相互作用、疎水性相互作用を組み合わせ、生体内で巧妙に働いている分子システムを模倣するための手法について講述する。
* 植物多様性特論Ⅱ 植物多様性減少の実体、多様性保全と人間生活の両立の困難さと共存のための工夫などを学び、植物多様性・生態系保全の今後について講述する。	* 環境地球化学特論Ⅱ 環境地球化学に関する基礎となる文献や最先端の論文を講読し議論などを交えて専門性を深める。
* 環境有機化学特論Ⅱ 酵素反応の速度論的解析及びESR や FT-IR などのスペクトル測定に基づいた酵素の構造（動的挙動）変化の解析手法について解説する。	* 環境遺伝子工学特論 重油生産藻類、高効率光合成藻類のゲノム構造とエネルギー生産性を、遺伝子、酵素タンパク質の機能レベルで講義する。
* 生体超分子化学特論 ナノメータースケールで制御された界面や生体分子構造体などを、有機化学及び遺伝子工学を組み合わせて構築する手法について講述する。	* 環境創成科学特論Ⅱ 生物の環境適応の生態学的、進化学的側面について、自らの専門研究成果について考え、討論を通じてその科学的意義を深く理解することを目指す。
* 粒子物理学特論Ⅱ 粒子と物質の相互作用の基礎過程について学び、素粒子実験や宇宙線観測で使用する検出器に関する理解を深める。	* 宇宙環境物理学特論Ⅱ 太陽系内から星間空間に至る広義の宇宙環境の諸現象につき、人工衛星等による観測を中心に宇宙科学の話題を取り上げ、その研究手法について学ぶ。

主な進路

2009 年度	● IHI検査計測 ● アクセンチュア・テクノロジー・ソリューションズ ● エヌ・エス・シー ● NTTデータ ● 大阪大学産業科学研究所 ● 河合塾 ● クロリンエンジニアズ ● 島津製作所 ● スタンレー電気 ● デンロ コーポレーション ● トヨタ自動車 ● ナガオカ ● 西日本電信電話 ● 日本電信電話 ● 日本分光 ● 富士写真フイルム ● 北陸電力 ● 林野庁中部森林管理局 ● 大阪府教員(中学) ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
---------	---

人間環境学専攻

* 後期課程開講科目	高次生命機能特論Ⅰ 地球上の生命系を取り巻く様々な環境因子が生体の高次機能等に与える影響を蛋白質や核酸の関与する分子レベルの相互作用機序に基づき講述する。
植物多様性特論Ⅰ 植物生態学・生物多様性学の基礎を学び、植物多様性を説明する様々な生態学的理論を説明する。人間活動による多様性低下の具体的事例も取り上げる。	宇宙環境物理学特論Ⅰ 星間空間を含む広義の宇宙環境の諸現象の物理について、各年度選択した領域（放射輸送、宇宙流体力学など）を学ぶ。
環境地質学特論Ⅰ 地層に記録された地球環境変動の情報を環境地質学的手法により解説した事例を解説する。	分析化学特論Ⅰ 環境汚染物質の分析を題材として取り上げ、試料中の微量成分を分析する際の前処理および検出法について、その背景にある理論を含めて解説する。
自然階層構造特論 複雑な地球システムや生体システムを考える基礎として、力学的・確率的時間変化、自己組織化、環境適応などを通じた自然階層の形成を講述する。	* 環境植生学特論Ⅱ 植物社会学的方法による群落分類体系の詳細およびその成立要因について講義する。
ヒューマンコミュニティ創成研究 ヒューマンな環境形成の条件や前提、問題群等への理解を深め、博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。	* 水環境科学特論 水循環、水質、水管理など水環境研究に重要なグローバルおよび地域的な課題について、人間活動による変化という視点も交え、最新の研究成果を講述する。
* 環境地質学特論Ⅱ 地質学的手法に基づく最新の環境分析法を紹介し、それらの手法により明らかとなった地圏環境の現在および過去の変遷について議論する。	* 高次生命機能特論Ⅱ 生体内の遺伝的因子と化学物質等の環境因子との分子レベルの相互作用をモデル化・解析し、各種環境影響のリスク評価などを行う系統的手法を修得する。
* 環境地球化学特論Ⅱ 環境地球化学に関する基礎となる文献や最先端の論文を講読し議論などを交えて専門性を深める。	* 紫外線・放射線作用特論Ⅱ 生体分子、有機物等に紫外線・放射線を照射すると誘起される励起・イオン化・発光・反応等の諸効果を放射光物性論の観点から専門的に講義する。
* 環境遺伝子工学特論 重油生産藻類、高効率光合成藻類のゲノム構造とエネルギー生産性を、遺伝子、酵素タンパク質の機能レベルで講義する。	
* 環境創成科学特論Ⅱ 生物の環境適応の生態学的、進化学的側面について、自らの専門研究成果について考え、討論を通じてその科学的意義を深く理解することを目指す。	* 理論環境物理学特論 気候と物質循環、生態系の空間構造と時間発展、生体の非線形応答、地球圏自然環境動態などを扱う理論的な手法を、ミクロとマクロの立場から講述する。
* 粒子物理学特論Ⅱ 粒子と物質の相互作用の基礎過程について学び、素粒子実験や宇宙線観測で使用する検出器に関する理解を深める。	* 教育能力養成演習 大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し、指導教員の指導監督のもとで、専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目の「模擬授業」を実施する。

2010 年度	● 糸川産業 ● 一方社油脂工業 ● オージス総研 ● 三社電機製作所 ● 住友ゴム工業 ● 太陽化学 ● 東京ガス ● ニトリ ● ピアス ● 三ツワフロンテック ● 気象庁 ● 宝塚市教員(中学) ● 兵庫県教員(高校) ● 神戸大学大学院人間発達環境学研究科
---------	--

人間環境学専攻

修士論文テーマ

2009 年度	● 月面突発発光現象観測システムの開発 ● 第一原理分子シミュレーションと赤血球凝集反応実験によるインフルエンザヘマグルチニンの変異予測可能性 ● 太陽電池による太陽光エネルギーの有効利用の検討 ● ジョギング時における紫外線被曝量の推定と検証 ● 紫外線強度の増加が光化学オゾンならびにエアロゾル生成に及ぼす影響 ● イソブレン-オゾン反応系における有機エアロゾル生成 ● DNA 塩基の真空紫外線吸収スペクトルの測定と振動子強度分布総和則による検証 ● アミノ酸の化学進化に有効な光エネルギーの探索 ● 極低周波電磁場による磁性酵素の機能改変 ● Bioimprinting 法による酵素の機能改変及びリパーゼを触媒とする新規不斉反応の開拓 ● DNA ポリメラーゼによる、各種糖鎖修飾 dUTP の導入効率の検討 ● ルテニウム錯体電気化学発光検出を用いた高感度イムノアッセイ法の開発 ● オンライン紫外線照射による強心配糖体の化学発光検出 ● 武庫川水系及び周辺河川水中の主成分・微量元素の挙動 ● 神戸市東部～西宮地域における地下水の水質について ● 炭酸カルシウム鉱物と水溶液間の希土類元素分配に関する実験的研究 ● BN-SH 法による組織（細胞）特異的発現遺伝子のクローニング法の開発 =モデル実験系による Bridge nucleotide primer-suppression hybridization (BN-SH) 法の開発= ● 棚田における資源分布の不均質性と植物多様性のパターン ● エマルションガンマ線望遠鏡のためのタイムスタンプ部の開発 ● X 線天文衛星「すざく」による 73P/SW3 彗星観測データ解析 ● 月周回衛星 SELENE 搭載 α 線検出器の軌道上校正
2010 年度	● 神戸市再度山におけるマツ林の 35 年間の動態 ● 農林生態系における林縁の多様な環境がもたらす植物種多様性 ● 新規に分離した藻ディーゼル生産緑藻ボトリオコッカス (Botryococcus braunii) の栄養要求性の検討 ● Rb-Sr 法による六甲山地域花崗岩類の詳細な年代測定 ● 溶媒抽出—化学発光法を用いた過塩素酸イオンの間接検出 ● マロンジアルデヒドの新規検出法の開発 ● 「すざく」衛星 XIS データを用いた太陽 X 線アルベドの研究 III ● 真空紫外光で励起したアミノ酸のエネルギー緩和過程 ● 光合成の光化学反応における励起エネルギーと電子の輸送モデルに基づくクロロフィル蛍光の誘導期現象の理論的解析 ● グリコシド加水分解能を有する DNAzyme の invitro selection ● TNT 認識アプタマーの invitro selection ● 低層大気自動測風システムの開発と性能評価 ● アラゴナイトと水溶液間での Sr と Ba の分配に関する実験的研究 ● 糖認識能を有する DNAzyme の invitro selection ● 衛星編隊飛行による宇宙 X 線走査観測のシミュレーション ● ベーリング海における最終氷期の有孔虫群集解析 ● 還元的アミノ化によるアルデヒド類のルテニウム (III) 錯体化学発光検出

主な資格免許の取得状況

2010 年度	● 中学校教諭専修免許状(理科) ● 高等学校教諭専修免許状(理科)
---------	---------------------------------------

大学院生の声

尾崎圭太 さん（前期課程 2 年生）



大学院生の声

2010 年度	● 神戸市再度山におけるマツ林の 35 年間の動態 ● 農林生態系における林縁の多様な環境がもたらす植物種多様性 ● 新規に分離した藻ディーゼル生産緑藻ボトリオコッカス (Botryococcus braunii) の栄養要求性の検討 ● Rb-Sr 法による六甲山地域花崗岩類の詳細な年代測定 ● 溶媒抽出—化学発光法を用いた過塩素酸イオンの間接検出 ● マロンジアルデヒドの新規検出法の開発 ● 「すざく」衛星 XIS データを用いた太陽 X 線アルベドの研究 III ● 真空紫外光で励起したアミノ酸のエネルギー緩和過程 ● 光合成の光化学反応における励起エネルギーと電子の輸送モデルに基づくクロロフィル蛍光の誘導期現象の理論的解析 ● グリコシド加水分解能を有する DNAzyme の invitro selection ● TNT 認識アプタマーの invitro selection ● 低層大気自動測風システムの開発と性能評価 ● アラゴナイトと水溶液間での Sr と Ba の分配に関する実験的研究 ● 糖認識能を有する DNAzyme の invitro selection ● 衛星編隊飛行による宇宙 X 線走査観測のシミュレーション ● ベーリング海における最終氷期の有孔虫群集解析 ● 還元的アミノ化によるアルデヒド類のルテニウム (III) 錯体化学発光検出
---------	--

多様な学問分野を追求する

ユニークな学び舎

私たちの研究科の最も良い点は、多様な学問分野の研究者がいることだと思います。このことに最初は、統一感が無いとか、広く浅い知識の修得しか出来ないのではと考えていました。しかし、その考えは誤りでした。先生はその道のプロばかりで、研究室では深い専門性を修得出来ます。さらに、ここは周りに目をやると全く別の専門性が広がっています。そこに興味が湧いたときに、すっと入り込める環境がこの研究科にはあり、「寄り道」で得た知恵を自分の研究へ還元することが出来ます。こんな研究環境はここしかないと思います。私は天文学分野の一つである、ガンマ線天文学について研究をしています。X 線よりも高いエネルギーであるガンマ線を観測することで、超新星残骸など宇宙の極限状態にある星の詳細を知る事が出来ます。私たちの研究分野の競争相手は NASA であり、日々世界の動向を意識しながら研究を進めています。

人間環境学専攻

情報環境に本気で取り組む人のための数理に根ざした高度の専門性

情報環境が多様化・高度化する現在、企業ばかりでなく地域・教育機関等さまざまな分野において、情報化を推進する中で遭遇する問題に対処できる人材が必要とされています。情報環境のような知的環境においては、さまざまなソフトウェアやIT 機器を効果的に利用しながら、対象を適切に定式化して問題の解明にあたることが問題の解決に向けての重要な柱であり、さらに数理的手法の利用により、問題の定式化の精度及び解決策の信頼性を高めることが求められます。本コースでは、このような視点に基き、数理科学に対する高い専門性を身に付け、情報環境の多様化・高度化に対応して情報環境における諸問題に有効な解決策を提供することのできる人材を養成します。上記の目的を意識して、伝統的な数学に根ざしてはいるが、特に情報環境に関わる諸側面の解明に有効と思われる数理科学の諸分野を重視した授業科目が設定されています。学生は、これらの授業科目の履修を通して、複雑に入り組んだ情報環境に対処するための高度な数理的理論と手法を身につけます。授業科目の履修と同時に、指導教員との綿密な連携の下で具体的な研究プロジェクトを企画・実施することが要求されます。このプロジェクトを遂行する中で、理論を実際の問題の解決のために活用することを体験し、理論に関する知識を生きた素養へと発展させます。日々進化する情報環境に本気で取り組もうという学生を待っています。

研究最前線 阪本雄二 准教授（数理統計学）



確率的なダイナミックスを探る 統計解析法と統計数学

数理統計学においては、不確実性を含む情報の信頼性を確率的に評価することが重要である。管理された実験条件のもと繰り返し観測されるデータの場合は、個々のデータ間の独立性が保証され、データの出現法則が正規分布であると仮定できることが多いため、情報の信頼性をティータ分布やエフ分布を用いて評価することが可能である。一方、データ間の独立性が保証されても、個々のデータが複数個の数値で構成されるベクトルである場合や、時系列データのようにデータ間の独立性が保証されない場合は、情報から帰結される結論の信頼性を正確に評価するのが困難である。その問題を解決するため、統計的漸近展開と呼ばれる確率分布の近似公式を系統的に求める方法が発展してきた。

私たちの研究室では、データが ε マルコフ性と呼ばれる独立性を拡張した性質を持ち、統計量が和を一般化した確率変数（加法的汎関数）の多項式として表される場合について、その漸近展開の研究を行っている。加法的汎関数に関する漸近展開の近似精度は、一般化されたマリアバン共分散の非退化性により保証されることが知られているが、私たちは、その多項式に関する漸近展開の近似精度がパッチャリア＝ゴーシュ写像により保存されることを証明し

た。その応用として、推定関数が加法的汎関数である場合に、M 推定量の多項式近似から、M 推定量の確率分布の漸近展開を導出した。この結果は、拡散過程に基づく最尤推定量の漸近展開を典型的な例として含む一般的なものであり、多くの具体的なモデルへの適用が期待できる。また、尤度比統計量などの検定統計量に関しても、多項式近似を利用して、精度保証付きのラグール展開を求めることに成功した。今後は、レビーノイズを含むモデルに対する漸近展開や、鞍点法とよばれる裾確率の高精度近似について研究を進めたいと考えている。

人間環境学専攻

環境科学の先端を拓く研究機関との連携による教育・研究

人間環境学専攻には、博士課程後期課程の連携講座として「環境先端科学講座」が設置されています。この講座は、体系的教育を行う大学院と環境科学の先端的研究を推進する中核的研究機関の連携を通じて、次代の環境科学を担う人材を養成することを目的とします。現在、大気環境科学、健康工学の2 分野について、国立環境研究所、産業技術総合研究所との連携のもとで環境科学の基礎から実践にわたる教育と研究を行っています。具体的研究テーマとしては、大気中のオゾンおよびエアロゾルの生成・消滅に係わる化学過程の研究、温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明、生体および環境分析への応用につながるマイクロ分析システムの研究開発、ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究などがあります。

スタッフと研究分野・研究テーマ

＊後期課程担当

＊ 今村隆史 教授	＊ 永井秀典 准教授	＊ 向井人史 教授	＊ 脇田慎一 教授
大気化学，化学反応論，光化学	マイクロ流体工学	環境化学	環境分析化学，ナノバイオ計測工学
大気中でのオゾンや微小粒子の生成・消滅反応，オゾン層破壊機構，および大気中での化学物質分布やその変化と気候変動の関係について研究しています。	単一細胞から遺伝子を高速に増幅する技術や，イムノアッセイ及び電気泳動等の分析技術をオンチップ化したマイクロ分析システムに関する研究を行っています。	温室効果ガス濃度の増加とその変動要因の解明，人間活動による環境中の汚染物質等の物質循環や濃度変化の検出，越境大気汚染に関する科学的知見の集積に関する研究を行っています。	ナノバイオテクノロジーを利用したバイオセンサやマイクロ流体デバイスの研究開発と環境汚染や生体ストレス応答モニタリングの実証研究に関する研究を行っています。

主な授業科目と概要

＊後期課程開講科目

＊ 大気環境科学特論	＊ 大気化学特論	＊ 環境ストレス科学特論	＊ 生体環境先端計測特論
国立環境研究所地球環境研究センターにおける各種大気の観測および分析現場での見学実習ならびに温暖化に関する科学的諸問題の検討を行う。	大気中での物理・化学プロセス（大気での様々な現象の関わりの観点から）に関して講義し，国立環境研究所においての，大気中での化学反応模擬実験の見学実習を行う。	地域環境，地球環境に続く生活環境，人間環境を体系化した最前線の環境科学とナノバイオテクノロジーを用いた最先端のバイオチップ研究を解説する。	スケール効果により表面力が支配的となるマイクロ分析システムの原理や特徴を論ずると共に，生体及び環境分析への応用例と展望について概説する。



【博士課程 前期課程】数理情報環境論コース

【博士課程 後期課程】数理情報環境論分野

大学院 人間発達環境学研究科 人間環境学専攻 数理情報環境論

人間環境学専攻

【博士課程 前期課程】数理情報環境論コース

【博士課程 後期課程】数理情報環境論分野

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

● MT システムの概要と利用上の注意点

● 線形システム制御のためのマトリクス理論について

2010 年度

● 捕食者の休眠を伴う ratio-dependent な被食者－捕食者系について

● 多重比較におけるホルム法およびペリの方法に関する考察

● フラクタルと位相次元について

● Axiom A をみたす半順序集合の非 σ -short 性について

● 状態空間モデルに対するフィルタリングとその応用

主な進路

2009 年度

● 三慶

● 兵庫県教員(高校)

2010 年度

● 住友化学システムサービス

● ソニー生命保険

● 富士火災海上保険

● 尼崎市教員(高校)

● 京都府教員(高校)

主な資格免許の取得状況

2010 年度

中学校教諭専修免許状 (数学)

高等学校教諭専修免許状 (数学)

主な授業科目と概要

＊後期課程開講科目

統計解析特論

計算機集約型統計手法である EM アルゴリズムとマルコフチェーンモンテカルロ法の基本的な考え方と数学的な背景について解説する。

統計推測特論

統計解析の手法の中で多変量解析という手法は、データが多次元である事による困難がつきまとう。この講義は、行列を用いた表現でこの困難を回避する。

情報数理方法特論Ⅰ

数理的理論を複雑な情報構造系として理解し、その構成要素間の情報関係を正確かつ効率的に管理・操作するための方法論を扱う。

情報論理学特論Ⅰ

ブール代数や様々な論理体系について考察し、情報科学に現われる種々の体系・構造を数理論理を用いて形式的に処理するための方法論について解説する。

非線形数理特論Ⅰ

物理学、化学、生物学に現れる非線形微分方程式を解析するために必要な分岐理論、力学系理論の基礎を解説する。

数式処理特論Ⅰ

数式を使って多様な計算ができる数式処理システムで使われる計算アルゴリズムを修得することにより、様々な手法に現れる数式の取り扱い能力を育てる。

応用幾何学特論Ⅰ

幾何学的トポロジーの中から代数的な手法、コンピュータを用いたホモロジー群などの計算方法、不動点問題、フラクタル幾何学などについて解説する。

ヒューマンコミュニティ創成研究

ヒューマンな環境形成の条件や前提、問題群等への理解を深め、博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。

＊ 応用統計解析特論

エッジワース展開などの確率分布の高精度近似法について解説する。さらに、推定の漸近効率、情報量、ブートストラップ法の理論的背景を解説する。

＊ 非線形数理特論Ⅱ

非線形数理における分岐理論、力学系理論に関してより発展的な内容について解説する。

＊ 情報論理学特論Ⅱ

無限ブール代数と集合の世界の構造との関係について、ブール代数のゲーム論的性質を中心に解説する。

＊ 情報数理方法特論Ⅱ

事象を数理的にモデル化し、論証を用いて定理を証明するという数理的方法の理論化及び実践にかかわる諸問題を扱う。

＊ 応用幾何学特論Ⅱ

幾何学的トポロジーにおけるシェイプ理論に関して、概要と応用について解説し、最近の話題について紹介する。

＊ 数式処理特論Ⅱ

計算機代数の中から、先天的な誤差を係数に持つ多項式の取り扱いを中心に、近似 GCD や近似因数分解などの数値・数式融合計算について解説する。

＊ 教育能力養成演習

大学教員としての教育能力・教育資質の開発を目指し、指導教員の指導監督のもとで、専門領域の基礎的内容を取り扱う学部講義科目の「模擬授業」を実施する。

生活環境の課題を発見し，分析し，解決する能力を持つ人材を養う

現代の生活とそれを取り巻く環境は，高度化する社会の中で複雑な状況に置かれ，急速な時代の変化の途上にあります。本コースでは，生活環境を形成する生活空間・生活技術・生活資源の3領域について，今日的な課題を取り上げ，分析し，問題解決を図ろうとしています。本コースの教員の研究手法は社会科学，人文科学，自然科学と，文系・理系の両方にわたっているのが特色です。「生活空間」領域では，住居，福祉施設，緑地，都市などの空間の実態を調べ，人間の発達や環境問題の観点から，望ましい生活空間をどのように創造すべきかについて追求します。「生活技術」領域では，ハイテク繊維などの機能性製品や福祉機器などの新しい技術が人々の発達をどのように支え，暮らしの環境にどのような変化をもたらしたのか，その実態を把握し，技術利用の方向性を考えます。「生活資源」領域では，生活環境を支える植物・食などの資源がどのように生産され，加工され，利用されるのが望ましいのか，この課題を遺伝子工学，環境科学，安全・安心などの観点から追求します。本コースでは，快適な生活のあり方として，生活環境形成に関する課題を発見，分析し，解決する能力を持つ人材の育成を目指しており，研究者をはじめ，暮らしに関する政策の立案・運営を担う中央ならびに地方行政セクターの人材，生活創造活動につなげる企画・実践力を備える企業活動セクターのキーパーソン，及び地域の生活と環境の課題に取り組むNPO・NGOの人材，などを養成したいと考えています。

研究最前線

福田博也 准教授（生体電子計測，ヒューマンエレクトロニクス）



的かつ手軽に使用するには，コスト面で不利です。そこで，汎用の小型フォースセンサを利用したウェアラブルな足底荷重計測用インソールを提案し，センサ出力に特別な数学的処理を施すことにより床反力を推定・導出することで性能劣化を防ぐ手法を考えました。最先端の装置やセンサ技術でなくとも，センサの利用法と装置の構造面，さらに，データ処理上の創意工夫によって，歩行リハビリテーションの現場で要求される性能を十分に引き出すことができました。現在は，実用化に向けて動き出しています。

研究スタンスを柔軟にシフトさせ
ニーズを的確に捉える

工学系の研究者はややもすると，最先端の技術を持つことを誇ったり，特定の技術に没頭するあまり，その技術の使われ方や人間社会とそれを取り巻く環境に及ぼす影響については無関心になりがちです。機器開発は成功したもの，実用には供されないという残念な結果を招くこともあります。特に，日々の健康や福祉を支援する研究では，工学系と医療・福祉系の研究者とでニーズの捉え方が違うために，開発した支援機器に対する評価は異なることがあります。

そのような中，私は数年前から，歩行リハビリテーションにおける下肢機能の評価や，術前・術後の歩行の比較分析を行うために，工学系から医療・福祉系へと研究スタンスをシフトさせ，足底が床面を押す力（足底荷重）の反作用である「床反力」を物理的または心理的制約が少ない状況で，簡易にモニタリングできるセンシングシステムの研究開発に取り組んでいます。通常，床反力の測定には，フォースプレートと呼ばれる装置が用いられるのですが，測定範囲が装置上に限定されてしまうため，移動を伴うスポーツや通常の自由歩行の分析に利用するには限界があります。また，フォースプレートは高価なため，歩行リハビリテーションの現場において日常

スタッフと研究分野・研究テーマ

* 前期課程・後期課程担当（無印は前期課程のみ）

* 市橋秀樹 教授 植物環境学 植物が生活環境において果たしている多様な働きの定量的評価と，それに基づく植物を利用した快適な生活環境作りについて研究しています。	* 井上真理 准教授 衣環境学，感性工学 布の風合い（触感）・衣服圧・衣服内気候を，材料特性から実験的，理論的に解析し，着心地の良さをもたらす製品を設計，提案する研究を行っています。	* 近江戸伸子 教授 環境バイオテクノロジー イネ科，マメ科，アブラナ科植物，バイオエネルギー植物を対象にした植物環境学ならびに植物の新機能の開発，器官分化についての細胞・ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。	* 城仁士 教授 生活環境心理学 身近な生活環境での人間活動の心理学的解明を行っています。研究者と研究対象者の協同的实践で新たな人間科学的意味の再発見に努めています。	* 白杉直子 教授 食環境学 茶園をフィールドとした農地の多施肥による地下水の窒素汚染低減化，および有機酸の塩味増強・抑制効果（ハエ味細胞を用いた電気生理学実験による評価）の研究を行っています。
田畑智博 講師 環境システム工学 地域，個人等，様々なレベルにおける社会・経済活動とそれが及ぼす環境影響を体系的に解析し，持続可能な社会を構築するための手法論を開発するとともに，実学への展開方法を提案する研究を行っています。	* 平山洋介 教授 生活空間計画 住居からコミュニティ，都市にいたる生活空間をどのように構想すればよいのか，という問題を理論と実証の双方から考えています。	* 福田博也 准教授 生体電子計測，ヒューマンエレクトロニクス 温度・湿度・光強度といった環境要因をコントロールした生活空間において，いろいろな環境刺激に対する人や植物の生体電位応答について研究しています。	* 矢野澄雄 教授 振動工学，バイオメカニクス 日常生活動作を力学的に分析。身体機能・特性の計測。福祉・介護や健康科学関連の機器・用具の開発。経験やノウハウを形にする研究を行っています。	

主な授業科目と概要

* 後期課程開講科目

生活空間計画特論Ⅰ 住居からコミュニティ，都市，地域にいたる生活空間の構築のための計画・政策を対象とし，その理論と実践の国際比較に関して講述する。	機械機能応用特論Ⅰ バイオメカニクスの知識や生活の場面での動作分析からの知見をもとに，人間特性を考慮した生活機器・用具設計の考え方について説明する。	生活環境心理特論Ⅰ 環境移行や人間の発達を支援する生活環境づくりを心理的な側面から集合性理論・活動理論的に論究する。	植物環境学特論Ⅰ 植物が人間に及ぼす影響を，栽培をすること，鑑賞すること，触ること，食べること，植物の発する音を聞くことなどを通して考え，植物環境の意義について論議する。
食環境学特論Ⅰ 食環境学の今日的課題の視点からテーマを絞り，環境学の視点から問題解決のためのアプローチの方法について考える。	衣環境特論Ⅰ 衣環境設計に対する自然科学的，社会科学的手法によるアプローチを行い，着心地などの感覚を客観的に評価する方法を理解する。	環境バイオテクノロジー特論Ⅰ 一般的な農業，食糧生産，医療，環境分野のバイオテクノロジーの理解，それらの先端研究の取り組みについて理解する。	電子応用機能特論Ⅰ これまでのエレクトロニクスに環境技術を取り入れた電子応用機器の設計法について論じる。また，電子応用技術の人間工学的な利用法について考察する。
生活環境デザイン特論 人が環境をどのように知覚し，判断し，記憶し，評価しているか，また対人的な社会行動において環境がどのように影響するかなどについて講じる。	環境植物生理学特論 植物がもつ大気浄化や土壌浄化などの環境浄化効果に関する論文を講読し，生理学的見地からのアプローチの可能性について論じる。	ヒューマンコミュニティ創成研究 ヒューマンな環境形成の条件や前提，問題群等への理解を深め，博士課程前期課程での個別の専門領域での学習・研究のための基本的な視点を養う。	* 生活空間計画特論Ⅱ 生活空間計画の理論・実践に関して，欧米諸国とアジア諸国における最新の動向を英語文献にもとづいて解説し，日本と諸外国の比較を行う。
* 機械機能応用特論Ⅱ 人間特性を考慮した生活機器・評価法に関して，振動を応用した事例などを紹介し，感覚との関係や加齢による相違などについて考究する。	* 生活環境心理特論Ⅱ 快適で主体的な発達を支援する生活環境の創出にはどのような要因が必要なのかを心理学的に考究する。	生活環境共生特論 主に環境・エネルギー問題に関する国内外の最新の研究論文を輪読し，持続可能な地域社会構築のための方法論を議論する。	* 植物環境学特論Ⅱ 植物環境に関する新しい見方，多様な考え方を理解し，それぞれの得失について明らかにして，植物環境に関する私見を論理的に展開できるようにする。
* 食環境学特論Ⅱ 最近の「味覚」研究あるいは「食生活が生み出す環境問題」について，文献を検索し，講読，当該研究の国内外の進展状況を把握・考究する。	* 衣環境特論Ⅱ 感覚を付加価値とした生活製品の性能，感覚計測，衣生活にかかわる環境問題と最先端技術とのかかわりについて解説し，その内容について議論する。	* 環境バイオテクノロジー特論Ⅱ 最先端の農業，食糧生産，医療，環境分野のバイオテクノロジーの研究について立案し，有効性について議論する。	* 電子応用機能特論Ⅱ エネルギー効率化利用の視点のみならず電磁環境にも配慮しながら，インバータ技術の生活機器，医療機器，介護・福祉機器への応用法について考察する。



【博士課程 前期課程】社会環境論コース

【博士課程 後期課程】社会環境論分野

人間環境学専攻

人間の発達と社会の発展への学際的アプローチ

今日、様々な分野で、人間の自由な発達が疎外される状況が生み出されています。たとえば「核兵器と戦争」「低開発と飢餓・人口爆発」「環境と生態系の破壊」「性や人種による差別」「経済的合理性と管理主義による人間性の浸食」等です。それら一つひとつが、私たち人間が、自らの社会をコントロールできず、破局に向かってまっしぐらに突き進んでいることを教えているかのようです。しかしその一方で、このような矛盾にみちた人類社会を創りかえ、社会を本当の意味で「発展（development）」させていくのも、究極的には、やはり一人ひとりの人間の「発達（development）」とそれに基づく社会的営為、そしてその輻輳としての「類」的発達にほかなりません。今日ほど、人類が、自らの生存をかけ、これらの危機を作り出した自分自身をあらためて問い直し、自己変革＝社会変革をすすめていくことが求められている時代はないでしょう。「社会環境論」とは、このような人間発達と社会発展の相互連関を根底的に解明することをめざした社会に関する新しい科学です。社会環境論では、こうした新たな科学を構築するために、経済学・社会学・歴史学・人文地理学・政治学・法学・社会思想史学等、既存の諸科学の知見を十分にふまえつつ、さらにそれらの限界を突破してゆく学際的研究を行っています。

研究最前線

山崎健 教授（都市地理学）



悠久の歴史をもつ中国の大都市、そこから世界都市像に迫る

中国は長い都市化の歴史をもつ国です。その都市化は紀元前から今日まで、多様な展開を示してきました。私の主な研究の関心は「中国の大都市の地域構造の形成と変容」を明らかにすることです。中国の大都市の地域構造を考察する上で、4つの地域構造形成原理を設定し、それらが多様なプロセスを経て、重層化した結果、今日の地域構造が形成されたという仮説を考えています。それらは、1）秦代に始まり二千年近く続いた封建時代の都市地域構造形成原理、2）清代のアヘン戦争以降の外国勢力による植民地的都市地域構造形成原理、3）新中国成立から改革開放政策実施までの社会主義的都市地域構造形成原理、さらに4）1970年代後半以降の改革開放政策以降の都市地域構造形成原理です。これらの原理があいまって作用し、今日の中国大都市の地域構造が形成されてきたと考えています。研究対象として北京・上海・広州等を視野に入れて、現在研究を進めています。都市のもつ地域構造はそれぞれの都市によって異なるため、これらの各地域構造形成原理は各都市によって、時代的かつ空間的に異なる作用の仕方があるはずです。さらにいえば、そのことが各都市の地域構造の形成と変容に関する特性に反映されるわけで、私の研究の究極的な目的は、まさにそれらのプロセス、メカニズムを明らかにすることにあります。

中国の都市化の展開は時間的・空間的に極めて多様であるものの、その多様性の本質についてはほとんど未解明といってよいでしょう。その意味で、私が現在までに明らかにしたことは、長い中国の都市化の歴史と比較しても、ほんのわずかなことにすぎないかもしれません。しかし、世界的にみても三千年という屈指の歴史をもつ中国の都市の地域構造の変容と形成を考えることは非常に意義深く、それが世界全体の都市の地域構造の変容と形成、すなわち世界の都市像を考えることにも大きく寄与することになるのです。

人間環境学専攻

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

【博士課程 前期課程】生活環境論コース

【博士課程 後期課程】生活環境論分野

修士論文テーマ

2009 年度

- エッセンシャルオイルの香りが眼球運動に及ぼす影響
- 高齢夫婦の生活空間－日本とデンマークの比較を通して
- セーフティネットとしての公的賃貸住宅の役割
- 小児がんと兄弟の不安と家庭環境
- 生活行為経験が和室イメージ構造に及ぼす効果

2010 年度

- 肌着用編布の物理特性と風合い評価
- 住居材料の触覚・視覚評価
- 世界遺産と地域空間計画
- 薄型フォースセンサを用いた足底荷重計測インソールの製作
- 衣料用布地に用いられる糸のキャラクタリゼーションとその応用
- 生活環境におけるエコロジカルマインド評価尺度の開発とその評価
- 児童の学校外活動が協同意識と社会的スキルに及ぼす影響

主な進路

2009 年度

- NPOひょうご農業クラブ
- 住友林業
- 枚方市職員
- コペンハーゲン大学大学院社会学部

2010 年度

- 神鋼リサーチ
- ニトリ
- ニプロ
- 楽天
- 茨木市職員
- 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

主な資格免許の取得状況

2010 年度

なし

大学院生の声

石口勇輝 さん（前期課程 2 年生）



生活に「環境」を呼び込む

何かに集中して挑戦しているとき、普段以上の力が出た経験はありませんか。そのときに「何か」を感じませんでしたか。たとえば、環境との「一体感」を。私は乗馬を対象にして、騎手が環境をどのように捉えているのかをテーマに卒業論文を作成しました。その結果、騎手は1）自分、2）馬、3）自分と馬の関係という3つの事項を段階的に意識することで、多様な情報を乗馬という行為に結びつけていることが分かりました。この3つをつなぐ関係性こそが「環境」なのです。私たちは自然、社会、情報の間に多様で複雑な関係を作り出しています。そこには数多くの相互関係があり、「環境」という一つのシステムが構築されています。システムが「環境」であるなら、そこには様々な研究の視点が生まれます。そのことをここで学ぶのです。ここで自分に合う「環境」を探してみてください。きっと予想以上のものに出会えます。

【博士課程 前期課程】社会環境論コース

【博士課程 後期課程】社会環境論分野

大学院 人間発達環境学研究所 人間環境学専攻 社会環境論

人間環境学専攻

【博士課程 前期課程】社会環境論コース

【博士課程 後期課程】社会環境論分野

修士論文テーマ

以前の情報は公式ウェブサイトをご覧ください。

2009 年度

● 現代日本における女性政策
—「男女平等」から「男女共同参画」へ

● 介護労働者の生活と社会的発達
—特別養護老人ホームの職員を事例として—

● グローバル化とヨーロッパ化
—大型美術館と「欧州文化首都」を事例に—

● 戦争，歴史認識とナショナリズム
—「大学生の戦争と政治に関する意識調査」を素材として—

● コミュニケーションにおける誤解について
—エスノメソドロジー批判を通じて—

2010 年度

● 長谷部恭男「穏和な平和主義」の批判的検討

● 中国残留日本人二世に見る人間発達

● 都市圏多核化による都市内部構造の変化
—兵庫県西宮市の事例を中心に—

● ハンナ・アレント『人間の条件』再考

主な進路

2009 年度

● 中日新聞社 ● 内閣府 ● 法務省

2010 年度

● 社会福祉法人いかり いかり共同作業所

● 生活協同組合 コープこうべ ● ユニクロ

主な資格免許の取得状況

2010 年度

なし

大学院生の声

柏原理絵 さん（前期課程 2 年生）

多様な人のなかで，「自分」を再発見・再構築する旅

社会環境論コースでは，年齢・国籍を越え，様々な人が志高く，日々研究に励んでいます。同じ年齢・同じ国籍の似通った経験を持つ人との交流が中心であった大学生の 4 年間とは異なり，ここでは絶えず自分に「ゆらぎ」が与えられます。これまで「普通」と思っていたことも実は「特殊」なことであり，「なぜ」を説明できない体験をくり返すことで，客観的・構造的に考える力が身につきました。私はいま，多民族社会における異文化間での介護について研究しています。類似のテーマを研究する仲間はもちろん，たとえ全く別のテーマであっても，何かしら自分の研究と関わる部分があったり，研究方法や分析の枠組はとてもいい刺激になります。世界に，本当に自分に関係のないことなんてありません。いかに引きよせ，自分が学ぼうとするかだと思います。2 年をどう過ごすかは自分次第。そして，それに応えてくれる環境がここには確かにあります。

大学院生としての教育能力・教育資質の開発を目指し，指導教員の指導監督のもとで，専門領域の基礎的内容を取り扱う学部

の講義科目の「模擬授業」を実施する。

心身発達専攻 心理発達論分野	
2009 年度	2010 年度
● 居場所と友人関係の観点からとらえる青年期の学校適応	● 更年期女性における心理的適応過程に関する研究
● 中年期の時間的展望の構造と形成要因の検討	―閉経段階に着目して―
―年代別における精神的健康との関連から―	
心身発達専攻 健康発達論分野	
2009 年度 なし	2010 年度 なし
教育・学習専攻 子ども発達論分野	
2009 年度	2010 年度 なし
● 数学教育における認知科学的道具に関する考察	
教育・学習専攻 教育科学論分野	
2009 年度	2010 年度
● 生活科におけるカメラ付き携帯電話を利用した授業デザイン	● 日本と中国における国際理解教育の比較研究
● 「民工子弟学校」の社会的機能	―全人的な地球市民の育成―
● 理科教育における協同学習の理論と方法に関する研究：	● 台湾の中学校の生命教育における討論型授業の効用に関する研究
テクノロジーで支援する協同学習	―一般型授業と討論型授業の比較を中心に―
● コネクションモデルを応用した理科の授業研究	
教育・学習専攻 発達支援論分野	
2009 年度 なし	2010 年度
	● 学齢期子育て支援講座の開発と効果に関する研究
人間行動専攻 行動発達論分野	
2009 年度 なし	2010 年度 なし
人間行動専攻 身体行動論分野	
2009 年度 なし	2010 年度
	● 途上国開発においてスポーツが果たす役割
	―カンボジア王国の事例から考えるスポーツを通じた開発―
人間表現専攻 表現文化論分野	
2009 年度 なし	2010 年度 なし
人間表現専攻 表現創造論分野	
2009 年度 なし	2010 年度
	● 作業療法と芸術表現
人間環境学専攻 自然環境論分野	
2009 年度	2010 年度
● Study for Origins of Homochirality and Life: Investigation for the Cosmic Scenario Using Vacuum Ultraviolet Light and Synchrotron Radiation（ホモカイラリティーおよび生命の起源に関する研究：真空紫外光、シンクロトン放射を用いた宇宙起源説の検証）	● Computer Simulation Approaches to Water and Hydrated System（水系、水和系のコンピュータシミュレーションによる研究）
● A study of effects of river confluences on plant diversity in river ecosystems（河川性植物の多様性に合流が及ぼす影響に関する研究）	● 農村地域における二次草原植生の保全
	● コンピューターシミュレーションによるポリグルタミンペプチドの特性解析
人間環境学専攻 環境先端科学講座	
2009 年度 なし	2010 年度 なし
人間環境学専攻 数理情報環境論分野	
2009 年度 なし	2010 年度 なし
人間環境学専攻 生活環境論分野	
2009 年度 なし	2010 年度
	● 下肢筋における等尺性筋収縮時の筋出力変動が立位姿勢の安定性に及ぼす影響
	● 中学校期における3次元 CAD を用いた投影・構成行為と視点変換行為の形成
	● The study of the signal transduction mechanism of the suger taste neuron of the blowfly by whole cell-and patch-clamp techniques（全細胞およびパッチクランプ法によるクロキンバエ糖受容細胞の甘味受容機構の解明に関する研究）
	● 大規模な環境移行下における行政保健師の意識変容に関する活動理論的解明
人間環境学専攻 社会環境論分野	
2009 年度	2010 年度 なし
● 多言語社会における少数民族の変容	―現代中国のモンゴル族を中心に―
● 日本憲法学の正当性論に関する研究	―ヴェーバー法社会学を視座にして―

附属組織と附属施設

大学と地域社会の架け橋となり、人間の発達を支援するコミュニティ創りを目指します

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター（以下、HC センター）とは、人間発達環境学研究科内の発達支援インスティテュートに所属する機関で、実践的な研究を推進するためのセンターです。人間発達環境学研究科・発達科学部で蓄積されてきた研究成果と、地域社会の実践活動とを融合させながら、現場に即した実践的研究活動を行っています。人間の発達とそれを支える活動を行っている地域組織、NPO、NGO、企業、行政、学校等の人々と連携しながら、研究・実践を深め、人間らしさにあふれたコミュニティの創成を目指しています。

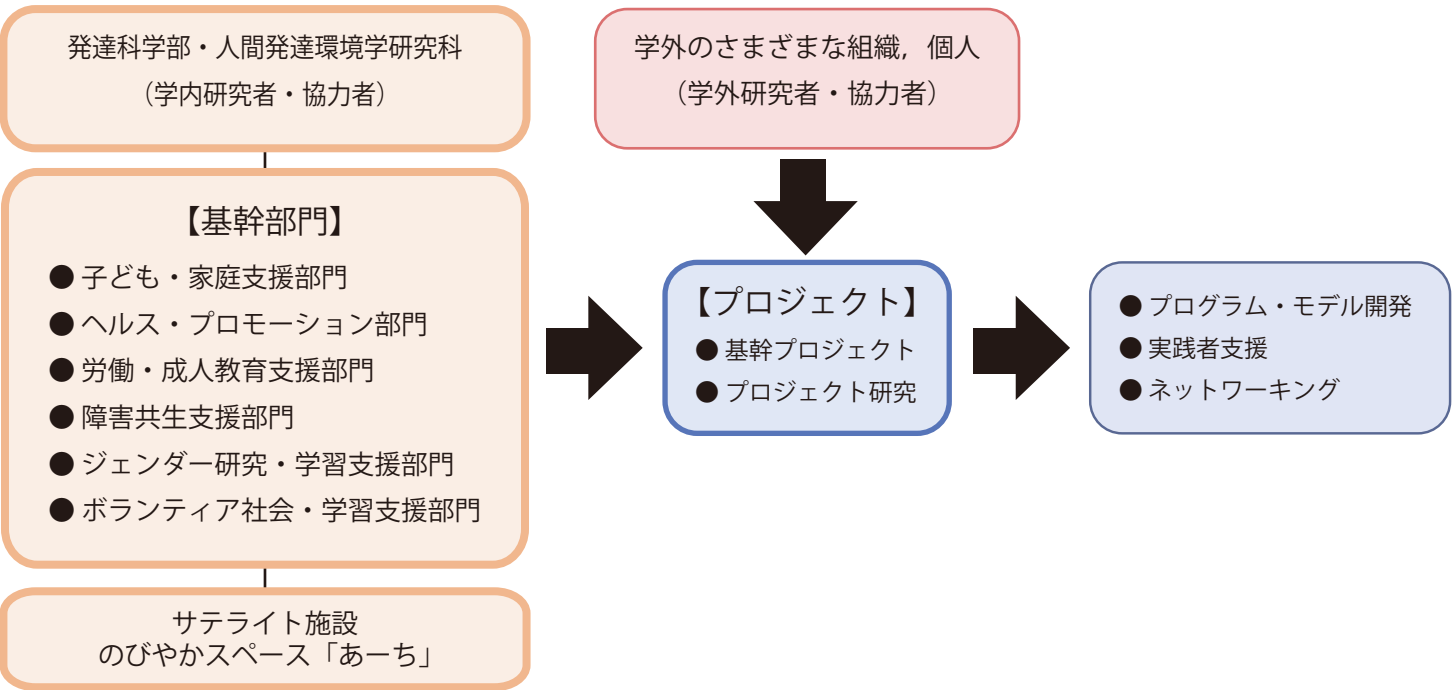
HC センターには 6 つの研究部門があり、6 名の専任教員を中心に運営しています。6 つの部門ではさまざまなプロジェクト研究が展開されています。各プロジェクトは、リーダーである専任教員と学内研究員および学外の研究員・協力員が担っています。



アクション・リサーチ ～地域や社会への参画を通して研究する

HC センターの英語名は、「Action Research Center for Human and Community Development」です。アクション・リサーチとは、地域や社会の実践への参画を通じての研究＝「行動を通しての研究」と言える手法です。HC センターは、このアクション・リサーチの手法により、研究者と実践者のネットワークづくりも進めています。

ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの組織と役割



基幹部門

子ども・家庭支援部門

「子育てコミュニティ」の形成を目指します

家庭および家族的機能を有する諸施設の養育活動を支援することを通して、周産期から青年までの子どもとその家族・養育者の発達を促進するための実践的研究を行います。また、「子育てコミュニティ」の形成を目指します。

- 地域リソースとの連携
子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりを目指すのびやかスペース「あーち」は学外にあるサテライト施設で、大学と地域を結ぶ架け橋の意味から「あーち」と名付けられました。ここでは地域の様々な組織・機関等と連携して、地域住民に対する多様なレベルの子育て支援サービスを提供しています。
- 地域の人材育成について
小・中・高校生を対象として「赤ちゃんふれあい体験学習」を実施し、次世代を担う子どもたちに「命の尊厳や発達の素晴らしさを実感し、親になることを考える」機会を提供しています。また、各地域で子育て支援にボランティアとしてかかわりたいと希望するシニア世代を対象とした講座、保育士を対象とした講座、専門職やNPOなどの支援者を対象とした講座を開催しています。

労働・成人教育支援部門

人は一生涯学び続ける。 成人のための「学びの場」構築を目指します

人は大人になっても大人になるの仕方で成長、発達を続けることが分かってきており、それに対応した学びの場づくりが論議されています。そのような新しい社会の要請に応じて、その必要についての原理を探索しながら現場で求められる成人が学ぶ方法について、実践的な研究をしています。

- ライフストーリーの成人教育への応用
学校型の教育モデルの問題を克服するため、自分の経験を基に自分で気づいたり意味を発見、再構築したりすることを学びとする、新しい考えが生まれています。この概念「ライフストーリー」に基づいた、実践を通した開発に取り組んでいます。
- 国際的なつながりの中で
近年、世界中で成人教育という未知の領域へのチャレンジが始まっています。ライフストーリーを成人教育に応用する試みとして、先進的な取り組みをしているフランス語圏での活動と連動して、共同の研究会を開催するなどの活動を行っています。

ジェンダー研究・学習支援部門

地域、市民社会と連携して ジェンダー問題に取り組みます

市民社会の形成のための支援を行うことが大学の重要な役割の一つであると考えて、ジェンダー問題について、NPOや企業、個人と共同して学習プログラムを開発し、啓蒙活動に取り組んでいます。これを達成するため、地域で活躍・活動している学外の方に部門研究員として多数参加して頂いています。

- セクシュアル・ハラスメント防止のための教師用研修プログラム
「自分のこと」として考えるためのワークショップ型プログラムを開発し、ブックレットを刊行するなど、啓蒙活動に取り組んでいます。
- 市民と行政のパートナーシップの検証
「男女共同参画施策」に関わった市民の活動を、当事者と協働しつつ、行政とともに市民が行う協働とは何かを検証しています。
- 子育て中のお母さんのためのリフレッシュ講座
市民によって行われているワークショップに光を当て、その「市民力」を広げ育てるための取り組みを積極的に支援しています。

ヘルス・プロモーション部門

健康で有意義な人生を送るために必要な ライフスキルの育成を目指します

「環境づくり」と「健康教育」について研究を行っています。特に、青少年期に焦点を当てて、喫煙、飲酒、薬物乱用をはじめとする健康を損なう恐れの高い行動（危険行動）を避け、積極的に健康を増進する主体的行動を支援する健康教育プログラムの開発を、教師などの実践者と連携しながら進めています。

- ライフスキル教育プログラムの開発
喫煙、飲酒、薬物乱用、早期の性行動、不必要で危険なダイエットなどの危険行動を防止するために、ライフスキルやメディアリテラシーなどの心理社会的能力の形成を主な内容とするプログラムを開発しています。また、ライフスキル教育を、いじめ防止や非行防止などの問題にも適用する試みにも着手しています。
- ライフスキル教育の普及
開発したプログラムを普及するために教育研究会を組織・運営し、ネットワークを構築するとともに、ライフスキル教育及び健康教育の実践者を対象としたワークショップを、各種団体などと協働して、毎年全国各地で開催しています。

障害共生支援部門

社会的排除のない共生社会をめざす プログラムを開発します

社会的排除のない共生社会とはどのようなものなのか、また、そのような共生社会に少しでも近づくためにはどのような実践が必要なのか、という課題に取り組んでいます。

- のびやかスペース「あーち」
さまざまな人たちの個々の日常的な課題を相互に支えあうインフォーマルな関係の形成過程に着目した研究をしています。
- 「みのり」プロジェクト
障害のある人たちと学生が相互に学びあう実習機会を学内に設け、その参加者の変容過程に着目した研究をしています。
- 「つむぎ」プロジェクト
障害のない子どもたちと障害のある子どもたちが学童保育で共に育つことで形成される共生関係の研究をしています。
- 世界的動向との呼応
障害を社会的排除の問題として捉えようとする世界的動向と呼応して、韓国ナザレ大学と連携しつつ、障害の問題に取り組む新しい実践的研究の分野や方法を模索しています。

ボランティア社会・学習支援部門

人間が主体的に社会にかかわる ボランティア社会の創造を目指します

社会参加・参画のひとつの方法としてのボランティア活動を、人間形成・コミュニティ形成および学習の場として考え、そのあり方や支援方法などについて、学外団体と連携しながら実践・検証します。

- ESD ボランティアプログラムの開発
ESD (Education for Sustainable Development) プログラム・モデル開発として、「ESD ボランティア塾ばらばん」事業を実施しています。高校生・大学生が主役の事業です。
- 福祉教育実践研究隊の組織化
京都府社会福祉協議会との協働で、「福祉教育実践研究隊」の組織化を行っています。福祉教育の実践現場を訪問し、当事者性を高める実践方法について協議しています。
- ESD 推進拠点の創造
国連大学から認証されている「RCE 兵庫—神戸」(Regional Centres of Expertise: ESD 地域推進拠点)のマネジメントを行っており、ESDの実質化を目的に、セミナーやシンポジウムを企画運営しています。

サテライト施設 のびやかスペース「あーち」

「あーち」は、
「子育て支援を契機にした共生のまちづくり」
を目的にした施設です。

「あーち」は、子育て支援をきっかけにした共生のまちづくりをめざす施設です。この施設の目的は、地域と大学の連携によって、地域の数あるニーズに自発的に対応することができる地域の活力を向上させていくことです。住民の間に子育て支援を契機としたネットワークの形成を促進し、そのネットワークが相互支援関係を形成するよう働きかけます。この施設は、ヒューマン・コミュニティ創成研究センターの「子ども・家庭支援部門」及び「障害共生部門」が中心になって運営しています。

「あーち」では、遊び、アート、音楽などを通して、子どもを中心にさまざまな人たちが集うプログラムが数多く実施されています。それらのプログラムは、地域の人たちが自発的につくりあげていくものもあれば、学生たちが知恵と力を寄せ集めて実施しているものもあります。日常的な実践を通して、人と人をつなぎ、新しい価値を創造し、ひとりひとりが人間としての輝きを取り戻すためのコミュニティづくりをめざしているのです。

「あーち」は、人々が相互に関わりあう活動の拠点であり、また学生の教育、実践モデルづくり、実践的研究の現場でもあります。その成果を評価され、1997年「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」、2009年に「神戸市市民福祉賞」、2010年に「神戸大学学長表彰」をそれぞれ受賞しました。



発達支援インスティテュート

心理教育相談室

現代のようにストレスの多い時代では、何も悩まずに生きていくのは難しいものです。心理教育相談室では、さまざまな悩みを持っている方に、臨床心理学の専門の立場から相談に応じています。子どもの言葉や発達が遅れている、落ち着きがない、友達と遊べない、学校へ行きたがらない、子どもが障害を持っているなど、子どもに関する悩みや、対人関係がうまくいかない、なにもやる気が起こらない、食事がうまくとれない、自分に自信がない、家族や夫婦のことで悩んでいる、自分についてもっと知りたいなどの悩みに対する相談を受けるとともに、カウンセリング、プレイセラピー（遊戯療法）、心理テスト

などを通して、援助を行っています。現在、阪神間において、心理相談外来の重要な一拠点として乳幼児から高齢者まで、幅広い層の方々に利用されています。必要に応じて医療機関との連携や他機関への紹介も行っています。

また、この相談室は大学院・臨床心理学コースの臨床心理士養成の実習機関を兼ねています。心の問題が多様化している近年、相談機関や専門家のさらなる質の向上が求められていますが、専門家養成には日々の相談活動の積み重ねが不可欠です。今後も地域社会の人々に気軽に安心して利用していただける相談室であるよう、臨床心理士の資格をもつ教員と、教員の指導のもと臨床心理学を専攻する大学院生が実践・研究両面にわたり研鑽を重ねています。



発達支援インスティテュート

サイエンスショップ

「サイエンスショップ」とは、市民社会の科学技術に関わる課題について、大学やNPOなど専門的知識をもつ機関が、市民の相談を受けて必要な情報を提供したり、調査・研究の実施または支援をしたりする組織のことで、1970年代にオランダで誕生しました。

現代社会は高度科学技術社会あるいは知識基盤社会などによれば、環境、医療、安全などの課題を解決しようとするとき、科学技術等に関わるさまざまな知識が必要となります。しかしその一方で、科学技術の高度化・専門化が進み、理解が難しくなり、疎遠なものと感じる人も多いことでしょう。神戸大学のサイエンスショップは、こうした背景をふまえて2007年に創設されました。

神戸は大都市であるとともに、六甲山・大阪湾など自然環境にも恵まれています。また、阪神淡路大震災を契機として多様な市民活動が芽生え成長してきた地域でもあります。このような神戸の特徴を活かして、ヨーロッパに生まれ育ったサイエンスショップを参考にしつつも、地域社会や日本の文化的風土に融和した独自のあり方、”神戸型サイエンスショップ”を創造することを目指しています。地域社会における広い意味の科学教育や、文化としての科学を地域社会に根づかせ、「持続可能な社会づくり」をめざして、コミュニティを“豊か”にしてゆくような科学の在り方を探ってゆきます。

主な取り組みとして、以下のような活動を進めています。

●サイエンスカフェの開催と支援

サイエンスカフェは、科学者などの専門家と一般の市民が飲み物を片手に気軽に科学などの話題について自由に語り合うコミュニケーションの場です。神戸地域でのサイエンスカフェの開催の他、西宮、姫路、伊丹、淡路、三田、豊岡、篠山、明石などさまざまな地域で、市民グループなどのサイエンスカフェの企画・運営などを支援しています。

●市民のさまざまな科学活動の支援

小・中学生から成人まで、余暇を使って科学の研究や学びを楽しみたいという人々の活動を支援するとともに、活動紹介や交流の場を提供します。

●高等学校等と連携した科学教育の普及・活性化支援

学校での課題研究を含む教育プログラムへの支援などを行っています。

●神戸大学学生の科学に関わる諸活動の支援

上記のさまざまな取り組みへの参加や、主体的研究活動などを含めて、学生が企画・実施する諸活動を支援し、そのための環境を提供しています。これらを通じて、学生のみなさんの課題を発見・解決する能力、コミュニケーション能力、プロジェクトを企画・運営・実施する能力などを高めることも目指します。



キャリアサポートセンター

学生の個性に対応したキャリア形成をサポート

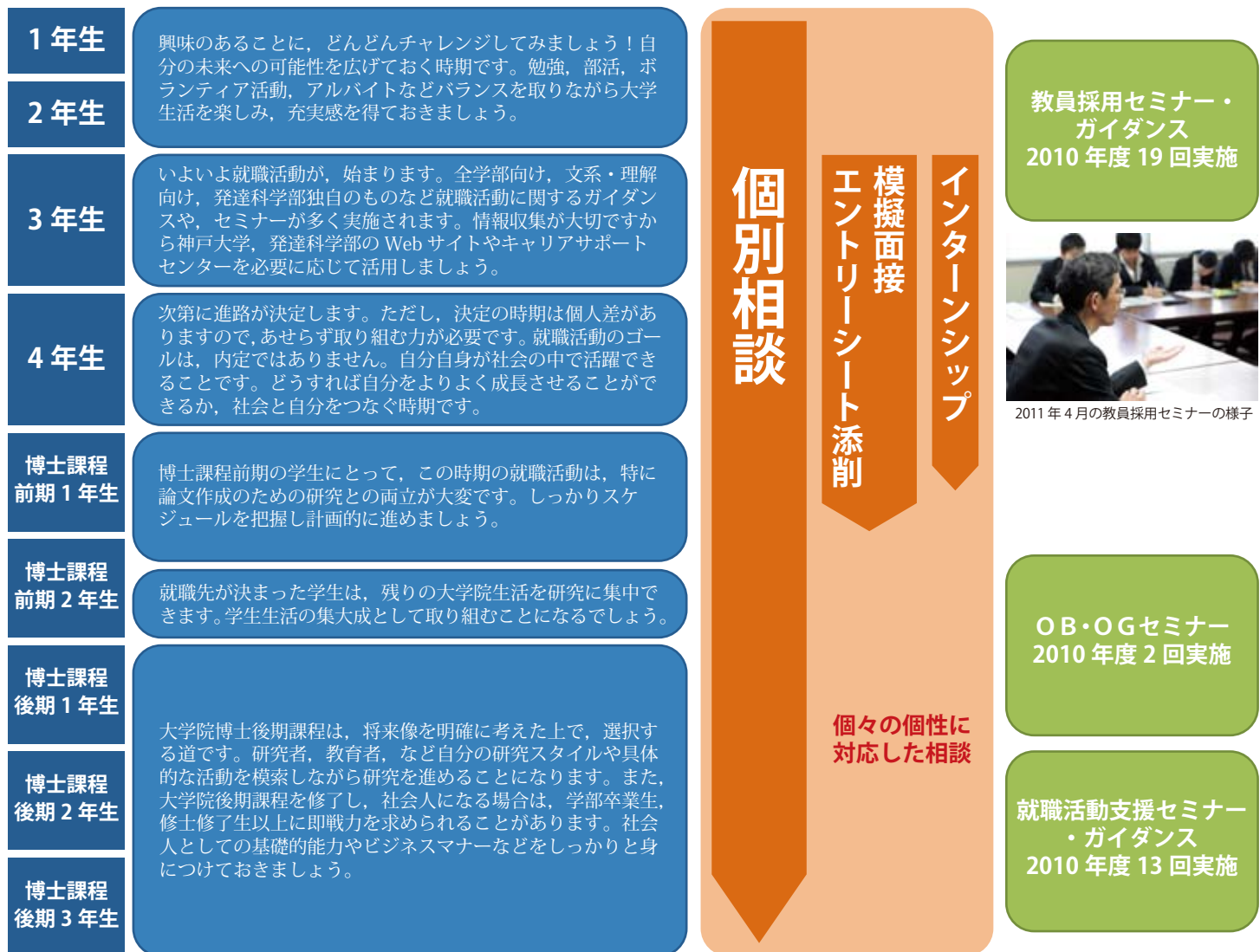
神戸大学における学生のキャリア支援は、ネットワーク型で展開されています。全学部生対象のキャリアセンターをはじめ、六甲台就職情報センター、学生団体、留学生センター、東京オフィス、大学生協キャリア支援チームなど多くの組織が、学生のキャリア支援向上という目的のために自発的に活動しながら連携・協働しています。それらに加えて、人間発達環境学研究科・発達科学部は、キャリア形成支援センター「キャリアサポートセンター」を開設し、学生のキャリア支援をより一層強固なものとしています。

キャリアサポートセンターは、自分の人生をどう生きるか、そのプロセスそのものをキャリア形成と捉え、学部の1年生から大学院生にいたるすべての学生を対象として、就職活動の支援だけではなく、現在から将来にわたるキャリア形成を視野に入れた支援活動を積極的に行っています。発達科学部の学生の進路は、一般企業、公務員や教職、大学院進学など多様な進路がありますが、専門性を生かした仕事、人を支える仕事や環境問題の解決に関する仕事に就きたいと考える学生が多いようです。これらの業界・分野は多方面に渡っており、この多様性が発達科学部の特性でもあります。

このことを踏まえて、学部の1～2年生向けには、人生における価値や生き方について問いなおしたり、また自己を見つめなおすことによって、大学で学ぶことや働くことの意義を見つけたり、それぞれの目標を早い段階から設定できるような個別相談のサポートを行っています。学部3～4年生や大学院生向けには、個別相談に加え一人ひとりの適性や専門性を重視したインターンシップ(就業体験)の情報提供や業種別セミナーの開催、また各分野で活躍する卒業生との幅広いネットワークを基盤とした各種セミナーの企画・開催など、一人ひとりの進路・職業選択に関連したきめ細かい支援を行っています。

キャリアサポートセンターでは、キャリア形成や就職に関する各種資料を閲覧したり、情報検索用のコンピュータを自由に利用することができます。また、キャリア形成に関する個人的な悩みや疑問や就職活動におけるエントリーシート添削・模擬面接には、専任のキャリアデベロップメントアドバイザー(CDA)が親身に対応しています。このように、キャリアサポートセンターは学生の個性に対応したキャリア形成を強力にサポートしています。

キャリア形成スケジュール



宮村聡子 キャリアデベロップメントアドバイザー

芦田佳那子 さん（日立造船株式会社勤務 2011 年 3 月人間表現学科卒業）



未来への扉を開けて！

キャリアサポートセンターでは、学生のキャリア形成支援を行っています。キャリアというと、なんだか遠い先のお話のように感じられるかもしれませんが、今の自分も社会人として働く自分も同じ1人の人間です。キャリアサポートセンターでは、今の自分の生活を充実させることが未来の自分につながっていると考えます。何かに熱中している自分、悩み苦しんでいる自分、そんな時の一瞬一瞬のきらめきが、未来の自分を作り上げることになると考えます。

発達科学部の学生は、学科によって特徴は様々です。心理・教育に関心のある学生、スポーツを学びと結びつけたい学生、文系理系の枠を越えて科学をとらえたい学生、感性を磨き芸術の持つ魅力を追求したい学生など様々です。お互いにいろんな人がいることを自然と受け止め、学びを楽しんでいます。ゼミに部活動にボランティアに真剣に取り組むことが未来へとつながっているのです。

しかし、学生生活や就職活動が楽しく感じられる時ばかりとは限りません。何かにぶつかり、自分の中の課題や問題に向き合うことが必要になることもあります。そのような時は、キャリアサポートセンターを是非訪ねて来て下さい。きっと今までの自分を振り返ることで、今まで気がつかなかった新たな道が見えてくるでしょう。ここは、静かに落ち着いて今の自分について考える場所、そんな隠れ家です。そしてキャリアサポートセンターから扉を開いて未来へと勇気ある一歩を踏み出すところです。自分らしい未来へ「いってらっしゃい」。

「等身大の自分」が就職活動の鍵でした

私は就職活動中、思うような結果が得られず苦しんでいた4回生の春、キャリアサポートセンターに飛び込みました。キャリアデベロップメントアドバイザーの宮村さんは、エントリーシートの添削や模擬面接が多く大変忙しい時期であるにも拘らず、私の価値観の整理から始めて下さいました。自分のことなのに、いざ人に伝えようとすると案外言葉にできないものです。宮村さんと一緒に自分の価値観を言葉に起こしていく中で、それまで私がしていたのは形だけの「シュウカツ」で、本当の意味での就職活動ではなかったのだと気づきました。

就職活動とは企業研究をしてエントリーシートを書き面接を受けるといったことではなく、これからの自分の生き方を選ぶことだと思います。私はキャリアサポートセンターのサポートにより、エントリーシートや面接で忙殺されがちな日常から少し離れ、その時その時の等身大の自分と向き合うことができました。“今の自分”がはっきり見えた時、それまでゴールだと思っていた内定の先に、おぼろげながら、こんな生き方がしたいな、という自分の未来をしっかりとイメージすることができました。そうして開いた未来の扉をくぐって、私は自信を持って活動できるようになりました。

私にとってキャリアサポートセンターは、そっと背中を押して送り出してくれる、第二の家のような場所でもありました。面接前にほんの少しだけ顔を出して、「いってらっしゃい」と一言言ってもらうだけで、緊張で硬くなっていた気持ちがほぐれ、笑顔で面接に臨むことができました。

自分らしさこそが、未来への扉の鍵なのだと思います。

充実した教育と学生生活を応援します

人間発達環境学研究科・発達科学部の教務学生係では、学生の皆さんの授業履修に関することや学生生活に関することを取り扱っています。具体的には、授業科目の履修、試験、成績、進級、卒業などに関する事項や教育実習、教員免許・各種免許などについて扱います。また、授業料免除や奨学金、各種証明書の発行、施設の利用案内や留学に関することなども取り扱っています。

大学全体では、神戸大学学生センターに「学生なんでも相談」窓口が設置され、学生生活上のさまざまな問題について相談に応じています。また、神戸大学保健管理センターでは、医師やカウンセラーが身体の不調に関する相談や心の悩み・心配事などの相談に応じています。

学生の皆さんが充実した教育を受けられ、健康で実り多い学生生活を送れるように職員一同全力でサポートします。

附属施設

図書館(人間科学図書館)

人間発達環境学研究科・発達科学部には神戸大学附属図書館のひとつ、人間科学図書館があります。館内の開架閲覧室には、教員による推薦図書や教科書、辞書・辞典や地図などの参考図書が並び、新着図書や雑誌のコーナーもあります。学術的に貴重な図書や分野ごとの図書は三層の書庫に配架するなど、研究内容に対応した幅広い分野の図書、雑誌、AV



資料などを所蔵し勉強・研究を行う上で利用しやすく配置しています。閲覧室には個人用のデスクやグループで利用できる学習室も用意しています。また情報検索コーナーのPCからは図書館のWebサイトを使って情報の検索、Webページの閲覧、電子メールのほか、レポートや論文作成などが利用できます。無線LANも利用可能です。視聴覚資料のDVDなどもAVブースで視聴できます。

図書館は学部生・大学院生の学習・研究を強力にサポートしていますので、お気軽にカウンターでご相談ください。

カフェ「アゴラ」

六甲山の山麓に位置する神戸大学発達科学部。カフェ「アゴラ」はその高層階に位置し、神戸港・関西国際空港・淡路島など、大阪湾と神戸の街並みを一望できます。フランスからの留学生が名付け親となり、古代アテネの人々が政治や哲学について自由に議論した市民生活の中心の場である「アゴラ」から名前がつけられたように、この小さな喫茶店は学生や教員の交流スペースとして活用されています。

カフェ「アゴラ」では、障害のある人たちがスタッフや実習生として働いています。学生と障害のある人たちが日常的に自然な形で交流し、お互いの理解と発達につながっています。実習生の職業訓練の場もあり、対人支援に関心をもつ学生の支援実践の場ともなっています。

このようにカフェ「アゴラ」は大学と社会との架け橋として位置づけられています。眺望も淹れたてのコーヒーも絶品です。



情報教育設備室 RIE

発達科学部のF棟1階西には、情報教育設備室(RIE; Room for Information Education)という「コンピュータ教室」があり、学生の皆さんは、教室が開放されている時間帯にiMacが使えます。また、隣の部屋にはPCに詳しいスタッフも待機しています。ネットワークに関して分からないことがあったり、神戸大学キャンパスの各所で使える「全学用無線LANサービス」の接続方法などでお困りの際は気軽に相談してください。



D-Room（発達ホール）

D-Roomという愛称で呼ばれる、学生や一般の方向けのスペースが、発達科学部のA棟1階、正面玄関横にあります。ここは、友達やグループでミーティングをしたり、昼休みにお弁当を広げて食事をしたり、ノートパソコンを持ち込んでレポートを書いたり、といったことに利用できるフリースペースです。



実習観察園

発達科学部・人間発達環境学研究科の植物栽培に関する教育・研究を行う施設です。植物栽培に関する講義や実習では、教室での授業以外に、実習観察園で作物、野菜、花卉、果樹の栽培と管理を行っています。

また、発達科学部・人間発達環境学研究科の建物周辺の環境を整備するために、玄関やアプローチの花壇の維持管理もしています。その他、温暖化防止策としてその有効性が注目される屋上緑化や壁面緑化に関する研究、電磁波が植物に及ぼす影響、さらに障害者支援に向けた、野菜栽培を通じて社会とのかかわりを目的とする「みのりプロジェクト」などの地域連携活動を行っています。



発達科学部・人間発達環境学研究科の沿革

1874年 5月 兵庫県師範伝習所設置
1877年 1月 神戸師範学校と改称
1886年 9月 兵庫県尋常師範学校と改称
1897年 10月 兵庫県師範学校と改称
1900年 4月 兵庫県第一師範学校と改称
1901年 2月 姫路に兵庫県第二師範学校を設置
1901年 8月 兵庫県第一師範学校を兵庫県御影師範学校と改称
兵庫県第二師範学校を兵庫県姫路師範学校と改称
1902年 2月 兵庫県明石女子師範学校設置
1936年 4月 兵庫県御影師範学校と兵庫県姫路師範学校を兵庫県師範学校として統合
1943年 4月 兵庫師範学校として兵庫県明石女子師範学校を包括し国立移管

1944年 4月 兵庫青年師範学校国立移管
1949年 5月 兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し神戸大学教育学部として発足
1992年 10月 神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部を設置
1997年 4月 神戸大学発達科学部と神戸大学国際文化学部を基礎とした神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程を設置
1999年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程後期課程設置
2005年 4月 神戸大学発達科学部3学科12講座を4学科6講座に改組
2005年 4月 総合人間科学研究科発達支援インスティテュートを設置
2007年 4月 神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院人間発達環境学研究科を設置

アクセスマップ



蘇鉄はそもそも亜熱帯に自生する植物ですが、近世以来、日本でもそのエキゾチックなたたずまいが珍重され、寺院や大名屋敷に植えられてきました。近代になると、学校や官公庁、邸宅の庭木としても広がっていきます。六甲山南麓に発展した住宅地である「阪神間」でも、陽光を受けて輝く常緑の姿がこのあたりの明るい風土によく似合うと好まれて、そこに見受けられます。発達科学部正門すぐの蘇鉄も、そんな風景をかたちづくる1本ですが、それはまた、山にかこまれ海にひらけた国際都市神戸と神戸大学を象徴する姿でもあります。

発行：2011年6月（掲載情報は2011年4月1日現在のものです）
製作：神戸大学大学院人間発達環境学研究科情報メディア委員会